祝・100号到達!! まだ始まってもいねぇよ!

kamipro

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

紙のプロレス

enterbrain MOOK

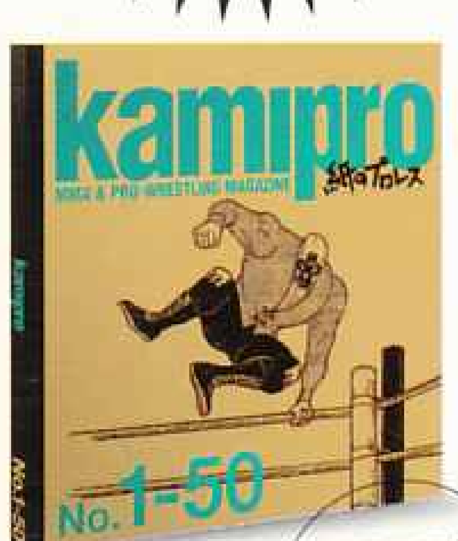
2006
100
特別定価 920yen



The 100th.



100号記念スペシャル付録つき!



100号の歴史を振り返る小冊子第一弾!

いまこそ

守る前に創り出せ!!

PRIDE&ハッスルに超衝撃クライシス!!
Show must Go on!

kamipro 100 祝・100号! 守る前に創り出せ!! enterbrain

印刷・製本/図書印刷株式会社



夏だ！ 新日本プロレスはじめました。

アントニオ猪木フードビジネス参入詳細はHandでチェック!!

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

DoCoMo	iMenu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技
WILLCOM	趣味&スポーツ	スポーツ	総合	
	エンターティメント	TV・メディア・本	本	

kamipro Hand

［QRコード］

ウィルコム参入記念「30の質問スペシャル」毎日毎日配信中!!

［お問い合わせ］（株）ダブルクロス 03-5368-1795

2006 No.100 CONTENTS

kamipro

表紙写真／山口比佐夫

The 100th.



マット界に超衝撃クライシス!!
守る前に創り出せ!!


ライシス



PRIDE中継打ち切り、ハッスル・エイド全国放送中止! 鳥肌、全部立った!!

PRIDE、ハッスルの存続に非常ベル!!

超衝撃ク



DSE榊原代表、前代未聞の公開記者会見!!

ファン600人の前で全真相を激白!!

緊急記者会見

フジテレビPRIDE放送中止 徹底再録!!

マット界に前代未聞の大激震!! もちろん、「フジテレビ、『PRIDE』放送中止」という衝撃ニュースのことである。6月5日夕刻、突然舞い込んできたこの度肝を抜く発表に、『PRIDE』関係者をはじめ、選手、ファンなど多くの人がビビってたじろぎ、翌日6日にはスポーツ紙ばかりか一般紙、ネット上の各情報サイトにまで詳細が取り上げられ、また、プロレス・格闘技系の掲示板は一瞬のうちに混乱状態に陥った。

当の発表があったのはフジテレビのオフィシャルHP上。そこには、フジテレビが『PRIDE』の放送を中止する旨が明記されており、その理由としては「DSE側に契約違反が判明したため」と発表している。しかし、問題の〝契約違反〟の内容については明かされていなかった。そのせいか、『週刊現代』（06年3月からDSEに関する記事を複数回掲載）でのスキャンダラスな内容を含め、各媒体ではさまざまな憶測が飛び交う事態となった。

このフジテレビの発表を受け、DSEが動いたのは放送中止発表の日から3日後の6月8日。その8日に、ようやく緊急記者会見を開催する旨を発表。さらにDSEは、「『PRIDE』に激励の声を届けてくれた方々を会見にお招きしたい」とファンに呼びかけ、なんと! 今回の会見を公開記者会見として開催!! そのため、当日は会見場に『PRIDE』ファンが溢れかえるという場面もあり、緊急記者会見は報道陣250人、『PRIDE』関係選手ら54人、そしてファン600人を含む、総勢900人以上での壮大な公開記者会見となった。

本誌は、その歴史的会見をここに徹底再録した。

構成／松下ミワ　撮影／乾晋也



［立ち見のマスコミやファンで溢れかえる公開会見会場。定時より30分遅れでようやく会見が始まった］

司会　大変長らくお待たせいたしました。会見に先立ちまして、ＤＳＥ代表取締役、榊原信行より、今回のフジテレビ放送中止の件に関しましてご説明をさせていただきます。

榊原　おはようございます。えー、報道陣もいつになくたくさんいて、ファンの皆さまもたくさん詰めかけていただいて、若干の緊張がありますが、始めさせていただきたいと思います。

まず、今日お越しいただきましたことを心から感謝いたします。まあ皆さんすでに報道のほうでいろいろフジテレビが放送を中止すると。非常にショッキングなフレーズの見出しの中ですね、今後『ＰＲＩＤＥ』はどうなっていくんだ、いったい何が起こったんだということをマスコミの皆さんも、そしてファンの皆さんも知りたい、そういうところがあると思います。私のほうからお話できる範囲の中で精一杯お話させていただきたいと思います。若干長くなりますが、ファンの皆さんお立ちのままですが、しばらく辛抱してください。非常にデリケートな部分もありますので、ある程度書面を見ながら順を追ってご説明させていただきます。

まず、今回の放送中止に関しましてのご説明をさせていただきます。先般、6月4日にＤＳＥは『武士道』というＰＲＩＤＥ武士道シリーズという大会を終えまして、当然その現場もフジテレビの制作の皆さんともども大会に当たりまして、大会としても非常に成功に終わったということで、好評価をいただきました。そして翌日の6月の5日、兼ねてからの念願でありました道場の開設に向けて道場開きを行ないました。その際にもフジテレビのスタッフの皆さん、ともに『ＰＲＩＤＥ』のために一緒にやってきてくれてる皆さんとともに開設を祝った次第です。それがだいたい14時から14時半ぐらいですかね。それから会社に戻りまして、16時から別件ということでフジテレビの方と打ち合わせをする予定になっておりまして、いつもお世話になっているスポーツ局の方に来ていただくのを待っていた、そういう状況でした。それで16時になって、フジテレビの方が来られましたということで、会議室にうかがうと、フジテレビの顧問弁護士の方、そしてコンプライアンス推進室の室長さんとお二人が座っておられて。まあ、私としては別の方と打ち合わせをするつもりで会議室に入ったもんですから、一瞬ドキッとしたんですけど。その際に通知書ということで、今回フジテレビが『ＰＲＩＤＥ』の放送を中止すると。そういう旨の通知、契約の解除の書面をいただきました。その通知書とともに内容に関してはご確認くださいということだったんですが、これと合わせて契約を解除する旨を早速リリースをさせていただきたいということを、その場で言われました。

我々としても、当然これだけ多くのファンの皆さんに支えられてきてるものですし、本当に小さな会社ですけども、選手の皆さんや日頃一緒に動いてくれてる会社の皆さん、協力会社の皆さんに当然事前に自分の言葉をもって、どういう経緯でこうなったかを説明したいということで、とにかく今日この場でリリースをすることは待ってほしいと。通知は受け取った中で、当然、当社の弁護士とも相談した上での対応を考えたいということでお願いをしたんです。一旦そこで持って帰っていただいたんですが、30分後ほどして、やはり今日リリースをすると。記者、マスコミの方含めて発表するという通告を受けました。

まあ当然、私もその場で初めて聞いてのことなので、突然のことで寝耳に水ですし、自分自身も先ほどまでフジテレビの皆さんと今後の『ＰＲＩＤＥ』について、実際にはその日『ＰＲＩＤＥ』の今後のゴールデンタイムの放送に関して協議して検討していただけるというつもりでいたんで、まあ晴天の霹靂としての通知書が届いたという状態です。本当に正当な理由があって解除されるにしてもですね、やっぱり僕らとしてはファンの皆さんにきちっと自分らのホームページを通じるなりして、事前にお伝えしたかったなと。一方的に通知書を受け、その解除通知を受けて1時間のちには世の中にリリースをかけられるというかたちになってしまいました。まったくもう対応がきかないという状態になりました。

では、なぜ、契約を解除されることになったんだっていう、その契約解除の理由、これについてご説明をいたします。ここはちょっと文面を読ませていただきます。現状、当然、契約を解除された状態ではありますので、いろいろお話できることもたくさんあると思いますが、当然、契約が解除された状況の中でも守秘義務といって、秘密保持条項も入ってますので、言える範囲でお話をしたいと思います。

えー、フジテレビさんの主張としては、契約解除の理由としては「信用、品位、イメージに対する保持、配慮をドリームステージが怠った」ということが理由です。もう一回言います。「信用、品位、イメージに対する保持、配慮をドリームステージが怠った」。自分の中でも思い当たる節がありません。いろいろ考えてみたんですが、『週刊現代』さんをはじめ、マスコミの皆さんによってドリームステージがあたかも〝反社会勢力〟と付き合っているというような、本当に心ない事実無根、ねつ造の記事を書き続けられた、と。それが世の中に報道されたことで間違いなくフジテレビさんの品位とか、イメージとか信用は、一様に傷つけられたと思います。

しかし、その記事に書かれていることは一切事実無根です。我々としての主張は、その記事に関しては事実無根なんですね。ですので信用とか品位とかイメージとかは損なわれたと思いますが、報道されて社会に風評が流されていく、ねつ造された記事によってもたらされた品位、イメージ、信用の失態だとか、損失だと、そう思ってます。本当に〝反社会勢力〟とあたかも我々がお付き合いがあったというかたちを作り出された状態で、一方的に契約を解除通告されることに関しては到底納得はできません。ですので、我々はいまフジテレビの願

問弁護士の方と、当社の顧問弁護士を通じて話し合いをさせていただいてるのが現状です。この先、どういう方向に進んでいくのか、あらゆる方向を検討して進んでまいりたいと思います。しかしながら、本当にまあこういう状態になっても、フジテレビさんにはここまで『PRIDE』をともに育ててこれたこと、スタッフの皆さんの熱い思い、そういう中で言うと、フジテレビさんに対する憎しみとか恨みとかそういう感情が沸ききっていない側面も正直あります。僕らが現場で顔を合わせるスタッフの方からはそういうお言葉を聞かないまま今日に至ってるもんですから、なおさらそうなのかもしれないですけど、間違いなくフジテレビさんの社会に対する影響力ですとか、メディアが持ってる公明正大にやらなきゃいけない社会の公としての公共性、そして免許事業ということを考えると、今回の記事がたとえ事実無根であったとしても、フジテレビさんの立場としては無視ができなかったんだろうというふうに思います。

我々もそうなんですけど、そういう意味ではフジテレビさんも被害者なのかもしれないと思います。ですので我々は、今年の4月の17日に、こういった事実無根の記事を書いた『週刊現代』の発行人、編集人、そしてこの記事の元の証言を繰り返してる川又誠矢氏を偽計業務妨害及び名誉毀損で横浜地検に刑事告訴しています。また、フジテレビさんに契約を破棄されたことによる損害、それに対しても民事訴訟も視野に入れて対応を考えていきたいと思ってます。えー、本当に繰り返しになりますけども、我々は現在も過去も未来も〝反社会勢力〟の人たちとのお付き合いをしたことはありません。法も犯しておりません。ましてや、犯罪も犯しておりません。今回、神奈川県警の捜査において当社が企業として強制捜査を受けたという事実もありません。また、私も含めて当社職員に対して逮捕状が出たとか、逮捕されるというような事実はまったくありません。いろんな噂の中で「榊原社長は逮捕されるんじゃないか？　犯罪を犯してるんじゃないか？　〝反社会勢力〟と関わってるんじゃないか？」って言われてますけども、そういうことに対してはこの場を借りて、ないということをきちっと表明させていただきたいと思います。









こうやって皆さんの前に、逮捕されてれば出ることもできませんし、法を犯してるんであれば私は現在の職を辞しても構わないと、そう思ってます。先ほども申し上げました通り、フジテレビさんとは弁護士を通じたかたちでの協議になりますけども、私の中ではですね、お互いの誤解やボタンの掛け違いがあったんだと、そういうふうに思います。まあ本当に小さな弱小企業の我々とですね、当然その公共性の高いフジテレビさんとは立場も置かれている責任の重さも違うと思いますんで、弁護士を通じたかたちで話し合いを続けたいと思います。そしてまたフジテレビさんとともに働くことができるようなことがあれば、それは素晴しいことではないかな、と。我々に向けられた誤解とかボタンの掛け違いとかを晴らしたいと、そう思います。

あと、フジテレビの放送がなくなるということで、『PRIDE』がこれで潰れてしまうだろう、これで潰れてしまうんではないかって、ファンの皆さん、関係者の皆さん、ひょっとしたら僕の下で働いてくれてる社員のみんなもそういうふうに感じてるかもしれませんけども、『PRIDE』はそんなことで潰れることはありません！「そんなことで」と言っては恐縮なんですけども、フジテレビさんが放送しないからといって『PRIDE』が潰れることは断じてないと宣言させていただきます。なぜならですね、フジテレビさんに放送していただくということは、大きなプロモーションにもなりますし、当然いただける放映権料も莫大なもので大切なものですけども、それ以上に僕らが大切にしたいのは、選手とともに情熱をもって作り上げるリング、ライブのイベントを観に会場に足を運んでくれてるファン、ライブで選手の闘う姿をもの凄く応援してくれてるファンがいる限り『PRIDE』は潰れません。そういう意味では我々は一回目の放送からスカイパーフェクTV！さん、当時はパーフェクTVさんで有料のPPV、視聴者が選んで観る放送形態をとって、本当に観たいと思う人たちが観てくれるコンテンツで成り立っていけばいい。一般視聴者に無料で楽しんでもらうソフト作りではなくて、ライブを観に集まってるファン、有料でも生で観たいというファンの人たちとともに共有できるソフトを作りたいと思ってますんで、フジテレビさんの放送がなくなるということで言えば、一般の人たちに向けての露出はダウンする部分は否めないと思うんですけども、だからといって『PRIDE』が成り立っていかないということはまったくないです。

今日来てるファンにお伝えしたいのは、ファンの応援と熱い熱がある限りは『PRIDE』は存続し続けますし、生き続けます。本当に僕もあのー、今回大きなアゲインストな風でですね、自分の個人的な思いも含めてなんですけども、『週刊現代』に書かれるのはやっぱり実名が出て写真が出て、いかにも犯罪者として扱われることに関しては憤りも感じるとともに、本当につらいです（一瞬、言葉を詰まらせる）。そういうことも全部受け止めて、命懸けで、本当に命を懸けて、この『PRIDE』を守りますので、応援してください。それと、本当に今回『PRIDE』が潰れるんじゃないかということでファンの皆さんがすっごくたくさん電話をくれました。夜中まで電話をしてくれて、熱狂的な人たちは会社まで来て激励をしてくれました。フジテレビさんにとってはいち放送番組を中止したということなのかもしれませんが、我々にとっては格闘技コンテンツを作るということだけを生業にしてやってますので、大変な局面に遭ってるわけですが、寝ずにそういう対応といろんな業務に追われている中、ファンの皆さんに熱い声援をいただいたり激励をいただいたことで、本当に力になってます。この場を借りて感謝を申し上げます。本当に突然ですね、会見を今日、8日になりますが、契約を解除されたのは5日です。ここでお話するまでに、準備不足、逆

DSE一連の騒動をフラッシュバック

★3月13日発売『週刊現代』の特集「格闘技とテレビ局と暴力団―暴力団幹部に脅されていた日テレ猪木祭」に記事掲載

記事によると、03年12月31日『猪木祭り』の開催にあたって、同大会のイベントプロデューサーを務めた川又誠矢氏は、PRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルの『猪木祭り』参戦を巡り、DSE榊原代表ならびにDSEと関係を持つ暴力団から恫喝されたと主張。川又氏の発言によると、ヒョードルを『猪木祭り』に出場させるにあたり、DSE側から暴力団を使って「①ヒョードルの独占権がDSEにあること　②一度でも『PRIDE』に出場した選手を使う場合はDSEの許可をとること」を認めるよう脅されたと主張している。また川又氏は、一方で「①『猪木祭り』の制作費として契約していた日本テレビから8億円を受け取る約束をしていたが、実際には6億円に減額されたこと　②日本テレビとの3年契約を解除されたこと」を不服とし、日本テレビを提訴している。

★4月3日発売『週刊現代』の特集「日本に帰ったら私は殺される！―猪木祭プロデューサーが語った」に記事掲載

ヒョードルの『猪木祭り』参戦を巡って、川又氏がDSEならびにDSEと関係を持つ暴力団から恫喝されたとされる経緯を掲載。

■4月13日　DSE榊原代表が『週刊現代』の記事についてコメント

藤田和之の『PRIDE無差別級GP』参戦発表記者会見後、榊原代表は『週刊現代』の記事に対し、遺憾の意を主張。榊原代表は「個人としても『PRIDE』にとってもDSEにとっても、本当に心外極まりない。DSE側にはまったく取材されない中で、このような記事が掲載されていることに憤りを感じます」と話し、名誉毀損で告訴すると発表。また、榊原代表は『PRIDE』オフィシャルHPにて、後日改めて手記を発表するとコメントした。

★4月17日発売『週刊現代』の特集「格闘技

PRIDE フジテレビ放送中止
緊急記者会見 徹底再録!!

に今日をもってもまだ我々の中で対応しきれない部分もたくさんあるんですけども、これまで通り『PRIDE』は、選手とともに世界最高峰の闘いの場所、熱い舞台をつくり続けていきます。どうか、マスコミの皆さんもファンの皆さんもこれまで以上に本当に頑張っていきますんで、応援のほどよろしくお願いしたいと思います。大変長くなりましたが、私からは以上です。ありがとうございました。

［会場・拍手］

司会　続きまして『PRIDE無差別級GP』2nd ROUNDの対戦カードの発表をいたします。ではさっそく選手の皆さまにご登壇いただきます。

［髙田本部長、藤田和之、吉田秀彦が登場。どよめくファン］

司会　では、髙田統括本部長よりご挨拶ならびに2nd ROUNDの対戦カードを発表させていただきます。

髙田　えー、今日はいつも以上にですね、非常に人が多くてまるで会場のような熱い高い熱気をいまこのドア入った瞬間から感じましたが。ねっ！　いよいよ3週間後に、人類最強の男を決める『PRIDE無差別級GP 2nd ROUND』に進出した8名の世界最高峰の組み合わせを4カード、すべてここで発表したいと思います。

［会場・拍手］

髙田　それでは、一つ目、吉田秀彦選手vsミルコ・クロコップ！

［ファンはどよめき、大喝采］

髙田　（にんまりしながら）いま、ひとカード発表した時点で私、鳥肌が立ってしまいました。

［会場・大爆笑！］

髙田　正直、手が震えています。声援ありがとうございます！　幸せです。二つ目、藤田和之選手vsヴァンダレイ・シウバ！









［ファンは再びどよめき、大喝采］

髙田　（再び、にんまりしながら）三つ目です。アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ選手vsファブリシオ・ヴェウドゥム！

［会場・拍手］

髙田　そしてセカンドラウンド、4枚目、最後です。ジョシュ・バーネット選手vsマーク・ハント選手。

［ファンは再びどよめき、大喝采］

髙田　以上の8人、4カード、7月1日土曜日、16時。いつものように変わらない激しくストイックな『PRIDE』がたち現われるということを確信しています。えー、一つですね、大事なことを補足しておきますが、この4枚のカードにつきましては今回ドリームステージの中でアンケートを取りました。ちなみにですね、このアンケートの1位が先ほどもご紹介した、吉田選手とミルコ選手です。そして第2位、僅差です。藤田選手とヴァンダレイ・シウバ選手です。この2カードでアンケートの7割から8割をもうすでに占めています。今回きれいに4枚並びましたけども、第3位、これが藤田選手とハント選手なんですね。ですから2位の自動的に藤田選手とシウバ選手に決まりました。そして4位ノゲイラ選手とファブリシオ選手、そして5位がジョシュ選手とバーネット選手です。

［会場・一瞬混乱。のち爆笑］

髙田　すいません！　興奮のほうがちょっと!!（間違えたのにもかかわらずなぜか自慢げに）。えー、ジョシュ選手とハント選手です。失礼しました。この世紀の2nd ROUND、皆さんの声をストレートに反映できた今日のようなカードが実現できたことを非常に幸せに思います。カード発表、私からは以上です。失礼しました。

司会　それでは、藤田選手、吉田選手より、ひと言ご挨拶を頂戴します。

［藤田、吉田がそれぞれコメント。さらにそれぞれの対戦相手である、シウバ、ミルコからのメッセージを司会者が読み上げる。その後、報道陣による質疑応答へ。なお、ここでの質疑応答はフジテレビに関する質問は受け付けないかたちで行なわれた］

司会　ほか、ご質問は……よろしいですか？

髙田　（唐突に）質問がなければ、私から！　今回、この一連のことがなかったらですね、藤田選手も引き続きアメリカに滞在して練習をしてたと思うし、昨日アメリカから日本に帰ってきまして、またこの足でトレーニングのためにアメリカに飛びます。吉田選手もすぐにスイッチを入れ替えて、当然激しいトレーニングに入ります。今日来てくれた二人のファイター、それ以外にですね、今回のことを非常に心配して、我々にも何かできることはないか、なんでもします！　という気持ちをもって今日この東京プリンスホテルに集まってくれた『PRIDE』のファイター、そして『PRIDE』に関連する試合に出場しているさまざまなファイターが来てくれています。（司会者を見ながら）ちょっと選手呼んでいいかな！

［会場・拍手］

髙田　いい？

司会　では、今日ですね駆けつけていただきました選手を一人ずつお呼びしたいと思います。

［『PRIDE』のテーマが流れ、アナウンスとともに52名の選手入場。来場選手（五十音順）：阿部裕幸、阿部マサトシ、池本誠知、石田光洋、今成正和、井上裕貴、岩見谷智義、大久保一樹、大場貴弘、鬼木貴典、帯谷信弘、小見川道大、オ・ウォンジン、川尻達也、金太郎、郷野聡寛、小谷直之、小谷ヒロキ、五味隆典、桜井“マッハ”速人、桜井隆多、佐々木有生、しなしさとこ、小路　晃、白井祐矢、杉内　勇、関　直喜、戦闘竜、高橋基希、谷口智則、田村和也、長南　亮、徳久宣生、中尾受太郎、中村和裕、中村大介、滑川康仁、西島洋介、長谷川秀彦、濱田順平、Barbaro44、ハン・スーハン、藤井克久、藤井　恵、前田吉朗、松井大二郎、三崎和雄、美濃輪育久、村田龍一、山崎　剛、ユン・ドンシク、横田一則］

司会　それではまず始めにDEEP佐伯代表よりひと言頂戴したいと思います。

佐伯　本日はお忙しい中、このようにたくさんのマスコミ関係者、そしてファンの方、

とコメントした。

★4月17日発売『週刊現代』の特集「格闘技と暴力団」フジ・日テレへの公開質問状」に記事掲載
川又氏の証言をもとに、同誌は『PRIDE』を放送するフジテレビに「DSEと暴力団の関係を調査する意志はあるのか？」などの公開質問状を提示。

■4月17日　DSEが、『週刊現代』の発行人、編集人、そして同記事内で証言を繰り返している川又誠矢氏に対し、偽計業務妨害および名誉毀損で横浜地検に刑事告訴

■5月3日　榊原代表が『PRIDE』オフィシャルHPに手記を発表
榊原代表は、HP上にて改めて暴力団とのかかわりを完全否定。また、4月17日に『週刊現代』の編集人、発行人、そして川又誠矢氏を、名誉毀損と偽計業務妨害で横浜地検に告訴した旨を発表。

■5月5日『PRIDE無差別級GP開幕戦』開催
同大会は、フジテレビ系列全国ネットで大会当日の21時03分～22時52分に放送され、平均視聴率17・6パーセントをマーク。なお、瞬間最高視聴率は22・0パーセント（21時58分）

■6月4日『武士道・其の十一』開催
同大会は、10日に放送する予定となっていた。

■6月5日『PRIDE道場Dreamers』開設
前日に行なわれた『武士道・其の十一』の一夜明け会見後、DSEは念願であったPRIDE道場の道場開きを行なった。この道場開きには、榊原代表、髙田本部長をはじめ、選手、関係者、マスコミ、さらにフジテレビ関係者も出席していた。

★6月5日　フジテレビがオフィシャルHP上で、『PRIDE』の地上波放送中止を発表
フジテレビは、オフィシャルHP上で「DSEの契約違反が判明したため、同社との契約解除、同ソフトの放送及びイベント開催への関与を中止する」と発表。なお、契約違反の内容については触れていない。

■6月8日　榊原代表が緊急会見を開催
詳細は本文に掲載。

ご出席ありがとうございます。まずですね、うちDEEPですね、6年やってますけども、DEEPファイター、みんな目標がこの『PRIDE』です。本当に『PRIDE』に上がるために頑張っています。そして今回、こういう状況をドリームステージさんのほうから説明を受けました。受けたら、まあ、何も問題ないじゃないかという、僕自身本当に確信を持ちました！（目に涙をためながら）。そして選手も同じように説明したら、みんな問題ない、『PRIDE』の舞台で頑張りたいという同じ気持ちでいてくれました。今日はですね、DEEPファイター以外にも修斗の選手やZSTの選手がみんな同じ気持ちでこの『PRIDE』のリングで頑張っていきたいという本当に心が一つになりました。僕自身も死ぬまでこの『PRIDE』で頑張りたいと思いますんで、応援よろしくお願いします（こらえていた涙がこぼれだし、大感涙する）。

［続いて長南、帯谷、美濃輪、小路、桜井、郷野、五味が順にコメント。再び髙田がマイクを握る］

髙田　いま話してくれた、そしてひな壇の後ろに来てくれてるファイターの皆さん、本当にありがとうございました。ここにいる吉田選手、そして藤田選手、先ほど口頭で読み上げたシウバ選手、ミルコ選手、今日来ることができなかったこのリングに携わるすべての選手、関係者、我々も含めてこの世界最高峰のリングである『PRIDE』、この空間に強い思いを馳せるこのファイターたちがこの中で激しく闘い、その姿を我々が皆さんに見せることで強烈なメッセージを全世界に発信してる、その結果いまこのリングを知っているすべての人が、ここは世界最高峰のリングだと。たった9年間で、たった9年間です。ほかのスポーツと比べれば本当に短い年月でしかありません。けど、我々はこの年間、多くの修羅場をくぐり抜け、血の出るようなもがきを味わい、ファイターが命を削って我々はそれをサポートしながら熱い気持ちを持ったファンの声を支えに、『PRIDE』は、『PRIDE』を知る世界の人々がこのステージの高さを認めてくれるところまで歩みを続けることができました。7月1日、8月26日、ともに2nd ROUNDです。志高き、高みを目指す我々の誇りであるファイター、彼らがこのリングに立ちます。このリングはいつもと変わらない『PRIDE』のリングです。そして我々イベンターもいつもと変わらない気持ちで、思いでサポートいたします。我々から見えるその日のリングはいままでとなんら変わることのない世界最高峰の『PRIDE』のリングです。それには間違いありません。我々はファイター、イベンター、そしてファンの皆さんもこれからも変わることなく前へ進むしかないんです。いままで以上に強い思いを持って前へ進んでいきます。今回のことで不思議なもんですが、さらに我々の意思、思いが強く固まったような気がしてなりません。何はともあれ、こんなときの『PRIDE』はとてつもない爆発力と力を発揮します。7月1日、8月26日も、間違いなく『PRIDE』は続いていきます。『PRIDE』は永遠に不滅です。まずは7月1日に向けて全身全霊、いままでと変わらぬあの空間を作るために頑張っていきたいと思います。ファンの皆さんの応援が支えです。今後ともよろしくお願いいたします。

［会場・拍手］

髙田　代表からもお願いします！

榊原　（髙田に促され）じゃあ。いま統括本部長のほうからもありましたけども、『PRIDE』は歩みを緩めずですね、さらに加速をしてこれからも続いてまいります。8月26日のあと、9月10日のオープンウェイトGPの決勝戦、そしてこの場をもって発表させていただきますが10月の21日、アメリカラスベガス、トーマス&マックセンターにて初のアメリカラスベガス大会を正式に発表させていただきます。そして11月3日、ウェルター級GPの決勝戦、そして12月31日、『男祭り』、年内興行は、大会は、イベントは変わらずすべて行ないます！

［会場・拍手］

榊原　ありがとうございます。本当に僕らもファンの人たちと選手の皆さんの思いをですね、これからも強く受け止めて、今回フジテレビでの放送は中止になりましたけども、まあ、それに代わるテレビ局さんたくさんありますし、本当にこれまで以上のものを作っていけばですね、必ずや熱い熱い闘いをテレビで中継したい、そういうテレビ局さんが必ず現われると思います。僕らもですね、自分たちの信じた道をとにかくこれからも全力で進んでまいりますので応援よろしくお願いいたします。そして今日、本当に厳しい強行スケジュールの中、会場に集まってくれた、とくにロスからとんぼ返りで来てくれた藤田選手、そして、集まってくれた多くの選手たちに本当にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。そして、心配をかけましたファンの皆さん、大丈夫ですんで、今日この場でファンの皆さんが選手から受けた言葉、そして我々の言葉を受け止めていただいて、これまで通り『PRIDE』を支えてもらえたらと思います。







［会場・拍手］

司会　ありがとうございました。それでは最後に写真撮影とさせていただきます。

［ここでファンから榊原代表へ声が飛ぶ］

女性ファン　榊原さん、恫喝してないんですか？　本当にファンは信じていいんですか？　大丈夫ですか？

榊原　大丈夫です。先ほども話しましたけども、すべてねつ造ですので大丈夫です。

女性ファン　頑張ってください！

［会見終了後、ＤＳＥ顧問弁護士・谷宜憲氏の同席のもと、榊原代表のカコミ取材が行なわれた］

榊原　顧問弁護士をしていただいてる谷（宜憲）弁護士です。質問の内容によっては私がお答えするより、弁護士の先生からお話しいただいたほうがいいことがあるやもしれないので、今日、ご同席をいただきました。まあ、ご質問があればすべてお答えをしていきたいと思います。

――フジテレビでの放送中止によって受けるダメージは？

榊原　フジテレビさんの放映に関しては当然地上派での放映がないということは大きな、とても大きな痛手だと思うんですが、ビジネスコードをお伝えした通り、会社を運営していく上で一番のものは会場に入っていただくファンの皆さんのチケット収入、そしてスカイパーフェクTV！」さんでやってるPPVでの収入、それと協賛スポンサーさん、そういうものの売り上げが大半を占めてますので、地上波の放映権料が我々の事業、ビジネスの根幹を揺るがすことはございません。ましてや、国内のいち地上波の放映権料だけの話ですので、当然、市場全体は海外に広がってますんで、アメリカでのチケット収入及びPPVの収入、そういうものが今後見通しがよくなってますので、事業規模とかイベント規模を縮小することなく、これまで通り、もしくはこれまで以上にグローバルに大きなイベントにしていきたいと思います。

――フジテレビからの放映権料はどのくらいか？

榊原　収入の構造でいうとですね、地上波の放映権料でいただくぶんは10～15パーセントぐらいです。全体の年間の売上のですね。

――スカイパーフェクTV！は？

榊原　スカパー！さんのほうはちょっとパーセンテージがわかりませんが、それもやっぱり10～15パーぐらいの、国内のPPVの収入としてはそんな割合だと思います。

――その他の収入は？

榊原　チケットの売上とですね、海外に対して、アメリカでのPPVの放送、韓国、ヨーロッパ、ブラジル、その他もろもろの地区にですね、日本でやった大会がそのままの映像配信されてますので、そういう部分でのワールドワイドでの映像のフライト料というのがここのところ非常に大きくなってます。あとは、もろもろの権利料とか、そういうものによって支えられてます。ただ、やっぱり一番大きな部分は会場に足を運んでいただけるファンのチケット売上だと思います。

――横浜地検にすでに刑事訴訟している相手をもう一度確認させてほしい。

榊原　『週刊現代』の発行人、編集人、そしてその記事のもとにいろいろ出てる川又誠矢氏、すでに刑事告訴してるのに合わせて民事のほうも視野に入れているという、その三者に対してです。

――フジテレビ側は『週刊現代』に記事が出たことで品位が犯された、よって契約を解除したというふうな考えなのか？

谷　相手方の弁護士と話をしまして、情報はですね16条、契約の16条と4条の品位を傷つけてはいけないという、これに抵触してるということですから、そういうふうに社長のほうから説明されたんだと思います。

緊急記者会見 フジテレビ放送中止 PRIDE 徹底再録!!

――暴力団とのかかわりに関しては？

谷　我々は否定しております。従って、その4月17日に横浜地検のほうに営業妨害、名誉毀損で訴訟しております。

――榊原社長が警察の聴取を受けたのはどういう理由からか？

谷　その件についても私からお答えさせていただきたいと思います。警察が聴取をする場合は、被疑者としての場合と、それと参考人として調べる場合があります。そしてその、例の川又さんの証言をもとにして、後藤組の若頭らを逮捕しました。

[03年大晦日に開催された『猪木祭り』を巡り、川又氏から2億円を脅し取ろうとしたとして、神奈川、静岡両県警の合同捜査本部は2月24日までに、暴力団幹部ら3人を恐喝未遂容疑で逮捕。容疑は04年1月1日、静岡市などの飲食店で、「誰のおかげでイベントがうまくいったと思っている。現金を用意しろ」などと言って2億円を脅し取ろうとした疑い。しかし、処分保留で釈放されている。『週刊現代』が一連のキャンペーンで指摘したのは、ヒョードルを引き抜いた川又氏を、DSEが暴力団を使って脅し、「ヒョードルとの独占契約」を主張したというもの]

谷　これは格闘技に関する事柄の捜査ですので、我々はもちろん格闘技のイベントを運営しておりますから、神奈川県警のほうから事情聴取をされたんじゃないかなと思います。で、付け加えますけど、横浜地方検察庁検事からの参考人としての事情聴取も一切ございません。

――いま暴力団とのかかわりについて否定したが、それ以外に運営や経理に関して問題があったということはないのか？

榊原　我々ドリームステージの？　我々の運営や経理の面で今回のフジテレビさんの契約解除ということは一切ありません。我々としても品位やイメージを直接的にですね、フジテレビさんの品位やイメージを侵害をしたような行動は一切とってないし、身に覚えのないという状態です。

――フジテレビさんから契約を解除されるにあたって、暴力団とのつながりがあるからという指摘はあったのか？

榊原　その品位とイメージと信頼を傷つけたということ以外には理由はありません。

――契約解除の中身については『週刊現代』の記事の話は？

榊原　ないです。

――神奈川県警の聴取はご自身の疑惑についてという内容もあるのか？

榊原　現実的にですね、これ言っていいのかわからないですけど、調書を取られたりもしてないもんですから、そういう意味では参考人というかたちでお話しさせていただいたというふうに認識しております。

――脱税はしてないのか？

榊原　ございません（苦笑）。脱税するお金がございません！　だから法もべつに犯しておりませんし、非常に借金経営のまんま続けておりますので、脱税はしておりません。

――地上波がなくなることで、知名度を上げたいと思っている選手が離れていく可能性が出てくるのではないか？

榊原　そうですね。当然、地上波での露出が減る、当然ゴールデンタイムでですね、（視聴率を）数パーセント取りましたし、そういう中での万人の方に見ていただく部分での露出というのは、フジテレビの放送が中止になったことは事実は事実ですけども、今後一切地上波で放送されないということではないと思うんですね。ですし、とにかくみんなが見たいと思うものを選手たちが見せなければ、いくらゴールデンタイムで放送してもひと桁代のスポーツイベントもいっぱいありますよね。そういう意味では必ずしもゴールデンタイムの放送があるから多くの人に見てもらえるとは限らないと思うんですよね。ですから、まあ、これからも当然その放送を今回フジテレビが中止したものに代わる部分を、プロモーションとしての媒体に関してはいろいろ努力をしてですね、それこそいま言った本当に選手の中には有名になりたいって思い、みんなに自分のファイトを見てもらいたいって思い、それはPPVという限定されたメディアだけではないところでの思いも当然あると思うんで、そういう思いに対して救済していく努力は今後一生懸命やっていきたいと、そう思います。

――フジテレビに代わる媒体があるのか？

榊原　そういうことも今後視野に入れて検討していきたいと思いますが、まずはまあ、僕の思いとしては、やっぱり現場を含めてここまでやってきたフジテレビの人たちと作り上げてきた、そういうものとか、やっぱり経験って代え難いと思うんですよね。フジテレビさんとまたいまの状態の中で、またシェイクハンズできることをまず第一には目指したいと思います。

――フジテレビに対して訴訟を起こそうという思いはあるか？　そういう措置もとれるのではないか？

谷　おっしゃる通り。でも、フジテレビのほうにそういうことを（契約解除）された事実として、訴訟するかしないかという点については当方としては弱いんじゃないかなと、その判断というのは必ずしも（得策ではないのでは）。ただ、いま社長のほうから言いましたけども、フジテレビさんの現場とドリームステージの『PRIDE』には一緒にやってきた経緯がありますんで、そのこういう事態でフジテレビ自体を、訴訟問題を起こすということは、当方は考えておりません。

――『週刊現代』の記事では、暴力団関係者と接点があったと記載されているが？

榊原　それに関しては……。

谷　（さえぎるように）あなたね、道で歩いてるときに暴力団関係者ってわかりますか？　だって、言いたいのは、本人忙しいですから、いろいろな人と会っとりまして、そういう事実関係は、そのときに暴力団関係者と認識して同席したという事実はまったくございません。

――暴力団関係者の方とのお付き合いは一切ないということなのか？

谷　ない。間違いございません。

――しかし、記事にはそう記されていたが？

谷　ですから、どういう方と同席してると知っておれば、誰でもというのはおかしいですけども、そういう局面あるじゃないですか。だからそのある時点のある場所、それとその相手の暴力団という方をあなたたち（報道陣）のほうで特定していただければ、我々としては思い出す努力はします。

――先ほど出た収入のパーセンテージは、企業の売り上げベース？

榊原　そうです。売り上げベースです。

――売り上げベースで10〜15パーセントの収益を放映権利から得ていたと？

榊原　はい。

――それは昨年度の？

榊原　そうですね。

――スカパー！との契約に関しては今後どうなっていくのか？

榊原　我々としては継続をしていただけると信じています。

――打ち切りという話は出ていないのか？

榊原　我々もそういう決断はいただいてない状態なんで、まあ、皆さん混乱している状態ではあるんですけども、いまの時点ではぜんぜんやめるという判断はいただいてません。

――現時点でスカパー！とは、どういう話をしているのか？

榊原　まあ、実際どんなことがあったんだということを、当然スカパー！さんと東海テレビさんにお話している……。

――（さえぎって）『週刊現代』の報道があったあとに、フジテレビとのあいだで話し合いは持たれたのか？

榊原　当然まあ、そのようなかたちで。

――話し合いがあった中で、突然こういうことになったというのはなぜか？

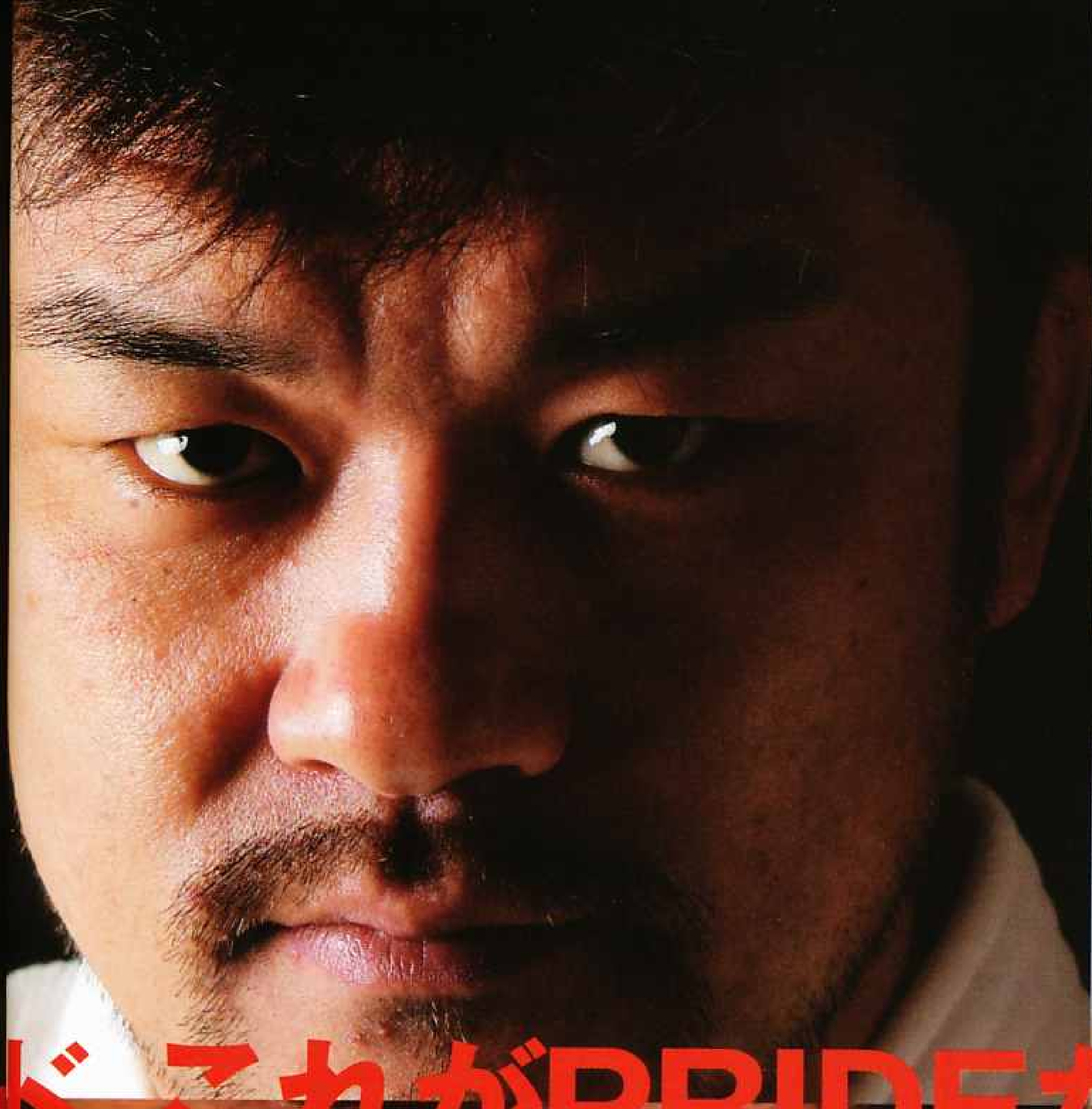
榊原　当然、契約を解除するんだったら解除に向けてお互い協議を繰り返して、こうなったら解除というようなような段階がまったく。だから、その後、フジテレビさんの顧問弁護士の先生と契約解除通知を受けた中での話をしております。

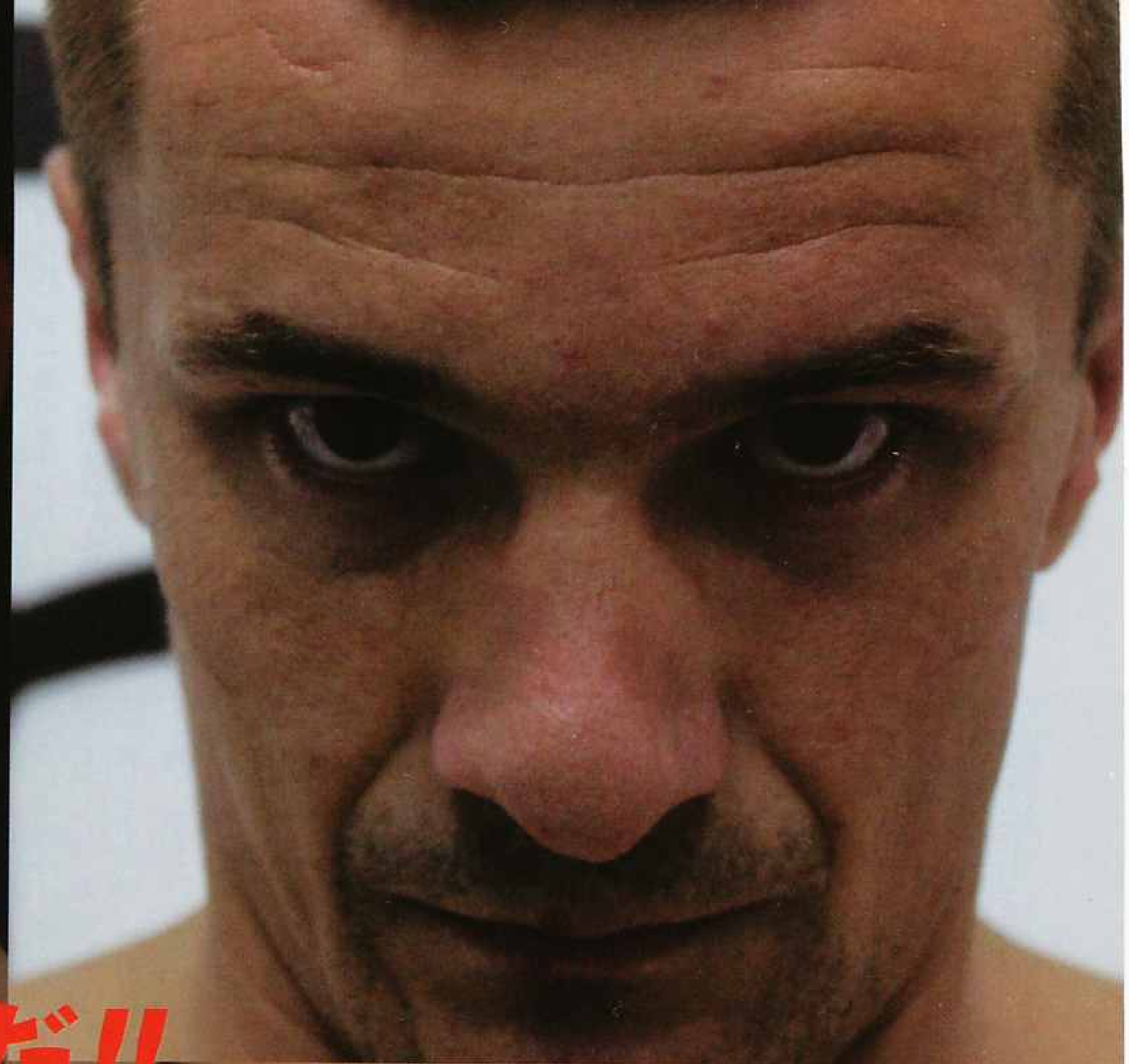
――神奈川県警に聴取を受けた日時は？

谷　それは神奈川県警に聞いてください。『週刊現代』は非常に当方としては、問題にしておる、と。だから神奈川県警の警察関係者とかにうかがってほしいんですが、皆さんもご承知のように、そういう事実があるとすれば、このことについて計画した人も情報を流した人も犯罪行為であると、ですからそういうことは当方から言えませんので、神奈川県警のほうにお尋ねください。念のためにこの件で捜査本部は川崎署に設けてましたけども、すでに川崎署は解散して（捜査本部は）ございません。

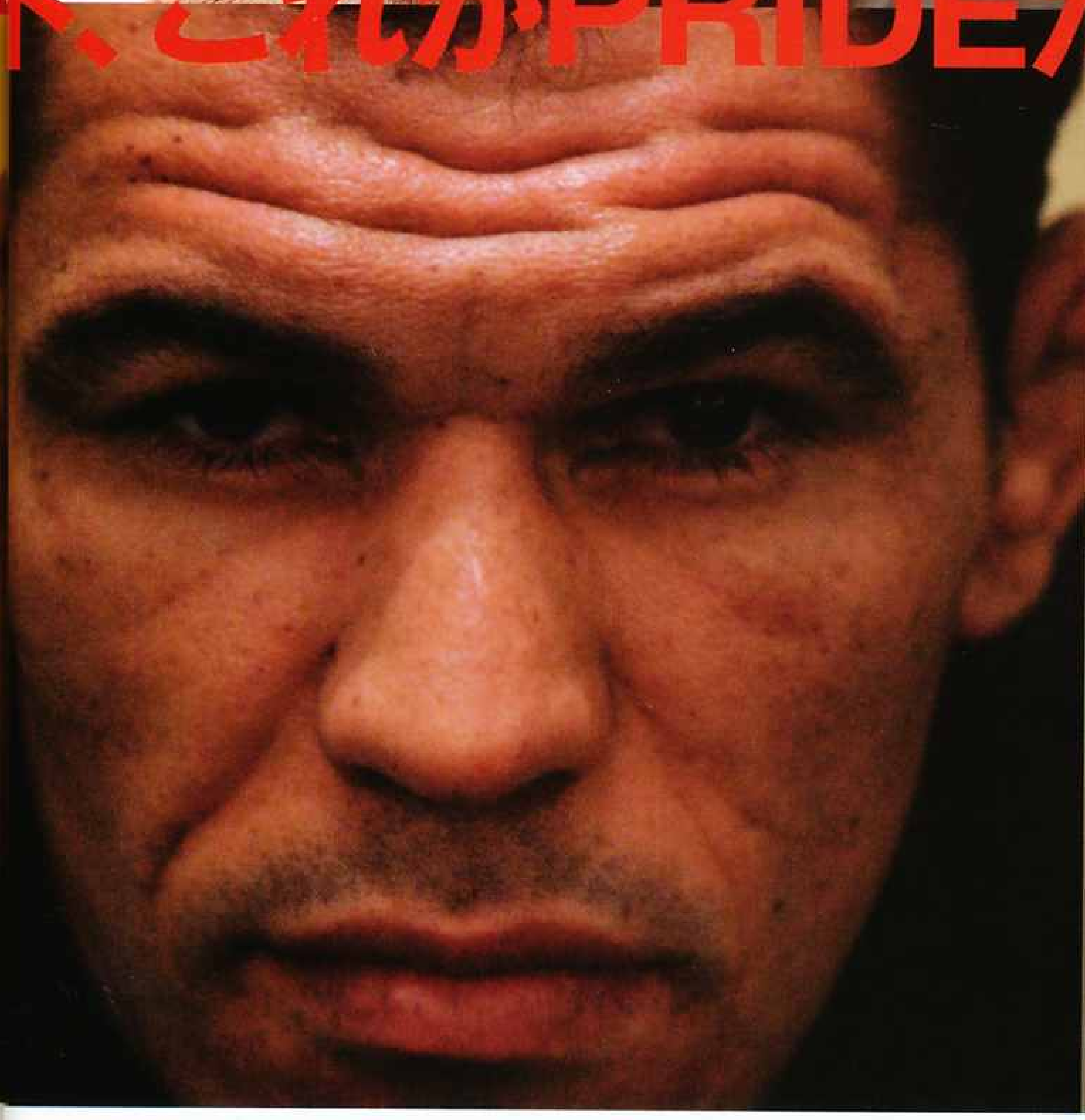


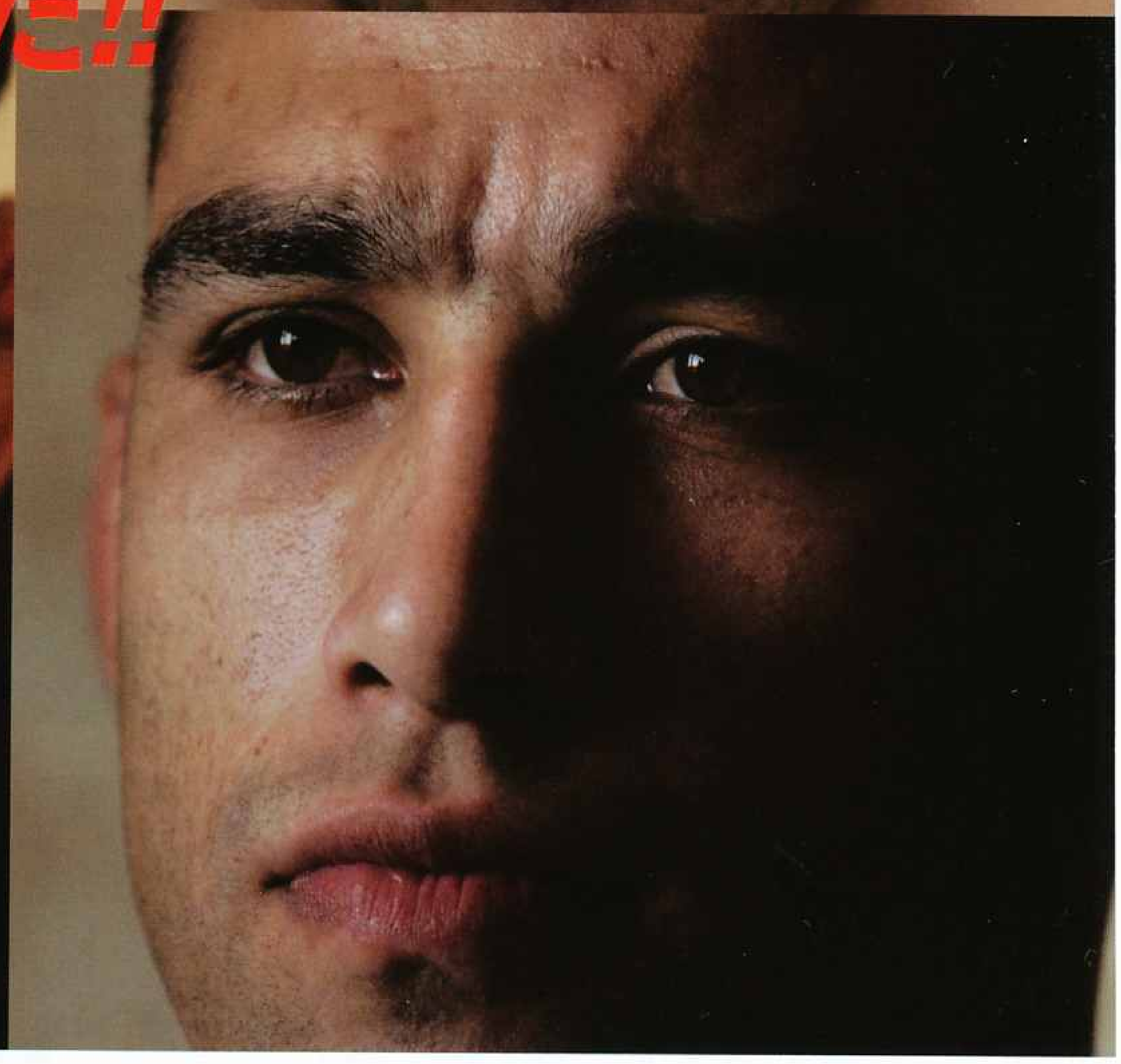






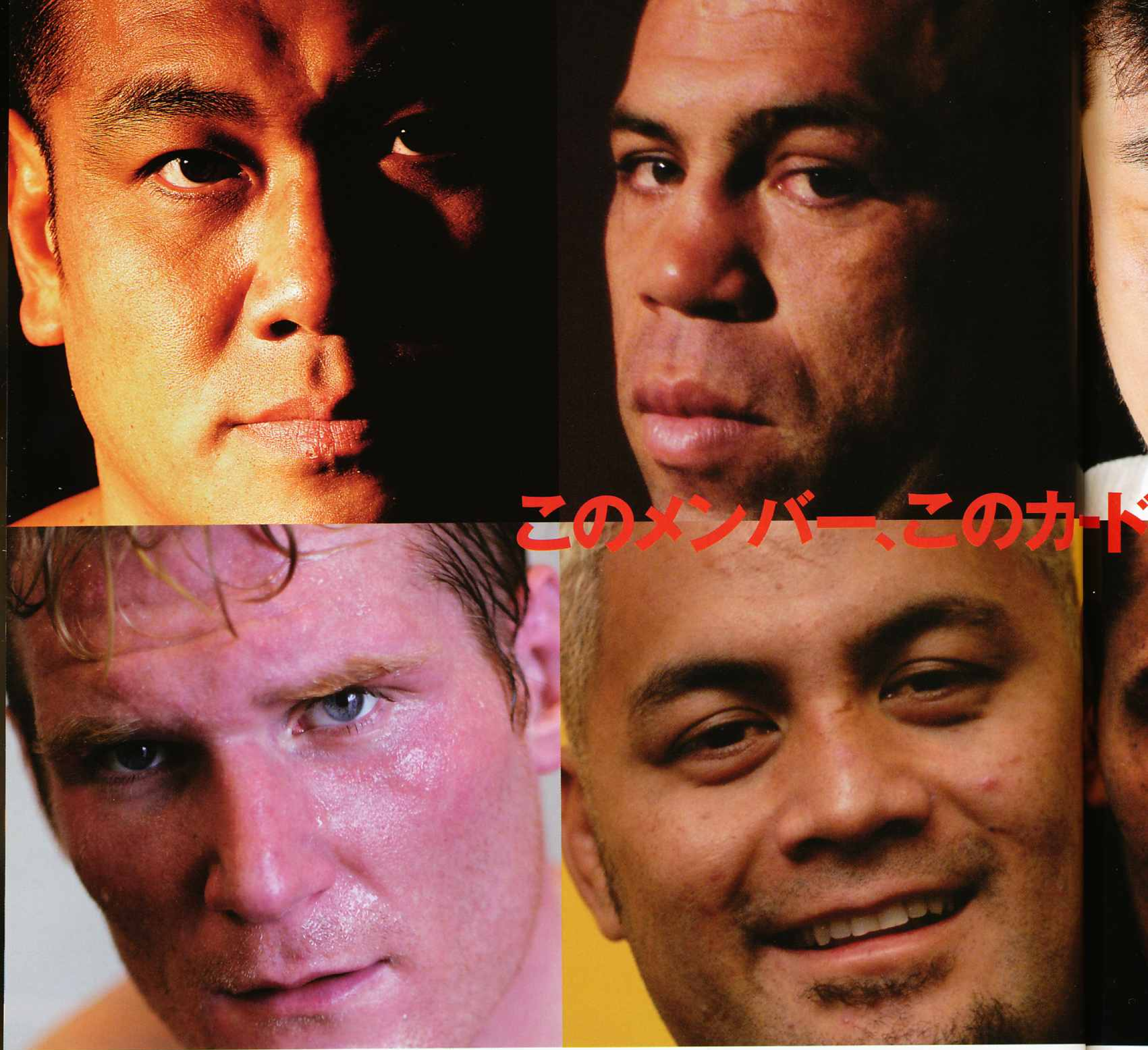
カード、これがPRIDEだ!!





SPRIDE


PEN-WEIGHT 2nd ROUND



このメンバー、このカード

This is

7.1 PRIDE GP 2006 OPEN



［アメリカ　ファス・バーリトゥード特訓独占取材］

藤田和之

俺は半端な覚悟でこのリングを選んだわけじゃない！



まさに一寸先はハプニング！ PRIDE無差別級GP2nd ROUNDに向けて、米国・カリフォルニア州にある『ファス・バーリトゥード』で6月5日からトレーニングキャンプをスタートさせた藤田和之。その特訓の模様を取材すべく、本誌は現地に特派員を派遣することに決めたが、なんと取材班が成田を発った数時間後に、記者会見出席のため藤田の緊急帰国が決定！　完全な行き違いとなってしまったのだ。そこで急遽、日本での記者会見終了後、成田空港へとんぼ返りする車内でインタビューを敢行。この緊急事態の中、藤田は何を考え、どんな思いでシウバ戦へと向かうのか。GK金沢克彦が直撃した！

聞き手／金沢克彦　撮影／黒田史夫　構成／堀江ガンツ
designed by hisa（TwoThree）

――5月31日に渡米したばかりだったのに、まさかわずか一週間で緊急帰国することになるとは夢にも思わなかったんじゃないですか？　そして1泊2日でまたロサンゼルスに戻ると（笑）。

藤田　ああ、そうですねえ。

――最初に今回の一件を知ったときにはどう思いました？　日本にはいないわけだし関係ないな、とか？

藤田　いや、そんなことないですけどね。やっぱり自分が選手として出場しているこの特別なトーナメントは成功させなきゃいけないし、その責任も感じてますから。

――そこでDSEから、一時帰国して今日（8日）の会見に出席してもらえないか、と。ほかの誰でもない、藤田和之に出てもらいたいんだという話をもらったわけですね？

藤田　ええ、それで断る理由もないし。だから、なおさら今回のトーナメントを成功させなきゃいけないっていう気持ちにもなりますよね。

――実際に「フジテレビの放送中止」という内容に関してはどう思いました？

藤田　まあ、驚きましたよ。でも、それを聞いてパッと思ったのはこの特別なトーナメントに参加している一人の選手として、このトーナメントは最後まで、9月の最終戦までちゃんとやり遂げて、完結させなきゃいけないっていうね。やっぱり責任感かな。ここに足を踏み入れた以上は、覚悟して出てきたわけですからキチッとやろうと。

――半端な覚悟で無差別級GP出場を選んだわけではないのだから、あらゆる意味で責任や使命は感じるだろうし。

藤田　まあ、そうですね。出場の経緯からすべていろいろ考えたうえで、そりゃあもうやらなきゃいけないって。これはもう自分の責任にも関わってくるものだってね。

――過去を踏まえて、「ああ、また自分の関わるイベントに問題が起きてしまった！」とは思わなかった？（笑）。

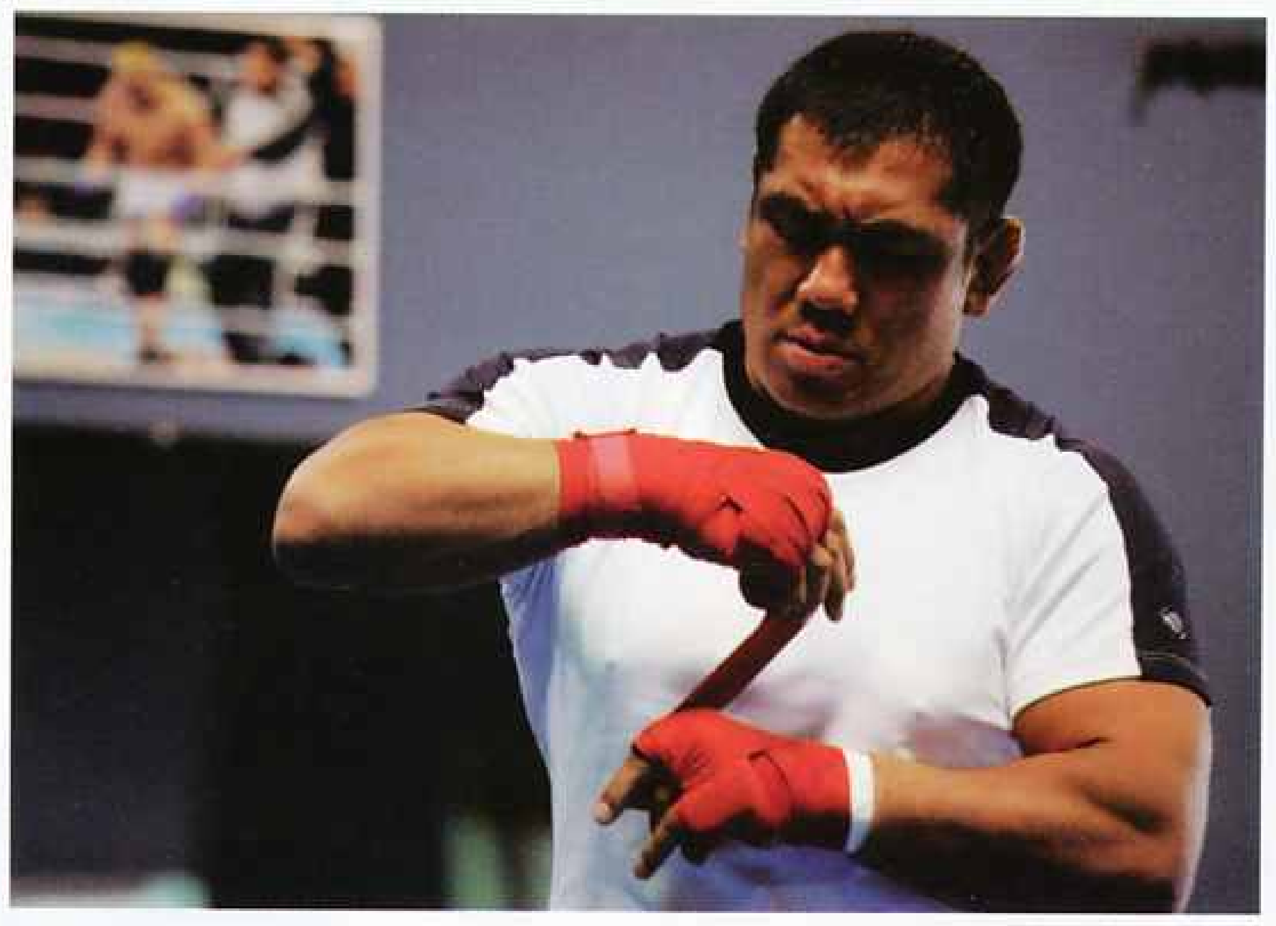
藤田　エッ？

――だから『LEGEND』とか『ROMANEX』とか『ボンバイエ』とか、いろいろあったから。

藤田　またぁ～（笑）。もう全然レベルが違う話じゃないですか。

――ハイ、そうでした。で、前回の5・5大阪（GP一回戦）の前は出場発表自体がギリギリまでずれ込んで、マルコ・ファスのもとでトレーニングしたのも二週間弱という短期間でしたよね。

藤田　いやあ、それは決められた期間の中で仕上げていくのがプロのファイターであって、それはそれで仕上げ方がありますからね。まあ、今回は時間があるのでいろいろとやることも増えるでしょう。



この特別なトーナメントは
成功させなきゃいけないし
その責任も感じてますから

和之

――でも、前回の反省や課題をすべて挙げていくとしたら、当然、準備期間の問題も出てくるわけじゃないですか？

藤田　そう言われれば、そうなりますね。

――そこで今回は、約一ヵ月弱というカリフォルニアでのトレーニング期間を設けたということになるわけですよね。

藤田　だから前回の試合（トンプソン戦）が終わって、いつもなら休む期間をもの凄く短くして、身体自体もすぐ動かしていたんでね。まあ、時間があるぶんじっくりとは出来ますから。

――そこで今回のロス～東京のとんぼ返りの影響ってどうなのかなと。練習プログラムとしては5日から本格的にスタートしたとも聞いてますけどね？

藤田　いやあ、問題ないですよ。時差ボケとかの調整も慣れているし。

――最初は「忘れ物があったので取りに帰ります」ってトボケていたけど（笑）。

藤田　アッハッハッ。それはある人に「永田裕志の連載が某夕刊紙でスタートしたらしいから、それを持って帰ってきてくれ！」って、ついでに頼まれただけですよ。

――ああ、永田マニアで、いまメカマミーにも異常な関心を示している、あの男だ！

藤田　そうです（笑）。

――じゃあ、ついでに彼にメッセージを伝えてください。彼の考える〝チームJAPAN総メカ計画〟を永田本人に伝えたところ、「レスナー戦も棚橋に持っていかれたし、こうなったらメカユージでもなんでもやってやるよ！」って宣言してたって（笑）。

藤田　ワッハッハッ、確かに伝えます！

――で、マジメな話、コンディショニングに関してはとくに影響はないと。

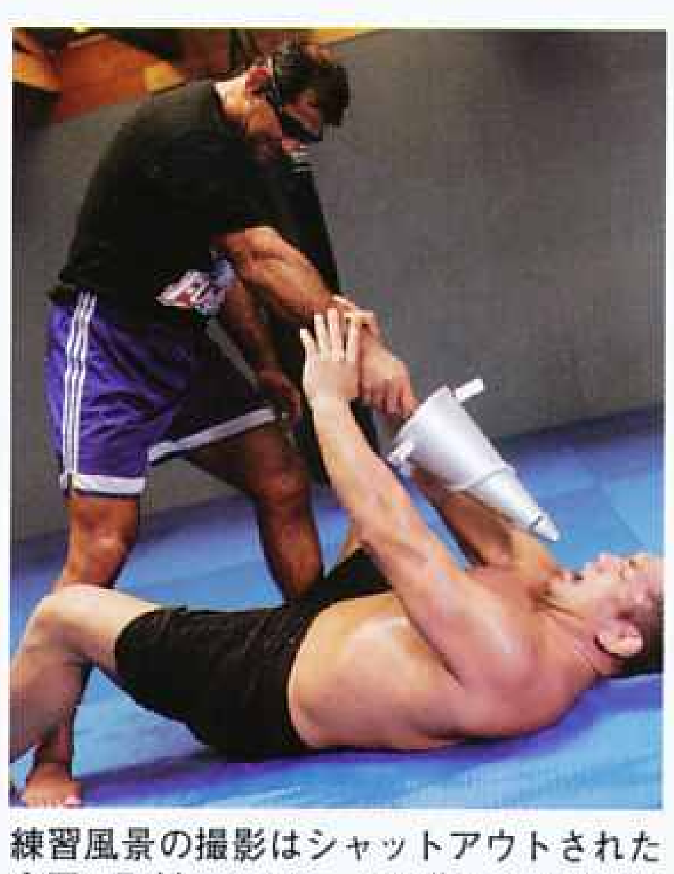
藤田　今回の事情は、向こうの事情ではありますけど、「来てもらえますか？」という話をいただいたら、問題ないですよと。自分にできることがあればやらせてもらいます、ということでね。

――では、もう少し突っ込んで聞きます。つい先ほどの会見で榊原社長から説明があったように、フジテレビ側の契約解除の理由として「信用、品位、イメージに対する保持と配慮を怠った」という一節がありました。これは明らかに、一部一般週刊誌に掲載された記事が影響しているわけで、榊原社長は改めてその件を事実無根であるとして〝全面否定〟しましたよね。これに関して、いち社会人として藤田和之個人の見解を聞きたいんですけど。

藤田　人との付き合いもそうだし、感じ方もそうだし、そういうものの受け取り方って人によって三者三様じゃないですか。たとえば、そういう記事を見ない人もいるし、見る人もいる。読んで、それはよくないと思う人もいれば、信じない人もいる。

――うん、そこで藤田選手としてはどう？

藤田　だからボクはファイターとして『PRIDE』と契約して、このトーナメントのリングに上がっているわけですよ。それに際して榊原さんと男の約束をしたわけですから。そういう面で、ボクは榊原さんを信じてますから。約束のリングに上がるだけですよ。正直ついこのあいだの話



練習風景の撮影はシャットアウトされた今回の取材。しかし、メカ化したメカマルコがドリルで藤田を襲う秘密特訓の撮影には成功！　なお、路上の王にメカ改造手術を施したのは、もちろんカシンだ。

で、よくわからないんです。選手がバタバタしたってしょうがないじゃないですか。まあ、榊原さんとちょっと話したときに、「ピンチはチャンス」みたいなことを話していましたし、会見でもそんな感じで言ってましたよね。

――その会見ですが、藤田人気というかファンからの声援はダントツでしたねえ。なぜ、DSEが無理を承知で「藤田選手に出席してほしい」と言ったのか、その理由がよくわかりましたよ。

藤田　そうですか？　ありがたいことです。最初みんなマスコミの人たちだと思って、凄い人数だなあって。ファンみたいに反応いいなあって（笑）。ファンの人たちは別室にいると思っていましたからね。

――髙田統括本部長から無差別級GP二回戦のカードが公表されたとき、最初に発表された吉田vsミルコ戦より、次の藤田vsシウバ戦が発表されたときのほうがファンの歓声、反応は凄かったんですよ。

藤田　本当ですか？　でも投票の1位は吉田vsミルコだって聞いていますけどね。

――知名度と人気、知名度と期待感は、別物だってことじゃないですか。

藤田　それに関してはなんとも……ボクの言うことじゃないから。

――その肝心の対戦相手ですけども、ここ最近のマスコミ予想や情報によると、ヒョードルの欠場もあって、藤田選手の対戦候補は、吉田秀彦、マーク・ハント、ヴァンダレイ・シウバの3選手に絞られているという声が多かったんですよ。

藤田　まあ、なんとなく耳には入ってきましたけどね。もう最初に言ったとおり、この選ばれたトーナメントに出ているファイターであれば、誰でもいいわけですよ。

――ただ、これは意識したものかどうか、いままでの藤田和之であれば、自分より身体の小さな選手とはやらないと。常にでかい相手に向かっていく構図であって、正直、同体格だったのは王者ヒョードルぐらいだったでしょう？

藤田　結果的にそうなんですけどね。ただ、軽い人とはやらないとか、オレはひと言も言ったことないですよ。

――でも実際にはやっていない。

藤田　たまたまそうなんですね。でもシウバ自体、普段の体重はボクと変わらないらしいんで。



男の約束を交したわけだから
ボクは榊原さんを信じてるし
約束のリングに上がるだけですよ

藤田

――ミドル級と言われてはいるけど、普段は100キロあるらしいですね。

藤田　そうらしいです。だからボクと体重自体はそう変わらないんですよ。

――でも、「相手はシウバに決定です」と言われた瞬間は、意外な感じがしたんじゃないかなって。

藤田　そう言われたら、意外は意外ですよね。最初はトーナメントに出ていないわけで、後から推薦枠で出てきたわけだから。

――無差別GPと銘打った意味合いからいくと、実際ミドル級以下の選手は全員一回戦で消えてしまったわけですよ。そう考えると、ここでミドル級の絶対王者・シウバが出てくる意義は大きいと思う。

藤田　ああ、なるほどね。ただ、シウバに関してはあんまり階級は関係ないような気がしますけどね！　彼のスタイルから、見た目、たたずまいから、もう闘いぶりから階級を感じさせないものが溢れているじゃないですか。ミドルだとかヘビーだとか、そういう階級は関係なしに、いちファイターとして彼は素晴らしい選手だと思うし。

――ただ、いままで対戦相手として意識して見たことはないでしょう？

藤田　ええ、対戦相手としては見たことなかったですねえ。

――どちらかというと、ファン的な目線というか、視聴者っぽい目線で見てきたことのほうが多いんじゃないかって。

藤田　どちらかと言えば、そうですね。

――ある意味、彼はヒョードル、ミルコ、ノゲイラの3強に匹敵するか、それ以上の知名度、人気を誇っているわけで、実績も充分でしょう？　とくに印象に残っている試合というと、どうでしょうか。

藤田　ウ～ン、いっぱいありますからねえ。彼の場合、日本人選手ともけっこうやってますからね

――やはりヴァンダレイ・シウバの存在を不動のものとしたのは一連の桜庭戦じゃないですか？

藤田　そうですけどね……桜庭さんとか吉田選手とか日本人ファイターともやってるんですけど、ボクの場合、彼らとやっているときよりも、もっと前の印象が強いんです。ボクが2000年に『PRIDE』に出始めた頃には、もうヴァンダレイは出ていたんですよ。その頃のイメージが強いんですよね。あの当時のシウバのハングリーさ、もう全身から溢れ出るようなハングリーさというのが、いまだにボクのイメージとして焼きついているんですよ。

――ああ、2000年1月の『PRIDE　GP2000』に藤田選手が初出場した時、たしかシウバはもう『PRIDE』では3戦目でしたよね。

藤田　あのトーナメントには出てないけど、「ウワッ、凄いな！」「後頭部に刺青入れてるよ！」って。そのにじみ出るハングリー精神と闘争心にビックリしたのが一番印象に残っているんですよ。

――それに、実際ヘビー級相手に実績もあるわけじゃないですか？　ミルコと引き分けた試合も事実上、シウバの判定勝ちという声も多かったし、ハントに判定負けしたときも紙一重だったと思うしね。

藤田　ええ、そう思いますよ。階級なんか気にならないっていうかね。

――やっぱり同じ匂いがするかな？

藤田　ハッハッハッ、それって毎回じゃないですか。毎回、同じ匂いじゃないですか。同じ匂いの人とばっかりやってるみたいじゃないですか（笑）。

――ジェームス・トンプソンはあんまり同じ匂いとは言えなかったでしょ？

藤田　そうですね。まあ、匂いといえば……ボクはそんなに匂いには敏感じゃないんで。もっと本能的のものであってね。

――よし、じゃあ殴り合おう！

藤田　いや、わかんないですよ、それは。どうなるんでしょうねえ。

――あのシウバと殴り合ってみたい気持ちもあるんでしょう？

藤田　う～ん、殴り合うのか、蹴り合うのか、どうなるのかねえ。

――いや、蹴り合えないでしょ！（笑）。

藤田　エッ!?　そうか、合えないか……蹴られちゃうのか、ガッハッハッハッ！

――でも、藤田選手には空手とサッカーで鍛えた、必殺のサッカーボール・キックがあるから。

藤田　ああ、倒してからっていう、限定つきのやつですね（笑）。そうですね、やっぱり殴り合うのかなあ。これから練習して、どういう展開になってもいいようにやってきますので。いやあ、もう楽しみですよ。これは正直な気持ちとしてね。

――シウバっていう選手は穴がないというか、グラウンドも巧く凌ぐし、絶対に諦めない選手ですもんね。

藤田　そう、そこも凄いんですよ。だから会見で「どういう印象ですか？」って聞かれたとき、やっぱりストライカーだとかレスラーだとかいう答え方はできなかったんですよね。彼はファイターなんですよ。しかもコンプリートなんで、ハイ。

――記者会見でも「コンプリート」（＝完全な）って言いましたけど、ファンにはあまり伝わっていなかったような感じで（笑）。

藤田　ええ、なんかコンクリートって聞こえちゃったみたいですね（笑）。パーフェクトとかオールラウンドって言えばよかったんですかね。それにしても異様な空気で……前にはマスコミの人とファンがビッシリいて、うしろにも選手たちがドカドカと控えていてねえ。いろいろな意味で熱を感じましたね。

――もう藤田和之の一番苦手とするシチュエーションになってしまったと（笑）。

藤田　いえいえ。でも、シウバはコンプリートだからこそ、チャンピオンで長期政権なわけですよね。もう大相撲でいうなら、朝青龍ばりでしょ？

――まあ、これで頭の中は対シウバでハッキリと切り替わったわけですね？

藤田　ついさっき正式決定ということで、もう彼一本ですね。

――まあ、2日からマルコのところに通い始めて、本格始動したのが5日の練習からということで、ほとんどスタートしたばかりなんですけど、それ以前も含めてどんな調整をしてきたんですか。

藤田　もうトータル的にね、どんな相手が来てもいいようにというメニューを立てた練習ですね。連絡がいけば、すぐにマルコの頭の中も動くと思いますからね。

――現地で放ったらかしにしてきたお二人は何をしてますかねえ？

藤田　そんな、放ったらかしって（笑）。それ言っちゃってもいいんですかね？

――もうケンドー・カシンの渡米のことは書いているし、髙橋義生も同行してるって、みんな知ってますよ。

藤田　ああ、そうなんですか。だからいつも毎回、お互いセコンドに付き合うメンバーでやっているということでね。

――でも、髙橋選手がマルコの道場まで行くのは初めてじゃないんですか？　ということは、アメリカでカシン、髙橋、藤

和之

シウバとの試合はリミッターを外した者同士の闘いになる



田、そしてマルコの4人が揃うのも当然初めてとなるわけだし。

藤田　日本でやっているときはいつも髙橋さんは一緒にやってくれますけどね。向こうで合流するのは初めてなんで。

――だけど、とくに相手がシウバとなると、卓越したパンチの技術を持つ髙橋選手がいてくれるのは心強いでしょ？

藤田　本当にそうですよね。まあ、でもまだ練習は始まったばかりなんで。もちろん、周りの皆さんには感謝してますけどね。

――それに応えるためにも、ちゃんと禁煙していますか（笑）。

藤田　ハイ、もうバッチリ禁煙してます。

――なんといっても、シウバはスタミナもありますからね。昔の安田忠夫みたいにマルコの目を盗んで、道場の外で一服とかしないように（笑）。

藤田　安田さん、「臭いでわかるんだぞ」ってマルコに怒られたんですよねえ（笑）。

――ところで本番を想定した場合、ウエートは何キロぐらいが理想なんですか？　相手がスピードのあるシウバということで、そのへんも変わってくるんでしょうか。

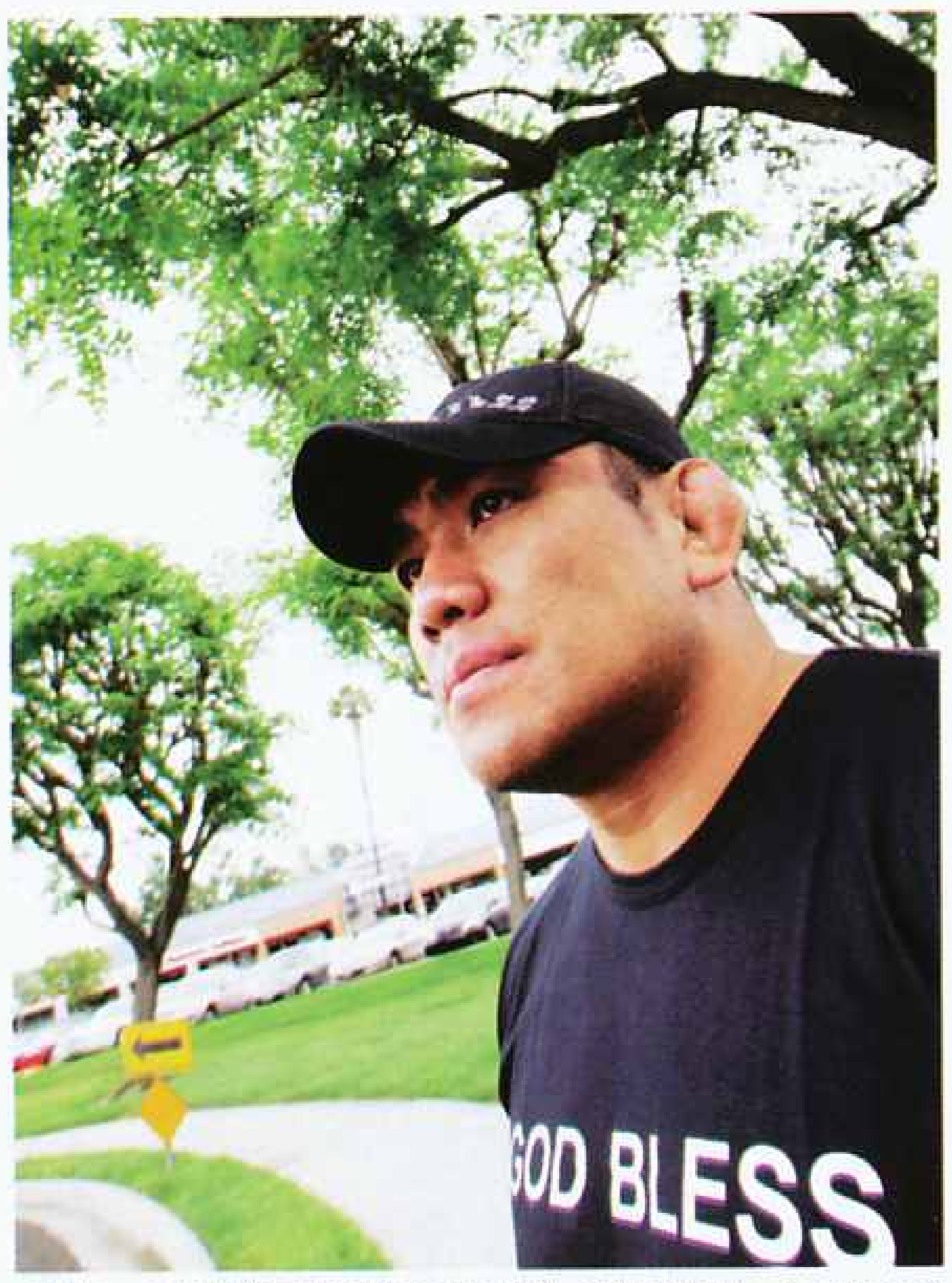
藤田　いまが110キロを切るぐらいですかね。最終的には105～106キロになるでしょう。ボクとしてもそれぐらいのほうが動きやすいですね。前回の試合も105～106だったんですよ。動きやすいし、長く動けるし、ペースも試合を見ながら、自分で上げたり守ったり、いい感じでしたからね。

――それにしても、前回がトンプソンで今度はシウバと、もうまるっきりタイプの違う相手じゃないですか。

藤田　だから、おもしろいんじゃないですか。ボクはヴァンダレイのファイターとしての心構えが好きで。それは彼の性格、人間性もあるんだろうけど、見ていて気持ちいいですからね。

――あれっ、もしかしたらシウバ・ファンだったと？

藤田　ファンというか、見ていて応援し



ふじた・かずゆき■1970年10月16日、千葉県出身。レスリング全日本学生選手権4連覇の実績を引っさげ、96年、新日本プロレス入団。00年に同団体を退団後、『PRIDE GP2000』に参戦し、当時“霊長類ヒト科最強”と恐れられたマーク・ケアーを撃破。皇帝ヒョードルをKO寸前に追い込んだこともあり、無差別級GP優勝が期待される。183cm、104kg。

ていましたからね、正直言って。感情移入できる選手なんでね。

――彼の闘いには感情が見えるし、やっぱり諦めない姿勢が心に響くんですよ。

藤田　ええ、諦めない。もし、こう対戦することにならなければ、彼のファンかもしれないなあ。

――そうですかあ、じゃあ以前は「ガンバレイシウバ」だったわけだ？

藤田　何ですか、それ？

――モノマネ芸人で「ガンバレイシウバ」

藤田和

っていうタレントがいるの知りませんか？　決めゼリフが「サクラバァ、カカッテコイヨ！」て言うんだけど（笑）。これからは「フジタァ、カカッテコイヨ！」にネタが変わるかもしれない。

藤田　へぇー、それじゃあ、もう猪木会長や長州さん並みじゃないですか（笑）。やっぱりインパクトがあるってことですよね。たぶんシウバのひたむきな姿勢は何も変わっていないと思うし、楽しみですよ。

――では、こういった状況下で、前回「命を懸けて」というキーワードを最初に使った藤田和之としては、どんな心境と覚悟で7・1さいたまスーパーアリーナのGP二回戦へ臨みますか？

藤田　「命を懸けて」というのは簡単に使うものじゃないんです。だって、あのとき、榊原さんからのメッセージを受けてボクは言ったじゃないですか。「こんなことを軽々しく言うのはなんですが、命を懸けた約束です」って。そんな誰も彼も口にできる言葉じゃないってことですよ。

――じゃあ、次回もリミッターを外してもらいましょう！

藤田　だから、そこなんですよ。ボクが前回リミッターを外すと言ったのは、自分のファイターとしての姿勢だけを表現したものじゃないんです。無差別級イコール、リミットを外すということじゃないですか。そこにも引っ掛けていたわけで。そう考えると、PRIDEミドル級のチャンピオンでありながら、誰よりも早くリミッターを外して勝負していた男って、ヴァンダレイ・シウバなんですよね。だから、今度の闘いは本当の意味でリミッターを外した者同士による試合になると思いますよ。楽しみですよ、本当にね。

【06年6月8日／成田空港へ向かう車中にて収録】

GKの取材後記

本当に世の中というのは思い通りにも予定通りにいかないもの。だからおもしろいのかもしれない。当初、『Kami-pro』本誌のロス取材班にはワタクシGKも名を連ねていた。ところが、出発予定の10日前に個人的事情により渡米をキャンセルせざるを得なくなってしまった。それでも藤田の滞在先は聞いているので、撮影は現地に飛んだスタッフが、インタビューは国際電話で私がやろう、という話で落ち着いた。得てして藤田の場合、電話のほうが話の中身はおもしろかったりするので、それはそれで問題なし！　とタカを括っていたのだ。ところが、緊急事態は我々にも降り掛かってきた。ロス取材班が現地のホテルに入ったのが、6日（現地時間）の夕刻。その数時間前のシンガポール航空便で藤田の緊急帰国が決定してしまったのだ。つまり完全な入れ違い、擦れ違いである。

そして、日本で1泊して再び渡米する藤田がカリフォルニアのホテルに戻るのは、8日（現地時間）の夕刻ときたもんだ。まるでスタッフの取材予定を見事に外すかのような今回の“緊急”とんぼ返り騒動だった。ともかくカメラマン氏が現地での滞在日数を一日延長して、なんとか撮影にこぎ着けたという。こちらも大忙し。なんせ藤田の日本滞在時間はちょうど24時間である。そこで捻り出された突撃！　取材プロジェクト。会見終了後、成田空港へと向かう車中での直撃インタビューだ。いやあ、「人生、一寸先はハプニング」なるアントンのセリフを実感した次第。

ところで、藤田の対戦相手はヴァンダレイ・シウバと決定。ハッキリ言って、藤田の頭の中でシウバ戦の可能性はあとにも先にもゼロだったと思う。少なくとも、藤田のこれまでの格闘人生を知る者なら、絶対にそう考えるはずだ。しかし、我々とファンの意識にはやはりギャップがある。この異次元“無差別級対決”をファンは大喝采を持って迎え入れたのだ。もはや既成概念、固定観念に囚われている時代ではない。おもしろいかおもしろくないか、観たいのか観たくないのかを決めるのはファンなのである。

7・1さいたまスーパーアリーナで、無差別級大戦争の神髄を堪能しようではないか！

[師匠が語る藤田和之の強さ]

マルコ・ファス

フジタは“野獣”なんかじゃない!

藤田が全幅の信頼を寄せる総合格闘技の師匠、それがこのマルコ・ファスだ。“路上の王”の異名を持ち、かつてはヒクソンと並び称されたMMAのレジェンドは、愛弟子・藤田をどう評価しているのか。そしてGP優勝の可能性はどのぐらいあるのか、米国『ファス・バーリトゥード』で直撃した。

聞き手／橋本宗洋　撮影／黒田史夫　構成／堀江ガンツ

designed by hisa (TwoThree)



——まずはマルコさんが藤田選手のコーチをするようになったきっかけを教えてもらえますか？

マルコ　最初にフジタと会ったのは5年くらい前だな。ちょうどヤスダ（安田忠夫）とジェロム・レ・バンナが試合をするときだよ。私はヤスダの指導をするために新日本プロレスの道場に行っていて、そこでフジタに会ったんだ。本格的にフジタのコーチをするようになったのは、ボクサーとの試合のときだな。

——伝説の『イノキ・ボンバイエ2003』ですね（笑）。イマム・メイフィールド戦。当時の藤田選手は、マルコさんから見てどんな選手でした？

マルコ　タフで身体が大きいのはいいが、テクニックが足りなかった。MMAの経験も浅かったね。テンションと勢いだけで闘っている感じだった。

——では、マルコさんの下で学ぶことは多かった、と。

マルコ　彼にはたくさんのグラウンド・テクニックが必要だったね。それとコンタクトも重要だった。相手の急所に、よりハードにヒットさせる打撃を覚えないといけなかったんだよ。そこがプロレスとリアルファイトの大きな違いだからね。ただ、課題はあったけどフジタはじつによく練習して、急速に成長していってくれたよ。彼は素直で、コーチの言うことをよく聞くいい生徒だ。普段のフジタも本当にナイスガイでね。フレンドリーだからジムの他の生徒たちにも好かれてるよ。いつも物静かで、礼儀正しいんだ。

——MMAファイターとしての長所はどんなところになりますか？

マルコ　背は高くないんだが、身体に厚みがあるところだね。それにアゴが強い。肩の筋肉が盛り上がって、首がないような体型をしてるだろ。ああいう体型は打たれ強いんだよ。パワーだって、アメリカ人やロシア人と比べてもまったく遜色がないよ。それとスピードもある。

——精神面はいかがでしょう。

マルコ　素晴らしいと言うしかないな。選手というのはリングに上がると「負けちゃいけない」とか「もし負けたら」なんて考えて固くなってしまいがちだ。だがフジタは常に「絶対に勝つ。オレは勝てる」とポジティブに考えて闘うことができるんだ。だから、練習でやってきたことをそのままリングで出せるんだよ。セコンドの指示も、忠実に実行することができる。

——いままでの試合でいうと、それはどんな場面ですか？

マルコ　たとえばボクサー（メイフィールド）との試合。グラウンドの時間制限があるルールだったから、相手を自分のヒザに乗せた状態でチョークを極めるという作戦を考えてたんだ

——まさにそのとおりのフィニッシュでしたよね。

マルコ　それとオリンピック・レスラーとの試合（04年大晦日『Dynamite!!』でのカラム・イブラヒム戦）。「横に回ってフックだ！」と指示を出したら、本当にそれをやって、見事にKOしただろう。

——あれも指示どおりだったんですか。作戦や練習内容は、すべてマルコさんが決めるんですか？

マルコ　そうだね。相手が決まったら、ビデオを観て研究し、どう闘うか私が考える。フジタは私の作戦を100パーセント信頼してくれてるよ。そして、それを100パーセント理解し、実行できる頭のよさがある。

——マルコさんの話を聞いていると藤田選手の〝野獣〟というイメージが変わってきますね。

マルコ　私は、フジタの〝野獣〟というニックネームが好きじゃないんだ。いまのフジタはパワーと勢いだけで闘う選手じゃない。頭を使って勝つことができる選手に生まれ変わったんだからね。

——ただ、前回のトンプソン戦では作戦に狂いが生じたようでしたね。

マルコ　試合の間隔がだいぶ空いたからね。あの試合のフジタは距離感がよくなかった。間合いが遠すぎて、タックルを切られてしまったんだ。それでも勝てたのは、フジタの精神力の強さだろうね。さっきも言ったように、彼はどんな状況でも自分を信じて闘えるから。もちろん練習の成果も大きかった。あの試合の前は2週間しか準備期間がなかったんだが、徹底的に心肺機能を鍛えておいたんだ。そのおかげで、相手に攻められても体力を失なうことがなく、反撃することができたんだよ。

——心肺機能のトレーニングというと、走り込みですか。

マルコ　このジムのあるあたりは丘になっているから、まず

はそこをランニングするんだ。それから坂道をダッシュ。それと水泳もやってるよ。こういう練習をやってるから、いまのフジタは心肺機能が格段に向上してるんだ。闘いに必要なのは、まず何よりも体力だよ。選手は技を覚えたがるものだけど、いくらいい技を持っていてもスタミナが切れたら使えないだろ。それから、前回の試合の勝因の一つはタバコをやめたことだよ。

——あ、それは本人も言ってましたね。

マルコ どんなに走りこんで心肺機能を鍛えても、タバコを吸ったら全部ムダになるからね。スパーリングをやっていれば、タバコを吸っているかどうか匂いでわかる。フジタは完全に禁煙したようだ。ヤスダはやめられなかったけどな。

——ククク！　安田選手は禁煙できませんでしたか。

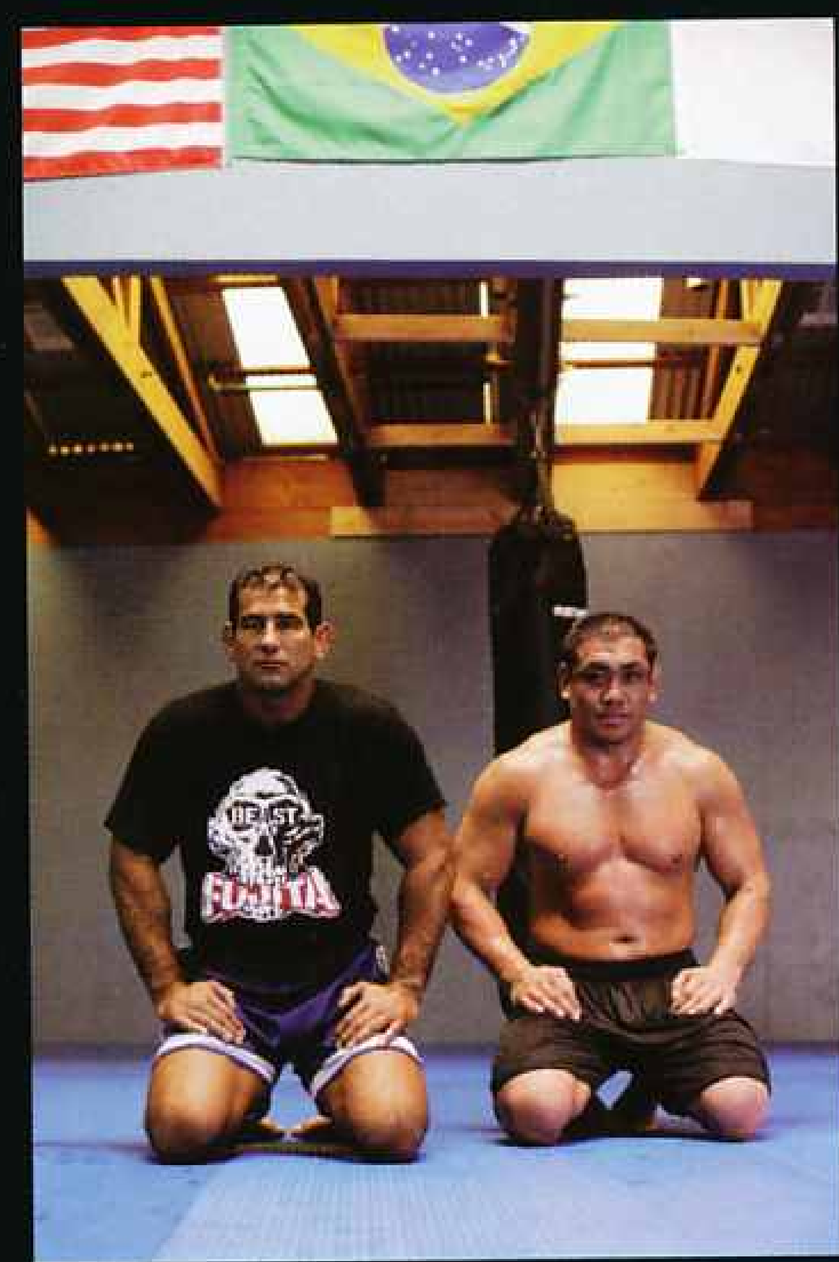
マルコ 練習が終わって、ジムの外に出たらもう吸ってたんだよ（笑）。

——期待を裏切りませんね（笑）。話をトンプソン戦に戻すと、あの試合で印象に残ったのはガードポジションから見事に脱出したシーンなんです。

マルコ それはいつも練習していることだからね。下になったときにどうエスケープするかは、毎日、重点的に練習している。

——走り込みとかディフェンスって、一番メンドくさい、楽しくない練習ですよね。それをすでにスターである藤田選手が黙々とやっているっていうのは凄いですよ。

マルコ いや、大事なことなんだからやるのが当たり前なんだ。スター選手であろうとそうじゃなかろうと、私がコーチする以上はやらせるだけだ。それについてこられないのなら、他のコーチを当たってくれればいい。



勝負は判定にはならない おそらくフジタがヴァンダレイをKOするだろう

——そういう練習を経て、現在の藤田選手は完成形の何パーセントくらいまできていますか？

マルコ 50パーセントは超えているね。ただ100パーセントには達してないな。それにはもう少し経験が必要だ。

——その状態でも、GPは優勝できそうですか？

マルコ いけると思うね。次の相手、ヴァンダレイもタフな選手だが心配はしていない。ヴァンダレイは体重を増やして100キロくらいで闘うと思うけど、それはナチュラルな体重じゃない。逆にフジタはナチュラルで110キロだ。ヴァンダレイがフジタをKOすることは、ありえないよ。

——では、シウバ戦はどんな試合になると思いますか？

マルコ 細かい作戦はもちろん言えないな（笑）。ただ言えるのは、判定にはならないということだ。たぶんフジタがパンチでKOするんじゃないかな。今度の試合は、フジタにとっていいチャンスだ。ヴァンダレイに勝つことでさらに経験を積み、GPが終わることには100パーセントのフジタになってると思う。ところでほかのマッチメイクはどうなってるんだい？

——吉田vsミルコ、ジョシュvsハント、ノゲイラvsヴェウドゥムですね。

マルコ となると準決勝に上がるのはフジタ、ミルコ、ジョシュ、ノゲイラだろうな。組み合わせはフジタvsミルコ、ジョシュvsノゲイラか。

——もうそこまで予想できてるんですね（笑）。となると決勝は……。

マルコ 決勝のことを考えるより、まずはフジタvsミルコだよ。3度目の対戦だが、今回は違う結果になるよ。いまのフジタは経験を積み、あの頃とは別人になっているからね。ミルコも強い選手だが、いまのフジタなら勝てるよ。

——そしてGPを制覇すれば、ヒョードル選手との再戦も見えてきますね。

マルコ それは絶対にやっておかなければいけない試合だ。フジタは前回の対戦で、ヒョードルをKO寸前に追い込んでるだろう。そんなこと、ミルコもノゲイラもできなかった。あのときは詰めが甘かったが、いまのフジタはどうやって試合をフィニッシュさせればいいのかがよくわかっている。前回以上に激しい試合になると思うから、期待していてくれ。

【06年6月8日（現地時間）／米国カリフォルニア州『ファス・バーリトゥード』にて収録】



橋本宗洋特派員の

ズンドコ取材後記

「じつは、記者会見に出るために藤田が緊急帰国することになりまして。もう飛行機に乗っちゃったみたいです……」

ロスに到着したばかりの筆者と黒田カメラマンに編集部から届いたのは、まさかの情報だった。時は06年6月6日、まさに悪魔の報告。編集部からは「一緒に練習してるカシンにお土産としてこれを渡して、写真を撮ってきてください」とメカマミーのドリルを持たされていた。ぱっと見、核弾頭に見えなくもないヤバそうなブツ。テロ警戒下のアメリカになんとか持ち込んだってのに、これからどうしろってんだ!?

藤田がアメリカに到着するのは、木曜の夕方と判明。しかし筆者は金曜昼の便で帰国しなければならない。メイン企画であるジムでの特訓風景レポートは、まず不可能だ。とりあえず黒田カメラマンの滞在を1日延ばし、写真撮影だけでもできるようにする。が、予定はあくまで予定でしかない……。

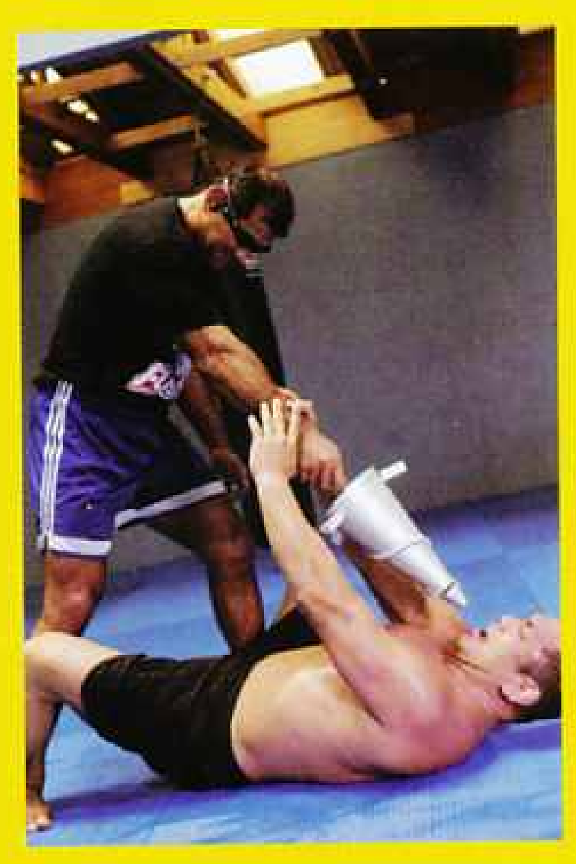
先行き不安な中、まずは空港からドリームステージエンターテインメント・USAオフィスを訪問、『PRIDE』アメリカ進出の現状を聞く。ロス郊外のホテルにチェックインしたのは6日夜。カシンと髙橋義生がいるはずなのでフロントで聞いてみるも“イシザワ”“タカハシ”“フジタ”、いずれの名前も宿泊客リストにはないという。なぜ!?

翌日はアナハイムでジョシュのインタビュー。ハードなトレーニングぶりと割れてきた腹筋に感動を覚える。が、この段階で藤田以外の取材プランはすべて消化してしまった。そこで急きょ、マルコに連絡し、藤田不在のままでインタビューをすることに。電話でいきなり「藤田の取材で日本から来たんですが」と言われたマルコも面食らったことだろう。突然の取材に快く応じてくれたマルコには本当に感謝。

その後はホテルに戻り、ロビーで藤田の到着をひたすら待つ。『kamipro』はアバウトな編集部である。「○時に○○で待ち合わせてください」なんて細かいセッティングをしてくれるはずもなかった。そして待つこと1時間半、ついに藤田到着！　急な予定変更に恐縮していたが、いやいや、アナタのせいじゃない。翌日の取材の段取りを決め（といっても筆者は帰国するんだが）、とりあえずその日はゆっくりと休んでもらう。

藤田と話ができたのは、わずか数分間。しかし、とにもかくにも取材のメドは立った。なぜか会うことができなかったカシンと髙橋にも帰国直前に対面、無事にドリルを渡せた。OK、とりあえずやることはやった。嬉しそうにドリルを回すカシンの姿を脳裏に焼きつけ、土曜夜に帰国。しかし筆者を待っていたのは、編集部からの「締切は月曜なんでよろしく」という、さらなる悪魔の報告であった。そんなの先に言えっつうの！


[追記] ロス出発まであと数分というところで、黒田カメラマンから連絡が入った。「カシンが写真に写りたくないっていうんだよね。ドリルはマルコに持たせるからって。で、自分がドリル持った写真は『東スポ』に送るって言い出すんだよ……」。おそらく、この号が発売されるまでに“メカシン”の写真が『東スポ』の紙面を飾っているはず。ケンドー・カシン、やはり油断のならない男である。





出てこいや～!!
世の中が乱れたときこそ『kamipro』の出番!!
7・1『PRIDE無差別級GP』
緊急速報号、
出します。
『kamipro』初の緊急速報号!!
衝撃のフジテレビ放送中止から
まだ見ぬ奇跡の感動シーンまで
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2006 SUMMER
『PRIDE無差別級GP 2nd ROUND』&
『ハッスル・エイド2006』緊急速報号
7月7日（金）全国書店、一部コンビニにて発売予定
予価¥760（本体723円＋税）
PRIDE無差別級GP2006
2nd ROUND
2006年7月1日（土）さいたまスーパーアリーナ
開始16:00（予定）開場:14:00
[対戦カード]
吉田秀彦 vs ミルコ・クロコップ
藤田和之 vs ヴァンダレイ・シウバ
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ファブリシオ・ヴェウドゥム
ジョシュ・バーネット vs マーク・ハント
[チケット料金]
VIP（専用入場ゲート・グッズ付き）100,000円／RRS 30,000円
スタンドS 17,000円／スタンドA 7,000円
※1歳以上のお子様も入場券が必要です
[問い合わせ]
ドリームステージエンターテインメント 03-5464-1531
enterbrain 株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）
[通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

イラスト／師岡とおる



ならば、俺は愛（ファン）のために闘おう……!!
（いつかのケンシロウ調）

PRIDE 救世主伝説

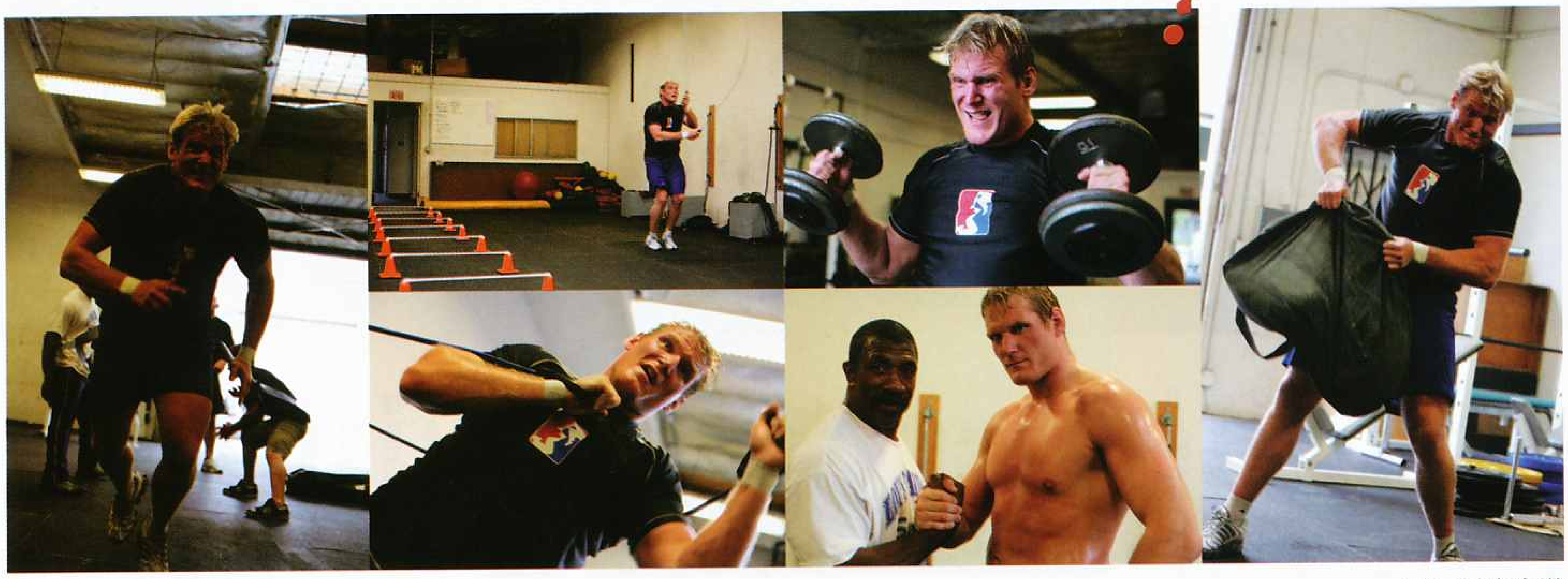
構成／ジャン斉藤
designed by matsu（TwoThree）



やればできる子!　ジョシュの腹筋が割れている!!

「こんなハードな練習、
ほかの誰もやってないさ……」

北斗地獄特訓独占潜入



聞き手／橋本宗洋
撮影／黒田史夫
designed by matsu（TwoThree）

蒼い目のケンシロウ

ジョシュ・バーネット

ジョシュ・バーネットから取材場所に指定されたのは、カリフォルニア州アナハイムにあるトレーニング・センター『LOU'sTRAINING SYSTEMS』だった。元プロフットボール・プレイヤーでスポーツ科学の学位を持ち、数多くのアスリートのフィジカル・トレーニングを手がけてきたルー・スミス氏（アテネ五輪で金メダルに輝いたソフトボールのアメリカ代表も、ルー氏の指導を受けた）のもとで、ジョシュは肉体改造に取り組んでいるのだという。

スパーリングは見られないのか……少しばかりガッカリしたのだが、すぐにそんな考えは吹き飛んだ。とにかく練習内容がハードなのだ。極太のゴムベルトで負荷をかけてのダッシュやシャドーボクシング、スクワット。重たいメディシンボールを抱えてジャンピング・スクワット。休む間もない激しいトレーニングが、あっという間にジョシュの体力を奪っていくのがわかる。正直、見ているだけで息苦しくなるような練習だった。滝のように汗を流し、苦しげに顔を歪め、時おり叫び声さえあげながらルー氏のトレーニングに食らいついていったジョシュ。練習メニューの後半、シャツを脱いだ彼の肉体は、以前とは比べものにならないほど引き締まっていた。

ジョシュの腹筋が割れてる！　もうそれだけで、彼がどれだけしんどい練習をしてきたがわかるというものだ。レンズを向けるカメラマンに、ジョシュは言った。

「こんなハードな練習、ほかの誰もやってないさ……」

ここまでやらなければ『PRIDE』では勝てない。無差別級GPを制することはできない。〝世界最高峰の闘い〟の意味をあらためて痛感させるような〝地獄の練習〟――。いつものフレンドリーな〝オタク格闘家〟とは違う、アメリカ取材で見た〝もう一人のジョシュ・バーネット〟の姿をお届けしよう。

――ジョシュさんといえばシアトルというイメージが強かったんで、いまはアナハイムで練習していると聞いて驚きましたよ。ここでの練習はいつ頃から始めたんですか？

ジョシュ　ミルコと最初に闘ったときだね。カリフォルニアはアメリカのソウゴウカクトウギの中心地なんだよ。ラスベガスでUFCの大会が開かれるときも観客の6割以上はカリフォルニアのファンだし、なによりいいトレーナー、いい選手がいっぱいいるんだ。

――ジョシュさんが練習してるのは、今日行なったルーさんのジムと……。

ジョシュ　スパーリングは、エリック・パーソン（元修斗ライトヘビー級王者）のジム『オレンジカウンティ・シュートレスリング』でやってるよ。エリックと最初に会ったのはシアトル。マット（・ヒューム）の紹介で、彼のセミナーに参加したのが知り合うきっかけだった。一緒に練習してるのはランペイジ・ジャクソンやLYOTO。ルーも含めて、ボクたちはチームみたいなもんだね。いまはここと、それから試合で日本に行ったときにAACCやTK（髙阪剛）サンのジムで練習して、シアトルには試合後に少し帰るくらいなんだ。ほとんどアナハイムに住んでる状態だよ。ここでは充分な練習が好きなだけできるからね。今週末は、チームのみんなでマウンテン・トレーニングをする予定もあるんだ。

――マウンテン・トレーニングって、山籠りですか!?

ジョシュ　といっても、ミノワサン（美濃輪育久）みたいに高くは登らないけどね（笑）。

――高山病にかかる心配はないと（笑）。

ジョシュ　近くの山にリングやサンドバッグを用意した家があって、そこで練習するんだよ。ボクは初めて参加するんだけど、楽しみだね。

――練習環境を変えようと思ったのは、どうしてだったんですか？

ジョシュ　シアトルにはいいトレーナーやスパーリング相手がいないから、環境を自分で整えなきゃいけなかったんだ。タカハシ・ヨシキ（髙橋義生）と試合したときなんか、ウェイトくらいしかできなかった。あの試合で勝てたのは本当にラッキーだったよ。タカハシはアブナイセンシュ（笑）。本格的にこっちで練習するようになったのは、ミルコとの2戦目のあとだね。あの試合に負けて「これ以上、同じことを続けててもダメだ」って思ったんだ。「世界最強のファイターになるためには、あらゆる面で変化する必要がある」ってね。

――2度目のミルコ戦が、大きな転機になったと。

ジョシュ　なによりも気持ちが大きく切り替わったね。あの試合の翌日には、AACCでアベアニ（阿部裕幸）やフジメグ（藤井惠）と練習したくらいだよ。

――いてもたってもいられない、って感じだったんですね。実際、アナハイムで練習を始めてから変化は感じてますか？

ジョシュ　もの凄く変わったと思うよ。「もっと強い、速く動ける肉体にならなきゃ」って思ってたんだけど、ルーとの練習でそれが可能になったしね。ハードな練習のおかげで、内面も変わったと思う。「これだけ練習したんだから！」って自信を持てるようになったからね。

――実際、身体つきが変わってきてますよね。アレキサンダー戦でもグッドシェイプに驚いたんですけど、いまはさらによくなってるじゃないですか。腹筋も割れてるし。

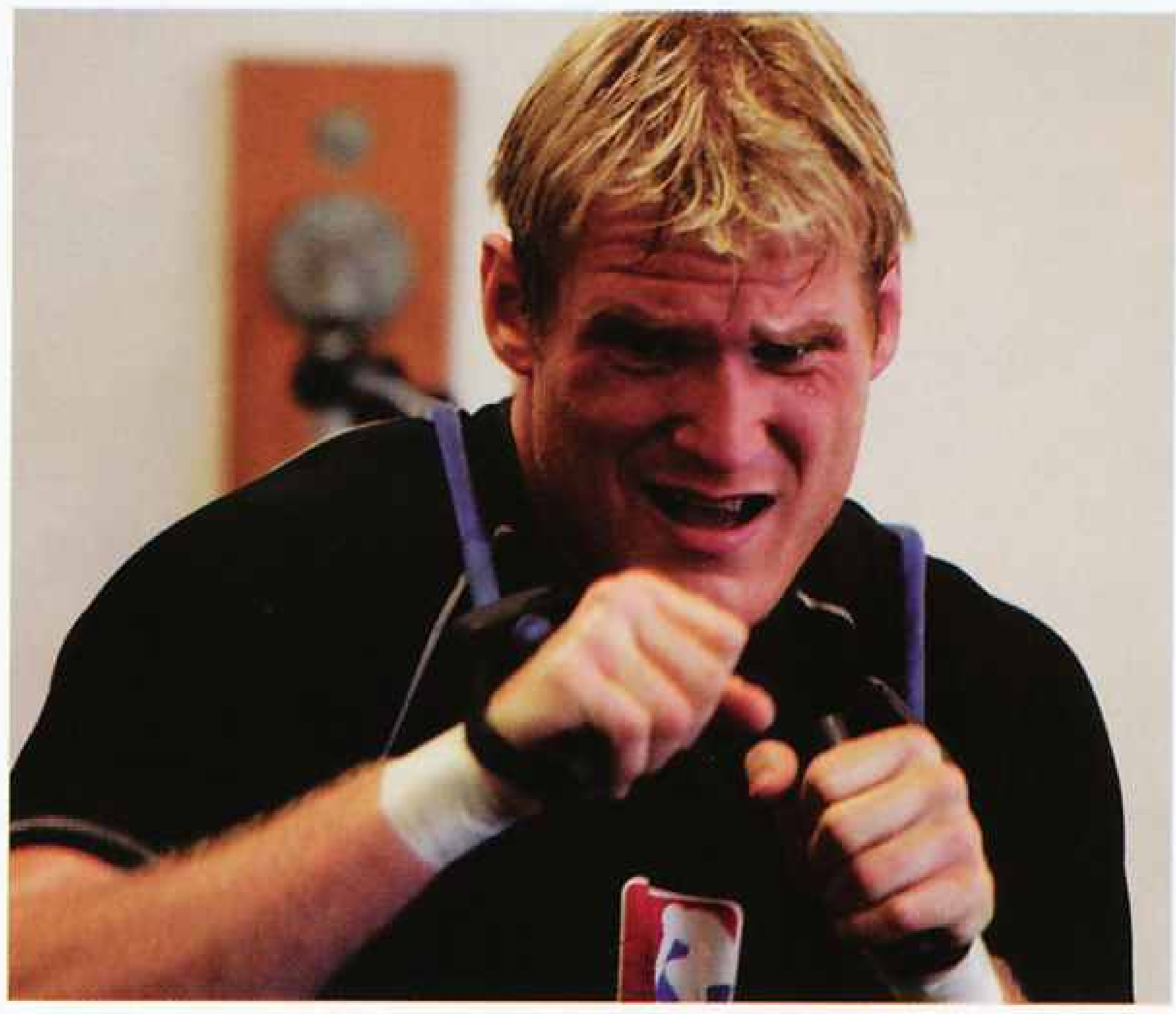
ジョシュ　フジメグとグッドシェイプの競争をしてるんだよ（笑）。まだ負けてるけど、いい感じになってきたよね。いつかフジメグに勝たないと（笑）。

――体重もかなり減ったんですか？

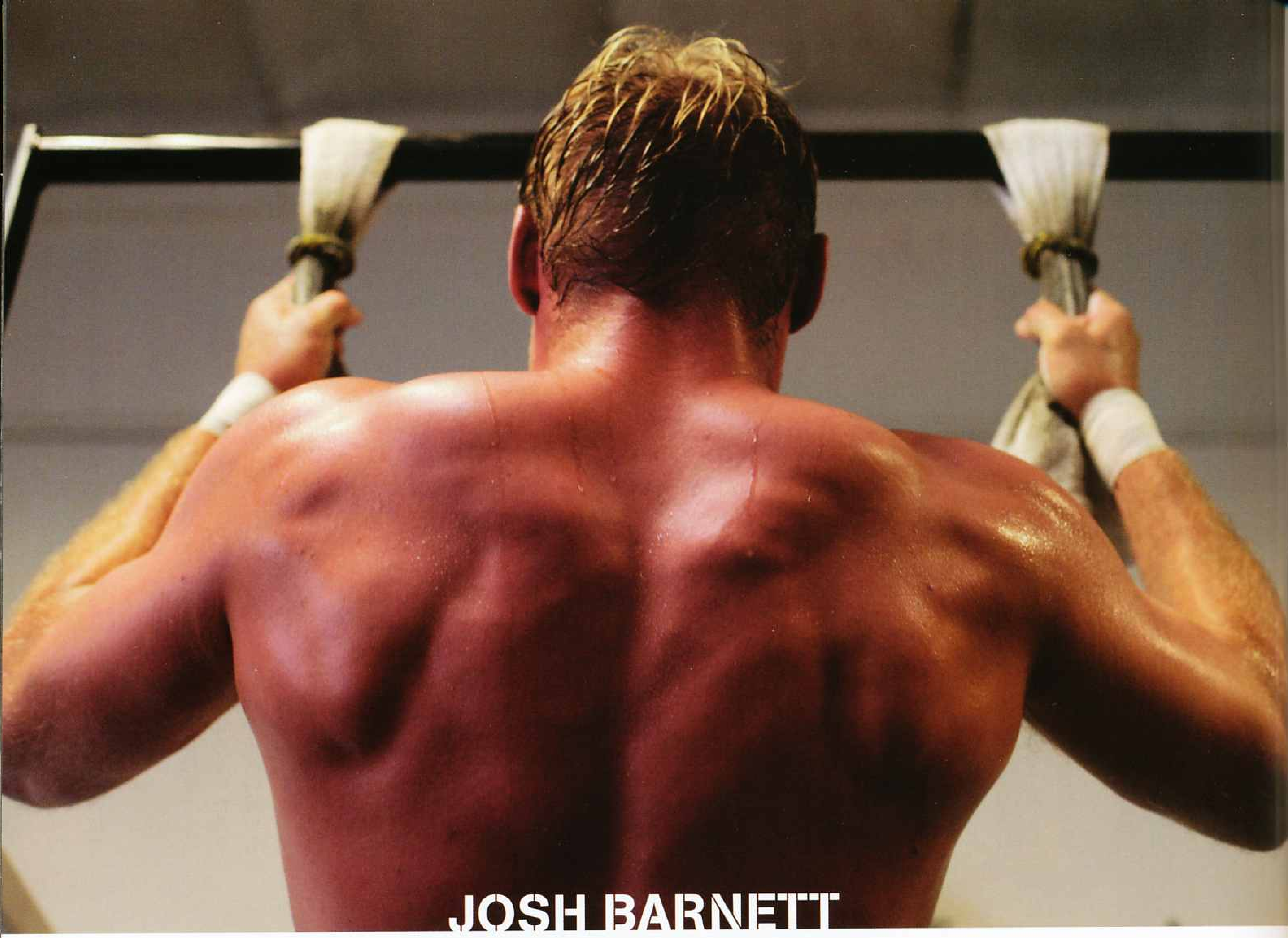
ジョシュ　いや、体重はほんの少し減ったくらいだね。それはどうしてかというと、脂肪が減ったぶんだけ筋肉も増えてるから。

――いまインタビューしているのも、自然食のレストランですよね。名前が『フィットネス・グリル』っていうくらいですから。

ジョシュ　そう。食べ物にもかなり気を使うようになったんだ。普段は自炊してるん



ミルコに負けて「これ以上、同じ練習を続けててもダメだ」って思ったんだ



JOSH BARNETT

だけど、だいぶ食事の内容は変わったね。

——たとえばどんなメニューなんですか？

ジョシュ　タマネギやマッシュルーム、豆とオーガニックのひき肉を炒めたものをよく食べるね。オイルも低カロリーのものだし、塩も使ってない。アベアニやフジメグも、ここに来たときにはボクが食事を作ってるんだよ。

——生活すべてが一変した感じですね。今日の練習は、どういった効果に重点を置いたものだったんですか？

ジョシュ　基本的にはアナロビック（無酸素）トレーニングだね。疲れた状態でもスピードを落とさず、パワーを爆発させるための練習だよ。それにこの練習は、スピードとパワーだけじゃなく内面も強くしてくれるんだ。「自分はどんなにキツい試合でも大丈夫だけど、相手はついてこれないだろう」ってね。

——練習中も「ほかにこんなハードな練習をしてる選手はいないさ」って言ってましたね。

ジョシュ　ほかの選手がやってるのは、たぶんランニングとウェイト、スパーリングくらいだろうね。ここまで高度でハードな練習は、誰もやってないと思う。

——ホントにキツそうな練習でしたよ。見てるだけで吐きそうになりましたから（笑）。

ジョシュ　シアトルのＡＭＣで格闘技を始めたばかりの頃とか、パンクラスでコンドウ（近藤有己）と闘う前に新日本のレスラーたちとやったゴッチ・スタイルの練習も厳しかったけど、いまは間違いなく生涯で一番ハードな練習をしてると思う。「ジゴクノレンシュウ」だよ（笑）。でも、練習で地獄を経験しておけば、試合で天国に行けるんだ。アレキサンダー戦のときも、みんなから「あんな危険な相手、大丈夫か？」って言われたんだけど、ボク自身にはなんの不安もなかった。楽しみで仕方なかったくらいだよ。

——肉体改造の効果は、そのアレキサンダー戦でも出ましたか？

ジョシュ　アレキサンダーに勝てたのは、間違いなくルーとのトレーニングのおかげだよ。１ラウンドは押されてるように見えたかもしれないけど、常に動き続け、ボディにパンチを打つことで相手を疲れさせることができた。

——確かに、アレキサンダー選手は急にスタミナを失なった感じでした。

ジョシュ　それがボクの作戦だったんだよ。１ラウンドは無理にテイクダウンしようとしなかったんだけど、それも相手が疲れるのを待ってたんだ。で、２ラウンドに強いタックルを仕掛けたら、疲れている彼はディフェンスすることができなかった。それで一本を取ることができたんだ。１ラウンド終了後のインターバルにアレキサンダーの顔を見たら、本当に疲れた顔をしててね。それでボクは、イスから立ち上がってシャドーを始めたんだよ。「オレはまだまだやれるぜ！」って。あそこで勝負がついたんじゃないかと思うよ。

——じゃあ、去年のミルコ戦までのジョシュさんと、いまのジョシュさんでは別人というか。

ジョシュ　そう。ボクは１００パーセント生まれ変わったんだよ。ケンシロウが強敵（とも）との闘いに敗れても、その負けを糧に強くなっていたとの同じように。

——なるほど（笑）。次の試合では、対戦相手がマーク・ハント選手に決まりました。

ジョシュ　凄く興奮してるし、幸せな気分だよ。ボクはセーム・シュルトにも勝ってるから、元Ｋ－１王者とのちのＫ－１王者

の二人に勝ったという記録を残せるからね（笑）。それに重要なのは、これがTKサンのリベンジマッチだってことだよ！

——このところハント選手は絶好調ですけど、どんな印象がありますか？

ジョシュ　凄くパワフルな選手だよね。とくに頭が頑丈で、ダメージを与えるのが難しい。自分の身体の大きさを活かした、いいスタイルで闘ってるとも思うな。それにグラウンドから脱出するのもうまい。ただ、ボクは彼とK－1ルールでやっても勝つ自信があるよ。KOできるかどうかはわからないけどね。

——K－1ルールでも勝てる⁉

ジョシュ　ボクはたくさんのK－1ファイターと練習してきたからね。モーリス・スミス、カーチス・シュースター、マイケル・マクドナルド……あ、それにボブ・サップともね（笑）。日本でもUWFスネークピット・ジャパンでオオエ・マコト（大江慎）さんに打撃を教わってるから。

——元Uインターの、ですよね（笑）。

ジョシュ　ソウデス（笑）。だから打撃には自信があるし、逆に組み技だけでやったらハントはノーチャンスだよね。

——負ける要素はない、と。

ジョシュ　もちろん、試合は勝たなきゃいけないから、ハント相手に打ち合うことはしないと思うけどね（笑）。「ソウゴウカクトウギ」にはいろんな要素があるから、何が起こってもおかしくない。それに、ハントが簡単な相手じゃないというのも確かだからね。なにしろTKサンがテイクダウンできず、関節も取れなかったんだから。それがいまのハントの強さをよく表わしてると思うよ。ただ、いまのボクが正しい戦略を使って闘えば、勝てない相手じゃないと思う。

——正しい戦略というと……まあ試合前だから言えないでしょうけど（笑）。

ジョシュ　いま言えるのは、プロレス技で勝つってことだね。

——プロレス技で勝ちますか！

ジョシュ　ハントは柔術の技術は習ってるだろうけど、プロレス技は知らないだろ？ そこにボクの強みがある。サイズの違いも大丈夫だよ。ボクは新日本でノートンやナカニシ（中西学）、ヨシエ（吉江豊）と闘ってきたからね。

——開幕戦の試合後に言っていた通り「プロレスラーの強さを証明する」と。ところでジョシュさんはヒョードル選手を『北斗の拳』のカイオウにたとえてましたけど、ハント選手は誰になりますか？

ジョシュ　みんなは「ハート様でしょ」って言うんだけどね（笑）。

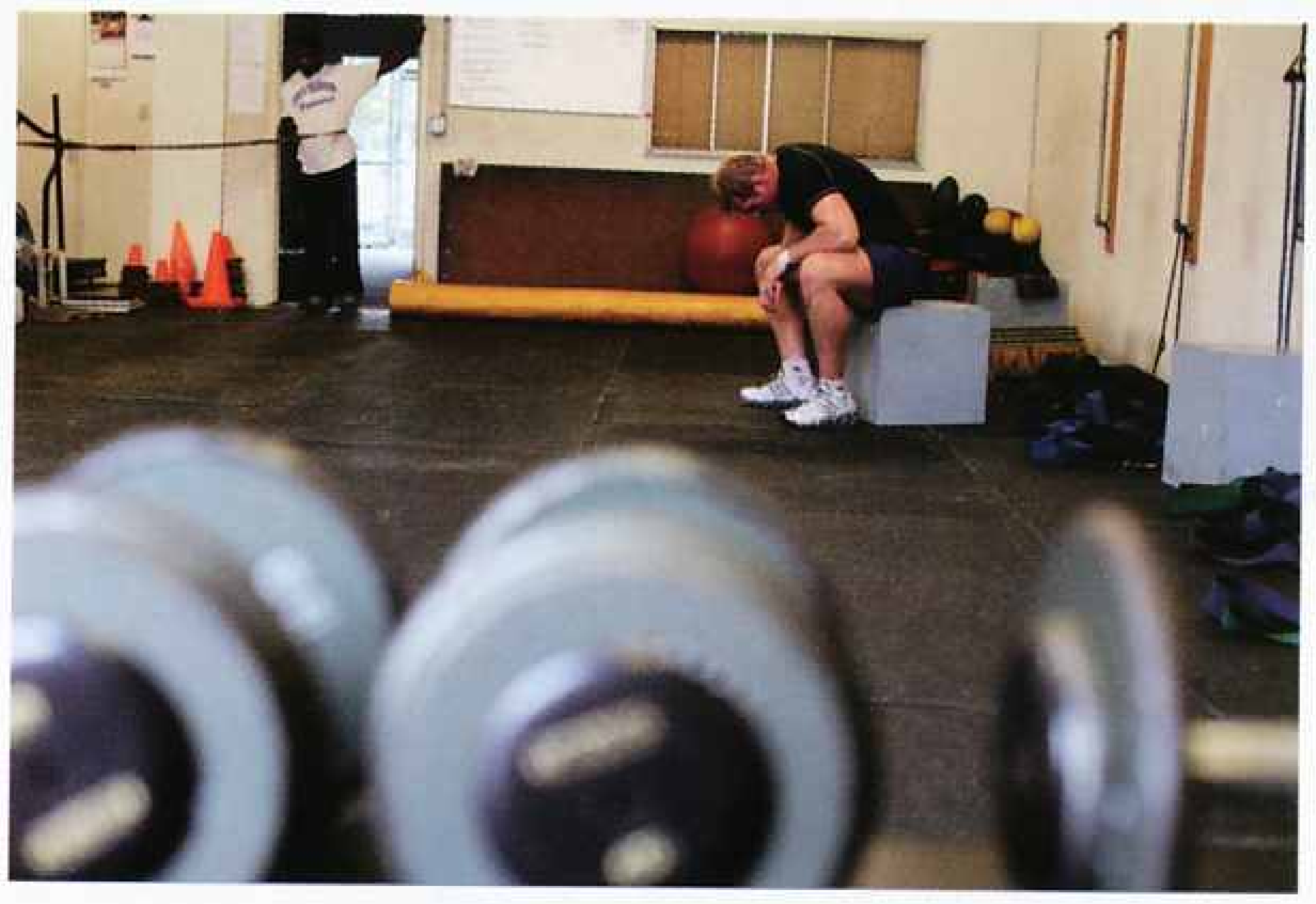
——僕もそう思ってました（笑）。

ジョシュ　でもボクの印象だと、ナント・ゴシャセイ（南斗五車星）のフドウだね。

——〝山のフドウ〟ですね。

ジョシュ　なんか、ハントは敵役って感じがしないんだよね。ボクも彼のことは大好きだし。いつもハッピーで元気で、おもしろい人間だよね。だけど闘うともの凄く強いんだよ。

——ハント戦に勝つと、いよいよ決勝大会。そこで優勝すれば、目標としている最大の敵、カイオウことヒョードル選手の闘いに近づけますね。



ジョシュ　そうだね。だからGPが終わっても気を抜かずにハードな練習を続けないといけないな。GPのあとはラスベガス大会、そして『オトコマツリ』でヒョードルと闘うのがいまの目標だね。

——10月のラスベガス大会も重要ですよね。『PRIDE』のアメリカ人のスターが絶対にアメリカ進出成功には、必要ですから。ジョシュ選手が果たす役割も大きいものになると思いますよ。

ジョシュ　うん。ボクはプロレスラーだからね。ファイターがただ勝つだけじゃダメだってことはよく知ってるつもりだよ。エースは団体を背負わなきゃいけないってこともね。エースは試合はもちろん、すべての行動やしゃべる内容にも責任を負わなきゃならないんだ。背負うものは大きいし重いけど、もし『PRIDE』のアメリカ大会でエースとして扱われるんなら、ボクは喜んでその責任を果たしたいと思う。そして『PRIDE』がナンバーワンのイベントだってことをアメリカでも証明したいね。自分ができることは全部やるよ。

——ただ、現状ではアメリカの総合トップイベントはUFCですよね。もしかすると、ライト層にはアンドレイ・アルロフスキーやティム・シルヴィアといったUFCファイターのほうが有名かもしれない。そういうジレンマみたいなものは感じませんか？

ジョシュ　いや、何も問題はないと思うよ。コアなファンは、ボクが日本でどんな活躍をしているか知ってくれているからね。それにライトなファンも、実際に『PRIDE』とUFCを見比べればすぐにわかってくれると思う。『PRIDE』のほうがイベントとしてエキサイティングで選手のレベルも高く、アルロフスキーやシルヴィアは『PRIDE』では勝てないだろうってことがね。

——もう一つお聞きしたいのが、K－1オランダ大会でのボブ・サップ選手の〝失踪事件〟のことなんですが……。

ジョシュ　ワカラナイ。どうして彼がああいうことをしたのか、本当にわからないな。もう長いこと、彼とは一緒に練習してないしね。ビジネスマンとしては優秀じゃないってことなのかな。契約を大事にしないなんて、ありえないことだよ。この件に関しては、本当にわからないとしか言いようがないよ。


——最後に、日本の『PRIDE』ファンにメッセージをもらえますか。いま頃、日本では50人近くの選手が出席する記者会見をやっているはずなんですよ。

ジョシュ　その会見には、できることならボクも出たかったんだよ……（悔しそうに）。ファンのみんなに言いたいのは、とにかく試合を観てくれってことだね。『シュウカンゲンダイ』の記事のことはボクも知ってるけど、それとボクたちの試合とはなんの関係もない。ボクたちファイターにできるのは、いい試合をすることだけだからね。

——それが最高の手段ですよね。

ジョシュ　伝説に残るような試合をやってみせるよ。フジテレビで放送されないんなら、ぜひ会場に観に来てほしい。『PRIDE』が難しい時期だからこそ、ならば、俺はファンのために闘おう‼（ケンシロウ調）。

【06年6月8日／アメリカ・アナハイムにて収録】



あの記者会見には、できることならボクも出たかったんだよ……

JOSH BARNETT

JOSH BARNETT■1977年11月10日、アメリカ・ワシントン出身。第7代UFCヘビー級チャンピオン、現・第10代キング・オブ・パンクラス無差別級王者。日本の文化、プロレスをこよなく愛する“世界最強のオタク”。入場テーマはクリスタル・キングの『愛をとりもどせ!!』。191cm、111kg。

ジョシュ・バーネットの

オタク百烈拳!!



我がオタク生涯に一片の悔い無し!

マンガ、アニメ、音楽のオールタイムベストを選出! 本人に緊急アンケート実施!!

「ユー・アー・ショック!」と遠吠えしたいような、ジョシュ・バーネットの驚愕のオタク趣向、そのすべてがついに赤裸々に! 『北斗の拳』を人生のベースライン? にマンガ、アニメ、音楽のオールタイムベストを直撃緊急アンケート実施! オマエハモウヨンデイル!

コメント/**ジョシュ・バーネット**

構成/真下義之　助手/Move On!上杉　撮影/菊池茂夫

designed by matsu (TwoThree)

COMIC

［マンガ］

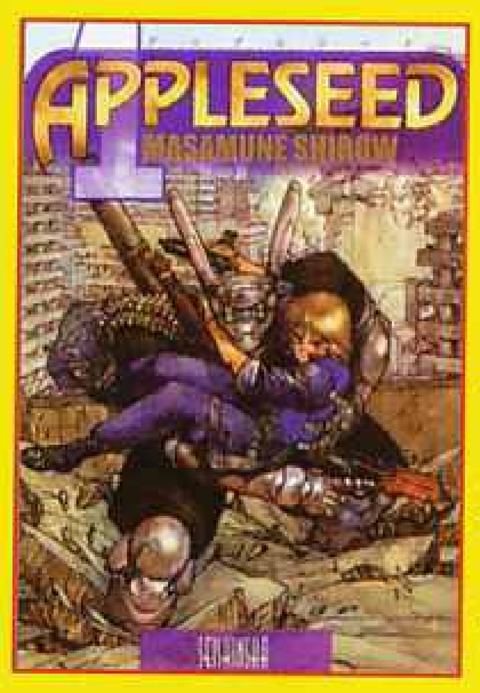
「ふ〜ん。やっぱりケンシロウ好きなのね?」とあなどることなかれ「(恥ずかしながら) 強いオンナの子、大好き!」なジョシュが渾身チョイスした驚異のマンガベスト5が発表〜! アメリカ人が好きな日本カルチャーぽい? と思いきや、"たがみよしひさ"までランクイン! やっぱこの人凄い!!



01 北斗の拳 完全版

▶原作・武論尊、作画・原哲夫(小学館)

アニメや映画と同じく、もちろん原作も大好きさ! しかしこの作品の芸術性には本当に驚かされるよ。最初にマンガに出会ったときは12歳だったけど、いままで見たことのない、クールな男たちの世界にノックアウトされた。でも、じつはボクの『北斗の拳』への旅は、「ケンシロウがゴランのリーダーを倒した」ところでストップしてるんだ。なぜならアメリカの版元の「ライジンコミック」がアメリカ向けに本を出版してないから。日本語版は揃えてあるけどもったいなくて読めないんだ。早く英語バージョンを出してほしいね!



02 アップルシード

▶士郎正宗(青心社)

ボクは"強いオンナの子"が好きなんだけど、『アップルシード』のデュナンはその究極のイメージだよね。士郎正宗は複雑なストーリーとメカデザインに凄く定評があって、この作品は『攻殻機動隊』のようなサイバーな作品より、より現実世界に近いアプローチなんだ。士郎のメカデザインはよく考えられてて、実際にそれが可能なんじゃないか? と思わせる説得力がある。現実的すぎない絶妙のリアリズムがあって、一瞬SFだということを忘れてしまうくらい、素晴らしい。次のチャプターが完成するのを楽しみにしてるんだ。



03 GUNSMITH CATS

▶園田健一(講談社)

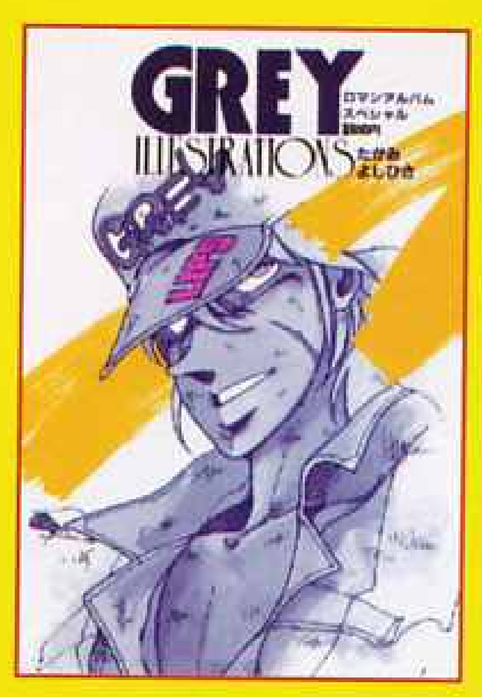
このマンガにはボクの好きなモノが詰まってるね。"魅力的なオンナの子"に"カッコいい車"そして"ガン"。パワフルな女性がこの賞金稼ぎのストーリーを引っ張っているんだけど、とにかくノンストップで続くアクションが本当に最高なんだ。個人的には、このシリーズの実写版を見てみたい。これを読んでいると園田がどのくらい、車やガンの熱狂的なファンかわかるよ。だからボクらは一度、会うべきだと思う(笑)。園田にはぜひ、ボクのガン・コレクションを見せてあげたいし、ボクの愛車「シェルビー・GT500 KR」で一緒にドライブに行きたいよ。



04 銃夢

▶木城ゆきと(集英社)

ハイ。これもまた強い女性の話だね(笑)。……わかってるよ。たぶん、ボクは強い女性に興味や魅力を感じてしまうんだ。ガリィという魅力的な主役が演じるSFなんだけど、本当に奇妙なことばかり起こるんだ。ボクはその部分にはハマらないんだけど、作者が人を巨大な"スイスアーミー・ナイフ"みたいに描く才能は凄い。彼のアートスタイルとコミック全体を覆う情熱が大好き。主人公たちを厳しい現実が襲うんだけど、彼らは決して希望を捨てないし、自分にとって「正しいこと」をやり遂げる。それに、このシリーズのエンディングは本当に美しい。



05 GRAY

▶たがみよしひさ(徳間出版)
※写真はイラスト集

たがみさんは『滅日』という大好きなマンガの作者でもあるけど、この『グレイ』は際だってるね。この作品は荒れ果てた地球での、グレイ・デスという兵士を主役にしたSFだ。厳しい環境によってグレイが徐々に冷たい殺人マシーンに変わっていく様を描いている。闘うことで、クレジットが得られ、その得たクレジットによって食料と安全なシェルターにありつけるという世界なんだけど、いったいなんのために闘うのか? その答えは誰もわからない。でもグレイはその答えを求めて、旅に出るんだ。

ANIME

[アニメ]

マンガに続いて、フェイヴァリット・アニメも『北斗の拳』の二冠達成！ 『ベルセルク』に『マクロス』とそのほか期待に違わぬオタクセレクトに加え、なぜか「天野喜孝、サイコー！」とジョシュが激讃する『バンパイアハンター・D』もランクイン！ 彼女にも見せたらしいけど、その行動自体オタクです！



01 TVシリーズ 北斗の拳

▶ユニバーサル ミュージック

ボクが書いた『kamipro』増刊号の『北斗の拳』レビューを読んだ人は、なぜこの作品を一番にしたかわかってもらえるだろう。この作品はカッコいいファイトシーンやクールなセリフが詰まってるけど、作品を輝かせてるのは登場人物だ。「ケンシロウはまたユリアと結ばれるか?」「なぜユダはレイを嫌うのか?」登場人物のあいだで紡ぎ出されたドラマがストーリーを複雑で奥深いものにしてる。ケンやレイ、ラオウ、ユリアは皆、魅力的だし、ほかのアニメだって主役を張れると思う。彼らを見るといつもインスピレーションが湧くんだ。



02 剣風伝奇 ベルセルク

▶バップ

『北斗の拳』同様、キャラクターがすべてだね。それぞれが背負っているものがボクを画面に引きずり込ませる。最初、主人公のガッツは無慈悲なファイターだったけど、宿敵・グリフィスと出会ったあとで、何かを求めるよう、がむしゃらに闘うことをやめた。それまで彼にとって、闘うことが自己表現だったけど、ガッツは試練や戦闘をくぐり抜けて、キャスカと恋に落ち、深く愛を育んでいった。それが、このアニメの中で彼に影響を与え続くていくんだ。これは、アニメファンでない人にもオススメする最高の作品だね。



03 カウボーイ・ビバップ

▶バンダイビジュアル

これは美しいアニメだね。まず、菅野よう子さんのサントラが本当に素晴らしいし、愛すべきキャラクターはボクのトップリストに入るよ。賞金稼ぎが賞金首を求めて、宇宙を駆けるストーリーだけで充分クールだけど、そこにユーモアも加わって、この作品を新鮮なものにしてる。26話のシリーズはどれも生と死やメランコリーといったシリアスなテーマが描かれてるけど、どれもメインコンセプトから外れず、バラエティに飛んでる。とにかくキャラクターが活き活きしているし、一話完結型のストーリーだから可能な柔軟なスタイルは必見だよ。



04 バンパイアハンター・D（劇場公開バージョン）

▶エイベックス・マーケティング・コミュニケーションズ

『バンパイアハンター・D』はボクの好きなキャラの中でも突出した存在だし、本当に光り輝いている作品だね。いままでバンパイアを描いた作品はたくさんあったけど、この作品こそがベストだと思うよ。それに加えて最高のアーティストかつアニメーターでもある天野喜孝さんのオリジナルな芸術性が最も的確に表現されているのが、このアニメーションだと思ってる。長いあいだ、吸血鬼の映画というのはゴシックなものという先入観があったけど、『バンパイアハンター・D』のストーリーは、そんなボクの心を打ち砕いたんだ。



05 超時空要塞マクロス 愛・おぼえていますか

▶バンダイビジュアル

このアニメには本当にやられた。ボクは子どもの頃からマクロスの熱狂的なファンだった。USAバージョン（『ロボテック』）では子どもも観られるように、バイオレントシーンはカットされてたけど、興奮して観てたから。複雑なストーリーは子どもにはわかりにくい部分もあったけど、最高にエキサイティングだったね。主人公をめぐる三角関係にも心が揺れ動いたしね。ボクはリン・ミンメイより、ハヤセ・ミサが好きだった（笑）。あと英語に吹き替えされた日本版マクロスの完全版も持ってるけど、その声優の声がたまらないんだよね！

MUSIC

[音楽]

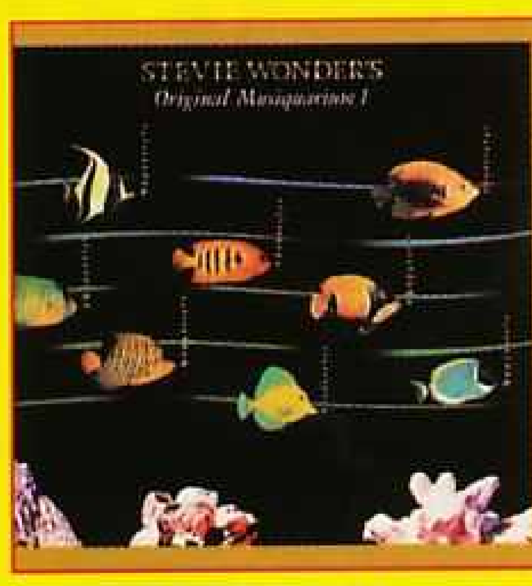
「北欧メタル好き」なヨアキム・ハンセンやカメラマン菊池氏の証言によると「重度のヘビメタマニア」のジョシュ。今回はオールタイムということで人生この一枚！ 的なバラエティ感。マニアックなヘビメタ、中学生スピリッツ溢れるアイアン・メイデン、「初恋の思い出の詰まった」スティービー・ワンダーまで！



01 ワンス ナイトウィッシュ

▶ユニバーサルインターナショナル

ナイトウィッシュはフィンランドのヘビィメタルバンドだね。これは一番最近の作品なんだけど、メンバーすべてがカチっとはまってる。じつは新日本プロレスの音響スタッフがいつもこのバンドをかけてボクも火がついてしまった（笑）。最初は、メタルとオペラ歌手の融合にブッとばされたね。すぐに新宿のタワーレコードでCDを全部買いに行ったよ。音にドライブ感があるけど、大事なのはドラマを感じさせてくれること。頭の中でイメージがスパークする。まるで映像を見てる感覚。自分を見失なうほど、どっぷり音に漬かってしまうから、このアルバムをナンバーワンにした。



02 ミュージックエイリアム スティービー・ワンダー

▶ユニバーサルインターナショナル

ファンキーかつセンチメンタルでシリアスさも同居しているこのアルバム。82年にこの2枚組レコードがリリースされたとき、両親がよくかけていた。スティービー・ワンダーは60年代からヒットを飛ばし続けてて、リスペクトしてる。このアルバムの『Higher Ground』『That Girl』『SirDuke』『FrontLine』はどれも説明不要のヒット曲だよね。とくに『That Girl』はボクが若いときの状況を歌ったみたいな曲。これを聴くと若かりし頃の恋の思い出なんかを思い出すよ（笑）。この曲を作ったときの彼は全盛期だと思うし、きっと、いつまでもボクのフェイバリット・ソングであり続けるだろう。



03 ...For Victory ボルト・スロワー

▶Earache

このボルト・スロワーの『...For Victory』こそが、ボクの持っているアルバムの中で、もっともハードなアルバムなんじゃないかな。彼らはイギリス出身の大ベテラン、デスメタルバンドなんだけど。彼らのアルバムはほとんど持っていると思うよ。ギターが自分の周りを取り囲むように鳴り響いている感じが凄く気に入ってるし、全曲を戦争をモチーフにして作ってるんだよね。ボルト・スロワーのスタイルは、トレーニング中だったり、試合前に自分のテンションを高めてゆくときに本当に最適なんだ。マーク・ハント戦もこのアルバムでバッチリかもね。



04 ソングス・フォー・ザ・デフ クイーンズ・オブ・ストーン・エイジ

▶ユニバーサルインターナショナル

新しいヘヴィロックの旗手であるこのクイーンズ・オブ・ストーン・エイジの『ソングス・フォー・ザ・デフ』は（元ニルバーナ、現フー・ファイターズのドラマー）デイヴ・グロールが叩き出すビートがグルーヴを形成しアルバムを包み込んでる。ボーカルのジョシュ・オムがクールでダークなアティチュードで知性が滲み出るリリックを謳い上げる。一曲ともスキップできない完成度。「Go with the Flow（流れに身を任せろ）」「I want something good to die for, to make it beautiful to live.（人生を美しくするための、死に値するものがほしい）」とかボクの好きなフレーズが満載だ。



05 鋼鉄の処女 アイアン・メイデン

▶ユニバーサルインターナショナル

ほとんどのファンと同じように、ボクも2代目ボーカルのブルース・ディッキンソンが加入したアイアン・メイデンで育ったんだ。でも、このアルバムを最初に聞いたときは憤慨したね。だって、知らないボーカルが歌ってるんだから（笑）。でもだんだん自分の中で溶け込んでいって、このアルバムが大好きになった。ブルースはいまでもメイデンのナンバーワン・フロントマンだけど、初代ボーカルのポール・ディアノがいるときは、彼が歌うのが一番だと思ったね。このアルバムに収録されてる『モルグ街の殺人』というインストゥルメンタルは本当に素晴らしいよ。



伝説の秋葉原オタクツアーを完全証言

ジョシュ ハイパーオタク列伝

2002年、まだ日本にはウブだったジョシュ・バーネットを"オタク天国"秋葉原へナビゲートしたファンたちがいた！ 伝説の「ジョシュと行く秋葉原オタクツアー」の全貌、そしてジョシュの本当のオタク度に迫る！

構成／真下義之

4年前のある夏の日……「ジョシュと行く秋葉原オタクツアー」が日本のファン有志で実行されていた。この不思議な交流をツアーのキーマン、ドラゴンヘッド氏、グリフォン氏、セラチェン春山氏、通訳をつとめたPoet氏が再集結し、ジョシュのオタク趣向を証言！

「きっかけは、USAの格闘技掲示板『アンダーグラウンドフォーラム』（著名な格闘家が実名で書き込むことで有名）です」と語るのはジョシュとの接点をつくったグリフォンさん。彼の「もう日本のフィギュア店は行ったの？」という書き込みにジョシュ本人が「まだ行ってないよ！」と呼応して、日米オタク交流はスタートした。

やがて掲示板上のトークが沸騰し、ついに「ジョシュが『Dynamite!!』にボブ・サップのセコンドで来るなら秋葉原を案内しよう！」と提案。この時点のネット上での交流だけで『ベルセルク』、『パトレイバー』といった言葉がガンガン飛び交い、ジョシュ・オタク幻想は膨らむ一方。

やがてドラゴンヘッドさん、グリフォンさんを中心に通訳を買って出たpoetさん、オタク方面に強い春山さんの援軍も得て、ツアーが実現！

むかえた当日、まず一同は各々のオタク土産をジョシュに贈呈！ 春山さんはケンシロウのフィギュア型時計、グリフォンさんはキングキドラ人形、ドラゴンヘッドさんは「UWFの公式ルールブック」！（この本は某誌で紹介されたジョシュの自宅にも大切に飾られてたとのこと）。

一行は『まんだらけ 新宿店』（※現在は閉店）からスタート。新宿で昼食（中華料理）を食べて、秋葉原デパートからジョシュ待望のフィギュア専門店『海洋堂ホビーロビー』という行程だった。

そしてこのツアーでジョシュの秘められたオタクポテンシャルが明らかとなる。たとえば……。

●伝説1 オタク固有名詞は「ちゃんと日本語英語の発音」で話す。『ルパン』に『デビルマン』、それにキャプチュードなど。

●伝説2 お店の入り口にある「ガチャガチャのこと知ってるかな？」と訳し方を相談してるあいだに「ア、ガチャポン」とあっさりクリア。

●伝説3 "限定モノ"に弱い。

春山さんがデビルマンのフィギュアを「これ、リミテッド・エディションだよ」って教えたところ、迷わず即買いしていた。

●伝説4 "色違いバージョン"に弱い。

参加者がジョシュに「好きなフィギュアを買っていいよ」と提案すると『刃牙』のフィギュアを希望！ だが色違いがあったため、延々と悩みぬいた。

●伝説5 "萌え"系に興味なし。

萌えっぽいものや美少女ものなど、エロ方面にはまったく反応しないジョシュ。「そういえば宮崎アニメの話もしたことないですね」（ドラゴンヘッドさん）。ではジョシュの好きな傾向とは？

●伝説6「闘いの構図」があるものが好き。

「『少年ジャンプ』大好きっ子って感じで（笑）」（ドラゴンヘッド）。「好きなものの方向性が本当に"子ども"。そこは橋本真也の趣向と近いかも」

●伝説7 ガンダム専門店店員と意気投合！

秋葉原デパート内のガンダム専門店で「『08小隊』でシロー・アマダの乗ってた陸戦型ガンダムが欲しいんだけど」と難度高めの質問。「でも店員はピンと来てたから、ジョシュと店員が直接コミュニケーションさせました。あれはプロ同士の会話でしたね」とグリフォンさん。

●伝説8 海洋堂を超リスペクト！

ジョシュのリクエストで来店したフィギュア専門店『海洋堂ホビーロビー』（下段参照）で「聖地に足を踏み入れたキリスト教信者みたいに、感動のあまり立ち尽くしてた」とのこと。

●伝説9 とにかくもういろいろと詳しい。

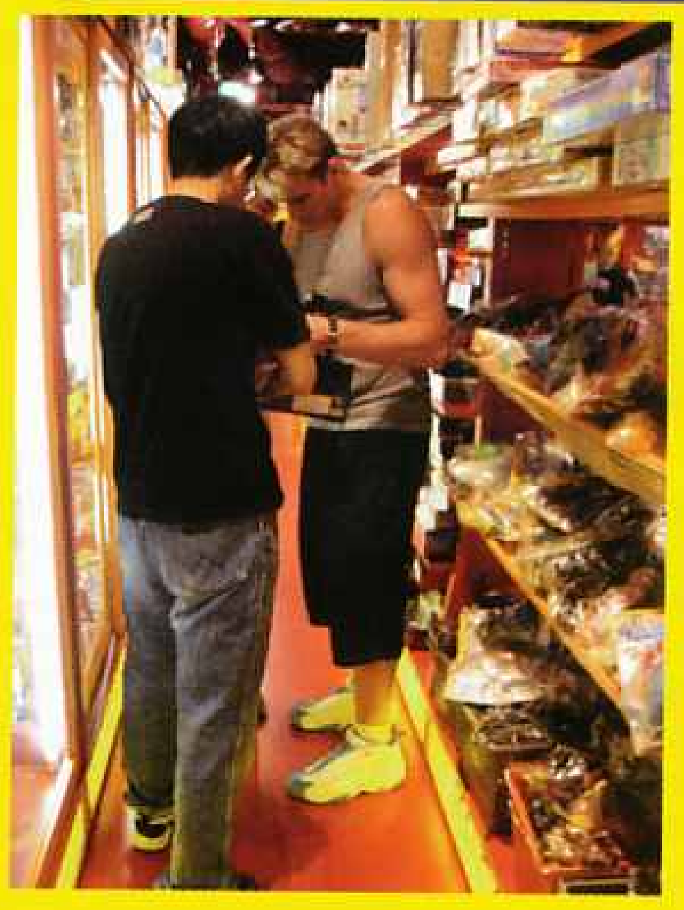
アメリカの格闘家が「『ファイブスター・ストーリーズ』のフィギュアがほしい、って言い出しただけで凄いこと」と言うのは春山氏。ちなみに「『ジョジョの奇妙な冒険』（荒木飛呂彦）は好き？」って聞いたら「『バオー来訪者』のほうが好き」って言われたらしい。……恐るべしジョシュ・バーネット。

最後はホテルの前で記念撮影して解散。一同はオタクなのに友好的で「いいヤツ」だったと口を揃える。「最初、ゲストとして接してたけど、半端な知識量じゃないから、そういう地点を余裕で飛び越えてくる。この人は普通にオタ話していいんだなって（笑）」と春山さん。

やはり、ジョシュのはオタク度は本物の中の本物……いやそれ以上の凄玉だった！

ジョシュオススメの日本オタクショップはここだ!!

※文中はすべてジョシュ談



SHOP 01『まんだらけ』
>>>中野ブロードウェイ

ここは"オタク・ヘブン"だ。6フィートあるジャイアント・ロボや欲しくても買えないようなものでいっぱい。マンガやアートブック、フィギュアまでなんでもある。一日中過ごせるし、実際にそうしてみたよ。『ダグラム』や『ボトムズ』のレアアイテムもあるし、まんだらけの社長に会ったこともあるから、スポンサーになってくれないかな？ ここで買ったのは『ボトムズ』や『マジンガーZ』のフィギュアとか数え切れないね。

SHOP 02『ヨドバシカメラ』
>>>新宿西口店

『ヨドバシカメラ』はコンピュータ、電化製品はもちろんだけど、ゲームも専門店並みの品揃えで、グレイトだよね。必要なものが一度になんでも買えるし、ポイントカードも節約になっていいよね（笑）。2年前にバンダイから発売された『Zガンダム』の"百式"のフィギュアを買ったんだけど、ポイントを使ったら1500円で買えてラッキーだった!（笑）。エアガンや日本版のプレステ2もここで買ったよ。

SHOP 03『海洋堂ホビーロビー東京』
>>>秋葉原店

あまりに偉大な『北斗の拳』フィギュアを作っている会社。もちろんリストに入るのは決まってる! ここでは超クールなフィギュアをたくさん買ったね。将来、ボクのフィギュアを作ってくれないかなぁ？ ヨロシクオネガイシマス! ここでは『北斗の拳』フィギュアやガチャポン。『トライガン』のニコラス・D・ウルフウッドのフィギュアに、『ガングレイヴ』フィギュア。『ワールド・タンク・ミュージアム』のミニチュアも買ったよ。

ジョシュに一番近い人物！　といえば、ジョシュ来日時にピッタリ寄り添い、仲睦まじい姿を見せるあの女性。ジョシュのガールフレンドにして、マネージャーのシャノン・フーパーさんだ。自身も『スマックガール』など日本のリングで試合経験もある総合格闘家であり、公私にわたりジョシュをサポートするシャノンに「彼女だけが知っているジョシュ」を直撃！

構成／真下義之、Move On!上杉　撮影／丸山剛史

#001
ジョシュの彼女
シャノン・フーパー

ワタシだけが知っている素顔のジョシュ



――ジョシュとはそもそも、どういうキッカケで知り合ったんですか？

シャノン　最初に会ったのは『AMCパンクレイション』でトレーニングしてたときね。そのときジョシュは別の彼女がいて、私たちはただの友だち関係だった。でもそのあとジョシュは彼女と別れて、私と付き合うことになったのよ。……きっとジョシュは私のことがずっと好きだったんだと思うわ（笑）。

――お～。ジョシュからアグレッシブに動いたんですね。いま、お付き合いしてどのくらいですか？

シャノン　5年ちょっとかな？　シアトルの小さな家に一緒に住んでいるの。でも、ジョシュも私も身体が大きいし、なによりジョシュのオタクコレクションがいっぱいあって本当に困ってる！　そろそろ大きな家に引っ越さなきゃね。

――フーパーさんはジョシュのオタク趣味についていけるんですか？

シャノン　そんなの全然ムリよ！（キッパリ）。

――あ、やっぱり無理でしたか（笑）。

シャノン　私にはなにがなんだかわからないし、ジョシュのマニアぶりには、誰もついていけないと思う。まぁ、ジョシュも私の趣味のダンスやガーデニングには付き合わないから、二人は大丈夫よ（笑）。

――じゃあ、お二人で一緒にアニメ観たり、ゲームしたりはしないと。

シャノン　たまには付き合うけどね。最近だと『ヴァッシュ・ザ・スタンピード』と『ベルセルク』ってアニメを一緒に観たわ。あとジョシュに強～く薦められて『ヴァンパイア ハンター・D』ってアニメを観たんだけど……これはもの凄く良かった！　たしかにジョシュに会わなきゃ絶対に観ることなかったから、そこは感謝しなくちゃね（笑）。

――『ヴァンパイア ハンター・D』は本人も好きなアニメのベスト5に選んでましたからね。

シャノン　でもこれ以上、オモチャやフィギュアを集めるのはカンベンしてほしい！　それにジョシュは車も大好きなの。もう、コレクションはいいかげん充分じゃない？　彼はそう思ってないんでしょうけど……（ため息まじりに）。

――いや～。オタクな彼氏って大変なんですね。じゃ、あんまり二人で遊びに行ったりしないんですか？

シャノン　ジョシュは基本的にあまり外に行かないの（笑）。だから私は自分の友だちと遊びに行くことが多い。でも日本ではアベアニさん（阿部裕幸）やフジメグさん（藤井恵）とかAACCの人と遊びに行ったりするけど。

――そういうタイプを日本では〝ヒキコモリ〟って言うんですよ。じゃ、二人っきりでデートとかもしないと？

シャノン　もう全然！　ジョシュに『シャノンをどこか、いいところに連れて行ってあげたら』って言ってほしいくらいよ。

――お酒を飲みに行ったりもしないんですか？

シャノン　ジョシュはあんまり飲まないタイプなの。それに彼は身体が大きいから、相当飲まないと酔わないし……でも酔っぱらうとホントにバカになるから、手に負えないわね。

――酔っ払っても、オタク趣味でも手に負えないと。ではジョシュの性格はどんなかんじですか？

シャノン　う～ん。一言でいうと〝頑固者〟かしら（笑）。

――蒼い目の頑固者ですか（笑）。オタクだけに何かにつけてこだわりが強そうですけどね。

シャノン　たとえば、この前ジョシュとスパーリングしてケガしちゃったの。ジョシュにアンクル・ホールドを極められてヒザをケガして……。アクシデントなんだけど、ジョシュは「アンクル・ホールドでヒザは痛めない」って言うの（笑）。ひどいでしょ！　もちろん謝ってたけど、もともと私のヒザが悪かったみたいにぐちぐち言い続けるんだから。

――ああ見えて、意固地なんですね。練習はともかく、ケンカもするんですか？

シャノン　そんなのしょっちゅうよ！　いつもケンカばっかりしてるわ。

――無差別級GPの優勝候補とケンカしてますか（笑）。そのGPなんですが、相手がマーク・ハント選手に決まりましたね。

シャノン　ジョシュはずっと「ハントと闘いたい」って言ってたから、よかったと思うわ。彼は大きい相手が得意だし、インパクトのある勝ち方をするんじゃないかな。

『バンパイヤ ハンター・D』は良かったわ でもジョシュのオモチャ収集にはウンザリよ！

――ところで、試合前のジョシュに気を遣っていることはあります？

シャノン　……とくにないかな。それにだいたい、ジョシュはカリフォルニアに行ってトレーニングしているから。私もジョシュにくっついて、ダイエットやトレーニングを手伝ってるの。じゃないと、ジョシュはすぐにサボっちゃうんだから！（笑）

――油断すると、またお腹が出てきちゃうと。でも、試合前はかなりピリピリしたムードになるんでしょうね。

シャノン　う～ん。私たちはいつもケンカしてるから、たいして変わらないかな。女の子って特定の男性とずーっと一緒にいるとイライラするのよ。男ってホントにつまらないことばっかりするじゃない？

――試合前でもケンカ上等なんですね。でも、ジョシュは「強い女性が好き」らしいんでそこはピッタリくるんでしょうか。

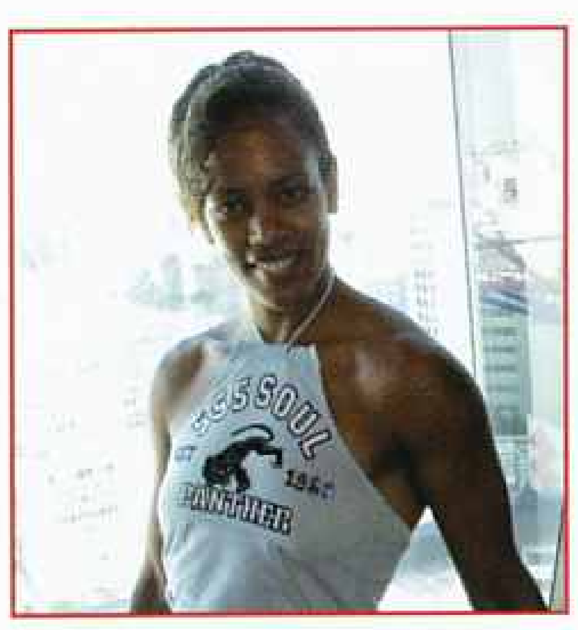
シャノン　それはそうかもしれない（笑）。でも、ジョシュの優しいところとか真面目なところは大好きよ。あと凄く思いやりがあるところも。

――いやぁ、なんだかんだ言ってラブラブですね。では最後に、あなたにとってジョシュとは？

シャノン　とても、誠実でビッグハートを持つ人。ただし、オタクの趣味もかなりビッグだけど……。

――やはり、そこだけが問題なんですね。今日はありがとうございました！

【06年6月9日／電話取材にて収録】



シャノン・フーパー（SHANONN HOOPER）■1971年1月28日、オクラホマ州生まれ。171cm、72キロ。シアトル在住。素晴らしい肉体美を誇る、ジョシュ・バーネットのガールフレンド。02年に総合デビュー。04年12月にスマックガール無差別級トーナメン一回戦で藪下めぐみと対戦、手首固めで敗れた。得意技はジョシュ仕込みのレッグロック。



ワタシだけが知っている素顔のジョシュ

#002
ジョシュを新日本に上げた男
上井文彦（ビッグマウスラウド）

ジョシュが日本を活動の基盤にする話があって一緒にマンションを探したりしてました

——今日はジョシュをプロレスラーとして日本に呼んだ上井さんに「知られざるジョシュの素顔」をお聞かせいただければと思います！

上井 いや〜この間の（エメリヤーエンコ・）アレキサンダーとの試合は素晴らしかったね！

——ジョシュは今回、ボディーもかなり引き締まってましたよね。いままではお腹もちょっとぽっちゃりしてましたけど。

上井 いままでは完璧じゃないもん！ それが完璧な体調にして、しっかり準備をしてくれればジョシュはそこまでやれる男っちゅうことですよ！

——上井さんがジョシュを新日本に上げようと思ったのは何かキッカケがあったんですか？

上井 最初は、髙阪さんがNWFのトーナメントに出たとき、ジョシュから連絡があって「今度、新日本に出るんだって？」ってメールが来たらしいんですよ。髙阪さんからも「ジョシュはランディ・クートゥアーに勝ったヤツで凄い強いんですよ」って言われて、ビデオをもらって見たら「コイツはいける！ これは絶対取らなきゃいけない!!」って思ったんだよね。それで、川名（輝雄・新日本渉外担当）に言って「口説き落としてこい！ いくらでもいいから」って言ってね。

——その頃は太っ腹だったんですね（笑）。上井さん的には、新日本でジョシュをプロレスラーとして使いたかったんですか？ それとも総合のリングでも同時に活躍させるつもりで？

上井 両方だね。ジョシュには新日本で総合の技術を教えてもらって、逆にジョシュにはプロレスを道場で教えてあげたかったんだけど。彼は最終的に東京を基盤にすることができなかったの。

——あ〜一時期、ジョシュは都内で住むところを探してましたよね。

上井 そうそう。僕も一緒にマンション探したんですよ。でも、ジョシュが出す条件がいっぱいあってね。ギャラ以外で食事代出してくれとか、あれもほしい、これもほしいと……。

——そういう条件面は、アメリカ人ってのもあって、シビアみたいですね。本当に実力が認められたいまなら、可能なんでしょうけど。次の試合はノゲイラ戦か、ハント戦という声も挙がってますけど（※その後、ハント戦が正式決定）。

上井 ノゲイラだったら勝つんじゃないかなぁ。ジョシュも寝技は凄いからね！

——髙阪さんも「ノゲイラよりもジョシュの寝技の方が凄い」って言ってたことがありましたね。

上井 だって新日本の道場でジョシュが寝技の練習つけたことがあったけどレベルが違ったもん。新日本の選手はもちろん、クラフターMが100人いてもかなわないと思う（笑）。

——上井さんも一押しのクラフターMでもダメですか？（笑）。

上井 そう思うよ。でも、ジョシュも良かったけど、この間の『PRIDE』の髙阪選手も素晴らしかったね！

——その2人を新日本に上げた上井さんも素晴らしいんじゃないですかね。

上井 そうだよね（笑）。その功績はあったと思ってますよ。その2人を新日本に上げただけでもボクの目が節穴じゃなかったってことがわかるでしょ。これだけは自信持ってますから。

——ビバ・上井さんです！ ……ちょっとジョシュからは脱線しちゃいましたけど（笑）。

上井 まあいまのジョシュだったら、次の試合も相手が誰であれいけると思いますよ。ボクが目を付けたんだから間違いない！

【06年5月26日／渋谷某所にて収録】



うわいふみひこ■1954年山口県生まれ。新日本プロレスでは長い間、営業部の執行委員として活躍し、その後、マッチメイクでもらつ腕を奮った。04年に退社した後は、真のストロングスタイルを標榜して『ビッグマウス』を立ち上げ（前田日明とは別離）。ジョシュ・バーネットを新日本プロレスに上げたことでも知られる。

#003
ジョシュの日本の大親友
阿部兄&フジメグ

ジョシュは食べ物にも細かいですよ オレンジジュースにもダメ出ししますから

——今日は日本でジョシュと大変、親しいファイターである阿部さんと藤井さんに「知られざるジョシュ」について教えていただけますか？

阿部 まあ、ジョシュっていったらやっぱりなんに関しても、凝り性っていう感じですよね。

——「なんに関しても」というと、マンガや音楽だけでなく、たとえば食べ物とかもですか？

阿部 食べ物は細かいですよ〜。オレンジジュースひとつにしても僕らダメ出しされますから。

藤井 買い物も、ジョシュはオーガニックのスーパーでしか買わないんですよ。

阿部 だから僕がオレンジジュースとかを選んでカゴの中に入れてると、ジョシュがカゴの中を見て「アベ、悪いがこのジュースは身体によくないな」っていって、勝手にほかのオレンジジュースと取り替えちゃうんですよね。

藤井 だって、私たちが買い物カゴに入れてったものって、結局最後はジョシュがほとんど入れ替えるんですよ！

——ありがたいのか迷惑なのか（笑）。

藤井 あと、サプリメントの知識も凄いですよ。

阿部 サプリメントショップに行ったら、「アベ、キミにはこれだ。メグミにはこれがいい」って、ひとりで選んじゃうんです。

藤井 「これは、こういうタイミングで飲めよ」とか言いながらね（笑）。

——ジョシュといえば、日本の影響をかなり受けてると思うんですけど、身近にいるお二人から見てそう感じる部分ってありますか？

阿部 ああ、そういえば、ルイ・ヴィトン買ったりしてたよね。

阿部 それも、わざわざ日本でね。

藤井 アメリカのほうが安いのに。ジョシュは形とかファッションにもこだわりがあるみたいで。

——そもそも〝ルイ・ヴィトン〟って発想はどこからきたんでしょうか？（笑）。

阿部 ジョシュが言うには「これがジャパニーズスタイルだ！」って（笑）。ヴィトンのバッグって、若い子がけっこう持ってるじゃないですか。それでジョシュの中では〝ヴィトンがジャパニーズスタイル〟ってことになったのかも。

藤井 「なぜアベとメグミは持ってないんだ！ ジャパニーズなのに……」って言われましたよ。

阿部 あと、日本人のイメージとして「家には液晶のフラットなテレビがあって、DVDとPS2があって……」って電気機器が一式揃ってるイメージらしいんですよね。でも僕ってその頃、DVDプレイヤーをまだ持ってなかったんですよ。そんなときに「アベ、最近こういう新しくDVDが出たけど、キミはもう持っているのか!?」って迫られたことがあったんですよね。

藤井 それで阿部さんは正直に「DVDプレイヤー持ってない」って言ったんですよね？

阿部 そしたら「アベは日本人なのに、全然ダメじゃないか！」って（笑）。なぜかそのDVDプレイヤーを買ってプレゼントしてくれたんですよ！

——あ、買ってくれたんですか!? 凝り性といえども、こだわる方向がだいぶ間違ってますね（笑）。

藤井 本当に〝きめ細かい〟感じですよね。人に対する気配りとかも凄いというか、凄い紳士的ですしね。A型なのかな？ ジョシュって。

阿部 そういえば、ジョシュの血液型って聞いたことないね。凄くA型っぽいけどね（笑）。

※その後、本人に問い合わせたところ、ジョシュはO型であることが判明！

【06年6月7日／大森ゴールドジムにて収録】



阿部裕幸（あべ・ひろゆき）■1970年2月9日、愛知県出身。AACC所属。レスリングをバックボーンとし、修斗を主戦場に闘うベテランファイター。
藤井恵（ふじい・めぐみ）■1974年4月26日、岡山県出身。AACC所属。05年ADCC女子60kg以下級の銅メダリスト。3歳から始めた柔道を基盤に修斗のリングでは現在6戦全勝中。

ドキュメント
DOCUMENT

もう一つのクライシス

ファイティング・オペラ ハッスルは崩壊寸前だった??

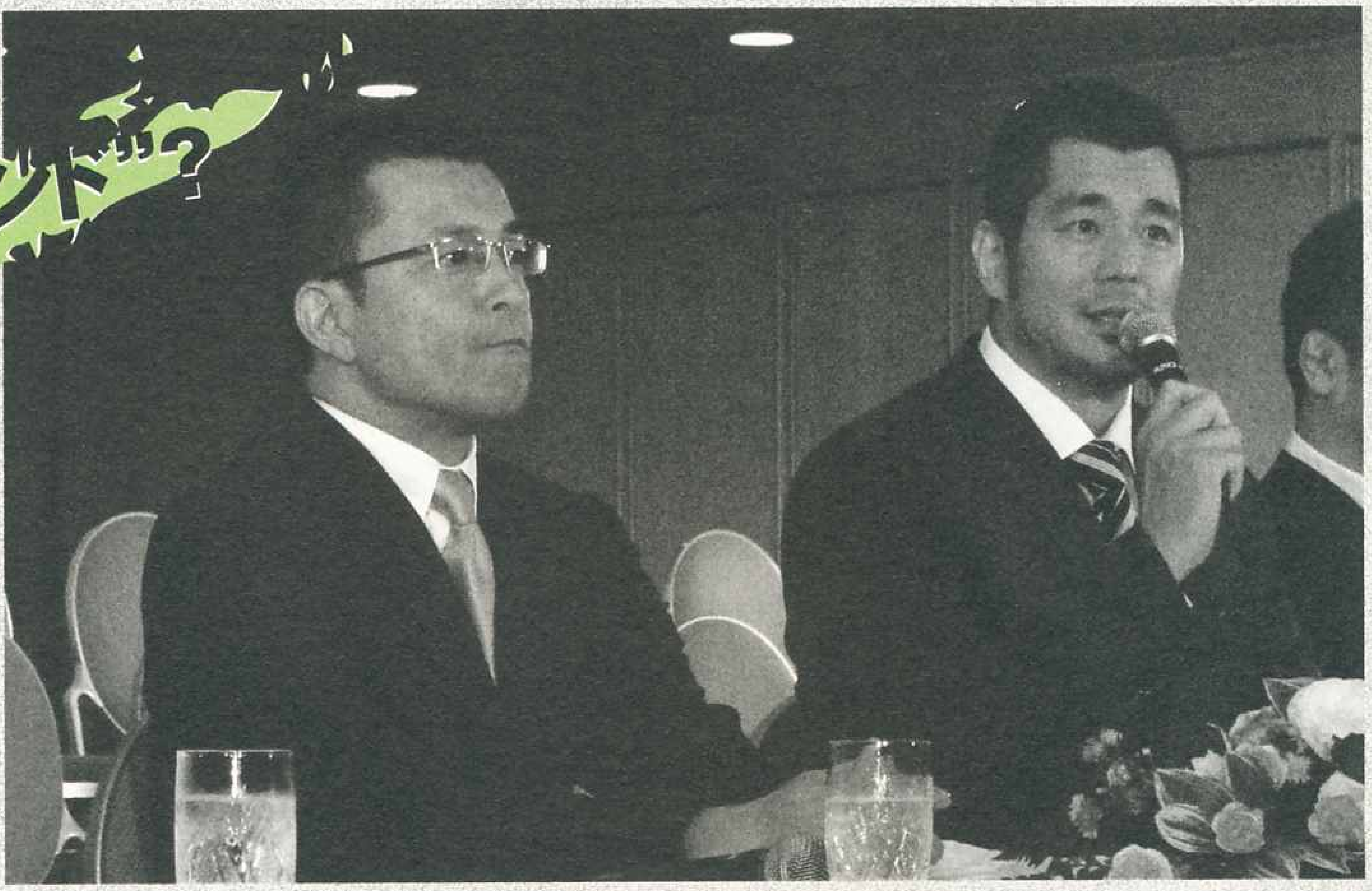
フジテレビのDSEとの契約解除に伴なう騒動は、全国地上波放送を目前に控えていたハッスルにも大打撃を与え、「あわやハッスル・エンド?」と囁かれる危機的状況にまで陥った。いったいそのときハッスルに何が起こっていたのか？　改めて徹底検証する。

構成／真下義之、坂井ノブ　撮影／平工幸雄
designed by nogu (Two three)

ハッスルクライシス

契約解除通告から浜松大会までの 完全ドキュメント

あわや"ハッスル・エンド"？



6月5日の「フジテレビによるDSEとの契約解除」通告は、フジ系列で『ハッスル・エイド2006』の全国地上波放送を予定していたハッスルにも打撃を与え、ここから様々な憶測や噂が噴出。「あわや崩壊か？」と噂される一大危機を迎えた。ハッスルにいったい何が起こっていたのか？　激動の6日間を完全ドキュメント。

●6月5日（月）

この日の夕方5時、フジテレビが「DSEとの『PRIDE』中継の契約を解除した」というリリースが各報道機関に流れ、フジテレビの公式ホームページにも情報がアップされる。

このニュースは共同通信がニュース配信し、YAHOO!もトップニュースとして扱うなど、世間に知れ渡り、当日夜のフジテレビのニュース番組でも伝えられている。

一方のDSEは「現在、状況を確認中でコメントができない」としてコメントを保留した。この件は当然のごとくハッスルにも波及し、とくに6月18日に全国地上波放送として放送予定だった『ハッスル・エイド2006』（さいたまスーパーアリーナ）に関しても放送中止の可能性が囁かれる。またフジ系列の東海テレビ関係者は「中止の可能性もあるが、現段階では判断がつかない。情報を収集して一両日中には決定したい」とコメントした（以上、『スポーツニッポン』6月6日号より）。

●6月6日（火）

フジテレビの『PRIDE』契約解除問題は一夜明けて、ハッスルにも直接的に影響が出た。ハッスルの番組を制作している東海テレビは6月18日に予定していた『ハッスル・エイド2006』の全国地上波放送の中止を正式決定した。

フジテレビ系列の東海テレビとしてはフジが中止を決定したことで、東海テレビでの放送続行が難しいと判断した（以上、『スポーツニッポン』6月7日号より）。

またそんな騒動の最中にも関わらず、『ハッスル・エイド』でハッスル軍の小川直也&カイヤ組と対戦するジャイアント・シルバとジャイアント・バボが都内・浅草の雷門前で会見。シルバは〝チーム・ジャイアンツ〟の新パートナーとなったバボを連れて浅草寺で必勝祈願していた。

この会見のあと、DSEハッスル事業局の加藤（A）GM代行が報道陣の取材に応じて、一部スポーツ紙で、ハッスルの存続が危ぶまれているという報道に関して、「ハッスルは続けますし、『ハッスル・エイド』は絶対やります」と明言。また「もしテレビ放映がなければ、イベントとしてはさらに過激なものもできるようになる」とコメントした。

またDSEは『ハッスル・エイド』に出場する選手・タレントにはこの件で連絡をしており、加藤（A）GM代行は「選手にはきちんと事実関係を説明しました。イベント内容に変更はありません」と述べていた。

●6月7日（水）

DSEはこの翌日の6月8日（木）に、吉田秀彦や藤田和之ら『PRIDE』の日本選手約50人が集結する公開記者会見を東京プリンスホテルで開催することを発表。一般ファンも自由参加できる異例の会見となった。DSE・榊原代表が今回の件に関する見解をコメントするとリリースされた。





6月9日、前日の『PRIDE』の公開記者会見を受けた形で行なわれた「ハッスル決起集会」。高田総統と小川直也が異例のつかみ合いを見せるなど、ハッスルの原点回帰をアピール。

またこの日、元『PRIDE』エグゼクティブ・プロデューサーのアントニオ猪木はPRIDE選手の救済に乗り出すという姿勢を表明した。猪木は「選手はリングに上がっていくら、という立場。場がなくならないように、闘える場所を提供してあげるべき」とエールを送った（『デイリースポーツ』6月8日号より）。

・6月8日（木）

この日、『日刊スポーツ』紙上にて「ハッスル軍のエースHGがハッスルを離脱する」可能性があることを示唆した記事が掲載される。「HGの所属する吉本興業がPRIDE、ハッスルから撤退する方向である」とのことから関係者は「HG本人は継続参戦を希望するも、会社側が説得していくことになる」と明かした（以上、日刊スポーツ6月9日号より）。

また、この日はフジテレビの『PRIDE』放送中止を受けて、DSEが東京プリンスホテルで公開記者会見を実施した。会見にはマスコミ250人が出席、定員の100人を超える約600人のファンが会場に駆けつけた（主催者発表）。会見には榊原信行DSE代表が出席し、契約解除に至るまでの経緯を説明した。

・6月9日（金）

フジテレビ系列の東海テレビがハッスルから撤退する方針を固めていることが判明。東海テレビはこの日からローカル放送の情報番組「ハッスル×2」の放送を休止。関係者は「今後は放送だけでなく制作からも手を引くことになる」と語った。

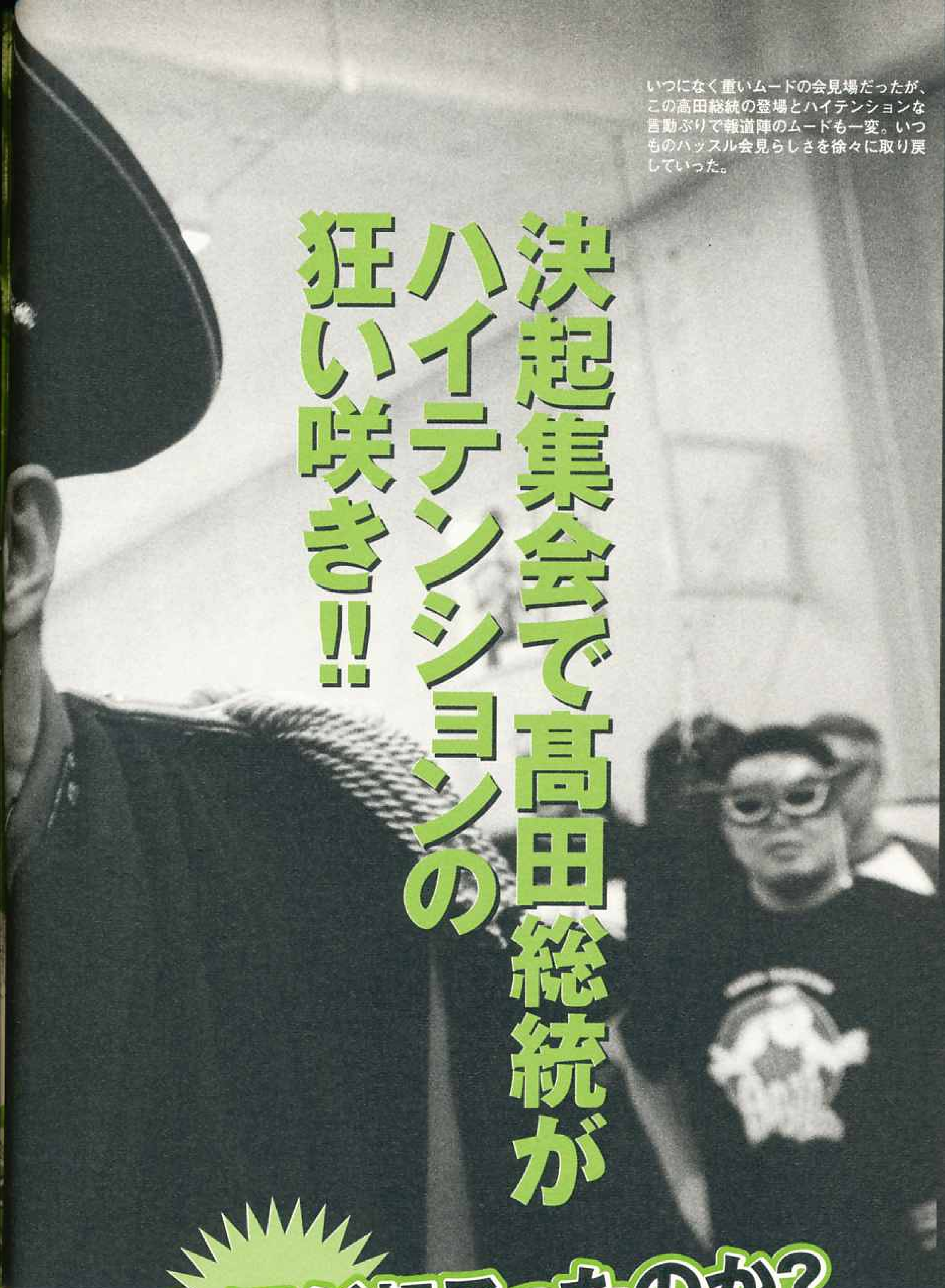
ハッスル軍はこの日、『ハッスル決起集会』を行ない全日本プロレスの三冠王者・小島聡の『ハッスル・エイド』参戦を発表。敵対するモンスター軍の高田総統も乱入し、小川と一触即発！となり、ハッスル存続をアピールした。

・6月10日（土）

予定どおり、『ハッスル・ハウスvol.15』（アクトシティ）が開催。心配された観客動員は、満員となる3953人をマークしてハッスル危機へのショックを打ち消す再スタートを切った。

ハッスル離脱の噂があったHGは大会エンディングに登場し、「オッケ〜。ご心配なく。ハードゲイとハッスルはこれからも走りますのでよろしくお願いします〜」とハッスルでの継続参戦を宣言。6月17日の『ハッスル・エイド2006』では同日に三冠を防衛した全日本プロレス・小島聡と組んでモンスター軍のニューリン様の番犬、ソドム&ゴモラと対戦を改めて表明した。また放送が懸念されたスカイパーフェクTV！のPPV放送も無事放送され、番組中には今後の放送予定として『ハッスル・エイド』も挙がっていた。



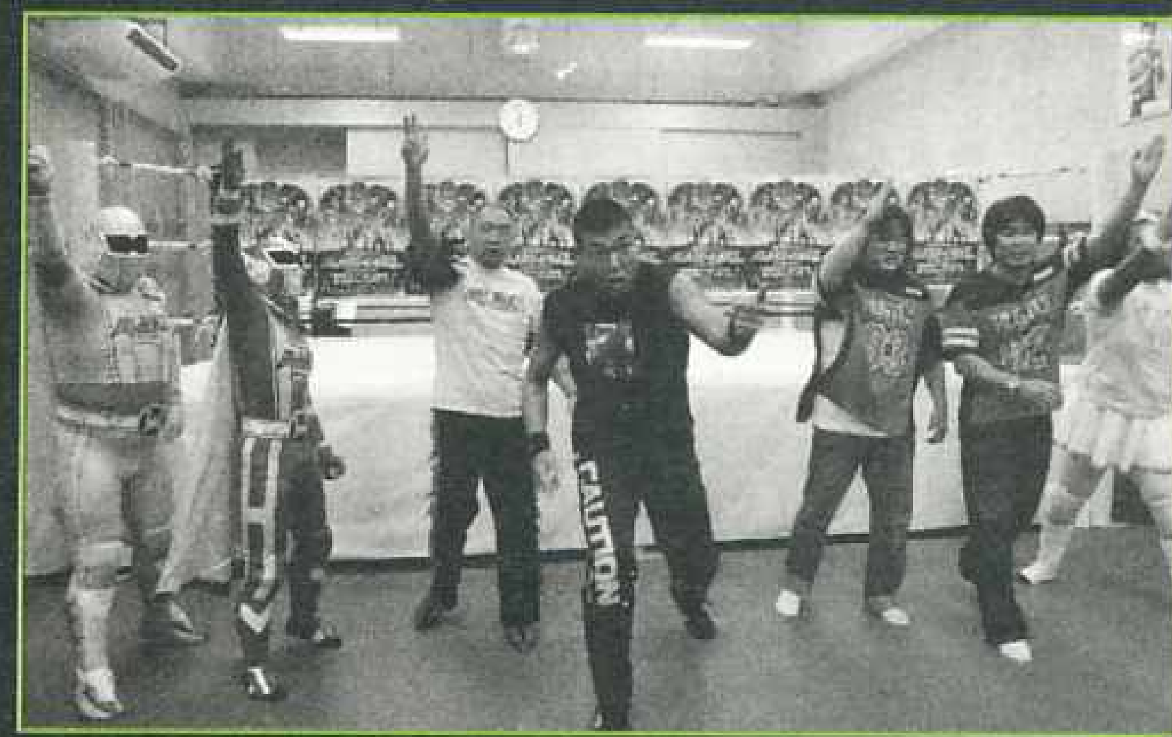


決起集会で髙田総統がハイテンションの狂い咲き!!

いつになく重いムードの会見場だったが、この髙田総統の登場とハイテンションな言動ぶりで報道陣のムードも一変。いつものハッスル会見らしさを徐々に取り戻していった。



押し入れから登場するドラえもんのように登場した坂田亘は、元気のない加藤（A）GM代行に「心配しなくてもな、『ハッスル・エイド2006』は開催されるんだよ。オレ様がいれば、超満員札止めは間違い」と激励。



「おいっす！」と登場したのは“キャプテン・ハッスル”小川直也に“ハッスルあちち”大谷晋二郎ら豪華な面々。小川はHGとカイヤの継続参戦と、全日本プロレスの小島聡の『ハッスル・エイド』参戦を発表。



ここに「ドゥ・ザ・ハッスルしていますか～？」とアン・ジョー司令長官と島田二等兵のコンビが乱入。報道陣に髙田総統の来場を告げ、無理矢理に総統の緊急記者会見を実施した。

決起集会で何が起こったのか?

ハッスルするんだ?―小川直也

かく〈前へ進む〉」姿勢を見せたハッスラーたち

「いま、ハッスルしないで、いつハッスルするんだ？」“キャプテン・ハッスル”小川直也が発してきたこの言葉は、この日ばかりはリアルな実感を伴って会見場に鳴り響いた。

「どうするハッスル？　どうなるハッスル？」

一連のフジテレビショック以降、ハッスルをとりまく環境は、またたく間に激変したように見えた。『ハッスル・エイド２００６』全国地上波放送の中止」、「東海テレビがハッスル放送撤退」、「吉本興業がＨＧのハッスル撤退を示唆？」。

この数日間、様々な情報が猛スピードで錯綜し、ありもしない噂や憶測が、別の噂や憶測を呼んで、津波のようにファンや関係者を飲み込んでいった。

「おい～っす～！　もういっちょ、おい～っす！　……なんだ元気がねえなぁ！」会見場に姿を現した小川直也がため息まじりに、報道陣をぐるっと見回した。意図せずとも重いムードをたずさえた報道陣。一寸先が見えない。元気なんて出るハズもないこの状況下。それでも当事者である小川、そしてハッスルはきわめてマイペースにこの会見を進行させていった。

「いま、ハッスルしないで、いつハッスルするというんだ？」

規模の違いはあれど、この日もぎっしりの報道陣で埋まった会見場。だが、6月8日の『ＰＲＩＤＥ』における公開記者会見が、ファンたちを招き入れた中で榊原社長が会見をする、という異常な状況下で行なわれ、良くも悪くも「祭り」のような混沌と熱気を作り出したのに対し、6月9日の「ハッスル決起集会」は、あくまでハッスルの世界観、ルールに則った形で進行していった。

“圧倒的なリアリティ”を大勢の観客の前でさらけだし、残酷とさえ言える物語を劇的にショウアップしていく『ＰＲＩＤＥ』という場の方法論。

一方、“圧倒的なファンタジー”を標榜し、いつ何時でも批評精神を携えて「すべてを笑い飛ばす」ことを命題とした“ファイティング・オペラ”ハッスル。

この追い詰められた状況で、この両イベントのスタンスの違いは、この会見でもくっきりとしたコントラストで描かれていた。



報道陣の前で対峙した宿敵同士、髙田総統と小川直也。会見で二人が向き合う、ましてや掴み合いになるのは異例中の異例の出来事。すかさず川田が間に入るも、まさに一触即発！

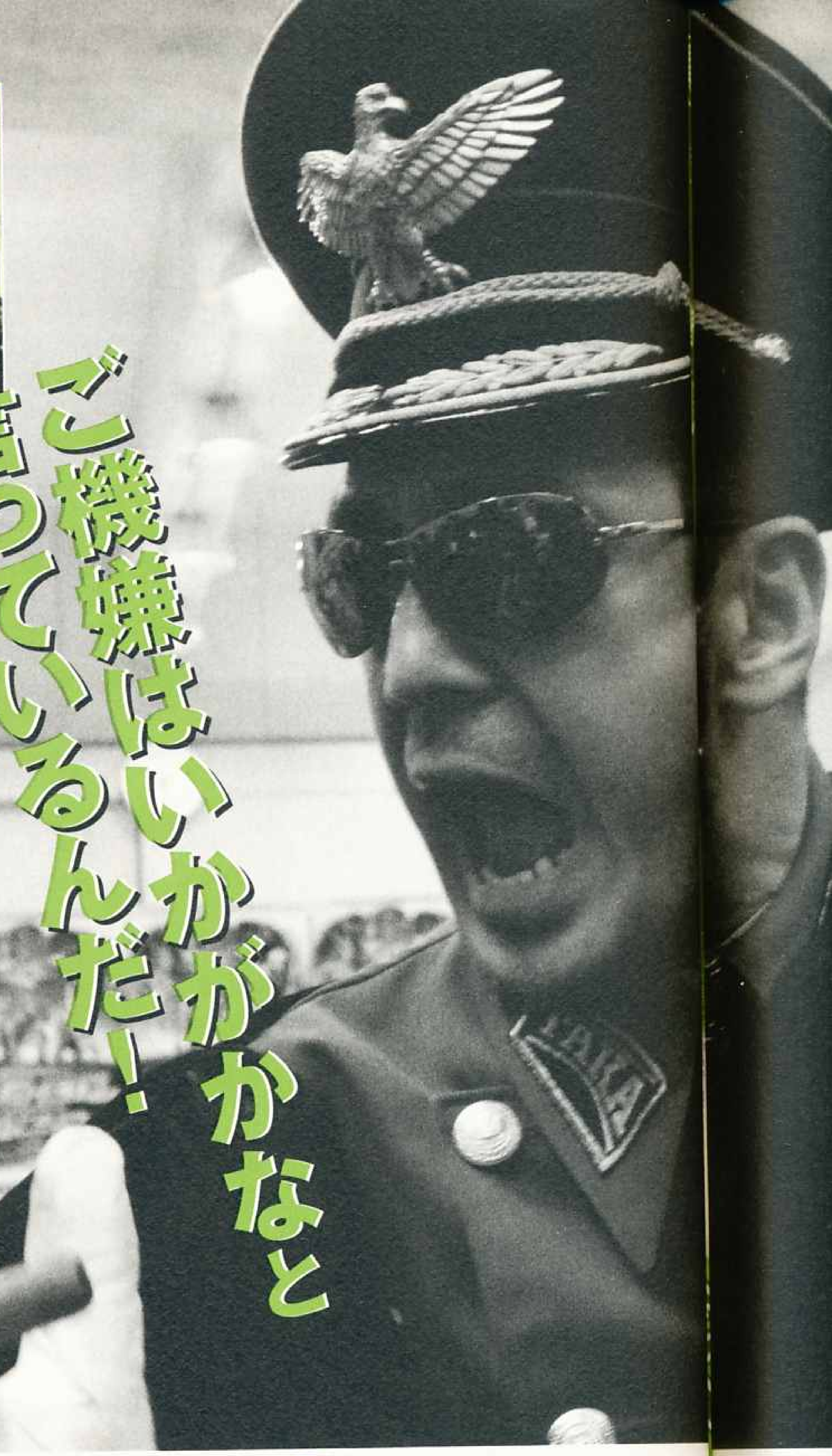




小川を筆頭に「俺たち一致団結してハッスルしていくぞ！　いまハッスルしないでいつハッスルするんだ！」と結束をアピールしたハッスル軍の面々。豪快なハッスルポーズで会見を締めた。



会見終了後、いつものように報道陣に囲まれる加藤（A）GM代行。だが、この日はいつもより報道陣の数が多く、フジテレビ騒動がハッスルに与えた影響の大きさを物語っていた。



ご機嫌はいかがかなと言っているんだ！

フジテレビ騒動から4日!!　6・9 ハッスル

いまハッスルしないで、いつ

渦中の真っ只中で行なわれた決起集会で「とにか

「まるで『ハッスル・エンド』になってしまいそうな雰囲気ですネー。ガッハッハッハ！」誰もが思っていても誰も口にしないジョークで、自嘲気味に高笑いしてみせるアン・ジョー司令長官。

だが、依然として会見場の空気は重苦しい。そんなムードを切り裂くように「いま、ニュージーランドでの最高級ラム肉の買いつけから帰国したばかり」の髙田総統が、報道陣の前にようやくその姿を現わした。

その瞬間、場の空気を読む天才、髙田総統は「自分がやるべき使命」を見極めたに違いない。

葉巻を一服すると、意を決したように「人の不幸が大好きなマスコミの諸君！　ご機嫌はいかがかな？」と報道陣に対して挑発気味に問いかけてみせた髙田総統。

この質問にリアクションがないと見るや今度は突然、カメラマンたちの鼻先に突進して「ご機嫌いかがかな？」「ん？　ご機嫌いかがかな？」と畳みかける。

そして「ご機嫌はいかがかな？　と言っているんだ！」と、ついに咆哮する髙田総統。その過剰な言動に報道陣からも、ようやく声や笑顔が漏れ始める。

「いま、ハッスルしないで、いつハッスルするんだ？」

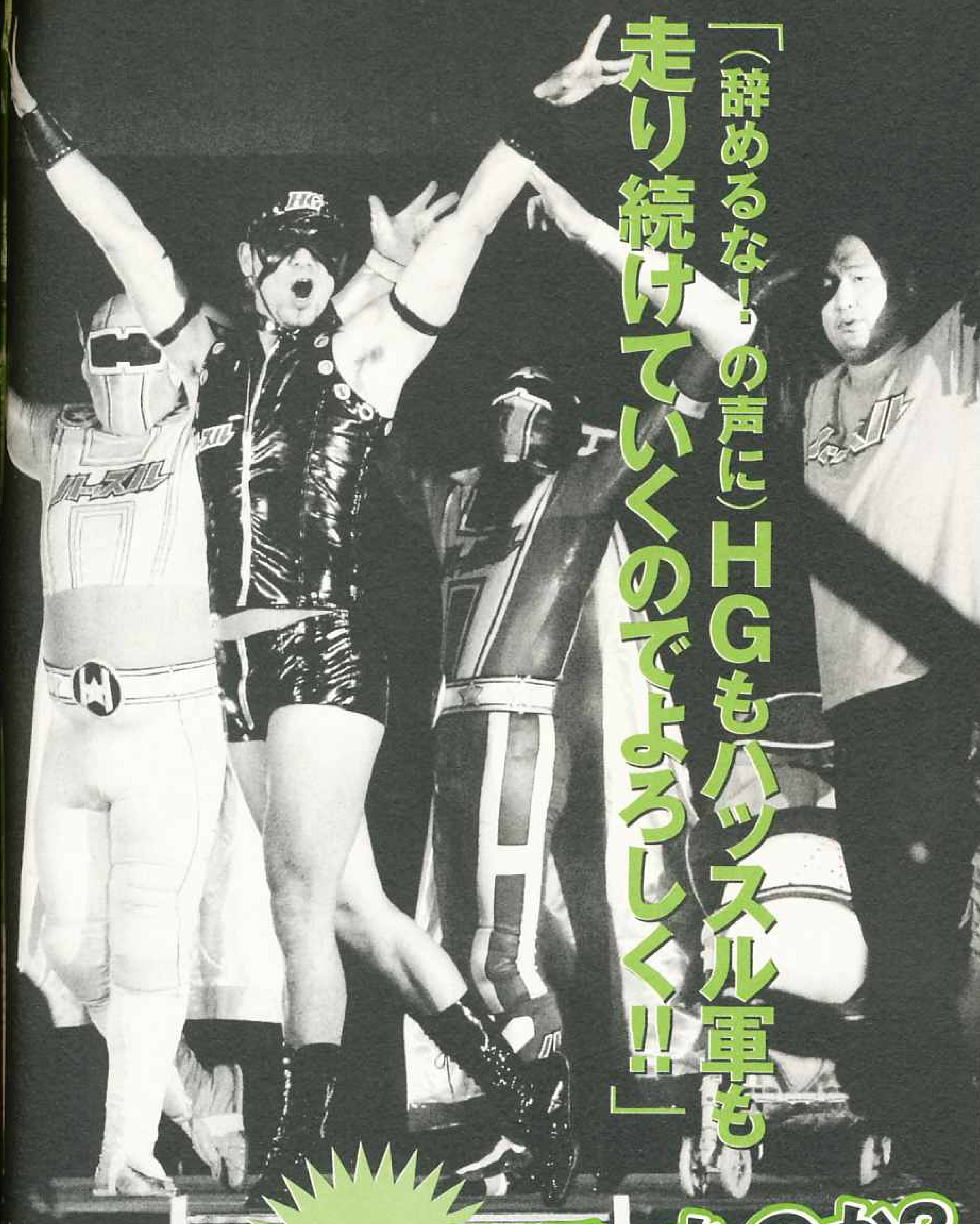
思い起こせば、約一年前、ハッスルは「橋本真也の急死」というやはりヘビーな現実を前にしながら「それでもハッスルするしかない」とファイティング・オペラの立ち位置をまっとうし、結果的に観客の支持を獲得していった。

「ハッスル軍はな、プロレスを守るんだよ！　おい、髙田！　おまえを必ずリングに引きずり込むからな！」小川が髙田総統の胸ぐらをつかみにかかると同時にフラッシュが一斉に焚かれる。

「ハッスルらしさとはなんなのか？　ハッスルするとはなんなのか？」

初期からハッスルを支える髙田総統と小川直也によって、そのコンセプト、立ち位置はこの日再確認され、リセットされ、「ハッスル再興」に向けて、再び二人は歩み始めた。

（真下義之）



「(辞めるな!の声に)HGもハッスル軍も走り続けていくのでよろしく!!」



RGMの寒いギャグがなぜ笑顔を呼んだのか!?

いつもどおり寒いギャグを連発するRGMだったが、この光景が見られなくなる可能性もあった。大ブーイングを浴びながらも、ハッスルに欠かせない存在になっているのだ。

ウス vol.15浜松で 何が起こったのか?

文/坂井ノブ 撮影/平工幸雄

…UST GO ON

…け なければならない」という精神

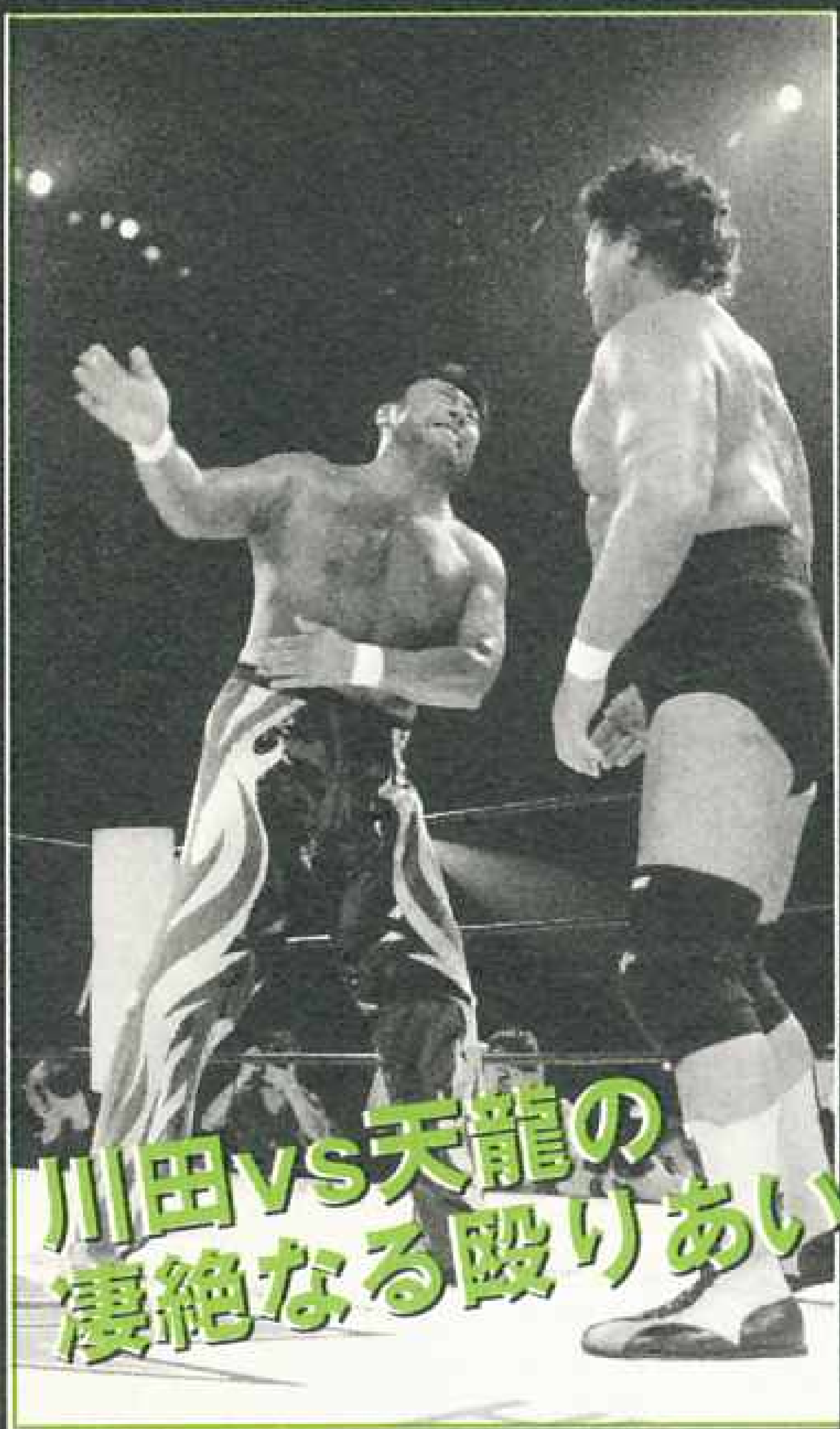
「ハッスル・ハウスvol.15で何が起こったか?」という問いに対する答えを結論から言えば、「何も起こらなかった」ということになる。

大会当日の6月10日を前に、ハッスルはこれ以上ない窮地に立たされていた。6月5日にフジテレビが契約解除を通告。もともとハッスルの番組は東海テレビが制作していたのだが、キー局であるフジテレビの方針に従ったため、予定されていたハッスル初の全国放送が中止になってしまった。それだけではない。一部報道によるとフジテレビ騒動の余波でHGの所属事務所である吉本興業がハッスル撤退を示唆し始めたとのこと。中心人物であるHGが撤退すれば、ストーリーにも大きな穴が開くことになり、路線変更は避けられない。これは地上波全国放送の中止以上にハッスルの根幹を揺さぶる重要な問題だった。結局、最悪の事態は回避され、HGやRGも無事に出場することとなった。また、スカイパーフェクTV!のPPV中継も告知を一切行なわないという異常事態ではあったものの、いつもどおりに放送されることになった。

いつもハッスルの大会前に行なわれているスタッフと選手のミーティングでは、今回の騒動に対するドリームステージのスタンスと、今後もハッスルが継続して開催されていくこと、さらには「これからもプロレスラーが全力でハッスルできるリングを全力で作る」ということが選手に説明されたそうだ。

ちなみに出場が心配されていたHGが、他の仕事の関係で遅れて会場入りするとバックステージには歓声と拍手が沸き起こり、HGよりも遅れてRGMが会場入りした際には「なんで遅れて来たんだよ!」とブーイングが起こったというエピソードも付け加えておきたい。

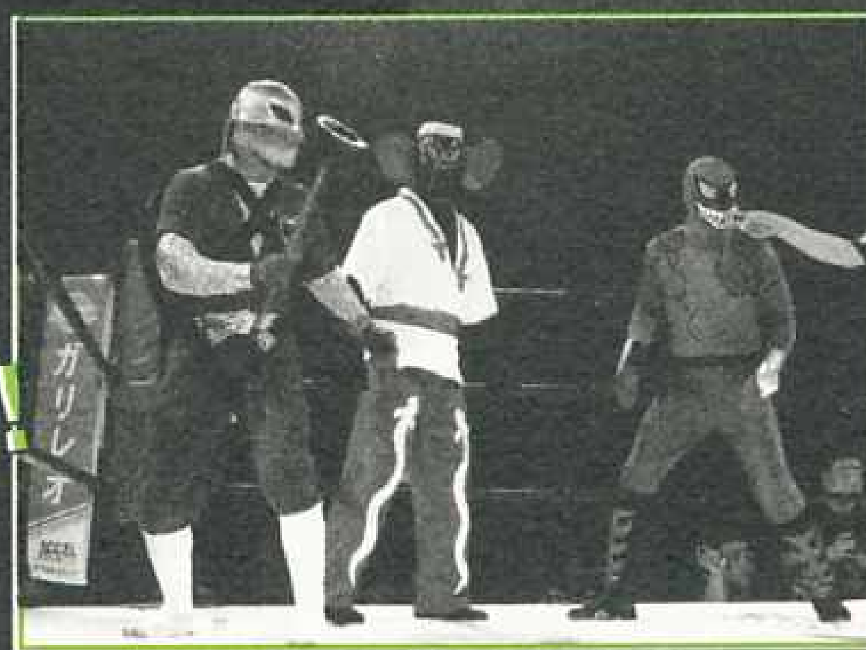
やがて開場時刻となり観客が会場内に入ってくる。そしてイベントのスタート。観客席の真ん中にある花道をRGダンスを踊りながらRGMが突っ込んでくる。そんないつもの光景だが、この瞬間に重苦しい空気の中で大会直前の困難な5日間を過ごしてきたスタッフからは自然と笑顔がこぼれていた。RGMが「浜松に〜、おじゃま〜、おじゃま〜、おジャーマンスープレックス・ホールド!」と寒いギャグを連発しまくるいつもどおりのオープニングで



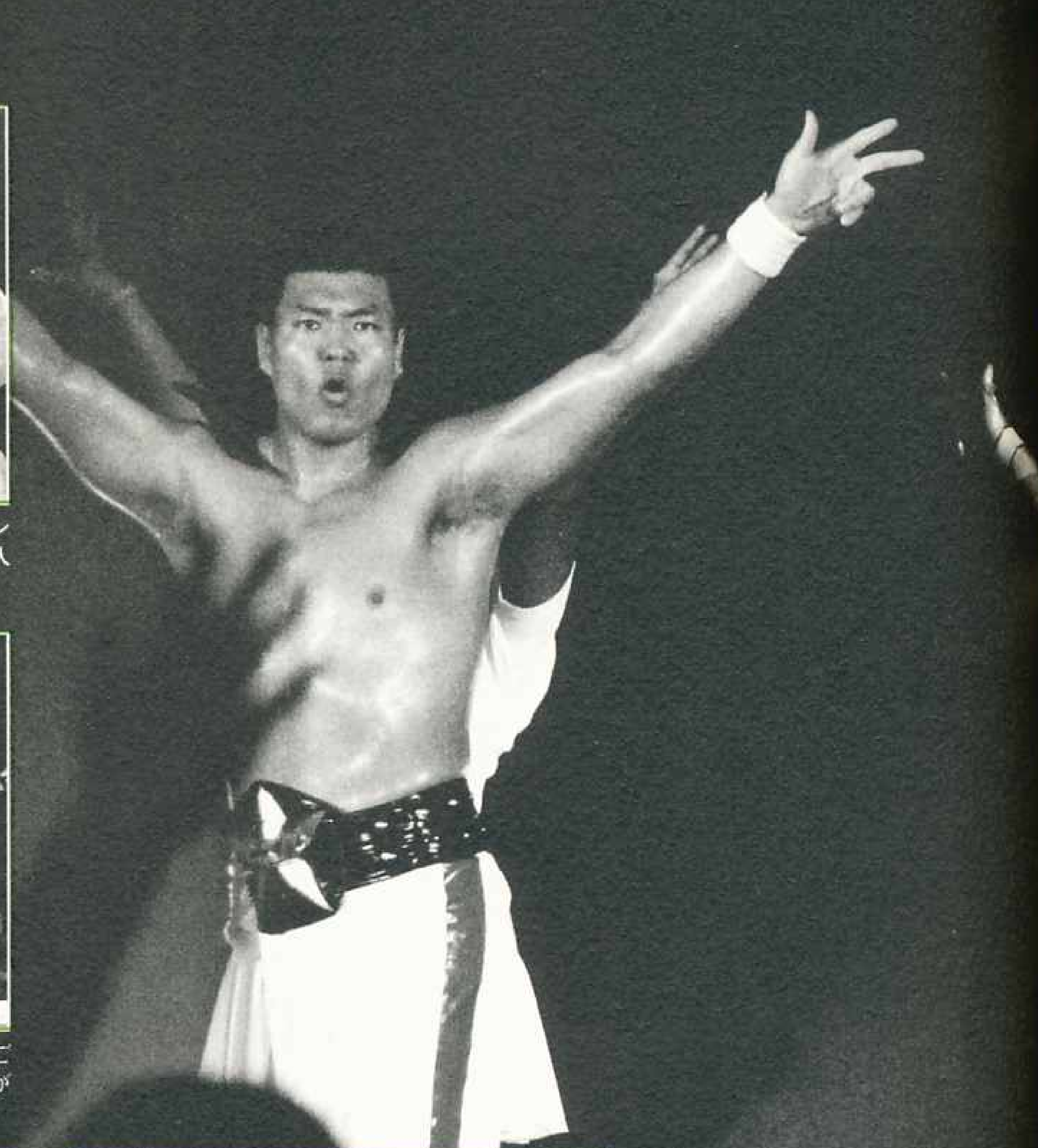
かつての師弟関係である天龍と川田は怒濤の殴り合い！こういう逆境に立ち向かっていくときこそ、プロレスラーは一層燃えるのだ。



坂田軍団の“叔父貴分”として初登場の天龍は、パンチ、チョップ、顔面キックの猛攻に加え、イスや水の入ったペットボトルをブン投げたりと大暴れ！



（左）スッポーン、（中）うな獣、（右）赤蝮三太夫のご当地モンスタートリオ。マムシは浜名湖名産ではないがいま巷で流行りの「サプライズ」ということで参戦！



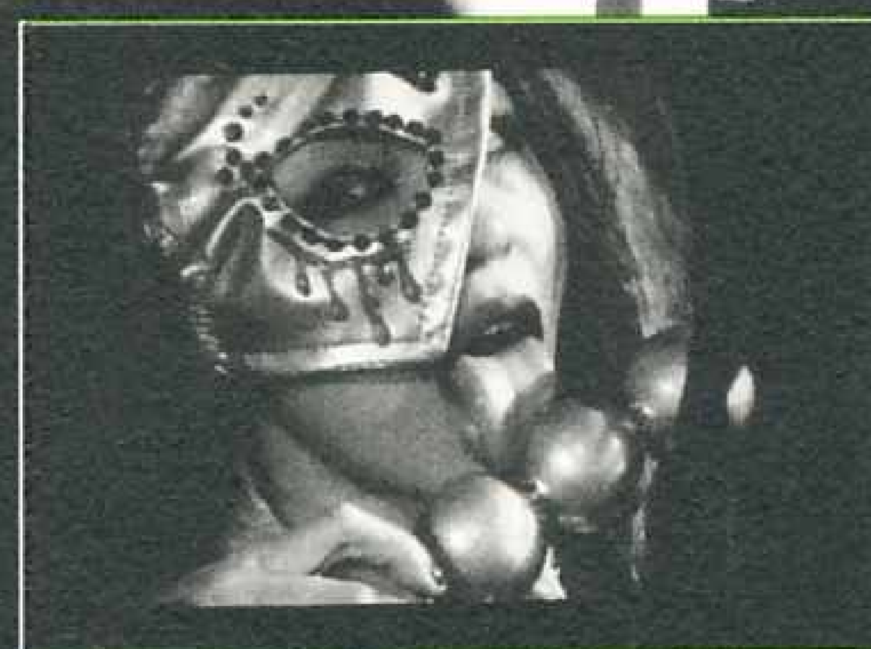
最後はＨＧが「ハッスル、ハッスル！　フォ〜〜〜ッ！」で締めくくって大団円。騒動が暗い影を落とすことなく浜松大会をハッピーに締めた。



心配されたスカパー！でのPPV中継も無事に行なわれ、実況席はいつもの顔ぶれ。ハッスル・ハウスvol.16とハッスル・エイドのPPV中継予定も発表され、ひと安心。



“全知全能”髙田総統は騒動にサラッと触れただけで、むしろその目線は完全にハッスル・エイド2006に向けられていた。



ビジョンでの登場となったニューリン様は冒頭で登場してRGMを罵倒、メインの前にも登場してなまめかしい姿で観客を激しく挑発した。



フジテレビ騒動から5日!!　6・10ハッスルハウス

SHOW MU

「何があろうともハッスルし続け

幕を開けると、観客からはそれに応えるかのように容赦なくブーイングが飛んだ。


ハッスルはこのままなくなってしまうんじゃないか？という思いで会場に足を運んだファンの不安、そしていつもどおりの大会ができるのかわからないまま奔走してきたスタッフや関係者の不安は、ここで一気に解消されていった。

会場の空気を敏感に察知するプロレスラーたちは、いつも以上に気持ちのこもった試合を繰り広げていく。とくにセミはこの日のハイライトと言ってもいい天龍と川田による怒涛のチョップ合戦。これで場内は一気にヒートアップした。全員がハイテンションかつハードヒットでやり合うというハッスルでも非常に珍しい試合内容で、天龍はイスや水入りペットボトルを放り投げてハッスルしまくった。メインではソドム＆ゴモラに小川が圧倒される場面もあったものの、ＨＧが救出に駆けつけて盛り上がりは頂点に！この日の最高潮を迎えたのだった。

メイン後のハッスル劇場の最中に客席から「辞めるな！」という声が飛ぶと、ＨＧは「ハッスル軍はハードゲイとともにこれからも走り続けます！」とリング上で力強く宣言して継続参戦をアピールした。

「巷で噂の騒動で少しは落ち込んでいるかと思ったが、まだ元気だけはあるようだな」と髙田総統がマイクで軽く触った程度で、ストーリーの中に今回の騒動はまったく入ってこなかった。浜松で繰り広げられたのはいつもどおりのハッスルであり、今回の騒動と関連する出来事は冒頭で書いたように何も起こらなかった。しかし、いつもどおりの世界観が失なわれてしまうかもしれないという危機に直面してみて、ハッスルは他のプロレスでは得られない魅力が凝縮された非常に濃厚な世界だということにあらためて気付かされた。

「ショーは何があっても続く」その鉄則に従った大会だったとも言える。そういえば昨年7月に橋本真也さんが亡くなった直後の大会も、いつも以上にいつもどおりのハッスルだった。ＲＧＭがオープニングを担当したおかげではないだろうが、あの騒動からの再起を期した大会としては〝すべり〟出し上々だった。


6・17『ハッスル・エイド』も
徹底検証すると
言っているんだ!!
『kamipro』初の緊急速報号!!
衝撃のフジテレビ放送中止から
まだ見ぬ奇跡の感動シーンまで
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2006 SUMMER
『ハッスル・エイド2006』&
『PRIDE無差別級GP 2nd ROUND』緊急速報号
7月7日(金)全国書店、一部コンビニで発売予定
予価760円(本体723円+税)
enterbrain 株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
[通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

どうする！ どうなる!? PRIDEに超衝撃クライシス！

テレビ放映打ち切り！ 閉ざされた世界に何かが起こる！

武者窓からのぞき込め!!

〝反社会勢力〟編集部座談会

構成／ジャン斉藤

designed by bun-chan (Two Three)





PRIDEクライシス座談会

大阪風太郎（以下風太郎） え～、今回はフジテレビの『PRIDE』放送中止という緊急事態を受けて、カリスマ司会者である私、大阪風太郎が〝『PRIDE』の機関誌〟と呼ばれている『kamipro』編集部の皆さんにいろいろ話を聞かせてもらいます！ 初めまして!!

ガンツ ……っていうかあなたは元『紙プロ』の……。

風太郎 何言うてんねん、ガンツ。初めまして!!

ガンツ あ、別人という〝設定〟ですか？

風太郎 アホか！ 設定ちゃうわ。そんなことより、どうなってるんや、今回の騒動は？ さあ、インサイダーと呼ばれるキミたちにいろいろ尋問するで～!!

ノブ 〝非常勤〟編集長はともかく、僕らはインサイダーじゃないでしょう。よくわかんないですよ、本当に。

ガンツ そうそう。その〝非常勤〟編集長から情報収集しようと思っても、例によって連絡は取れないし（笑）。

ジャン 「わからない、わからない、わからない!!」。韓国出張帰りのボクもこのように猪木戦後の大木金太郎状態ですよ！

風太郎 いまの『kamipro』読者がわからんネタはスルーするけど、放映打ち切りにまつわる噂や憶測は、いろいろ流れてるわけやんか。

ガンツ 流れてますねえ。非常に信憑性のありそうな憶測から、冷静に考えればありえないだろうという噂まで。

ジャン それをマスコミがまことしやかに書いてたりするから、いまメチャクチャおもしろいことになってるんですよ。なんだかどこもかしこも〝洒落の利いていない『東スポ』〟状態で。

ガンツ ターザン山本！さんなんかも、WEB日記で「新日本の選手が今回の件で万歳三唱した」とか書いてるけど、おそらくなんの確証もないでしょう（笑）。

風太郎 で、そこでキミら『kamipro』の反応も求められてるわけだよ、今回の騒動について。

ガンツ 話の持っていきかたがうまい！ さすが風兄さん、カリスマ司会者！

風太郎 いやあ、それほどでも（本気で照れる）。でもさあ、実際、『kamipro』も危ないという話はよう聞くで。せっかく100号を迎えたわけやけど、大丈夫かいな、『kamipro』は？

ジャン 『SRS・DX』も100号到達の時点で休刊騒ぎが表面化したんですよねえ……。

ガンツ 不吉なことを思い出すんじゃない（笑）。

ノブ ま、雑誌なんてだいたい100号くらいで休刊になるってことですよ（とても適当に）。

ガンツ 団体もだいたい10年を節目に激動しますからね。リングスも10周年で終わって、K―1も石井館長が逮捕されたのは10周年のときですから。そして『PRIDE』は来年で10周年です！

風太郎 で、そもそもこの地上波放送打ち切り騒動は6月5日から始まったわけですけども、その日は折りしも『PRIDE』の道場開きだったわけやろ。そんなよき日に取材へ行ってたのは誰なん？

ガンツ ボクと電気部のささきぃですね。たしか開始は14時からでした。

風太郎 その道場開きのときには、こういった事件性の匂いはあったの？

ガンツ まるでなかったですね。「前からそういう噂を聞いていた」というマスコミはチラホラいますが、信憑性はないでしょう。その現場にはフジテレビのプロデューサーも訪れてましたし。

風太郎 じゃあ、『PRIDE』道場開きの時点では、関係者も一切知らんかったということやね。

ガンツ それで榊原代表は事務所に戻って、16～18時までのあいだにフジテレビ関係者と『武士道』のゴールデンタイム放送の件で打ち合わせする予定だったけど、その場に来るはずの人間が来ずにフジテレビの顧問弁護士とコンプライアンス推進室室長が訪れたと。

ジャン たしか一ヵ月前にも同じようなことがあったと思うんですけどね。「あれ？ サクちゃんだけじゃない？」という（笑）。

風太郎 で、榊原さんいわく一方的に放送中止と契約解除を言い渡されたと。

ガンツ で、「こちらから関係各所、ファンに報告するまで待ってください」と言って別れたあとに「やっぱり流します」と連絡があったと。これまたサク騒動のデジャヴで（笑）。

風太郎 待ってもらえなかったんやね、またしても。そこでフジテレビが関係各所に通達して、自局の公式ホームページにその旨をアップしたわけや。『kamipro』はどのタイミングで知ったん？

ジャン ボクが最初で、時間は正確には覚えてないですけど、18時30分から19時にかけてぐらいかな。じつはそのときちょうど石田（光洋）選手のインタビュー取材をするために、DSE事務所に向かってる途中で聞いたんですよ。

風太郎 そんな最中に事務所で選手インタビューをしてたんや（笑）。

ジャン はい。石田選手もよく事態がわかってなかったみたいなので、そういう状況下で「さわやかとは何か？」について延々と聞きました（笑）。

風太郎 キミらの周りだけさわやかではなかったと（笑）。事務所の雰囲気はどうやった？ この件について誰かとしゃべった？

ジャン それが事務所内はやけに平然としてたんですよ。広報の方も取材にちゃんと対応してくれましたし、そのプロ根性に感服して何も聞かず事務所をあとにしました。あ、決して震源地から逃げ出したわけじゃないですよ！

風太郎 ウソつけ！（笑）。それから状況としては、一夜明けてスポーツ新聞や一般紙なんかも取り上げるなかで、『ハッスル・エイド』全国中継の中止も追って発表されて。

ノブ あとフジテレビが関係各所へ「DSEのイベントに出演、出場している選手を番組に出すなと通達した」と一部スポーツ紙が報道しましたね。信憑性は定かではないですけど。

ガンツ 仮にフジが放映を打ち切るだけじゃなくてそこまでやるとしたら、「何かとんでもないことが起こるんじゃないか？」って妄想が膨らむというか、普通に連想ゲームしたってそう思いますよね。

風太郎 普通はなあ。

ガンツ 『週刊現代』が報じている〝反社会勢力〟との接点は、現時点ではあくまで疑惑ですから。でも、今回の急な打ち切りで誰もが「疑惑を飛び越えたのか!?」と思ったはずなんですよね。

風太郎 で、そういうふうにどんどん悪い風評が拡がる中で、8日に東京プリンスホテルで公開記者会見をやるとなったよね。しかもファンを会場に入れるという前代未聞の形式で。で、ここの出席者全員がこの会見に立ち会ったわけやけども、早い時間から会見場に駆けつけたジャンに、

profile

堀江ガンツ
本誌・編集若頭。武藤敬司のメキシコ初遠征取材のため、自腹で太平洋を渡る〝海外出張マニア〟。留守中に必ず日本で大事件が勃発する呪われたジンクスを持つ。

坂井ノブ
本誌・ハッスル担当。寝ながら入稿するという特技（？）を持つ。マット界のあらゆる事件、騒動に無関心ながら、編集部で唯一、ワールドカップに注目。

ジャン斉藤
本誌・永久電機＆アントンフーズ担当。「やる気、元気、猪木！（not井脇ノブ子）」がモットーの編集部員。最近、本格米焼酎「燃える闘魂」をゲット。

大阪風太郎
おおさか・ふうたろう。『kamipro』編集部にフワリと現れた謎のカリスマ司会者。絶妙な口上で今回の座談会を円滑に進行する。愛称は「風兄さん」。

朝からの詳しい状況を教えてもらいましょう。

ジャン 自分は10時45分ちょっと前に現地へ着きました。あの日の時点で関連情報に乏しかったから、何が起こってもおかしくないと思ったんで早めに。で、ホテルの周囲や各階をウロウロして様子を探って。ファンの受付は12時45分までだったんですけど、12時の時点で600名の定員に到達したということで、もう観覧を締め切っていたんです。それ以降も、ファンは次々にホテルへやってきてましたけど。

ガンツ ちなみに『週刊現代』はもともとDSEから取材拒否されてるから、今回も記者が受付で止められてましたけど、その後、ファンに紛れてちゃっかり侵入してたのを見つけたんで、思わずその姿をカメラに収めちゃいましたよ（笑）。

風太郎 まあ、マスコミを含めて、そうとう来ていたもんなあ。だからそんだけ熱のあるファン、"格闘セレブ"たちが日本中からやって来たわけですよ！

ジャン 平日のまっ昼間なのに。いまプロレス団体が夜に興行を打ってもあんなに人は集まんないですよ！

風太郎 しかも会見発表したの前日やで（笑）。

ガンツ だから、何かあの会見場では、10年前のプロレスファンの熱さを感じましたよね。というか、もうファンの匂いが、かつての熱いプロレスファンなんだよ！

風太郎 わかる、わかる。これは会見後の話なんやけど、元『紙プロ』編集者で現エンターブレインの『kamipro』担当者、松林（貴）さんと話してるときに、何メートルか先におったファンの人がダーッと松林さんのところに来て、「毎号読んでるんですよ!!」って声をかけてきたのよ。松林さんはすぐ逃げたけど（笑）。もう松林さんに食いつくっていう時点で、いかに"格闘セレブ"たちが集まってるかがわかる！

ガンツ 完全に"変態"ですね（笑）。

風太郎 完全に"変態"ですよ！目ぇキラキラさせて松林さんに食いつくんやから。この日はねえ、もう日本中から選りすぐりの"格闘セレブ"が集まりました（笑）。



ガンツ なんか大学時代の自分を見ているようでしたね（笑）。

風太郎 全員が大学時代のガンツ！嫌な空間やなあ（笑）。

ガンツ 同志たちよ、ご苦労様！（笑）。だから今回、あたらめて『PRIDE』は力道山、猪木から続くプロレスの歴史の上に成り立ってるんだな、と思いましたね。もうファン気質自体がかつてのプロレスファンそのものなんですよ。なぜか「俺がやらなきゃ！」みたいな勝手な使命感をもって馳せ参じるというね。

風太郎 そうやって勝手にジャンルを背負い込むのが昔のプロレスファンやもんなあ。

ガンツ こういった有事の際には「いざ鎌倉！」という感じで立ち上がる。こういうファンがいるということは、やっぱり『PRIDE』＝現代のプロレスなんですよ。

風太郎 そういう、一種異様な雰囲気の中で公開会見が行なわれたわけですが、ボクは一番うしろで立ち見だったので、榊原さんの姿なんか一瞬たりとも見えませんでした。でも、3人は記者席というか、前のほうで見てたんやと思うんやけども、どんなふうに感じました？

ジャン え〜っとですね、よくワイドショーが記者会見でメディアスクラムを組んで、時の事件や騒動を追求するじゃないですか。

ノブ いまで言うと、盗作疑惑がかけられている画家の和田義彦氏や村上ファンドの村上世彰容疑者の逮捕直前会見みたいに。

ジャン そういう匂いがしつつも、一方では7・1『PRIDE 無差別級GP』の豪華なカードを発表した瞬間にファンが「オォーッ!?」ってどよめく熱狂的な空間がある。

風太郎 俺もファンの反応に一番びっくりしたけどね。

ジャン 今後への期待と危うさが同居しているんですけど、微妙に交わっていない雰囲気に驚きましたね。いまの『PRIDE』をとりまく状況があの会見にすべて現われていました。

風太郎 正直言うと、やっぱりこれだけの騒ぎになってるから、カード発表よりもファンの興味あるのは榊原代表のコメントだと。「カードの組み合わせは二の次やろ」って思ってたんけど、組み合わせ発表のときのきは……「ウォーッ!?」っていう歓声やどよめな（笑）。"格闘セレブ"だね、みん

ジャン ファンの放送打ち切りの危機感は、事態の糾明よりも『PRIDE』存続に針を振ってるところはあったわけですよね。

ガンツ 要は事態の真相っていうのは、野次馬的興味でしょ？ それはそれでハッキリしてもらって、解決してほしいけど、ファンが本当に望んでいることは、『PRIDE』でこれからも魂を鷲づかみにされる試合が観たいってことだから。こういう騒動が起きて、その思いは一層強くなってると思う。

風太郎 ま、記者会見を振り返ってみると、要するに"反社会勢力"とのつながりは全否定ということですよね。もちろん、これは予想通りなんやけど、もう一つ選択肢として、



噂されていたような新体制発表もあり得るのかなと思ってたのよね。

ノブ　K−1の一線から石井館長が退いて、谷川さんを代表にFEGを立ち上げたときみたいな感じですか？

ガンツ　でも、このタイミングで新体制発表は厳しいですよね。たとえば、今回これだけ世間を騒がせた責任を取るかたちで新体制に移行しようとしても、"反社会勢力"との接点を認めたと間違った捉えられ方をされかねないわけですし。

風太郎　もちろんそうだよ。ただ、新体制を発表するメリットとして、新たな放送局であるとか新しいメディアを探せることはあるわけやから。まあ、でも結果的に、現時点でDSEはそれを選ばなかった。あの記者会見の内容からしても、そういったことは考えてなかったようやね。

ノブ　根本的にK−1の騒動と違うのは、あのときは館長の逮捕が先にあったってことですよね。FEGの立ち上げはそのあとでしたから。

ジャン　その際、誰が新社長になるんだっていうことで、気の早い人たちのあいだからは早くもいろんな憶測が飛び交ってるわけですけども（笑）。

風太郎　それはもう前例で言うと、格闘技専門誌の編集長だった谷川さんがFEGの社長にまで登りつめたわけだからねえ。億が一、皆さんのボスである某ハッスル大統領の可能性はある？（笑）。

ジャン　う〜ん。どうでしょう。あの方は違った意味で"反社会的"な人ですからね（笑）。

風太郎　お前な、クビになるぞ！

（笑）。

ジャン　いやいや、凄く褒めてるんですよ！　"反体制"ぶりをアピールする人って、結局そこの力点から生じる人気なり評価がほしい。そうしたポーズがカッコイイと思ってるケースが多々あるわけですけども。ハッスル大統領の場合は根っこから……。

ノブ　根っこから"反社会勢力"だよねえ。じゃなかったら、あんなに人を裏切ったり、失望させたりしないよ。『kamipro』の歴史は、会長の裏切りの歴史そのものだから（淡々と）。

風太郎　全然褒めてへんやんけ！（笑）。というか、この会社やキミら自体が"反社会勢力"やもんな。いろんな団体や選手の品位、信用、イメージをいくつ損ねてきたことか。

ガンツ　会社名からしてダブルクロス（裏切り）ですからね（笑）。

風太郎　そして何回も言いますが、今後のことを真剣に考えないといけないのは、"反社会勢力"にして"『PRIDE』の機関誌"と言われるあなた方ですよ！　やっぱいまの『kamipro』って、DSEが運営する『PRIDE』とハッスルの記事が圧倒的に多いわけじゃないですか。

ガンツ　どうなるかわからないですけど、ますます『PRIDE』の記事が増えることもあるんじゃないですか。だって、テレビ放送がなくなって求心力が高まって、いまこそ活字で出番じゃないですか。正直、雑誌の売り上げは伸びるんじゃないかとも思ってます。

風太郎　でも例えばの話だよ？　どうするの、『PRIDE』がなくなったら？　『kamipro』がなくなったら？

ガンツ　どうしましょうねえ。困ったなあと（いつかの馳浩調）。

ジャン　まあ、堀江さんは前号でメカマミーとかランジェリー武藤の企画プロデュースをしたように、"超どプロレス"の方面でやっていくんじゃないですか。ボクはおそらく麻雀打ちに戻ってる気がすんなあ。

ノブ　俺は南の島に行きたいですねぇ（遠い目）。

風太郎　もっと建設的な意見はないんか（笑）。じゃあ、俺も含めていまからみんなで谷川さんのとこに行って、「本当はK−1が大好きだったんです！」って言うか？

ガンツ　個人的な感情では、髙田本部長ばりに「億が一、PRIDEがこの世から姿を消すようなことになれば、私も姿を消すだろう」っていう気持ちがないわけじゃないですけど、いまはK−1やメカマミーも含めて、おもしろいものを全力で企画にするだけですよね。

風太郎　でもね、今回で地上波放映がなくなったということで、あらためて『PRIDE』の求心力が増していくと思うのね。例えば次の7月1日なんかメチャクチャ客が入るでしょう。

ガンツ　たぶん近年、稀に見る異常な熱気になるでしょうね。なぜかというと危機を感じたファンがギュッと集まるから。その燃える要素っていうのが、もうスキャンダルを含めてメチャクチャあるんですよ。ただ、『PRIDE』がなくなってしまったら、その燃える"変態"たちがついに卒業しちゃうと思うんだよね。それは自分自身も含めてそういう危機感がある。

ジャン　そのままスライドして興味を移行できる場がいまのところないですしね。『HERO'S』は同じ総合格闘技だけど、『PRIDE』とはまた違った魅力を持ち合わせているジャンルですし。

ガンツ　そうそう。いままでは新日本がダメになろうが、UWFが解散しようが興味をつなぐようなものがあったんですよ。そういう経由で『PRIDE』までたどり着いた人たちがたくさんいて、それがいまの専門誌を支えてる層だと思うんだけど、万が一、いま『PRIDE』がなくなったら、そのDNAっていうのは途切れるんじゃないかという気がするんだよね。言っとくけど、DNAといっても川又誠矢氏がかってやろうとしてたイベントのことじゃないからね。

ジャン　わかってますよ、そんなことは！（笑）。

風太郎　たしかに、こないだの桜庭移籍事件でもわかったように、『HERO'S』と『PRIDE』は客層が全然違うからね。『PRIDE』がなくなったら、『HERO'S』に移行せず格闘技観るのやめちゃう人も多いかもしれんなぁ。ただ、これも仮定として言うけど、一部選手が『HERO'S』に移籍するということもあり得るじゃないですか。

ガンツ　もちろんあるでしょうね。

風太郎　でも、ガンツからすると、ヒョードルとノゲイラが『HERO'S』で闘ったとしても、それは『PRIDE』での試合とは違うっていうことだよね？

ガンツ　感覚として違うでしょうね。冷めた目で観てしまうというか。好きな野球選手がFAでライバル球団に移ったら、これまでどおり応援できないのと一緒で。

風太郎　そうやなぁ。

ガンツ　だから舞台が変わっても、ファンや熱をうまくスライドできる可能性としては、前号で僕は「『HERO'S』と『PRIDE』の交流戦はどちらかが弱まるまでない」と言いましたが、『PRIDE』がこうなったので、図らずも交流戦は可能じゃないかと思うんですよ。なぜかというと、『HERO'S』にしても『PRIDE』が弱まったところで選手を引き抜いたらイメージが悪いじゃないですか。『HERO'S』サイドからしても、PRIDEファイターのままのほうが対決の構図が見えておもしろいはずですし。

風太郎　対抗戦的なこともできるしな。それこそ新日本にUWFが乗り込んできたときのようなビッグアングルも可能なわけや。

ガンツ　だから、あえて引き抜かずに対抗戦が実現するのが一番いいんじゃないかなと。『PRIDE』からすれば、複数回契約で現状の高額なファイトマネーで使わなきゃいけない選手を、『HERO'S』に貸し出すことで契約回数を消化できる。『HERO'S』からすると、現役のPRIDEファイターがそのまま乗り込んでくることで、興行的な大爆発が期待できる。

ジャン　K−1がホイスをUFCに貸し出したのと、同じような構図です

PRIDEクライシス座談会



よね。
ガンツ　そうそう。この形で交流戦が実現したら、『PRIDE』のファンも、PRIDEファイターを応援するために『HERO'S』の会場に行くと思うんだよ。そしたら『PRIDE』の熱と『HERO'S』の熱が合体して凄いものができると思う。
風太郎　それはスケール感があるなあ。
ノブ　『HERO'S』の女性ファンの黄色い声援と、『PRIDE』ファンの野太い声が交錯して、とんでもない雰囲気になりそうだねえ。
風太郎　女の子が「スドーくーん、がんばってぇ!?」って叫んだら……。
ジャン　もう"変態"のPRIDEファンが野太い声で「ゴッ、ミ〜ッ〜!!」って叫び返すと。
風太郎　『HERO'S』が『PRIDE』に乗り込んでくるというよりも、『PRIDE』が乗り込んで行くほうが絶対に刺激的やなあ。
ジャン　だから幸せそうに楽しそうに観戦している『HERO'S』ファンに「目に物見せてやる!」という日陰者根性が高まって、野太い声で「ガワジリィ〜ッ!!」「ギョウナ〜ンッ!!」って絶叫すると。ボクも呼びますよ（笑）。
風太郎　ただ、まあこれはあくまで我々の妄想であって（笑）、実際は今日の記者会見を見てもわかるように、今後も『PRIDE』は、これまでどおりの活動を約束しているわけだし、『HERO'S』も桜庭選手を軸とする新しい路線も考えているだろうからね。
ガンツ　プロレスファンらしい妄想的願望ですよね（笑）。
風太郎　ただねえ、一部で大きく誤解されているようだから言っておきたいけど、今回の件で、K−1関係者は誰一人喜んでいないからね。『週刊現代』の報道によって、格闘技自体のイメージダウンが甚だしいし、スポンサー離れだって懸念されるわけだから。
ガンツ　たしかにK−1だって他人事じゃないはずですよ。テレビの依存度は『PRIDE』よりも大きいわけですから。
ノブ　K−1はテレビとともに大きくなったきたわけだしね。
ガンツ　もちろん『PRIDE』だってそれは同じことが言えるんだけど。テレビの力なくしてここまで舞台が成立しなかった。だから今回、「フジテレビふざけんな!」っていう気持ちが湧いてこないのは、上層部の決定はともかく、やっぱり現場の人たちはどこの局よりも情熱を持って番組を制作してきたのがわかるからじゃないですか。
風太郎　そうやろうな。ボクは全然面識ないけど、ディレクターの佐藤（大輔）さんは凄い熱のある人やっていうのは、『kamipro』のインタビュー読んでも伝わっていたよ。きっと他の大勢のスタッフも、もの凄い情熱を持ってたと思う。
ジャン　それにフジテレビ上層部だってあれだけ『週刊現代』が騒げば、「イメージは損なわれた」という判断をしてもなんらおかしくないですよね。
風太郎　それはそうやで。だからDSEだってそれをわかっているから、フジテレビに対して抗議するようなコメントは一切なかったやん。榊原代表はどっちも被害者という言い方をしていたし。
ノブ　だって『週刊現代』の記者は、各スポンサーに「これでもあなたは『PRIDE』のスポンサーをやるんですか?」って聞いて回っていたという話もあるぐらいだから。
風太郎　『週刊現代』はなんなん? その"『PRIDE』憎し"みたいエネルギーは?
ガンツ　憎しじゃなくて、特集記事をやったからには成果を出さなくちゃいけないっていうことでしょうね。べつに誰かが逮捕されてるわけでもないですし。
風太郎　まあ、ネガティブ・キャンペーンやわな。
ジャン　そこでちょっと思ったのは、かつて『週刊現代』が仕掛けた猪木さんのスキャンダルのときと今回の件は何が違うんですかね?
風太郎　まあ、ジャンルそのものと個人の違いっていうのはあるわな。
ノブ　まず登場人物が、あのときは猪木さんでしょ。新間（寿）さん、元・秘書の佐藤久美子さんでしょ。
風太郎　仕掛け人の元『週刊現代』の記者で、現『FRIDAY』デスクのS波さん。役者が揃ってるじゃないですか。そしてコントっぽい（笑）。今回はそうじゃないからなあ。
ジャン　ああ、S波さんといえば、今回の騒動でいろんな噂の問い合わせが殺到する中、「タマアゴの中身は○○だろ? 俺だけに教えてくれ!」という非常に呑気な電話がありました。「本当に知らない」って言ってるのに、何度も何度も（笑）。

武者窓からのぞき込め!! PRIDEクライシス座談会



風太郎　何をやってるんや、あの人は（笑）。

ジャン　しかし、あのときの猪木さんの事件もダーティですよね。

風太郎　でも、結局は猪木さん個人に集約されたもん。

ガンツ　あれは勝新（勝新太郎）がパンツに大麻を入れてたとかいうのと同じレベルで、犯罪としては凄く重い容疑だったけれども、それもギャグになるというか。

ジャン　たとえば、個人と団体だったらどちらがネガティブに見えるんですかね？

風太郎　ネガティブに見えるのはやっぱ団体のほうやね。あと責任のもっていき方とかそういうのもあるし、猪木さんの場合は『週プロ』じゃないけど「されど我らがスーパースター」という光の当て方もあったから。

ガンツ　今回は主要人物として榊原代表が実名で報道されてますけど、榊原代表にすべてが集約されているわけではないですからね。残念なことに『PRIDE』＝〝反社会勢力〟という疑惑になっちゃってるし。そこが難しいですよね。

風太郎　ところでノブ。お前も何かしゃべれ！

ノブ　よく事情がわからないんですよねえ。要は『猪木祭り』の主催者が興行に失敗して、選手や関係各所にお金払えなくてアメリカに逃げたっていう話なんでしょ？

ジャン　まあ、簡単に省略すると（笑）。そういえば、昨日の猪木さんのコメントも非常に呑気というか、「青少年の夢のためにも陰があっちゃいけない。ンムフフフ」という。もともとの火種は『猪木祭り』からなんですけどね（笑）。

風太郎　呑気やなあ。まるで部外者気分やね（笑）。

ジャン　しかし、K－1を含めて、ここまで格闘技というジャンルが世間に大きく打ち出せたのは奇跡的ですよね。

風太郎　奇跡的やで！　『PRIDE』というブランドが、いちスポーツイベントが、9年でここまできたんやで！　そりゃ急成長すぎるやろ。

ガンツ　それこそリボーンしてからの『PRIDE』のゴールドラッシュぶりったら目を見張るものがありますからね。テレビの力で一時的に10万人集まるとかはありえると思うんですよ。数年前に『電波少年』で猿岩石が旅から帰ってくるときに、もの凄い人が集まったり。でも、『PRIDE』はそういう一時的なものじゃなくて、長い時間をかけて熱心なファンを増やしていったのが、このイベントの凄さだと思うんですね。

ジャン　地上波がなくなったことで、その現象がどういうふうに転がっていくか楽しみですよね。8日現時点だとスカパー！のPPVもどうなるかわからないわけですけど。

風太郎　そうやなあ。あのね、もの凄く無責任に言うよ？　もし、PPVまでなくなったとしても、それはそれでチャンスかもしれない。それこそ昔、村松（友視）さんが言うたように「武者窓からのぞき見る世界」を味わいたいね。「いったいその中でどんな凄いことが行なわれてるんやろ」っていう。こんだけいろんなメディアが発達した中で、行かなければ見られへんものっていうものに、自分も立ち会ってみたい。

ガンツ　それこそ『PRIDE・1』に戻るというか。当時、浅草キッドが「チケット代10万にして『見たい奴だけ来い』っていう興行のほうが訴えかける」って言ってたけど、まさに今回はそういう感じですよね。いまこそファンとしての耐久性が問われるというか、ここで燃えなきゃファンじゃない。

風太郎　ガンツ燃えてるなぁ。さすがプロレスファン（笑）。

ガンツ　長いことプロレスファンやってる人ならわかるだろうけど、プロレスなんて世間から虐げられてナンボでしょ？　いまこそ、祭り囃子を鳴らせって感じですよ。

風太郎　ほんでまた選手も、ここでモチベーションを高められへんやつはダメで、ファンにしてもハードルやねんけど、選手にしてもそこを越えたやつがホンマの『PRIDE』の選手やと思うねんな。

ジャン　最近は観る側からすると、テーマが見えづらい選手が多いですけど、一つ大きい共通テーマができましたね。

風太郎　そういう意味で言うと、いまの『PRIDE』には『PRIDE』という場とかテーマを理解せんとリングに上がってる選手が、知らず知らずのうちに多くなっていたんじゃない？

ガンツ　だから今後は生き様が問われちゃうっていう。

ジャン　ファイターって何か背負わざるをえなくなったときが一番、おもしろいですからね。これまで『PRIDE』を背負っていた桜庭が離れたわけですけど、残った選手がなかば強制的にこういう局面を強いられたのは、『PRIDE』にとって超不幸中の幸いだとは思うんですよね。

風太郎　やっぱりガチンコのリングに立っている選手は勝敗がすべてやけど、プロレスラーと一番違うところは、プロレスラーって多かれ少なかれジャンルを背負う。ただ、そのガチンコのリングの中でも稀にジャンルを背負ってやろうという気概の人が現われるやんか。それが『PRIDE』であったら桜庭和志であったり、ボクシングだったら亀田三兄弟だったりするやんか。

ガンツ　だから7・1はファイターにとってもチャンスなんですよ。ここでジャンルを背負う気概を見せてくれたら、大爆発しますよ。逆に言えば、〝ジャンル男〟が生まれるか生まれないかで『PRIDE』の行方も変わってくるでしょうね。

ジャン　それで現時点で『PRIDE』を運営するDSEという会社の存続は見えないですけど、一番問われるのは『PRIDE』という場の『PRIDE』たる価値観の行方になりますよね。たとえ『PRIDE』という場に劇的な変化が起きても、選手の個人レベルでどこまでそれを絶やさないでおくかという。

ガンツ　いま『PRIDE』に関して言えることは、地上波がなくなったことで『PRIDE』が『PRIDE』でなくなるのか、どうかだろうね。髙田本部長が会見で「『PRIDE』は不滅です」って言ったけど、場だけ

じゃなくて『PRIDE』がこれまで培ってきた精神こそが不滅であったほしいんだよね。

風太郎 で、『PRIDE』ともう一方、DSEはハッスルをやってるわけですけど、こちらのハッスル担当はものすご眠たそうやな（笑）。

ノブ いえいえ（と言いつつ、寝ぼけ眼で）。

ガンツ ハッスルのほうも不穏な雲行きだよね。

ノブ ハッスルのいまの状況は、ニューリン様はおそらく大丈夫だろうとは言われてます（この座談会のあとにHGのハッスル・ハウス浜松大会出場も正式決定。ハッスル・エイドやこれ以後も継続参戦する）。

風太郎 で、『ハッスル・エイド』は来週の17日で。締切の都合上、この号には詳細は載っていないと。

ジャン そこで〝ハッスル・エンド〟になってるかもしれないんですよ！

風太郎 おそろしいこと言うなあ（笑）。で、『ハッスル・エンド』はどうなりそうなん？

ノブ もうつられてるじゃないですか！ エイドですよ！（笑）。ホントどうなるかですよ。これで一部報道どおり、HGが出ないことになったらえらいことですよ。ホントに〝エンド〟になってしまう可能性はありますからね。

ガンツ あとタマアゴがちゃんと、ふ化するかどうかという問題もある（笑）。

風太郎 タマアゴの正体には、いろんな〝大物〟が噂されていたからなあ。

ノブ まあ、タマアゴはともかく『週刊現代』が言うような疑惑のせいであらゆる芸能事務所が引くのであれば、いままでとは別の路線を構築していく必要があると思うんですよね。ただハッキリ言ってしまえば、ハッスルは主役というか真の意味でトップが髙田総統というモンスターなので、いくらでも路線変更は可能と思うんですよね。だから、一瞬モチベーションが落ちかかった瞬間もありましたけど、「どうにでもなる！」っていう空気はハッスルの現場にはありますよ。

風太郎 それはあきらめというよりは、前向きなものなんやろ？

ノブ もちろん。たとえば、WWEがWCWにアウトサイダーズやスター選手を引き抜かれて窮地に立たされたとき、ビンス・マクマホンが何をやったかというと、自分がリングに上がって絶対的なヒール化するということなんですよ。ビンスは絶対に引き抜かれないわけですから（笑）。そこに揺るがない軸を置く。で、ハッスルの場合はビンスに相当するのが髙田総統なのかなって思ってるんですけど。

ジャン 相当するのは総統!! な〜んつってな、ダハハハ。

ノブ （無視して）知人の髙田本部長がブログで書いてあるように、「ドキドキする」もの凄い現実が目の前にあるんですけど、「じゃ、ここを乗り切ったらどうなのか」「これをどう切り崩すか」というモチベーションは、みんな持ってるんじゃないですかね。

風太郎 ハッスルというリングは制作者の意図っていうのが明確になるわけじゃないですか。それが『PRIDE』と一番違うところだから、その制作者がハッスルっていうものをとらえ直したときに、今回の一連のことをどう飲み込むのか、ストーリーに組み込むのかとかいうところが気になるよね。

ジャン いまハッスルにトドメを刺されたら、プロレス界としてもけっこう損失になりますよね。

風太郎 これでなあ、新日本とか全日本に客が入るようなことがありゃあ、それはそれで業界的にはありかもしれんけど……。

ガンツ そんなの100パーセントないですからね。

ノブ ハッスルはHGとかインリン様というキャラクターを通じて、久々に世間に対して窓口を開いたプロレスですからね。彼らがいなくなればその窓口が一時的に閉じてしまう可能性が高いです。

風太郎 ただ、DSEという会社が作ってても、『PRIDE』は「『PRIDE』頑張れ！」っていう気持ちがみんな強いやろうけど、「ハッスル頑張れ！」っていうムードにはならへんような気がするよね。

ノブ ハッスルは「何をやってくれるんだろう⁉」って見られちゃいますよね。いまのプロレス界でそういうふうに見られることは貴重だと思うんだけど。

ガンツ 『PRIDE』とハッスルって規模が全然違うけど、『PRIDE』はじつは求心力なんだよね。あんなデカくて外に凄い広まってるように見えるけど。でもハッスルは遠心力なんだよね。ハッスルはやっぱりスキャンダラスであってほしいな。良くも悪くもお騒がせイベントとしてね。

ジャン まあ、この号が出る頃には、ある程度の決着はついてるでしょうけど……どうなってることやら。

風太郎 で、どないすんのや。今後の『kamipro』は？

ノブ どうすんの？ ガンツ先生。

風太郎 ノブ、お前あいかわらず人ごとやな（笑）。

ジャン とりあえず、この騒ぎに乗じて『PRIDE無差別級GP』の緊急速報号を出します！ その頃には状況は見えるから、また特集組んで。このあと松林さんがその件で打ち合わせに来るみたいですし。

風太郎 で、7月は通常号も出すわけやろ。約束を守ったことのない〝反社会的〟な編集部が出せるのかいな。

ガンツ もし緊急速報号が出なかったら、松林さんとエンターブレインの弁護士、コンプライアンス室長が一緒だったということで！

【06年6月8日／編集部にて収録】

突然ですがお知らせです!!

髙田延彦、桜庭移籍問題について語る！

「初激白 髙田延彦
魂のパートナー桜庭和志との決別～
その時、サクに言ったのは、
たった一言だけだった」

6月24日発売の「ゲーテ（GOETHE）」8月号にて、髙田延彦が桜庭移籍問題について初激白!! 「サクは家族です……いや、家族、でした。間違いなく、僕にとって彼は身内でした」という言葉から始まったこのインタビューは、総力特集「ベストパートナーの条件」の中に収められている。

5月2日深夜、スタッフの携帯電話により、翌日、桜庭が『HERO'S』のリングに上がることを告げられた様子、また数日後、桜庭が髙田道場の前で待っていたこと。そこで交わされた短い会話、その真意。そして髙田の桜庭への深い思い……。突然の移籍の原因 はなんなのか、髙田自らその真相を語る!!

■「GOETHE」8月号 6月24日発売 定価700円 幻冬舎刊

フジテレビが完全撤退！　PRIDE最大の危機をブッタ斬る!!



言うちゃ悪いけど今月の直言!!

もたもたしてるヒマはない！榊原社長はDSEのプーチンになれ！



プロレス・マスコミの"生きる伝説"

I編集長の喫茶店トークラウンド

フジテレビが『PRIDE』から完全撤退！　先月の桜庭和志『HERO`S』移籍に続き、今月もまたマット界を根底から揺るがす大事件が勃発してしまった。はたして『PRIDE』は今後どうなってしまうのか。久々に大阪でＩ編集長に直接ブッタ斬ってもらいました！

聞き手／堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two Three)

I編集長とは?

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳を越えたいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。

PRIDEはビッグネームにこだわるな！フィリオなんていう小男だって強いからねぇ

——さて、井上さん。今回は電話インタビューではなく、久々に大阪・新阪急ホテルで、〝リアル喫茶店トーク〟をやらせていただいているわけですが、今月はまた大変なことが起こってしまいました！

井上　『PRIDE』のことか？

——はい。フジテレビの撤退で存亡の危機とまで言われていますけど、今後『PRIDE』はどうしたらいいのでしょうか？

井上　フジテレビが抜けたら確かに放映料が入ってこなくなるからね、周りの記者連中なんかも「DSEは潰れる」なんて言っとるけどな。

——フジからの放映料は一説によると、年間10億円とも言われる莫大な額ですからね。

井上　ただ、プロレスじゃなくて『PRIDE』だからね。ハッキリ言って、『PRIDE』というのは、マット界で一番強い団体ですよ。だから、ある程度規模は縮小して、ギャラも抑えたら、ファンはついてるんだから。慌てる必要はない。俺は外国人選手のギャラがいくらか知らんけれども、みんなの話を聞くとちょっと高い気がするんだよな。

——それこそギャラも「世界最高峰」と言われてますよね（笑）。

井上　それは、これまでフジテレビの資金があったから、払えただろうけど、こうなった以上、払ってられませんよ。だから、ノゲイラやヒョードルが出なかったら興行成績が落ちるとか、そういう考えは持たないほうがいいと思う。あの二人が出たら国立競技場が10万人、出なかったら2万人というわけじゃないんだから！

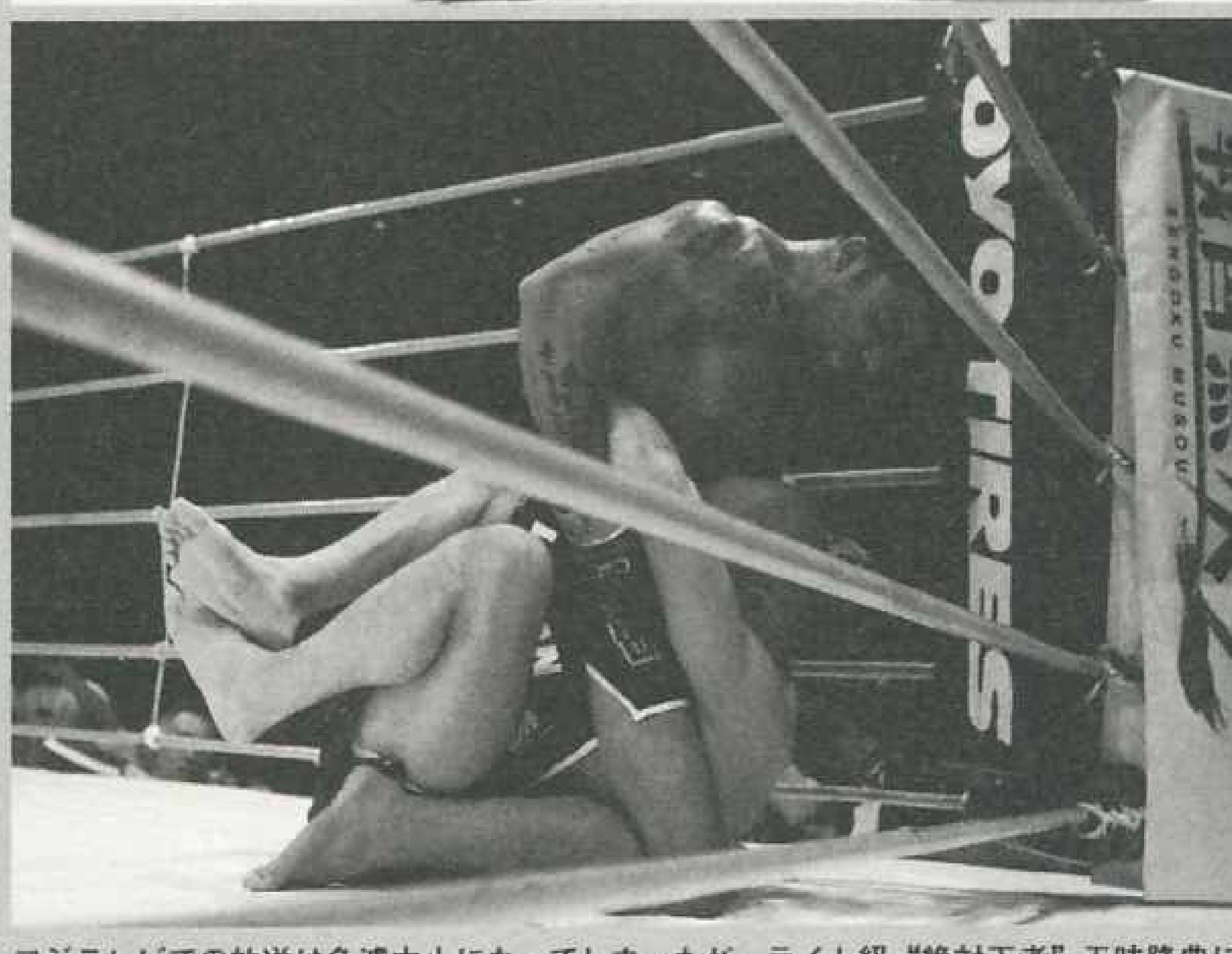
——ファイター自身に集客能力があるわけじゃない、と。

井上　6・4の『武士道』にしても、ノゲイラ、ヒョードルどころか、五味もいなけりゃ美濃輪もいないという状態で、主催者発表で1万3000人という観客を集めてるわけでしょうが。あの日出た選手で名前が売れとるのは瀧本やせいぜいマッハぐらいだろう。「三崎や川尻、石田もいるぞ」とマニアなファンは言うかもしれんけれども、ハッキリ言って一般のファンは知りませんよ！　それでも1万人以上のファンが来とるんだから。これは、言うちゃ悪いけれども「あのメンバーで」1万人入っとるわけだよ。

——比較的無名な選手たちの試合でも1万人以上入る力が『PRIDE』にはあると。

井上　だからノゲイラ、ヒョードル、ミルコが揃わなアカンという考えは捨てるべきですよ。





フジテレビでの放送は急遽中止になってしまったが、ライト級“絶対王者”五味隆典についに土をつけたマーカス・アウレリオから石田光洋が金星を挙げたり、パウロ・フィリオが凄まじい強さを見せつけたりと、見どころの多かった6・4『武士道』。こうした新しい力にチャンスを与えていくことが、今後の『PRIDE』が生き残る道か。

あの3人はなんべんも言うとるとおり、これから下り坂なんだから。だからケガが多くてギャラが高いヒョードルを無理矢理出すんじゃなくて、若くて活きのいい連中をどんどん出して、世代交代を図れ、と！　格闘技はいっぺん勝ったらスターなんだから！

——それが格闘技ですもんね。

井上　「昔の名前で出ています」という連中にこだわる必要はない！　ジャンジャン切っていって、出すのはせいぜい一人か二人ぐらい。あとは若い連中を出せ、と。レッドデビルにしても、ブラジリアン・トップチームにしても、まだ見ぬ凄いのがいくらでもおるんだから。こないだの（パウロ・）フィリオなんていう小男だって、強いからねぇ！

——小男（笑）。

井上　そうやって新陳代謝を図っていったら、『PRIDE』はこれからもますますおもしろくなりますよ。だいたい一試合2000万なんてのが、とんでもない話なんだよ！　ヒョードルやノゲイラあたりが500万で出てくれるかわからんけどね、「500万じゃ出れません」と言うたら、「ああ、そうですか。じゃあ、けっこうです」でいいんだよ！

——ドライですね（笑）。

井上　そんなもん「どうぞK－1に行ってください」でいいんだよ。K－1だってなかなか『PRIDE』ほどのギャラは出せませんよ。それでギャラの安い若手にチャンスを与えて、彼らをスターにしていったらいいんですよ。「オールドネーム、ビッグネームに頼るな！」これが井上義啓からの提言。ハリトーノフを見ろ、と！

——ハリトーノフは本戦ではなく「武士道チャレンジマッチ」からスタートでしたもんね。

井上　そういう原石はいくらでもおるんだから。ブラジルからフィリオみたいな強いのも出てきたし、石田（光洋）あたりだってまさかマーカス（・アウレリオ）に勝つとは思わなかった。でも、あの男だって次からはもう大スターですよ。ただ、ついでに言わしてもらえば、フィリオにしても石田にしてもまだまだヘタ！

——ヘタですか（笑）。

井上　上になる技術だけはあるけれども、そこまでいったら極めろ、と！　まぁ、そういったことも場数を踏めば解消されるでしょうから、フィリオ、石田あたりに、どんどんチャンスを与えていくべきですよ。フィリオをミルコに当ててみてもおもしろいぜ。

——フィリオなら勝ちかねない気もしますね。

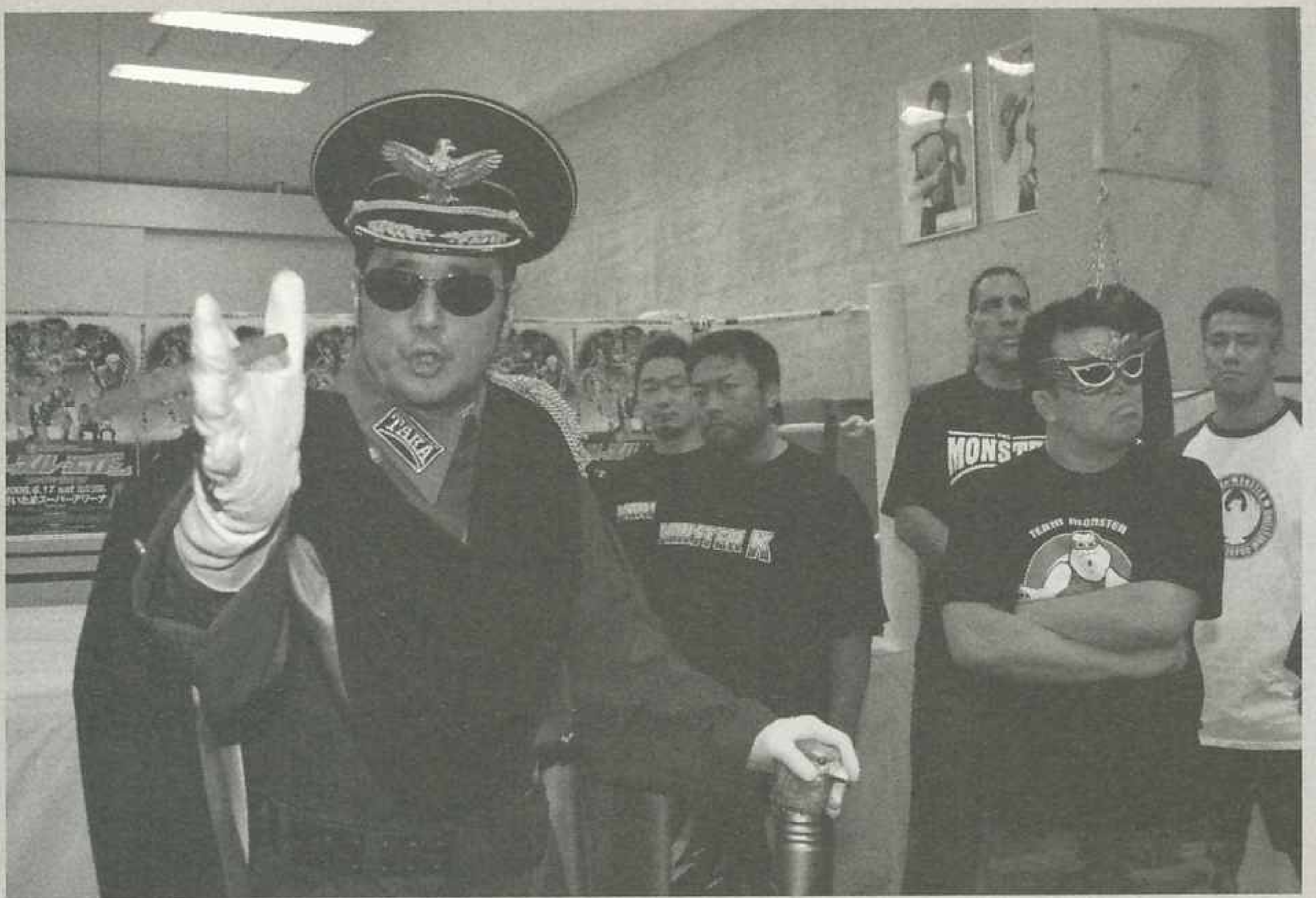
井上　そんなカードはいくらでも組めるんですよ。桜庭が抜けたからってどうってことはない。桜庭は言うちゃ悪いけど、下り坂なんだから。あの人は動く宣伝マンですよ。だからK－1に行ってもそういう働きをすると思う。それが榊原社長にしたら嫌なんだよ。選手としてはとっくに峠を越してるんだからもういい、と。ただ、ネームバリューで宣伝マンの役割は果たすから

ね。このあいだのUFCに谷川の旦那が桜庭を連れて行ったのもそれですよ。「ウチは桜庭がいる団体ですよ」という宣伝ですからね。

――桜庭がいるだけで『HERO'S』に箔がつく、と。

井上 それが桜庭の目に見えない大きな武器ですよ。だから、『PRIDE』は第2の桜庭を作れ、と。それはリング上のスター選手というわけじゃなく、宣伝マンを作れと言うことですよ。髙田あたりが、もっと前に出るとかね。

――もっと目立たなきゃダメですか（笑）。



『PRIDE』&ハッスルの危機が叫ばれるいま、誰もが弱気になりそうなところ、髙田総統&髙田本部長のテンションの高さは素晴らしいものがある。I編集長が言うとおり、「動く宣伝塔」としての役割も今後、ますます大きくなるだろう。

井上 ハッスルだけでワーワー言っとったんじゃダメだ。まさか吉田が桜庭の代わりを努められませんからね。だから髙田あたりがもっとマスコミと親密になって、かつての新日本プロレスの新間氏みたいにならなきゃダメですよ。

――本部長が〝過激な仕掛人〟にならないとダメですか（笑）。

井上 なぜ新日本プロレスがあれだけの人気を博したか。それは新間氏のような広報担当がいたからですよ。だから、動く宣伝塔としてやっていかないと。ホント言うと、小川あたりがなってくれるのが一番いいんだけれども、ハッスルばっかしやってるからね。ただ、ハッスルにしたってどうなるかわからんからね。そうなると、小川あたりが『PRIDE』の広報担当部長になって、ハッスルの試合もやりながら、バンバン話題を提供していかないとダメですよ。こういう事態になったら、なおさらそうだ。もうフジテレビから絶縁状が叩きつけられた瞬間に、動かんとダメですよ！　頭を柔らかくして、いろいろやっていかんと。いままで通りの大名行列じゃ通用しませんよ。

――殿様商売ではダメ（笑）。

井上 だいたい、『PRIDE』はマスコミに対するアタックが弱い！　広報担当はかつての新間氏のように毎日毎日、マスコミに電話して、雑談しながら、書かせる方向にもっていかんと。マスコミに記事を書かせれば宣伝費はタダなんだから！　これからの『PRIDE』は縮小再生産をやっていかんとね。べつに会場もさいたまスーパーアリーナじゃなくてもいいんだから！　後楽園ホールというわけにはいかんけどね。

――それは小さすぎます（笑）。

井上 それは極端としても、メンバーとカードに見合った会場を選べばいいんですよ。それともう一つ、『週刊ファイト』あたりは、「これだけスキャンダラスになったら、フジテレビに代わって『ウチが放映しましょう』という局は出てこない」と言うんだけれども、俺はそうじゃないと思うんだよ。べつに刑事事件になったわけでもないしね。フジテレビが今回の村上ファンドなんかに絡んでイメージを一新しなきゃいけないからこうなっただけであって。『PRIDE』は、極端に言うたら村上ファンドのあおりを食ったんですよ！

――同じヒルズ族ですしね（笑）。

井上 これはもう、ハッキリ言って村上ファンドとアウトドアのせいですよ！

――井上さん、ライブドアです（笑）。

井上 （聞かずに）フジテレビが、この際、スキャンダルなイメージを一掃しましょう、と。それでついでにやり玉に上がったのが『PRIDE』ですよ。だからそういうことは、ほかのテレビ朝日にしたって日本テレビにしたって知ってるんだから。「それならウチが放映しましょう」というところが出てくると思うんだよな。それでなかったら、あれだけのブランドがもったいない！

ハッキリ言ってPRIDEは村上ファンドやアウトドアのあおりを食っただけですよ！

――ソフトとしては超優良ですからね。

井上 だいたいスキャンダル自体があったかないかわからない話なんだから。テレビ放送にしたって、それはたとえテレビ東京でもいいわけですよ。テレ東でガッチリ押さえて放映したら、大人気番組になりますよ。だから榊原社長もすぐにテレ東に話をもっていって「フジテレビが手放したのでどうですか。儲かりまっせ」と、すぐ行かなあかん！　ボーっとしてる暇はない！

――いますぐテレ東に売り込みに行け、と（笑）。

井上 そうやって手を打っていかなアカン。榊原さんがなかなか動けんかったら、周囲の人間が積極的に「社長、こうしましょう！」と、進めていかなアカン。「一週間後に会議を開くのでテーマを持ち寄れ」なんて言ってたらもう手遅れなんだよ！　インドネシアで地震が起きたら、すぐに救援物資を送れ！　それと同じですよ。

――今回のフジテレビ撤退は、スマトラ沖地震並みの緊急事態だ、と（笑）。

井上 3日も4日も経ってから「救援物資を送ることを決めた」とか、アホかというんだよ！　もう一刻も早く水を持っていく、食料を持っていく、医療チームを送り込むとやらなきゃダメなんだよ。いろいろ手順があるんだろうけど、そんなもん非常事態は総理の一声で即座に動かなきゃダメ！　だから俺はトップの権限はもの凄く大きくせなアカンと言っとるんだよ。ブッシュなんかにしても、最近、権限が弱まってる。だから大胆なことができない。

――話が大きくなってきましたね（笑）。

井上 やっぱり総理とか大統領には絶対の権限を持って、かつてのナポレオンのように夜の

海外進出のために覆面ファイター〝スパイダーマン〟をデビューさせよ！

夜中に「進軍せよ！」と言うくらいじゃなきゃダメですよ。いまそれを一番やってるのはロシアのプーチン！　プーチンなんてダメな男みたいな名前しとるけど、いまや一番しっかりしてるのはプーチンですよ。俺はロシアのBSニュースとか見とるからわかる！

――なぜロシアのBSニュースを見てる（笑）。

井上　あれを見とると石油パイプをすぐ引いたり、プーチンは自分の判断で次々と決めてとく。俺はあの男を見直したね。だから榊原社長もこうなった以上、DSEのプーチンになれ！

――目指せプーチン！（笑）。

井上　もう自分でバンバン決めて、ルールなんかも審判団の指示など仰がず、独断と偏見で〝大阪のバカ〟が言うような、総合ルールにプロレスルールも大胆に加味して、場外乱闘ありにするとかね。

――プーチン榊原大統領、第一の改革はそこですか（笑）。

井上　客を増やすためには少々の観客論、興行論は必要なんですよ。ただし、勝負論をビシーッとした上でやらなきゃダメですよ。「ああ、しんどくなってきたから八百長やっとるな」と思われたら、すぐ落ちますからね。思いっきりルールをいじって、言うまでもなく真剣勝負。そういった方向性をまだ打ち出してない。

――さすがに打ち出してませんね（笑）。

井上　やっぱりね〝大阪のバカ〟が言ってることは、こういった時期にもの凄く必要。勝負論の軸をぶらさず、いかに観客論、興行論に針を振れるかが重要なのであって、勝負論だけに凝り固まっていてはダメですよ。トーナメントとかGPは純然としたPRIDEルールでやらなければならないけれども、ワンマッチはいろんな実験ができるんだから。だから俺は桜井マッハがフェースマスクをつけることも賛成したんだよ。

――眼窩底骨折を防御するマスクですね。

井上　そう。あれは「顔を防御するから、不公平になる」とか言われて却下されたけれど、それを言うなら吉田や瀧本の柔道着はなんなんだよ！　あれだって不公平じゃないか！

――そりゃそうですよね。

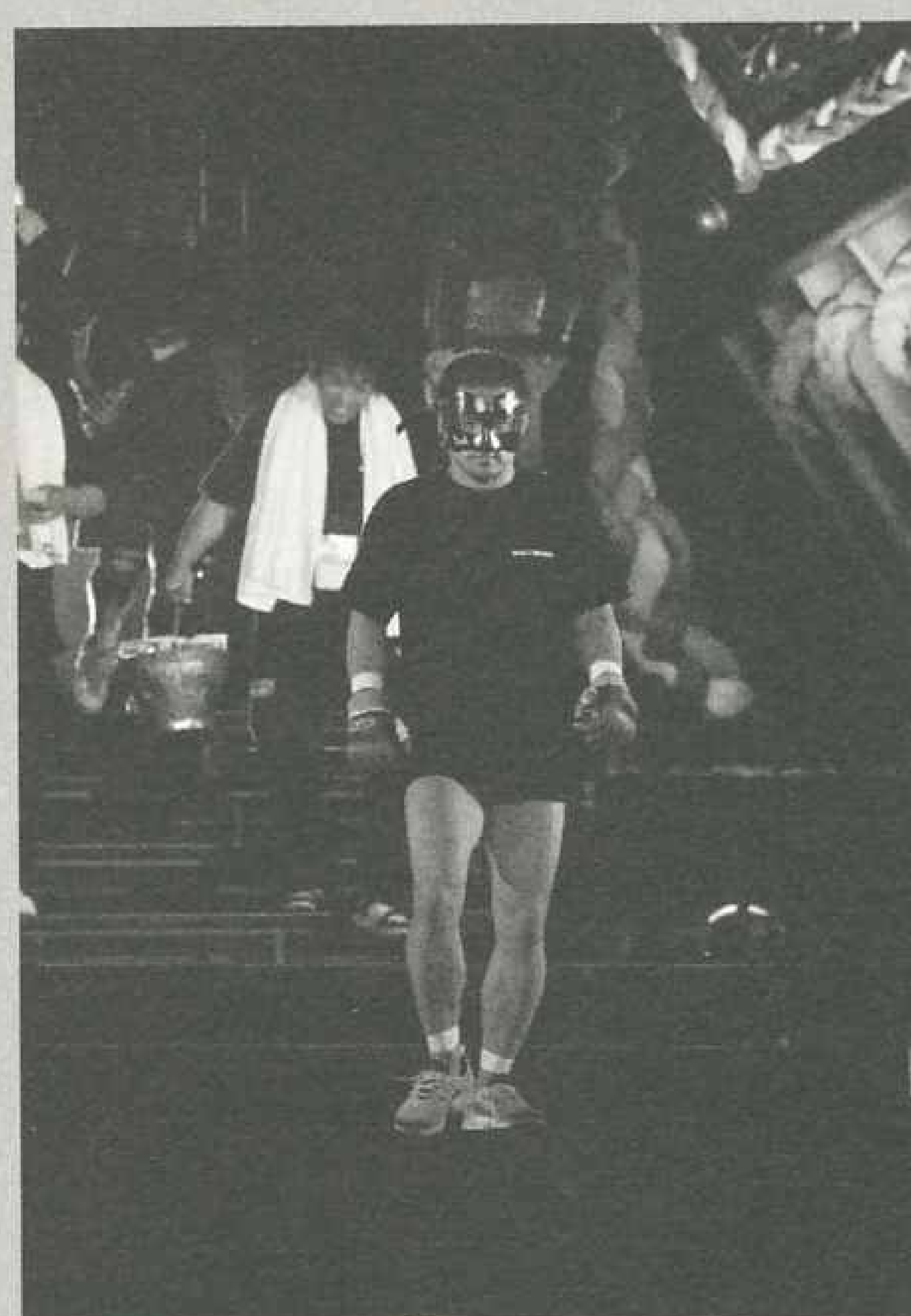
井上　だからフェースマスクだって、相手もつけさせる権利を与えて、つけるかつけないかは選手にお任せしますよということにすればいいんですよ。そういった融通を持たさなきゃならない。だから、これまでは権威をつけるために、ガチガチにやってきたけれども、これからはいろんな可能性を試してみるべきですよ。そして広報も「特別ルールを設定するが、これはいい加減なもんじゃないんですよ。そこを注意して書いてください」と、しっかり言わなアカン。色眼鏡で見られたら終わりなんだから。その上で、これからの『PRIDE』はハッキリ言うたら「プロレス的であれ！」ということですよ。

――『PRIDE』はいまこそプロレス的要素を取り入れよ、と。

井上　「プロレスなんて」と考えていたらアカン！　プロレス的考え方、プロレス的な興味の持たせ方というのは、長年蓄積したノウハウがあるんだから。それと『PRIDE』が合体したら凄いものになるぜ。『PRIDE』がやるべきことは、プロレス的な考え方を加えて、いかに観客を呼ぶか、いかにPPVの数字を上げるかを考えるべきですよ。あともう一つの提案は「マスクマンを作れ！」。

――今度はマスクマンですか！

井上　これから『PRIDE』もアメリカに進出するんだから、海外でマスクマンを出さなきゃ馬鹿みたいなもんですよ！　そんな頭のないヤツだったらやめてくれ！



暴行事件による眼窩底骨折から、特製のフェースガード着用を申請していたものの、「相手の拳を痛める危険性がある」との理由で却下されたマッハは、マスク着用で入場。すぐに脱ぎ捨てたが、I編集長はDSEに〝バットマン〟変身を認めるべきだったと提言。

――そこまで、海外戦略に「マスクマン」必須は常識ですか？

井上　当たり前ですよ！　海外でやるのにね、スパイダーマンだとかバットマンを出さなかったら、アホみたいなもんですよ！

――アホみたいですか（笑）。

井上　スパイダーマンになれば、名前売れてなくてもいいんだから。俺がマスク被ってもいけますよ！

――井上さんのスパイダーマン変身はもの凄く見たいです（笑）。

井上　「オー、スパイダマーン」とか言って一夜にして大スターですよ。

――ぜひ、井上さんに全米のスターになっていただきたいですね（笑）。

井上　俺だってできるんだから、これが技術のあるヤツ、たとえばフィリオみたいなのがマスク被ったら、「この男、凄いな」と大評判になりますよ。佐山にタイガーマスクを被せたのと一緒。瀧本あたりが被ってもいい。こういったことをせんとね、いきなりアメリカで「瀧本です」言うたって、青い目のファンは見向きもせんよ。「あいつは誰や」と話題になってから「じつは金メダリストだ」となって初めてワーっとなるわけですよ。

――スパイダーマンの正体は金メダリストだった、と。

井上　だからハッキリ言って、いまだからこそ、DSEは頭を使え、と！　人の言うことをボーっと聞いてたらアカン！　だから『kamipro』、『週刊ファイト』、『ゴング』、『週プロ』、こういった連中にどんどん思い切った提言や妄想をさせておいて、その中からアイデアを引っ張ってくる、と。だから井上義啓的な発想というのは、言うたら悪いけど必要よ。井上小説というのは、馬鹿みたいな話だけど、大きなヒントになるんですよ。自分で言うたらおかしいけど。

――いやいや、非常に斬新なアイデアの宝庫ですよ（笑）。

井上　だからね、これからは、ただマッチメイクをやるだけじゃなくて、知恵を出し合ってよりおもしろくする。こういったことが『PRIDE』やK－1には必要ですよ。

――まだまだそういう余地がいくらでもあるということですね。今日はありがとうございました！

【06年6月6日／大阪・新阪急ホテルにて収録】



2006年6月5日 衝撃のクライシス大襲来！ DSE帝国 その崩壊と再生を考える

文筆家にして音楽家 菊地成孔

文筆家にして音楽家であり、精神分析などの視点から新しい格闘評論を操る菊地成孔。彼は『PRIDE』とハッスルを運営し「世界の両極を手に入れた」DSEを“帝国”と位置づけ、その危険性に関して論説を展開していた。今回のフジテレビ騒動こそ、彼の言う「帝国の崩壊」なのか？ 『PRIDE』公開記者会見の当日、直撃核心インタビュー！

聞き手／ジャン斉藤、真下義之 designed by Tani-yan(Two Three)



きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家／文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、膨大な知識を駆使した異形の批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。昨年、格闘技批評「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～」(白夜書房）出版。東京大学、国立音楽大学非常勤講師（音楽理論史）。

髙田のブログの文章は、統括本部長と髙田総統の人格が混在している

——今日は、話題騒然のフジテレビ『PRIDE』放映打ち切りについてうかがいたいと思います。

菊地　はい。ところで今日の公開記者会見はどんな感じだったんですか？

——雰囲気的には、ワイドショーでマスコミが騒動や事件を追及する記者会見に似た空気があったんですが、一方で『PRIDE無差別級GP』二回戦のカード発表があって、そのカードがあまりに豪華だったので、同席したファンが「ウォーッ！」と熱狂するという、不思議な光景でしたね。

菊地　ちょっと宗教じみてきてますよね。髙田延彦のカリスマ度もここにきてぐんぐん上がってきてるというか。じつは昨日、髙田のブログを初めて見たんですけど……。

——ブログだと今回の事件にも、どこか呑気なんですよね（笑）。「榊原代表をはじめドリームステージの社員の皆さんには申し訳ないが、実のところ私は、なんだか楽しくてワクワクしてきたのが、本音中の本音なのだ」ってことで。

菊地　（笑）。まあ、トランスしてるようなムードも見てとれましたけど。あと、映像だと服装が違うからわかんないけど、ああいう文章にすると、髙田総統と髙田統括本部長の人格が混在しちゃってる感じがわかりやすいですよね。

——普通、話し口調と文体って印象が違う場合が多いんですけど、髙田本部長の文章は、話し言葉がそのまま日記になってる感じですね。

菊地　それで今日の会見でも髙田は「大丈夫だ！」って姿勢なんですか？

——そうですね。実際は大変なんでしょうけど。

菊地　しかし報道されてる情報を見る限り、フジの撤退の仕方は強烈ですよね。速度もはやいし程度も深い、っていう。関連会社に選手やタレントを使用しないよう通達したというニュースまで流れてるわけじゃないですか。まぁ、政治的なことはこれからも、グダグダになると思うんですけど、結局『PRIDE』は潰れないと思いますけど。

——潰れない、と？

菊地　〝潰れる〟って定義にもよりますけどね。



「ブログでの融合化」が囁かれるも「あくまで別人」な髙田総統＆髙田総括本部長のツーショット。05年5月の『ハッスル・マガジンvol.1』では両者の対談も掲載。

——実際、KRSからDSEに移行したときと、森下社長が亡くなって榊原代表に交代したときと、二回潰れてるようなもんですからね。

菊地　そうですそうです。それに、長い目で見たら、そういう会社の登記上の問題とはべつに、UWFみたいに〝精神〟というステージで生き残ってんだ、っていうアレもありますし。

——ボクもいつかは終わりが来るのが常だという気持ちはあるんですが、いままで『PRIDE』がやってきたことや、精神が閉ざされちゃうのはつまらないって気持ちはあります。

菊地　だから影も形もなくなって、全員がいなくなるってことはないですよ。そもそもDSEは〝帝国〟だったわけだから、傾斜も崩壊もするわけだけど、殲滅というか一人残らず皆殺しにされるってことはあり得ませんから。

——菊地さんは、著書の『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』（注1）から一貫して〝DSEの帝国化〟を指摘されてましたよね。「ボクシング（PRIDE）とサーカス（プロレス）、世界の両極を手に入れてしまった」ことを危惧して「いつかは崩壊するだろう」という論旨で。

菊地　それが帝国である限り〝崩壊〟は必然ですから。DSEはプロレスもガチも持っちゃった、という意味では、文化的にも経済的にも過去最大級の存在だったと思うんです。

——日本のプロレス、格闘技史上で最大の帝国ですか。

菊地　僕は会社の資産規模とか、そういった話には興味ないので、全盛期の新日本プロレスやK—1なんかと比べてどうか、といった厳密な話はわかりませんけど、おそらく一番なんじゃないか？　というふうに見えるわけです。それでまあ、帝国の傾斜は自明として「あと何年くらいで、どうやって傾斜するのか？」って部分に〝読み〟のおもしろさがあった。

——菊地さんが考えてた、傾斜するタイミングはどういったものだったんですか？

菊地　タイミングというより、傾斜の兆しというか原因というか、僕は、髙田を含めて「サーカスもやるし、ガチもやる、一人二役の人の精神がマトモでいられるワケがない」って思ってたんですよ。一昨年の『PRIDE男祭り』を観た時点で思ったことで。当時はハッスルはここまで盛り上がってなかったけど、髙田総統のキャラはブレイクスルー前夜で、統括本部長のほうが影が薄いぐらいのエネルギーがあった。

——数ヵ月で逆転した雰囲気はありましたね。

菊地　逆転っていうか、メカニズムががっちりはまって、両輪がきれいに回るようになったわけでしょ。『泣き虫』（注2）を読むとわかるけど、髙田の個人史って〝神輿に乗せられてしまう〟ことの繰り返しだったわけね。野球部から始まって新日本、UWFインターと、とにかくはいはいどうぞこちらに、とトップに据えられる。それで〝憂鬱な国王〟化するわけですね。能動性や自主性を周りに潰されちゃってるわけですから。統括本部長というのも微妙な〝やらされてる感〟があったんだけど、そのあやうさが髙田総統の存在で払拭された感じがしました。

——うまい具合に髙田総統でバランスがとれてますよね。

菊地　髙田総統はいままで神輿に乗せられる人生だった髙田が唯一、楽しんでセルフ・プロデュースしたらブレイクスルーしてしまった。凄い解放感と喜びがあると思うんですね。でまあ、そんな経験と団体の絶頂が重なって、二つのキャラも完璧に回って。それがなんというか、トランスしてるような、舞い上がって止まらなくなっちゃうんじゃないかという感じがちょっとしたんですね。「赤い靴」みたいなさ。これもう絶対壊れるな、と。そもそも二つのキャラの使い回しってのはダブルスタンダードですからね。ダブルスタンダードとかマッチポンプだとかいうのは危険ですよ。

——そういった読みがあった、と。

菊地　だから、今回の落城劇のきっかけは非常につまらないです。一番オーディナリーな形ですから。僕なりに無理矢理おもしろがろうとするなら……古いファンは同じこと思ったかも

しれないけど、「第一次UWFが豊田商事（注3）をスポンサーにつける」って話があったんですよ。豊田商事が発行してた新聞が『海外タイムズ』という名前だったから、UWFの名称が『海外UWF』に変わるという話が。

──たしかにありましたね。

菊地 それで「UWFが『海外UWF』に社名変更すれば、テレビ東京の定期放送が入って、UWFが全国規模になる」って煽りがあったけど、その直後にすぐ潰れてしまった。今回は20年後の〝反復〟だな、って思ったんです。単純な反復じゃないですよ。精神分析学でいう「運命強迫」ってやつで。規模としては今回のほうがはるかに巨大ですけど。んでまあ、これ、『海外UWF』って直訳すると、まあ『UWFインターナショナル』になると（笑）。

──なるほど（笑）。

菊地 そんな駄洒落しか思いつかないわけですけど（笑）。そのどちらにも在籍してる髙田はやっぱタフなんでしょうね。

──髙田本部長は個人レベルでも何度も奈落の底に落とされてますからね。そういう経験が強みになっているからブログで「ワクワクしてきた」と書けるんでしょうけど。

菊地 髙田の急所は神輿に乗せられて、腐ることだから、こういったケースは全然平気だと思うんですよね。ただ本来、表舞台にいなくてもいいのに矢面に立っている状態、とも言えなくもないですよね。ある種、〝殉教者〟のイメージさえついてるから「こりゃ、信者は熱狂するだろうな」と思いました。「『PRIDE』を支えてくれてありがとう、髙田さん！」「ありがとう！ ありがとう！」みたいなレベルの熱狂が、いまの『PRIDE』にはあるでしょ。

──その熱狂は今回の件で突発的に生まれたんでしょうか？

菊地 良質のソフトを高く提供してれば、信者的なユーザーがつくのはなんでも同じですけど、その質量の感じがねえ。あと、「いつから」ってことでいえば、ミュージシャンの近田春夫さんと話したときに言ってたんだけど「最近は、ピークの人がいつ落ち始めたか？ ってのをあとから検証するのが楽しみだ」って。

──たしかにそういう気分ってありますよね。

菊地 兆しを探すわけね。そういう意味では、僕も『kamipro』で原稿を書かせてもらったけど、去年の『PRIDE男祭り』の小川vs吉田戦は「パンドラの箱を開けたな」って気がしたんですよ。「コレやったらマズいだろう」って思いましたから。

──ミルコvsヒョードルという〝人類最強〟路線の方向からすると外れた感じがあって、あるいは髙田vsヒクソン戦のような〝壮大なる大河ドラマの決着〟路線からすれば、最後の最後の切り札というべき試合で。



6月8日に行われた『PRIDE』の記者会見は、危機的な状況にも関わらず、ファンへの公開という形で開催。600人のファンが集合し、『PRIDE』支持を表明した。

いまの『PRIDE』の周囲には冷静さを欠いたレベルの熱狂がある

菊地 それを大晦日『PRIDE男祭り』の大一番としてやったわけだから。小川が混乱して「総統出てこい！」って言わないかなって。

──DSE帝国の崩壊ということで言うと、菊地さんは「前田日明や『HERO'S』の存在が、帝国を延命させた」と指摘されてましたよね。

菊地 やっぱり対立概念がまったくないってのは危ないと思うんです。完全な万能感を持って、やり放題で、なんの問題も起きないってのは一番、滅亡に近い状態ですから。爛熟と退廃ね。それは一時期の石井館長の万能感に象徴されますけど。そんな万能感を手に入れたら、あとは自滅せざるを得ない。去年の段階で前田日明と谷川さんが組むことなって、よちよち歩きだけど、『HERO'S』が対抗勢力として出てきた。それで『PRIDE』も多少は延命したんじゃないかな。とはいえ、それによって拡大衝動が煽られてああなったと思うと、ライバルという自分を生かしも殺しもするわけだけど。まあ前田も予想通りビックマウス・ラウドと離れたりしてるわけだし（笑）。

──そこはある意味、期待どおりですよね（笑）。

菊地 前田は別離しか見せられない、っていう定石を、今回もきちっと踏んでくれて（笑）。その一方で髙田はよくも悪くも〝新興宗教の教祖〟みたいなオーラが出始めてきて、『PRIDE』のファンが信者化している。サッカーとも野球とも微妙に違うように思うんです。記者会見にファンを入れる、というのもね。

──DSEもファンの熱を期待しているところはありますよね。

菊地 DSEはそのモードがわかってたからこそ、ファン入りの記者会見をやったと思うけど。新興宗教化したら、信者のトランスが手っ取り早い栄養ですから。やっぱり目の前にはファンを置いておきたいでしょう。でなければ記者会見にファンを呼ぶなんて、普通やらないよね。

──ボクはファンを入れると聞いたときに直感的に「いったいどうなるんだろうな……」って思ったんです。ここまで裏目にきてるのに、期待どおりの目なんか出ないんじゃないかって。

菊地 どんな局面でも「全然問題ない。まったく大丈夫。むしろワクワクしてる」って言える人が、カリスマになれる人なんだよね。新興宗教の教祖になった人は死ぬ直前まで「絶対に大丈夫だ」って言うから。だけど、巷で噂されるように、ハッスルもなし崩し的になってしまったら、髙田総統が駆動できなくなって、髙田統括本部長、一本やりになったときの髙田の自我っていうのは……要注目ですね。

──そうなると、髙田総統が髙田本部長に乗り移っていくと思います（笑）。

菊地 それしかないもんね（笑）

──でなくても、最近の本部長の言動はかなり総統化してますから。

菊地 見る側も、髙田総統と統括本部長が重なってきてる。だから、髙田総統が仕切る『PRIDE』。もしくは、髙田総統と統括本部長が融合した新キャラクターが登場して。

──それこそ〝スーパー髙田延彦〟の誕生かもしれませんね（笑）

菊地 その新しい髙田延彦によって駆動される〝新PRIDE〟だよね。たとえテレビを失なっても、信者の地熱はもの凄いし、ソフトだって凄いわけじゃない？ 新興宗教のトップが総統だ、ってのも凄いけど（笑）

──試合のスケールや興行規模が下がっても、

髙田総統と統括本部長が合体した〝新しい髙田延彦〟による〝新PRIDE〟は見てみたい

〝スーパー髙田延彦〟の手によって〝PRIDE〟という価値観の延命は期待したいですね。

菊地　結局、『PRIDE』が見せてる問題ってのは、現代社会で問題になってる〝大企業〟って問題と〝帝国〟って問題と〝新興宗教〟って問題なんですよ。こういうものが全部、形骸化して融合して、わけわかんなくなる。これらは、とくに日本とアメリカでどうしようもなくなってます。ブッシュ大統領ももう辞めるとはいえ、あんとき聖書ふりまわしたでしょ。

——アメリカはやっぱり宗教国家ですからね。

菊地　そこで〝宗教戦争〟を打ち出して、対イスラムに備える。いまのアメリカは〝帝国〟であり、傾斜しつつあるけど、〝宗教〟も絡んでいるし〝国家〟、〝帝国〟、〝宗教〟ってフェイスが鮮やかにころころ変化する。DSEも最初は〝企業〟として市民権を得るってスタートしたのが、徐々に〝帝国〟めいてきて、帝国が傾斜しだすと、今度は〝新興宗教〟めいてきて、って変化を鮮やかに見せてますから。

——そう考えると、この問題は現代的ですか？

菊地　UWFが潰れるときも、そんな動きはなかったですから。僕はとくにUWF直撃世代だから、よくわかりますけど。本当に悲しいけど、潰れてくんだってことを「仕方ないから受け止めよう」って気分だった。左翼運動みたいな、滅びの美学と言うか。でもいまの『PRIDE』のファンは自分を投げ出してもいいくらいの状態で、「チケット代が高くなっても払いますよ!」、ヘタしたら「寄付してもいいです!」っていうね（笑）。そういった存在が『PRIDE』のライフラインになってるわけだよね。

——ファンとしたら、今回騒がれていることとは別次元で『PRIDE』がなくなってしまうのはツライんでしょうね。

菊地　ありきたりな現代病ですが、依存傾向が非常に強くなって、勢い「愛するものがなくなっちゃう」ということに対する耐性が非常に弱くなっている。オウム真理教がアーレフになって生き残ってるでしょう。90年代の後半に日本は痛感してるわけだよね。あんな事件があったとしても「信じる人がいる限り残るんだ」ってことを知らしめたと。反面教師的というか、依存が断ち切られる痛みを拒絶してくれたわけです。だから別れの痛みを見せてくれる前田は本当に偉いですよ。

——それに年配のプロレス、格闘技ファンはこういう事件に耐性があると思うんですけど、『PRIDE』が新規開拓した新しいファンが騒動に慣れてないことも大きいでしょうね。

菊地　当然、ユースは衝撃だよね。「初めての経験」って感じじゃないかな？　昭和プロレスなんか最初から〝ダーティー・ジャーナリズム込み〟の存在だから（笑）。

——まあ、そうなんですけどね（笑）。

菊地　「梶原一騎に猪木が拉致監禁された」って聞いても「そんなの当然だろ」なわけだけど、いまの『PRIDE』ファンは途中で「ボクシングかもしれないし、オリンピックかもしれない」くらい思わされちゃっただけに、そうとうビックリしたと思うよ。

——で、今日は『PRIDE』の公開記者会見だったんですが、明日のハッスルの記者会見では髙田総統が登場するみたいなんです（笑）。

菊地　ああ、明日は髙田総統が何か言うんだ（笑）。まぁ、ハッスルは「一座の危機」として事件を共有するだろうからね。それに仮にハッスルがなくなるとしても、ちゃんとしたストーリーラインを作ってなくなると思いますよ。「突然やってきた最終回」みたいなものだよね（笑）。

——無責任に言えば、ハッスルがエンターテインメントとして最終回を作るって作業があるとしたら、凄く興味深いですけどね。

菊地　それは大仕事だよね。ストーリーライン作る人は頑張っていただきたいです（笑）。

——はあ（笑）。

菊地　しかし、今回の件では『kamipro』も心配されてるんじゃないですか？

——そうなんです（笑）。

菊地　『kamipro』のDSEとの距離感がハッキリ問われるよね。つまり〝左翼的な機関誌〟として立ち位置や自立性を保つのか？『聖教新聞』化して共倒れになるのか？　マスコミとしてはどういう論調をとるのか？

——どうなるんでしょうねぇ……ってボクらのことなんですけども（笑）。

菊地　（笑）。とはいえ『kamipro』が、もし仮になくなっちゃっても、あんまり咎められないのが格闘技界の常ですよね。『SRS・DX』（注4）もいつの間にかなくなってたし。

——『SRS・DX』もたしか100号を境に休刊の道を歩んだような……。

菊地　じつは悪魔の数字かもしれない（笑）。だからなんかしら〝反復性〟はあるんだよね。「100号でなんか来る」っていうのはあるかもしれない。心臓は5億回打ったら死ぬ、みたいな。ブラックマヨネーズのブッブツの人みたいだけど（笑）。

【06年6月8日／菊地成孔氏の仕事場にて収録】



6月9日に行なわれたハッスル決起集会では、小川直也を中心にしたハッスル軍の会見中、高田総統が乱入。異様なハイテンションで押しまくって存在感を爆発させた。



（注1）『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍　-僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった-』菊地成孔 著（白夜書房）　5年間、プロレスや格闘技を見なかった著者が再び帰還して描く格闘評論。DSE帝国の危険性はこの本に詳しい。



（注2）『泣き虫』金子達仁 著（幻冬社）　高田延彦が現役引退に合わせて、出版した〝ノンフィクション〟本。菊地氏の言う「神輿に担がれ続けた」高田の人生模様はもちろん、リアルファイトへ至った理由や葛藤が切々と語られる青春の一冊。

（注3）豊田商事　金の地金を使用した現物まがいの商法の会社。総被害は2000億円、被害者は数万人規模。85年に悪徳商法が問題化、国民生活センターで豊田商事関連の110番も設置。同年、会長の永野一男が自宅マンションで刺殺され、大きな社会問題に。



（注4）『SRS・DX』（扶桑社）　現・K－1プロデューサーの谷川貞治氏率いる、株式会社ローデスが編集。ターザン山本らが、興行ごとに問題提起する座談会などを目玉に隔週の格闘技雑誌として人気を集めたが、通算103号にて休刊。

〝総合格闘技ファン代表〟夢枕獏が PRIDE危機を つぶやき&嘆く

つぶやき相手／ジャン斉藤

―獏さん！　大変なことが起きてしまいました!!

獏　本当だよねえ……（腹の底からつぶやくように）。

―それでいろいろとお聞きしたんですが、第一報を聞かれたときの率直な感想からお願いします。

獏　そりゃ「『PRIDE』がやばいな!!」ということに決まってますよ。だって、テレビからお金が入らないと、選手に高いギャラを払えないでしょう？

―払えませんね。

獏　お金が払えなければ当然、選手は別のところに行くしかないでしょう？

―そういう選択肢は生まれてきますね。

獏　そうするとこれは『PRIDE』そのものの運営も難しいでしょうし。地上波の放映権料をアテにしないシステム作りができればいいけど、そうするといまの一線級の選手を揃えるのは難しいでしょうねぇ。

―存続できるかどうかという不安と同時に、これによって『PRIDE』という場の魅力は失なわれてしまう危機感もあるわけですよね。

獏　だからチケットの売り上げだけでペイできるようなシステム、いま修斗やパンクラスがやってるシステムのようなかたちでもありだけど……ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ、吉田秀彦、藤田和之、ヴァンダレイ・シウバが同じリングに立ってるんだよねえ……。

―当たり前になってましたけど、奇跡的かつ維持するのは困難な舞台というか。

獏　これがなくなったり、変わってしまうのは惜しいよねぇ。フジテレビも苦渋の決断だったと思うけどさぁ。

―それで打ち切り騒動の発端になったと言われるのが〝反社会勢力〟とつながりがあるという疑惑なんですけども。

獏　俺は深い事情をよく知らないから、基本的に「いいカードを観たい」ということしか言えないんだよねえ。例えばの話、じつは宇宙人と付き合いがあろうがさ（笑）。ほとんどのファンがそういう気持ちでしょう。

―一番の被害者はファンではありますね。

獏　中学生みたいなことを言うつもりはないけど、『PRIDE』といえば、俺たちの夢をいろいろかなえてくれたわけじゃない。あそこまでおもしろい格闘技イベントだしさ。それに俺たちファンだけじゃなくて、選手の夢もかなえてくれたんだよね。いまは上位概念にK―1と『PRIDE』があって、そこに上がるためにほかの小さな団体でみんな頑張ってるわけでしょう。そのうちの一つがスケールダウンするとなると……これはマズイよねえ（絞り出すような声で）。

―現時点ではスカパー！のPPV放映もどうなるかわからないんですよ。

獏　う～～～ん。こりゃまいったねぇ……!!

―多くのファンが獏さんと同じ心境だと思うんですよね。どうにかしたいけど、いかんともしがたいという……。

獏　う～～ん……あ、じゃあWOWOWは？　どう、WOWOWでしばらく凌ぐのは？

―全然オッケーなんでしょうけど、いますぐというわけにはいかないでしょうね。

獏　俺が衛星なり地上波放送局の社長なら、いますぐ『PRIDE』をまるごと買いとりますよ!!　そして放送しますよ。

―まるごと買いますか！　そして放送しますか!!

獏　だって選手やファンがかわいそうでしょう。それで前田日明を社長にしてねえ……。

―ま、前田日明が新社長ですか!?

獏　そう。それで高田と歴史的な握手をしてね……って、それは無理か（笑）。なんとかならないの。ならないよなぁ。

―それは救済方法というより、獏さんの果てしないロマンですね（笑）。でもいまのマット界にはそれぐらいのショック療法が必要なのかもしれないです。

獏　本当になんとかしてほしいねえ。

―ところで。獏さんは7月1日は会場に行かれますか？　お住まいの小田原から会場まではかなり遠いですけど。

獏　行くしかないでしょう！　当たり前ですよ、そんなこと。

―もちろんチケットはいつものように自腹で。

獏　うん。だってテレビで流れないんだよ。

―流れませんねえ。

獏　スカパー！だってどうなるかわからないじゃない。

―わかりませんねえ。

獏　じゃあ会場に行くしかないじゃない!!

―もう行くしかないですね！

獏　だって吉田秀彦とミルコだよ、それに藤田とシウバ。しかし、いいカードを持ってきたねえ。

―テレビで観られないことで逆にグレードが上がって。

獏　もう四の五の言わず、行くしかないでしょう。もしかしたら、これが最後の『PRIDE』になるかもしれないなぁ。

―そういう危険性もはらんでますよね。

獏　『PRIDE無差別級GP』の決勝だけはやってほしいなあ。いや、大晦日まで……いや、ずっとやり続けてほしい（笑）。

―ダハハハ。いや、おっしゃるとおりです。

獏　せめてヒョードルと無差別級GP優勝者のワンマッチだけでもいいから観たいよね。東京ドームでさ。

―東京ドームでワンマッチ!?

獏　それだけはやってくれないと、無差別級GPの物語が終わらないじゃない。あといまは映像なんてネットで流せるじゃない？　インターネットだったら……楽天の社長、三木谷さんに泣きつきゃいいんだよ！　あ～、三木谷さんに売れればいいんだ（と納得しながら）。

―とにかく、獏さんはなんとしてでも『PRIDE』が続いてほしいんですねえ。

獏　当たり前だよ。金の卵を産むニワトリを殺しちゃったら、もう二度と金の卵は手に入らないんだよ！　『kamipro』で何かアイデアはない？

―う～～ん。懐かしのクローズトサーキットを全国的に展開するとか。

獏　お！　それもいいねえ……!!

【06年6月9日／電話取材にて収録】

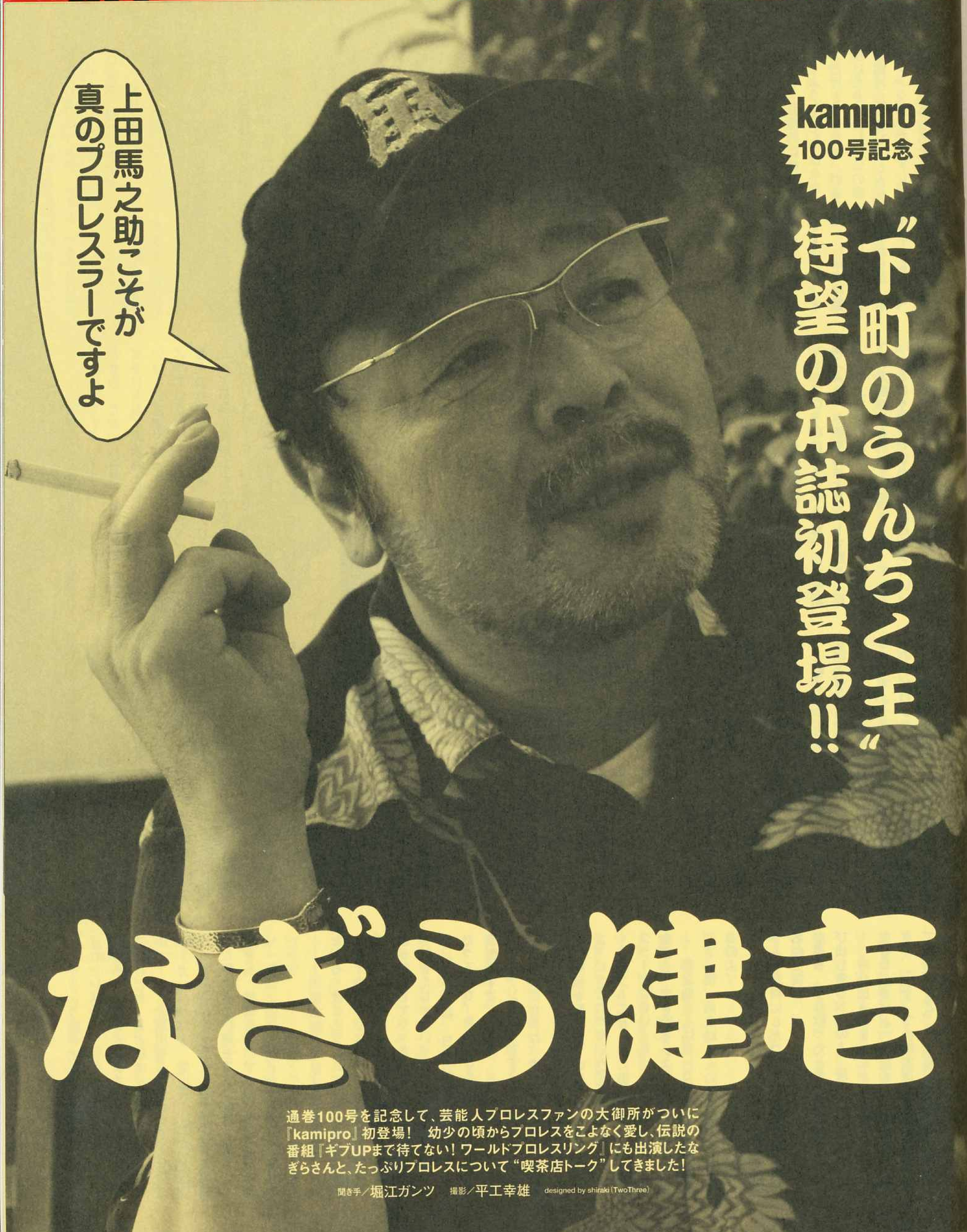


ゆめまくら・ばく■1951年神奈川県、小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』『陰陽師』シリーズなど話題作を発表。また格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年にわたり、執筆するなど格闘技への造詣は広く深い。99年、ヒマラヤ登山を扱った『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞

kamipro 100号記念

"下町のうんちく王"待望の本誌初登場!!

なぎら健壱



上田馬之助こそが真のプロレスラーですよ

通巻100号を記念して、芸能人プロレスファンの大御所がついに『kamipro』初登場！　幼少の頃からプロレスをこよなく愛し、伝説の番組『ギブUPまで待てない！ワールドプロレスリング』にも出演したなぎらさんと、たっぷりプロレスについて"喫茶店トーク"してきました！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　designed by shiraki(TwoThree)

――なぎらさんは本誌に待望の初登場なんですけど、『kamipro』ってご存知でしたか？

なぎら　知ってますよ。

――それは光栄です。どんな印象ですか？

なぎら　最初に出たとき、文字ばっかりだったでしょ？

――はい。小さい版型の頃ですね。

なぎら　他のところがわりと写真誌的なのに、この雑誌は文章で勝負するんだなと思って。でも、難しいだろうなと思ってたんですけど、よく続きましたね。

――はい（笑）。おかげさまで100号を迎えることになりまして、改めて「プロレスのおもしろさとは何か」ということを語り部である、なぎらさんにお話しいただきたいな、と思いまして。

なぎら　あ、そう。わかりました。

――なぎらさんは、いつ頃からプロレスってご覧になられてたんですか？

なぎら　う～ん……小学校低学年じゃないかな。親父の影響ですからね。親父が好きか嫌いかの問題だから、あの頃は。

――〝チャンネル権〟の問題で。

なぎら　そう。いまみたいに家にテレビが2～3台あって、親父はこっちで野球中継観て、子どもはあっちでお笑い観てとか、そういう時代じゃないから。親父がプロレスにチャンネルを合わせたら家族で観なきゃいけないっていうのがありましたからね。やっぱり力道山の存在は大きかったですよ。毎週楽しみにしてましたからね。

――お父さんの影響で見始めて、そのままのめり込んでいった感じですか？

なぎら　狂信的に毎回会場に足を運ぶっていうようなことではなかったですけども、ずっと好きでしたね。いまみたいに総合格闘技はなかったし、公の場で放映してくれる格闘技はプロレスしかなかったからね。ボクシングなんかもテレビでやってますけど、見てもおもしろくないんですよ、パフォーマーじゃないから。

――エンターテインメントとしては物足りないかもしれないですね。

なぎら　だから八百長、八百長なんて言ってるけどね、八百長っていうのは使っちゃいけない言葉であってね。やっぱりプロレスっていうのはショーマンシップに則った最大のものなんですよ。アメリカの野球と比べて日本の野球などにも言えるのですが、やっぱり大リーグの選手たちっていうのは、ショーだっていうのがわかってるんですよ、たとえガチンコ勝負であってもね。だからアメリカ人っていうのはああいうパフォーマンスをするしね。雨が降れば滑ってみたり、着ぐるみで遊んでみたり。そういう方法ってあるじゃないですか。だから簡単な球をあたかも難しく捕ってみせるというね、これもショーなんですよ。そういった意味でプロレスっていうのはそれが最大に活きてるものなんですよね。

――プロレスは「プロスポーツとはショーである」ということを最大限に拡大解釈してますよね（笑）。

なぎら　うん。だからね、それ＝八百長だって言ったら極論であって。じゃあハナから観るな、と。それがわかってこっちは観てるんだから、そこを楽しみに観てるんだからっていうのはあるんですね。だから新崎（人生）が相手の手をリストで固めてロープの上を拝み渡りしてるときに、誰もが下の人間が手を外したら落ちるなってわかってるじゃないですか。だけどカッコいいなって思うわけで。



――まぁ、ガチンコだったら永久に決まらない技ですよね（笑）。

なぎら　でも、川田（利明）はあれに引っ掛からなかったっていうことが、また今度はリアリティを生むじゃないですか。そういうおもしろさを見れない、語れないで「八百長だ」って言うんだったら、もうハナから何も言わないでくれ、ということですね。でも、最近の（プロレス）はよくないですけどね。

――最近は「八百長」とすら言われなくなりましたからね。

なぎら　アメリカがよくないんですけどね、あんなことしちゃったから。

――あんなこと？

なぎら　WWEが全部乗っ取っちゃって、全部〝インリン様〟にしちゃったでしょ？

――完全にエンターテインメントだ、と開き直られても困るというか（笑）。

なぎら　そして日本もそうなっちゃったわけですから。だいたい、なんで和泉（元彌）が勝てるんだっていうね。

――やっぱり最低限のリアリティは必要ですか。

なぎら　そこを見せていくっていうのがいまはなくなっちゃったからね、こっちも離れていっちゃうんですよね。

――嘘かホントかという部分を残してくれないとダメというか。

なぎら　嘘か本当かじゃないですよ、本当なんですよ。それを匂わせてくれるっていうのがプロレスなんですよ、プロのレスリングなんですよ。アマチュアじゃないんですよ。

――そういう部分でなぎらさんが一番魅了されたレスラーってどなたになります？

なぎら　たくさんいますけど、猪木が最大ですけどね、あと猪木が嫌いだったパフォーマーのドン荒川なんかも好きですしね。

――ガハハハハ！　荒川さんもプロとはショーであるということを最大限に拡大解釈した素晴らしい選手ですよね。

なぎら　素晴らしいですよ。でも、やっぱり一番は上田馬之助かな。ホントに怖かったから。

――上田馬之助さんはプロですよね。

なぎら　彼こそプロレスラーですよ。最初はタイガー・ジェット・シンと組んでやってたのが仲間割れして、最後にシンと馬之助が敵対してやったとき馬之助が日本刀持ってきたじゃない。あのバカバカしさですよ（笑）。お前、日本刀持ってきてどうすんだっていう。あれ嬉しくなっちゃったもん。素敵ですよ。

――ファンタジーですよね（笑）。

なぎら　だからね、やっぱりヒールがいてこそベビーフェースが引き立つっていうね、その論理を忘れちゃいけないと思うんですよ。いまそれがないんですよ、全体に。

――ホントにヒールに徹してるっていうレスラーがいない、と。

なぎら　客を殴るレスラーっていないでしょ。馬之助さんはガンガンやってたからね。でさ、俺、馬之助さんの歌を歌ったことあるのよ。

――『男は馬之助』ですよね。上田馬之助さんを題材にしたコミックソング史に残る名曲（笑）。

なぎら　それ歌ったとき、馬之助さんに呼び出し食らったのよ、俺。

――呼び出されましたか！（笑）。

なぎら　『東スポ』の記者から電話かかってきて。「いま、下の喫茶店に馬之助さんが来てるんだけど、来てくんねえかって言って

感情持大国



『男は馬之助』ってレコード出したとき馬之助さんに呼び出し食らったのよ、俺

る」と。「ちょっと待ってくれ、どういう理由で来てくれと言ってるんだ」と。
——その「来てくれ」の意味を教えてくれ、と（笑）。
なぎら　そしたら「歌を聴いて、ちょっと一言あるらしい」と。うわ〜って思ってさ。
——それは怖いですねぇ（笑）。
なぎら　だから「いや、仕事で今日はダメです」って言ったら「ウチとしては構わないんですけど、馬之助さんは『いますぐ呼んでこい』って待ってますよ」と『東スポ』の記者が言うんですよ。それでしょうがないからタクシー飛ばして指定された喫茶店行ったら、奥でビール飲んでたのよ。
——喫茶店でもビール！　カッコいいですねえ（笑）
なぎら　トマトジュースを混ぜたレッドアイを飲んでたのかな。で、第一声が「俺の生活をどこで見てんだ？」って。
——どういうことですか？
なぎら　あの歌は馬之助さんが「ホテルの一室で包帯巻いてる」とか「竹刀買いに行って『領収書ください』って言ってる」とか、そういう歌詞がいろいろあったのよ。そしたら本人が「あれ全部ホントなんだよ」って（笑）。
——ダハハハハ！　『男は馬之助』は、上田馬之助の真の姿を歌ってましたか（笑）。
なぎら　それ言われたとき、やっぱりおもしろいなと思ったね。で、「まあ、一杯飲んでくれ」って。でも、そんな和やかな話だったら、あんな呼び出し方しなくていいじゃないかって思いましたけどね（笑）。
——そうですよね（笑）。
なぎら　こっちはビビって、着ていくものとか考えちゃったもん。「いいのかな、こんな格好で。ネクタイ必要かな？」とか（笑）。でも、実際に会うまでは悪役に徹してるところが素晴らしいんですよ。そういう人がいなくなっちゃったっていうのがね。
——近寄り難いヒールっていないですよね。
なぎら　たとえば、いま蝶野（正洋）や（獣神サンダー）ライガーなんかが悪役やってますけど、ヒールであってもちゃんとファンがいるんですよね。でも、馬之助は全員が嫌いでしょ。そういうヒールがいないんですよ。
——観客全員から嫌われる生粋のヒールがいない、と。それこそリング上だけじゃなくて、私生活も全部含めてプロレスなんだっていうような。
なぎら　そういうことだと思いますよ。だからやっぱり本質を見せちゃいけないんですよね。いい人を見せちゃいけないわけ。だから大変だと思いますよ、私生活は（笑）。
——ラッシャー木村さんなんかも国際軍団でヒールやってた頃、自宅の犬がイジメられてノイローゼになっちゃったらしいですからね（笑）。
なぎら　だから、ある意味で自分を殺さなきゃいけないじゃないですか。それがやっぱりプロなんですよ。それを感じなくなっちゃったのはね、ちょっと悲しいかなという感じがするんですよね。昔は悪役が悪役たらんとしてたわけですよ。ルー・テーズっていうのは名選手なんだけども、日本に来たら悪役でしたからね。やっぱりそれを演じたんですよね。だから（キング・カーチス）イヤウケアにしても、キング・コングにしても、それをわきまえていたし、レフェリーまでそうだったじゃないですか。
——沖織名とかユセフ・トルコですね（笑）。
なぎら　どう考えてもタッチし

まさにプロ中のプロという言葉がふさわしいヒールだった上田馬之助。このときの"呼び出し事件"をきっかけに、なぎらさんとは親しくなり、『笑っていいとも!』のテレフォンショッキングになぎらさんが初めて出演した際、お友だちとして馬之助につないだのだという。

やっぱり曙を勝たせたらダメですよ！「プロレスやってもダメだな」ってファンに言わせなきゃ（笑）

てるのにレフェリーだけ見てなくて「ノー、ノー」ってね、ああいうのでイライラしてね、それで吉村（道明）はガンガン血流してやられてるっていう、あれですよ！　あれが観てる人を興奮させるわけじゃないですか。だからブラッシーの噛みつきを、お婆さんが観てショック死したのもわかりますよ。

——ショック死させるほどのヒールって改めて凄いですよね（笑）。

なぎら　ウチの近所に、右半身が不随になっちゃって寝たきりのおじいさんがいたんですけどね。これは家族から聞いたんだけど、そのおじいさんが力道山の試合をテレビで観てて、力道山が最後にチョップやったとき、絶対に動かないはずの手が動いて、家族の頭をポンと殴ったって言うんだよね。

——半身不随のおじいさんがチョップしましたか（笑）。

なぎら　それぐらい入り込んでたってことでしょ。いま、そういうのがないじゃない。不随の人が動いちゃうんだから（笑）。

——それだけプロレスを本気で観てたってことですよね。

なぎら　だからミスター高橋さんみたいに、内側にいた人間がああいう本を書いちゃダメですよ。夢を与えるところにいたのに、そこから出たあとに夢を壊すようなことをするのは、恥ずべき行為ですよ。

——プロレスの夢の部分って、ある種、みんなの共有財産ですからね。

なぎら　墓場まで持ってく人がたくさんいるのに、本に書いちゃったわけだからね。

——あの本は実際に読まれました？

なぎら　一冊だけ読みました。

——あれ読んだら「まあ、そうなんだろうけどさ……」って世界ですよね。

なぎら　うん、だけどそれを言っちゃおしまいよって感じじゃないですか。たとえばへんだけど、銀座のクラブのホステスがうたかたの恋をさせてるような錯覚を起こしてるわけで、そこに対して客はお金を払うわけでしょ。それを「あんたなんか嫌い」って言っちゃったらもう終わりじゃないですか。そういうことですからね。

——ホステスに自分の実際の恋人の話をされても困りますしね。

なぎら　そう。プロレスっていうのは、そういう夢の部分が大事なんだから。「そこを崩しちゃうのかい？」ってなっちゃうんですね。ミスター高橋だけじゃなく、プロレス界自体がそういったものを壊しちゃってる部分が凄く多い気がするんだよね。最近は、「どう考えてもおかしいでしょ」っていうのばっかりですもんね。

——プロレスといえども理屈に合わないことが多すぎるというか。

なぎら　うん。だから男女混合マッチもよくないし。やっぱり曙を勝たせちゃダメですよ！

——ダハハハ！　K—1では連戦連敗の曙が、プロレスではIWGPのタイトルに挑戦しちゃいますからね（笑）。

なぎら　K—1であれだけ弱い姿を晒してる曙がプロレスでは勝っちゃったら、「プロレス弱いじゃん」ってなっちゃうわけですよ。だから曙にプロレスをやらせてもいいけど、ファンに「プロレスやってもダメだな」って言わせなきゃ（笑）。そうすると相撲界が黙ってないかもわかんないけど。

——相撲界はホントに大迷惑ですよね（笑）。

なぎら　でも昔、猪木が（モハメド・）アリとやったとき、高見山が「30秒でつかまえたら俺はアリに絶対勝つ」って言ったんだよね。「ただ、30秒じゃつかまんないだろう。そしたらあとは負ける」って言ったんですよ。これね、自分をわかってる。これは素晴らしい言葉だなって思いましたよ。

——リアリティありますよね。

なぎら　うん。そこだと思うんですよ。いまの曙にはそれがないんですよ。30秒だけでも張りきってくれよって話で（笑）。

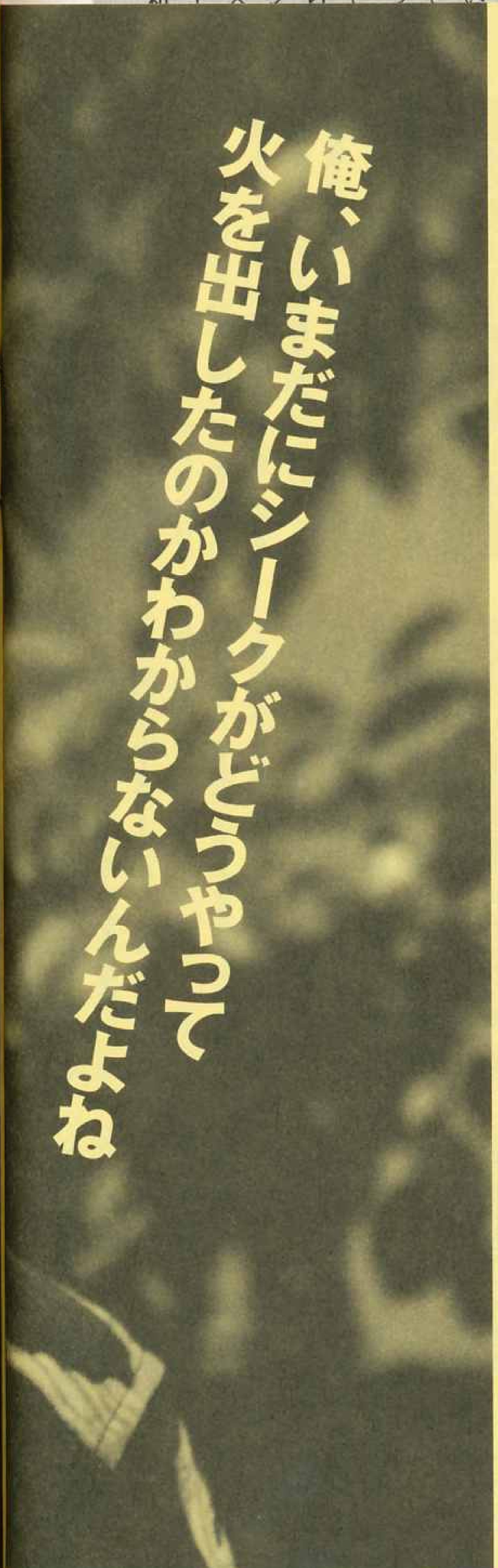
——なぎらさんから見て、プロレスが一番おもしろかった時期っていつ頃ですか？

なぎら　ずっとおもしろかったけど、ブッチャーやシークがいた時代がやっぱり一番おもしろいかな。俺、いまだにシークがどうやって火を出したかわからないんだよね。

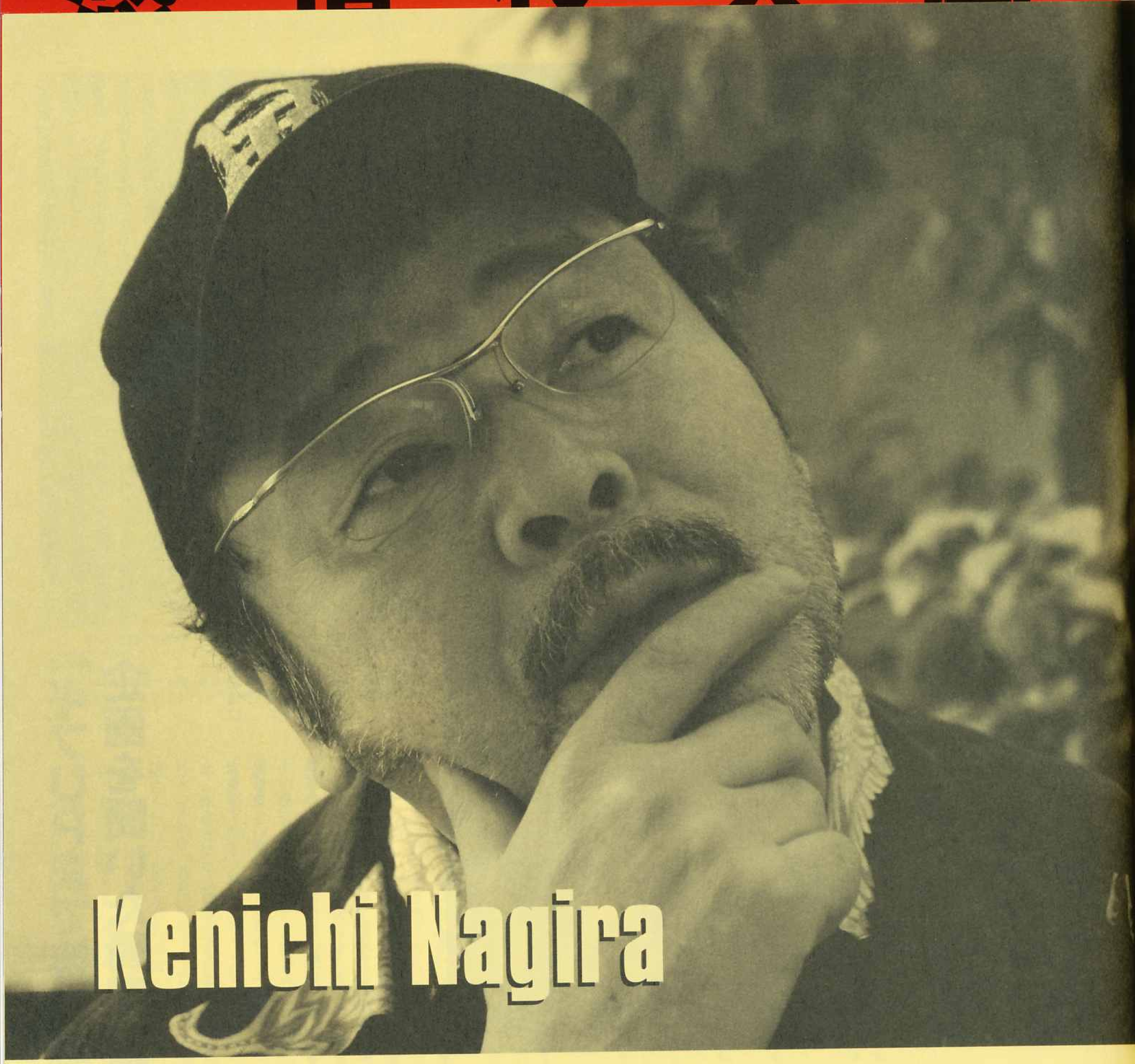
——ガハハハハ！　あの炎の謎はまだ解けませんか（笑）。

なぎら　だってさ、シークは一回も手をタイツの中に入れてないんだよ。ビデオで火が出る5分前ぐらいから見て、手を入れないから、「もっと前かな？」とか思って10分前から見ても、どこにも手を入れてない。リング下にも手を伸ばしてないし。それなのに急に手を開いたら火がブワーッて出たでしょ、あれいまだにわからないんだよ。研究しちゃったもん。

——そういう謎っていいですよね。



感情持大国



Kenichi Nagira

なぎら　カブキの毒霧なんかもそうでしょ？　あれだって「じつはこういう仕組みになってます」って言われたらおもしろくないよ。それから、最近はレスラーの異名がおもしろくなくなっちゃったよね。

――ああ。「人間発電所」とか、「地獄の料理人」とか、そういうのが。

なぎら　そうそう。俺、一番凄いと思ったのが、プロフェッサー・タナカね。

――どんな異名でしたっけ？

なぎら　「東亜の悪魔」っていってたのよ。カッコいいなぁと思ったね。アジアとか東洋じゃなくて〝東亜〟の悪魔っていうのがいいよね（笑）。

――そういう意味では、昔の異名ってセンスありましたよね。

なぎら　あったよね。昔、『タモリ倶楽部』でその異名でカルタやったことがあって、私が90パーセント取っちゃって番組にならなくなっちゃったの。

――ガハハハハ、それは独壇場ですよね（笑）。

なぎら　だってみんな知らないのを知ってたからね。あれ、みんな『東スポ』の記者とかがつけてたんでしょ？

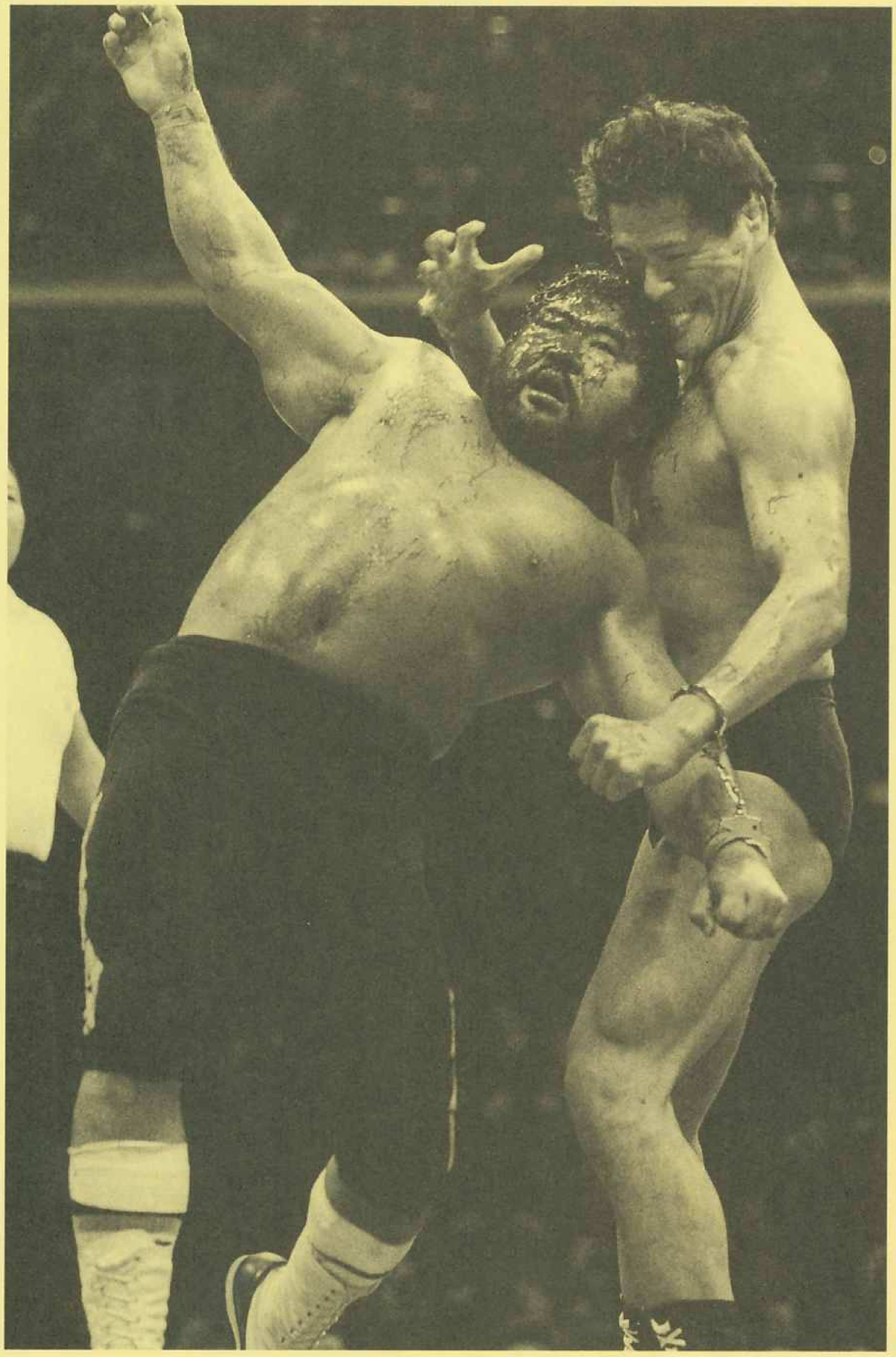
――そうらしいですね。『東スポ』と言えば、なぎらさんには「ラブユー東京スポーツ」という名曲がありますけど（笑）。

なぎら　『東スポ』も一面にプロレス持ってこなくなってからあまり読まなくなっちゃったな。

――あ、そうなんですか？

なぎら　いまはサッカーとかが一面になってるでしょ？　それじゃ普通のスポーツ紙と一緒じゃないか、と。やっぱり『東スポ』もテレビ東京と同じでさ、他局が緊急ニュース特番やってるのにテレビ東京だけ時代劇やってるようなね（笑）、そういうおもしろさがほしいよね。

――プロレス同様、『東スポ』も本来持ってるおもしろさが失なわれてきてますよね（笑）。芸能界にプロレスファンってまだけ



っこういると思いますけど、そういう話をされる方っています？

なぎら　いまはあんまりないですね。K―1とかのほうが主流になっちゃったから、そっちの話はあるけど、プロレスっていうのはないですね。団体が多くなりすぎちゃったというのもあると思うんだけどね。昔は「どっち？」って言って「俺、新日」。「おおっ！」って握手して。で、「全日」って言うと「どこがいいんだよ～？」とかっていうのはあったけど（笑）。

――「どっち？」だけで話が通じるのがいいですよね（笑）。

なぎら　そう。新日派か全日派か、それだけで論争できたんですよ。「ガチンコやったら鶴田だよ」「うるせえ、冗談じゃねえよ！　猪木のほうが上だよ。そもそも鶴田は絶対、新日に来たかったんだから」とか言って（笑）。

――美しい時代ですね（笑）。いまは会場に行くことはあるんですか？

なぎら　行かない。行かないっていうか、チャンスがないね。もともと会場に行って熱くなるタイプじゃないんだけどね。もう2～3年行ってないな。誰かに会ってチケットもらったりすると行くけども。

『ギブUPまで待てない！』は最初に企画を聞いた瞬間「嫌だな」と思ったね

――冷めちゃったっていうのはいつぐらいからですか？

なぎら　いや、そんな冷めてないってば。

――あ、そうですか？

なぎら　冷めてないけど、機会を逸しちゃうと見なくても大丈夫になっちゃうんだよね。映画と同じでずっと見てると行かなきゃいけないような気になるけど、行かなくなっちゃうとべつに行かなくてもいいやってなるでしょ、そういう状態。

――なるほど。

なぎら　ただ、こないだのね、和泉みたいの見ちゃうとやっぱり冷めちゃうかな。よせやい、と。あのときボロクソにやられちゃえばよかったんだよね、母親も含めて。そしたらあの団体見直したけどな。

――節子ママがパワーボムで叩きつけられたりしたら凄いですけどね（笑）。なぎらさんにもハッスルから何かしらのオファーがあったらどうします？

なぎら　やらないよ！　俺がリングになんか上がったら、それがプロレスを小バカにしてることになっちゃうからね。

――プロレスが好きだからこそ、自分が何かやったりはできない、と。

なぎら　ああ、そうだね。嫌だよ、あんなもん。

――でも昔、『ギブUPまで待てない！　ワ

『ギブUPまで待てない！ワールドプロレスリング』とは？

87年4月、視聴率低下へのテコ入れとして、山田邦子を司会に、男闘呼組、なぎら健壱、志村香らがレギュラーとなり、バラエティ形式に生まれ変わった新日本プロレスのテレビ中継番組。しかし、試合中に突然、山田邦子の顔が画面一杯に挿入されたりする構成が、当時はバリバリの硬派揃いだった新日ファンの怒りを買い、視聴率はますます急降下。あっという間に元の中継スタイルに戻り、伝説の番組となった。

感情持大国

馬之助みたいな本物のヒールが出てきてほしい　それがプロレス界に必要不可欠だと思いますよ

ールドプロレスリング』には出演されてましたよね？（笑）。

なぎら　よく知ってますすねえ！

——もちろん知ってますよ。あの番組インパクトは絶大でしたから（笑）。

なぎら　あれも、当時、テレビでプロレス離れが始まってて、ちょっとバラエティ色を出したいということで、男闘呼組と山田邦子と俺を使って、あんなふうになっちゃったんだけど（笑）。俺は最初の企画を聞いた瞬間、嫌だなと思ったの。

——ファンの反発が凄かったですけど、やっぱりファンの心がわかるだけに。

なぎら　そう。もうちょっと違うやり方があるんじゃないかなと思いましたね。だって男闘呼組なんかはプロレスが好きだったからいいけど、山田邦子を使うのはダメだよね。だってプロレスのプの字も知らないんだから。

——試合中にその邦ちゃんのしかめっ面がアップになったりしてたんだから、それは反発も食うだろうって（笑）。他のタレントさんっていうのはあの番組をどう思ってたんですか？

なぎら　いや、話さないもん。

——あ、話さないんですか。全体的に打ち合わせとかないんですか。

なぎら　ないない。選手のインタビューとかだって打ち合わせなしだよ。マサ斎藤が海賊男に手錠かけられたあと、インタビューしてくれって言われて楽屋行ったらさ、斎藤さん楽屋でビール飲んじゃってるんだよ。

——ダハハハ！　本番前に（笑）。

なぎら　あの人、凄い上がり症じゃない。それでビール飲んじゃってたんだけど、もうそれだけで嫌じゃない。それで本番では俺、手錠かけられてさ（苦笑）。

——「こんなんで試合ができるか！」って、なぜか海賊に代わってなぎらさんがマサさんに糾弾されたんですよね（笑）。

なぎら　うん。それで次の週では「長州にインタビューしてこい」って言われて。で、レスラーのインタビューはビール飲むのもアリなんだなと思って、今度はこっちがビール飲んで勢いつけたら、長州さんが「うわっ、酒臭え！」って。嫌な顔されてさ、こっちは下向いちゃったよ。

——飲酒ＯＫはマサさんだけだったんですね（笑）。直接レスラーと話す役っていうのは、必然的にプロレスがわかるなぎらさんに回ってきてたわけですか？

なぎら　うん、他はみんなわかりませんから。で、山田邦子は馳とあんなことがあったから、断られちゃって。だからお鉢は回ってくるんだけども、参ったなっていうね。

——あの番組でのなぎらさんは、テレビタレントとプロレスファンの板挟みで、僕もテレビを見て子供心に大変だろうなと思いましたよ（笑）。

なぎら　俺はプロレスファンではあるけど、本人がどういう人間性かなんて知らないからさ、それが一番怖いんですよね。あとで斎藤さんがビール飲んでたのは、上がらないためだって知ったんだけど、最初に楽屋に行ったときは知らないからさ。嫌だよ、ドア開けたらマサ斉藤がビール飲んでるって（笑）。

——そうですよね（笑）。では、お時間も残り少なくなってきたので、最後に、今後のプロレス界に期待することをうかがって終わりにしたいと思うんですけど。

なぎら　やっぱり個性はいいんですけどもね、個性のあり方が違っちゃってるというか、ショーマンシップがね、我々のお笑いの世界では「笑われるな、笑わせろ」というのがあるんですけど、プロレスにもね、そういうものがあるんじゃないかなと思うんですよ。そこをはき違えるとホントにお笑いになっちゃうからね。あくまでもレスリングっていう名前があるんだから、そこに則ってほしいなっていう感じはあるんですよね。いまへんな方向に向かっちゃってるけども、本来プロレスは、K—1を含めていろんなものに勝てると思うんですよ。それがなぜ勝てなくなったかっていうね、自分たちの首締めてんじゃねえかなって気がしちゃうんですよね。そこを自分たちで考え直さないと、もっと落ちていくんじゃないかな。ホントに『PRIDE』とか『HERO'S』のほうがプロレスの要素を持っちゃうからね。

——プロレスよ、プロレスを取り戻せっていう感じですかね。

なぎら　うん。何がファンをワクワクさせるかっていうことを考えてくれないとね。確固たる信念を持たないとダメですよ。上田馬之助みたいな、誰一人好きになれないっていうヒールが出てきてほしいですね。いまのヒールは好きになれちゃうから。

——逆に応援されてますからね（笑）。

なぎら　シンや上田は、出てきた瞬間、客がバーって逃げちゃうんですから。そういうのが出てこないと。

——客が逃げながらも遠くからものを投げるような（笑）。

なぎら　うん。そういう本物のヒールがプロレスには必要不可欠だと思いますよ。

【06年5月31日、都内の喫茶店にて収録】



なぎら・けんいち■1952年4月16日、東京都に生まれて以来、葛飾区、江東区と下町に住む。70年、中津川フォークジャンボリーに「怪盗ゴールデンバットの唄」で飛び入り参加したことがきっかけでデビュー。現在に至るまでフォークシンガーとしての活動のほか、テレビ、ラジオ、執筆等で活躍。著書に「日本フォーク私的大全」「酒場漂流記」「下町小僧」「東京の江戸を遊ぶ」「ぼくらは下町探検隊」「歌い屋たち（長編小説）」などがある。



吉田豪のセメント!! スーパースター列伝
ストロング小林
田代まさし
猪木快守
ディーデス・ハンソン
阿修羅原
鶴見五郎
サムソン・クツワダ
康芳夫
倉持隆夫
田中健一
小川宏
パート1
kamipro終身名誉アドバイザー
吉田豪
セメントインタビュー
11連発
必読! プロレスインタビュー本の最濃傑作!
驚ガクの全344ページ!!
プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!
全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判 344ページ
定価=1890円（本体1800円+税）
enterbrain
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
TEL.0570-060-555（代表）
［通信販売のお問い合わせ先］
http://www.enterbrain.co.jp/
吉田にニラまれたら、生きてる心地がしない。
リリー・フランキー

感情技大国 KOREA



いつ何時、“喜怒哀楽”大放出!!

根源的な格闘ロマン、ここにあり













6·3 K−1アジアGP現地潜入レポート

選手、ファン、イベント。すべてにおいてとにかく激アツの韓国格闘技界!!
あのコールマンの親父もおそらくたじろぐ感情の波動砲ぶり。
そこから観る者の心を惹いて離さない、根源的な格闘ドラマが生まれてくるのだ。

構成／ジャン斉藤　撮影／e_ji　designed by Tani-yan(Two Three)



大会MVPはキム・ミンス!! デタラメなローカットを見よ!

ハルンバ谷川氏大絶賛のメロンアイスだった!?

ジアGP、大スキ♥

文/ジャン斉藤

「年間ベスト興行、決定だな」カード発表以前から、本誌編集次長の松林貫が真顔で大絶賛、韓国行きをいち早く宣言していた6・3K—1アジアGPソウル大会。

たしかにメンツがナウイ!! 重量感と根拠なき自信たっぷりのシルム戦士、中国・散打からの刺客に、イラン代表で「男組」所属という池上遼一イズム溢れるメハディ・ミルダブディ、そしてなぜか柔道王キム・ミンスまでもがアジアGPにエントリー。そのうえ開催地が激アツのお国柄で知られる韓国ときたもんだ! まさに〝最高級のオバケ屋敷〟的な怪しい世界に魅せられて、勢いに任せて大会前々日にソウル入り。すると、さっそくサダハルンバ谷川・K—1プロデューサーが期待に応えてくれた。

それは、砲丸投げのランディ・キムのK—1参戦を現地で電撃発表! ……ほ、砲丸投げ!?

ランディは「陸上競技をベースに格闘技で闘う」という驚ガクの〝陸上サイコー!!〟宣言! 「韓流スター、イ・ビョンホンの親戚」という触れ込みもあるが、まさしく〝ザ・K—1〟!! 競技的視点から見れば、「受け入れのハードルが低い!」と良識派に一喝されかねないわけだが、この隙だらけに見えるK—1の懐の深さがアジアGPを奇跡的な興行と仕立て上げることになる。

このアジアGPの主役として出場したのはシルム勢やキム・ミンスだが、K—1初心者の彼らは言うまでもなく技術度は相当に低い。大会開幕式に花を添えたテコンドー少年少女団の華麗な足技に万雷の拍手を送った韓国の観客たちは、もちろんそれを知っている。そして自国の英雄だから力を込めて応援していた雰囲気はそれほどなかった。彼らの感情という名の波動砲っぷりに熱狂している節があった。

過剰すぎる人間性の爆発。つい最近父親が急逝し、その遺影をセコンドに持たせ、ワンワン大泣きながら入場したキム・ギョンソックも凄かっ

どこか憎めない
キム・ミンスのデタラメ劇場



ラリアットっていうか、フライング・ボディ・パンチ・アタックとでもいうべき突貫戦法で相手に挑んだミンス！　キワの攻防は柔道王だけに見事であり、相手からするとやりにくくことこの上ないよ！



攻めっぷり同様、やられっぷりも見事!!　金的攻撃を食らった際なんて、そこまで痛がるかよ!?　というヘナヘナ状態で（本人からすれば大変だろうが）会場中の爆笑を買った。伝える才能、ありすぎ!?



デタラメながらなぜかその攻撃がよく当たる!! 本人曰く「根性と体力だけで闘った。満足してない」と技術向上の目を輝かせたが、こちらの勝手な希望としてはこの姿勢のままでイケ!!　である。

考えるな！ 感じるんだ！ K−1ソウルトピックス



韓国では前売り券を購入する習慣がなく（加えて無料で観るもんだという意識もあるそうだ）、テレビ生中継もされるため客入りが非常に心配されたが、ふたを開けてみれば1万4800人の大入り！



観客のK-1リスペクト熱はとにかく凄かった。レイ・セフォーvsルスラン・カラエフ戦がアナウンスされると「待ってました!!」とばかりに大喝采!　試合はセフォーがブーメランフック一撃で秒殺KO劇!!



K-1アジアGPを制したのは藤本祐介。冷静に振り返れば、実力的に当然の結末なのかもしれないが、何が起こるかわからないムードが館内には漂っていたのだ。これにより藤本はK-1WGP開幕戦出場権を獲得。



“不沈韓”チェ・ムベを会場で発見！　しばらく試合から遠ざかっているが、次戦のリングはどこなんだろう？　気になるムベさんの近況は、70ページからのインタビューを読んでください!!　フィーバー！



シルムから転向した“闘う橋本宗洋”キム・ドンウックが藤本相手にK-1デビュー。敗れたが判定まで持ち込んだ。そのパワーと打たれ強さは驚異的。今後、磨けば痩せる……じゃなくて光るか!?



これがサダハルンバ氏大絶賛のメロンアイス（50円ぐらい）。40本近くそのアイスを買い付けて、食事会で前田日明、曙、マスコミ＆関係者らに配布。みんなでアイスをほおばる異様な光景だった。訪韓の際には絶対に食え！



メインには国民的英雄ホンマンが登場！　大方の予想を覆しシュルトを判定で破るサプライズ！　判定にはマスコミ、ファンから非難の声も挙がっているが、倒せなかったシュルトの不調が際だっていたと言える。



曙さんも来場！　前夜の食事会ではチョーゴキゲンで噂されている『HERO'S USA』で、なんとブロック・レスナー戦に意欲を見せていた。しかもオクタゴン使用を熱望！　はぁ～、ドスコイ!!　ドスコイ!!



判定で中迫強に敗れてしまったガオグライだが、毎年アジアGPで大活躍しているせいもあっても、現地人気はメチャクチャ高い!!　ホンマンは別格としてアーツ、セフォークラスの大歓声！



超一流の

大熱風のK−1ソウル！ 発火点はサダ

感情技大国
KOREA
喜怒哀楽の大熱風

スキだらけのア

たが（敗戦退場時は技術の未熟さにまたも大泣き）、ミンスの表現能力はズバ抜けていた！

金的攻撃を受ければ、まるで人生の絶望を迎えたかのようにへたり込み、相手の猛攻にうしろを向いて逃げたかと思えば、相手がスリップ気味に倒れたところを卑怯にも襲撃。パンチというかフライング・ボディアタックというか、身体ごとぶつかっていく〝打撃〟で前に出て、あげくの果てには相手を場外に放り投げようとする始末！

人間性がモロ剥き出しだ。じつに隙だらけである。だからこそ、逆に観客はミンスのデタラメワールドに没頭しやすい。そしてキックボクサー相手からまさかのダウンを強奪すると、それまで呆れ笑っていた観客たちは、一斉に熱狂的な笑いをミンスに浴びせた。だらしなさからの反動もあって、ハートをガッと鷲づかみにされたのだ！

これまで馬鹿馬鹿しさと笑いだけが支配した試合は掃いて捨てるほどあったわけだが、こんなドラマ感たっぷりの「客に笑われていた」人間が「客を笑わせる」までに至る転換劇はそうそう生まれるもんじゃない。ホンマンばかりに目がいきがちだが、じつはミンスのデタラメパワーなくして大会全体の盛況はなかった。

技術的には本来、出場資格が問われるミンスを受け入れたK−1の懐の深さ、もしくは、いい意味でのなんでも来いの隙だらけの姿勢。

そういえば、大会前夜のマスコミ＆関係者出席の食事会。谷川氏はお気に入りの50円のメロンアイスをほおばりながら「んあ～、うまいよぉ！」と、一人夢心地……黙々とアイスを舐める、舐める、舐める！　あ、もう一本食った！

人間性がモロ剥き出しだ。これもいい意味でじつに隙だらけである。その隙だらけの懐だからこそミンスが転がり込み、うまくピタリと納まった。隙だらけにも超一流から三流まであるってことを韓国でメロンアイスに教えられた。

ホンコンVSシュルト　微妙な判定に論議ボッ発!!



韓国国民はこう見た!!

戦前の予想を覆すかたちでホンマンがシュルトに判定勝利!!　わずかデビュー1年であのシュルトを苦しめたホンマンの急成長ぶりには驚かされたが、今回の判定に「ドローでよかったのでは?」という声も多数挙がっているもの事実である。はたしてホンマンを"国民的英雄"として捉える韓国国民は、この結果をどう見ているのか? 韓国在住の日本人、大川"隊長"義之氏に探ってもらった。

文／大川"隊長"義之

感情技大国
KOREA
喜怒哀楽の大熱風

2003年に総合格闘技が韓国で初めて開催されて以来、テレビを通してのファンは増える一方だったが、決して会場にまで足を運ぶファンが多くなったわけではない。韓国の老舗格闘技団体SPIRIT MCはある程度の知名度を誇りつつも、毎回の大会では3000人程度の集客力しかない。K-1のタイトルを被せていても、KOREA MAXなどでは客入りで苦戦しており、決して現在の韓国格闘技の景気はよくないのである。

それがチェ・ホンマンになると話が違う。前回、曙とチェ・ホンマンが闘った2005年のソウル大会では2万人近くの観客を呼び入れ、今回も1万5000人の観客が会場に押し寄せた。

視聴率の面でもホンマンはその体格同様、規格外。韓国ではホンマンは全盛期のボブ・サップを凌ぐような視聴率モンスターであり、対ボブ・サップ、対ボンヤスキーなどの試合で次々にケーブルテレビの最高記録を打ち立ててきた。今回のK-1生中継もケーブルテレビで最高の視聴率を記録。あらためて視聴率の面でも「ホンマン強し!」を印象づけた。韓国におけるホンマンの注目度というのは、戦後の力道山を彷彿させるものがある。

興奮しやすい民族だからか、試合になると会場の熱気が凄い! 第一試合からの声援がすでに「できあがっている」のだ。興奮した観客の血はあちこちに飛び火し、観戦中も僕の横で警備員と客が些細なことで大喧嘩したりと、ともかく熱い。試合に対しては、ホンマンが少しでも攻勢に出ると会場は総立ち。あまりに興奮した韓国人の観客からは「殺せー!」「埋めちまえ!」などのアブナイ声援も飛び交う。その熱気はファンだけでなく、記者席でも同様だった。大会後、興奮した様子である記者に「どっちが勝ったと思う? あれでホンマンの勝ちなんてありえない!」と問い詰められたので、「いやぁ……韓国での試合なんだし、ホンマンの勝ちでいいんじゃない?」と言うと「いや、こんなんじゃダメなんだよ!」と絶叫。韓国大会のメインで国民的ヒーローが勝って大団円を迎えたというのに、ホンマンに対する入れ込みようはハンパじゃないのである。これもホンマンには人気だけじゃなくて、本当に「強い」ヒーローになってほしいという気持ちからなのだろう。

オンライン上でもホンマンの試合は大人気。試合内容や結果を報じる書き込みには、かならず多数のレスがつく。今回の試合については、「シュルトが負けたというより、勝てなかったということ。シュルトが勝とうとするなら、敵地でしかも格闘技初心者のホンマンに、もう少し差を見せつけるべきだった。結果に不服でも『今回は自分が負けたから、次また闘おう』という姿勢がチャンピオンには必要」というクレバーな書き込みもあれば、「あんな内容で判定勝ちなんて、本当に恥ずかしい」という意見もあった。全体的にはホンマン支持が8で、残りの2が判定に異議を唱える割合だったか。

今後も、国民全員が見守るホンマンの活躍が、韓国格闘技界浮上のカギであることは間違いなさそうである。



なんとセカンドシーズンの放映が決定してしまった『Go！スーパーコリアン』。今度はどんなスーダラな逸話が飛び出すか？ファーストシーズンのトンデモぶりは前号の同連載で要チェック!! 写真の4人は番組の主人公たち。向かって左からチェ・ヨン、イ・ジェソン、ペク・ジョングォン、イム・ジェソクだ。

인사이드 코리아

インサイドコリア

韓国格闘技界の明るい未来!?

第4回

ズンドコ進行な韓流リアリティ・ショー

『GO! スーパーコリアン』の誤算［後編］

前回から紹介している韓国の画期的な格闘技リアリティ・ショー『Go スーパーコリアン!』は、オドロキがいっぱい!……なのは、視聴者だけでなく、出演者やスタッフにとっても同じだったようで、後半は当初の番組の目的が覆されるような数々の誤算に見舞われた。それは企画の立て方が甘すぎたということに尽きるだろうが、こうした迷走を繰り返す展開も韓国らしいと言えるかも。今回は、その様々な誤算を紹介!

文／大川“隊長”義之

●誤算その一 『ミドル級GP優勝者の負傷』

当初『Go～』のゴールはSPIRIT MC（以下SMC）ミドル級GPの優勝者を『PRIDE』に参戦させることだった。ところが、大会では連続KO勝ちでイム・ジェソクが優勝！……したのはいいが、イムは試合中に右拳を骨折。骨折はかなり深刻なもので、少なくとも番組の放送期間中にイムを『PRIDE』へ送ることが難しくなってしまった。この予測していなかった事態に対して『Go～』がとった策は、競争相手だった4人の選手をすべて残し、彼らに世界で通用するファイターとして、最高の環境でトレーニングさせることだった。しかし、チームメイトとして練習することになった4人は友だちのように親しくなり、この時期から番組的に激しく緊張感がなくなって面白味が激減。いいのか、これで……。

●誤算その二 『PRIDE』との交渉が難航

年末には番組で05年の『PRIDE男祭り』現地観戦を企画。もちろんこの企画の裏では、DSEの幹部と会って『Go～』の4人組の中の何人かを『武士道』に出場させる交渉も予定されていた。ところが、格闘技ビジネスというものに疎い番組スタッフは、ブッカーという立場を無視して直接交渉してしまい、結局DSEとの交渉は不調に終わってしまった。その後、『Go～』は『PRIDE』に選手を上げるという方向性を変えて、シュートボクセやBTT、レッドデビルで選手に特訓させようとしたが、これも窓口になったDSE側と交渉が難航し頓挫（早い話が『Go～』の予算不足だった）。結局彼らを受け入れてくれたのは、韓国系の血が四分の一ほど入っているB・J・ペンだった。……って、B・J・ペンってUFC／K―1系列じゃん！……気づいたら『PRIDE』からドンドン遠ざかっていく『Go～』なのだった。

●誤算その三 番組の大詰めで故障者続出！

番組が進んでいくと、イムのほかにも故障者が続出。ペク・ジョングォンは足首の靭帯損傷、イ・ジェソンはヒザの靭帯を損傷してしまう始末。無事だったのはチェ・ヨンただ一人だけ。彼らの状態を見ても、番組撮影の時期は、トレーニングが必要な時期ではなく、むしろリハビリと休息が必要な状態だった。このあたりがリアリティ番組の難しいところだろう。しかし、故障者が続出した責任は選手側にもあり、4人に基礎体力テストをしたところ、ペクとイは「一般人の体力レベル」と酷評（！）されるなど、アスリート用のトレーニングに必要な基礎体力が、選手に備わっていなかったとも言える。番組後半になると、故障していた3人の体調も上向いていったが、最後にまたB・J・ペン道場の実戦スパーリングで、イムが右拳を再骨折、ペクは鼻骨骨折、イも拳を負傷し、3人とも番組のクライマックスに設定されていたSMC8を欠場。結局番組の最終回はチェ一人でSMC8に出場することとなった。結局『Go～』で、最後まで過酷なトレーニングを無事にこなしたのは、彼一人で、SMC8でも海外の強敵相手に見事メインで勝利。こういう結果を見ても、この番組で真に『スーパーコリアン』として生き残ったのは、チェ・ヨンだったということだろう。

以上のように様々な問題もあったが、それなりに各方面で好評だったそうで、なんとシリーズ化されることが決定！ 大丈夫かよ!? この夏には70キロ以下の選手を16人集めてTUFばりに各週ごとに、選手ふるい落としていくシーズン2が予定されている。こちらもどんな内容になるか、（いろんな意味で）いまから楽しみである。

韓龍格闘技ノンフィクション劇場



感情技大国 KOREA 喜怒哀楽の大熱風

悲劇の韓流スターを独占直撃!!

釜山の重戦車

チェ・ムベ

“消えた”韓国初PRIDEファイターの現在

フィーバーポーズ、もう一丁!!

韓国人として初めて『PRIDE』のリング登場。
不屈のガッツと絶対に退かないファイトスタイル、そして勝利のフィーバーポーズがウケて一躍、
人気者になったムベさん。しかし、ファンに何も告げずに忽然と
『PRIDE』のリングから姿を消してしまった。いったいムベさんの身に何があったのか？
いますぐ抱きしめたくなる内容のインタビューをムベ!! ……じゃななくて、読め !!

聞き手／ジャン斉藤　通訳／大川“隊長”義之

designed by Tani-yan（Two Three）

——ムベさん、お久しぶりです！

ムベ　アンニョンハセヨ！　ようこそ韓国へ、そして我がチーム・タックルのジムへ。

——再会できて光栄です！　ムベさんの闘う姿が日本や韓国で観られなくなって久しいので、熱狂的な〝フィーバー・ファン〟はムベさんのことを心配してたんですよ。

ムベ　ご心配なく。いまは心安らかだよ（ニッコリ）。

——心安らかですか（笑）。

ムベ　うん。とても心安らかに過ごしてるよ。最近はジムの運営が忙しいけど。名刺を持っていろんなところへ挨拶に回って、協力をお願いしたり。

——なんだか、以前より肌つやがいいような気がするんですけど。

ムベ　ああ、昔は試合前になるとプレッシャーを強く感じていたし、連戦だったこともあって疲れていたのかもしれないな。いまは疲れやストレスがない状態なので、顔つきもよく見えるんじゃないか。身体的には非常に楽な状態なので調子がいいよ。

——『PRIDE』に参戦していた頃はやはりストレスがありましたか？

ムベ　そうだね。でも試合をする以上、それはいたしかたないことだから。常にトレーニングを積んでなければいけないこともあったしさ。

——そうやって前線で活躍されていたムベさんが突然『PRIDE』を離れたことで、多くのファンは「どうして!?」という疑問と寂しさを胸に抱いてるんですよ。

ムベ　『PRIDE』を離れたことか……。もう過去のことだから、べつに振り返る必要はとくにないところもあるんだけど、まあ、すべては俺と『PRIDE』のあいだにあった誤解が原因だろうな。

——誤解ですか？

ムベ　うん。俺は『PRIDE』というリングで、韓国人ファイターの地位を高めようと闘っていた。そして高まったと俺は思う。でも、それ以外にプロファイターとして得られるものはあまりなかったんだ。

——それはズバリ、待遇面の問題に……。

ムベ　（さえぎって）いや、それは『PRIDE』が俺を評価しなかったということじゃなくて、お互いが話し合いを持たないまま時間が過ぎてしまったということなんだ。



レスリング仕込みのタックル、ぶっこ抜きスープレックスを武器に『PRIDE』で快進撃を続けていたムベさん。打撃や寝技の不器用さも、泥臭い魂をファンに伝える一種の武器であった。

俺がPRIDEを離れた理由？　それは誤解が原因だろうな

結局、すれ違いのままいろいろな問題が起こる中、ご存知のように関係が清算されてしまったんだよ。

——もし『PRIDE』とムベさんがちゃんと向き合っていれば、あのまま『PRIDE』に出場されてたんですかね？

ムベ　そうだね。いまでも青いオープンフィンガーグローブを着けて闘っていたはずだよ。だって俺は昔から『PRIDE』というリングが大好きだったんだ。あの場所から離れるということは、すごく寂しいし、悔しい気持ちがあったしね。

——う～ん。それならば……という気持ちがあるんですけども。

ムベ　言いたいことはわかる。でも、やっぱり世の中、どうやったってきれいにまとまらないものもあるだろ？　これは誰かが悪いわけではなく、俺も最善を尽くしたし、『PRIDE』も最善の仕事を尽くそうとやっていた末に起こった出来事だから。その証拠に、悪いこともあったけど、それ以上にいいこともたくさんあった。『PRIDE』との関係を清算しようとした頃、俺はいろいろな人に対して誤解や反発が強くあったけど、いま考えるとみんな自分の仕事をまっとうしようとしていたと理解できる。うん。

——そうですか……。だからこそ、寂しい結末ではありますね。

ムベ　正直に言って、『PRIDE』にエネルギーを注いできた時間が途絶えてしまって、それを残念に思ったり、未練を感じたりすることもあったよ。それは俺が一番、強く感じていることだから。

——そうですよね。他人にあれこれ言われても、ムベさん本人が一番、身に染みてますよね。

ムベ　ただ、俺は韓国格闘技界の先駆者という自負がある。韓国人ファイターの地位を高めるために未開の地を切り開かなきゃならない。そのためにある程度、犠牲にならなくてはいけなかったのかもしれないな。こうした契約や待遇面での誤解が今後の韓国人ファイターにとって、大きな教訓や知恵になればいいかなっていうべきか。

——ムベさんには、これからの選手の〝糧〟や〝土台〟になる覚悟があるってことですね。

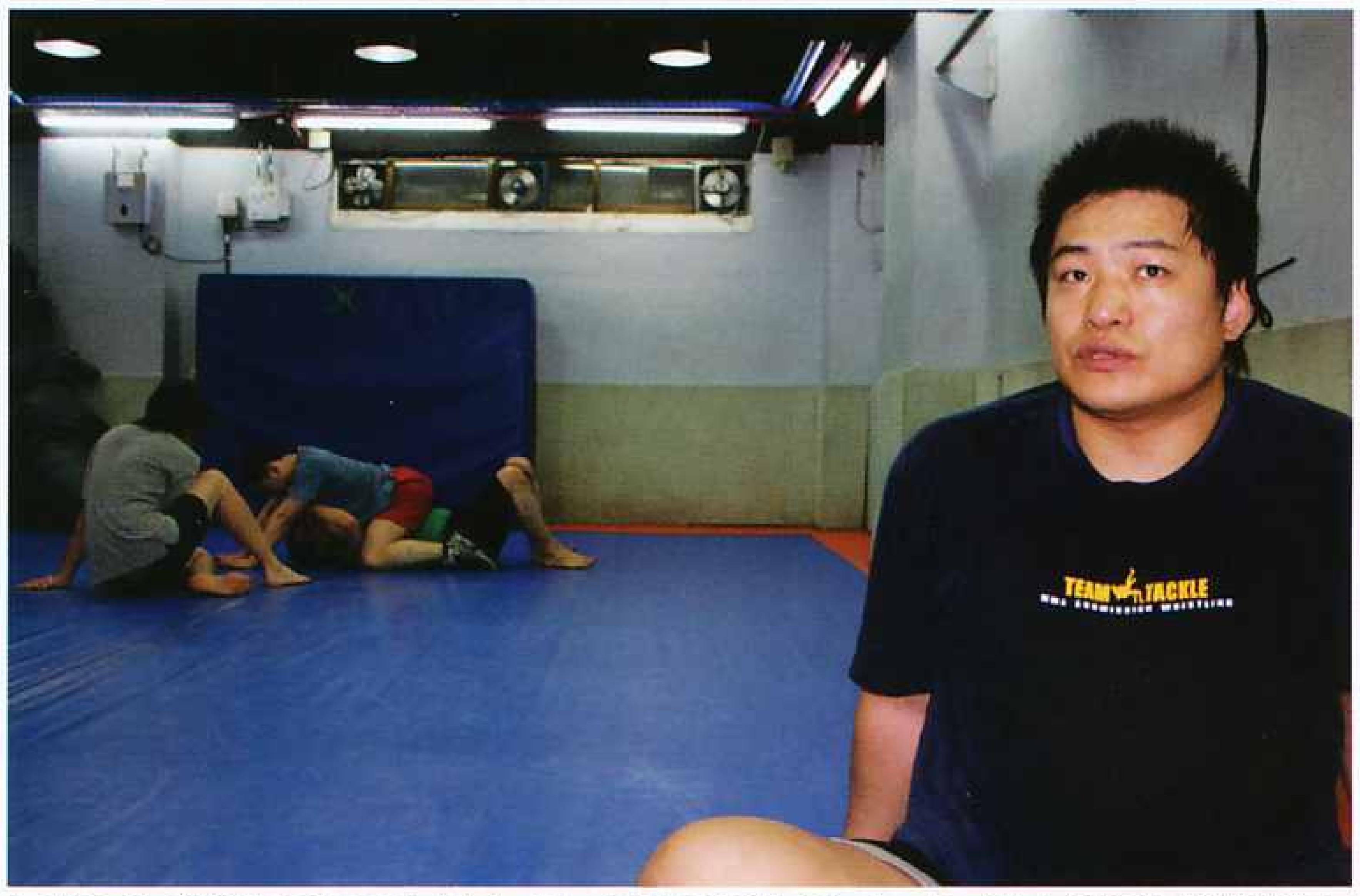
ムベ　それが少しのあいだだけリングを遠ざかることならば、俺は受け入れられるし、自分はそれが悲劇的なものだったとは考えていない。なぜなら俺の格闘技人生は、これが終わりだとは思ってないから。収穫できなかった果実はあったかもしれないけど、これからも選手として生きていくうえでまだまだその実を収穫することは可能だし。

——この挫折はムベさんにとっても、今後への教訓になったところがあったのかもしれないですね。

ムベ　そのとおりだね。もっと頑張らないといけないと強く思ったよ。俺は地道にレスリングの競技生活を送ってきてて、国際大会で金メダルは獲れなかったけれど、ジュニアの頃から韓国代表選手として10年以上やってきた。そんな豊富なアマチュアの経歴があったうえで、いまは総合格闘技のプロとしてやっているんだ。最近はいろんなジャンルのアスリートが総合格闘技に転向してるけど、そういうときに先駆者である自分が夢のないような生活を送っていては、誰も総合格闘技をやりたがらないだろ

うから。
——そういえば、今日のK−1の会見で、砲丸投げのランディ・キム選手のデビューが発表されたんですが、それはご存知ですか？
ムベ　いや、知らない。砲丸投げの選手？
——はい。もう一つの売りは〝イ・ビョンホンの親戚〟ということで（笑）。
ムベ　それなら、俺だって知ってる有名人ならいっぱいいるよ。ペ・ヨンジュンだって知ってるし!!
——ダハハハハ！　これからは〝ヨン様を知ってる男〟をキャッチフレーズにしますか（笑）。
ムベ　関連づけするのなら、なんでもできる（笑）。
——で、日本では草分け的な存在だったムべさんが『PRIDE』に出なくなったと同時に、チェ・ホンマンやユン・ドンシクの格闘アスリートばかりか、砲丸投げの選手までも登場している現状や、その彼らが恵まれた環境で闘えるということには、正直どういう心境なんですか？
ムベ　正直に言って、複雑な気持ちはあるよ。ただ、彼らがスターとしての待遇を受けているのなら、俺が一生懸命頑張ってきた甲斐もあるよね。だからいまの地位を崩すことなく、彼らには精一杯頑張ってほしい。もっともっと格闘家としての地位を高めてほしい。そういう視点からすると、チェ・ホンマンのことは高く評価しているよ。





ムベさんが一線が退いて久しいこともあって、ムベさんのジム「チーム・タックル」も噂では「開店休業中」と囁かれていたが、なんのなんの!!　元気に活動中！　お世辞にも設備が整ってるとは言い難いが、それもまたらしくて雰囲気抜群なのだ。

——興行論からいえば、ホンマンは運営側の期待に応えてますね。一方でユン・ドンシクにはどんな評価がありますか？
ムベ　彼は代表選手時代に同じ選手村にいて、よく知っているので個人的には愛情を持っている。だからこそもっと頑張ってほしいね。彼の力なら。もっとやれるだろう！って思うから。
——ムベさんはプロ格闘家として初めて檜舞台に立った韓国人ファイターになるわけですが、いまムベさんの目には韓国格闘技はどう見えるんでしょうか？
ムベ　短期間でレベルを引き上げることは可能だけど、それを実行するためには総合格闘技について充分に知識や経験がある人間がいなければならないし、一人の選手を育成するための資金も必要だ。だが、いまの韓国にはそのどちらも欠けているんだよ。そしてそれを成しうる人は、資金力と使命感を持っている人のみ。とどのつまり韓国格闘技界は俺の目から見て、発展の兆しが見えにくい状況だな。
——発展するためには興行がうまく転がっていく必要があるじゃないですか。そのためには強さに加えて、個性や華、そして集客面の力量が選手に問われてきますよね。
ムベ　それは仕方ないところがあると思うよ。韓国では産業主義の発想が強く、例えばアマチュアレスリングで言うと、トーナメントで勝ち上がってきた選手が大きい大会に出られるけど、プロの世界というのは必ずしもそうでなく、キャラクターが強かったりとか、ファンの人気があるとか、イベントの関係者に好かれたりだとか、そういった純粋な強さとは関係ない要素をもって契約がなされる部分があるから。だから

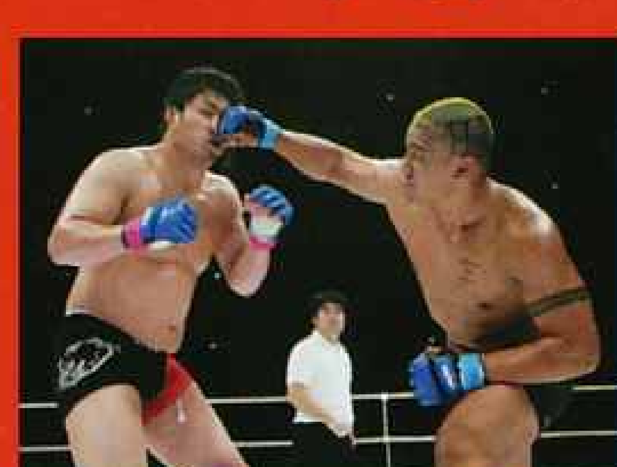
チェ・ムベ先生はフィーバ～!!　不屈の韓国魂炸裂バウトレビュー



05年2月20日『PRIDE.29』／セルゲイ・ハリトーノフ戦。あまりの残虐ファイトに対戦拒否者が続出していたハリトーノフ。しかし、男の中の男ムベさんは快諾！　残念ながらいいところなく敗れてしまったが、この心意気に多くのファンが胸を打たれた。そして、この試合を最後に『PRIDE』を離れることに……。



04年12月31日『PRIDE男祭り』／ジャイアント・シルバ戦。わずか一年で“武士道挑戦試合”から大晦日の『男祭り』出場に昇格!! 当時の『PRIDE』ではハリトーノフと並ぶ“出世魚”ぶりで、世間を賑わせていた韓流スターブームもムベさんの活躍なくして有り得なかった（気がする）。もちろん試合は快勝！



04年10月31日『PRIDE.28』／ソア・パラレイ戦。ムベさんの評価を決定的なものにしたベストバウト。ムベさんはマニアのあいだで高い評価を受けていた“未知の強豪”パラレイの強烈なパンチを何十発も顔面に受けるが、決して倒れない。唖然とするパラレイを重戦車タックルでなぎ倒し、チョークで大逆転勝利！　観客爆発！



04年5月23日『武士道・其の参』／山本宣久戦。二戦目の相手は当時・高田道場所属だったヤマヨシ。ムベさんは序盤のスープレックス狙いでスタミナを消耗してしまったが、そこから根性モードを発動!! ヤマヨシのロー連打を耐え抜き、前へ前へアグレッシブに攻めて判定勝利。名泥試合製造器の片鱗を徐々に現し始めた。



04年2月1日『武士道・其の弐』／今村雄介戦。ムベさんのデビュー戦はいまはもう実施されていない“武士道挑戦試合”（いわゆる本戦前にダークマッチ）。高田道場の今村をレスリング仕込みのジャーマンでブン投げ、バックマウントから力に任せてスリーパーで一本。自身の持ち味を活かす日本初陣となった。

逆に言うと、実力至上主義の世界で闘いたいのならアマチュアでやればいいんだよ。

―いや、それはもっともな意見ですね。

ムベ だって普通に考えたって、プロには集客力が必要だから。そこを問われるのはしょうがないことなんじゃないかな。

―ムベさんは強くてキャラもあるけど、コネが弱いということなんですかね（笑）。

ムベ そのことについてはあまり考えないようにしてるよ。

―一瞬も考えたりしませんでした？

ムベ まあ、コネクションがないということは自分でもよくわかってる。ミンスやドンシクに対して、正直いろいろ思うところも……。俺のほうが総合でいい結果を出しているのに、条件では彼らに劣っているとか。

―やっぱり、そこも誤解が生じるポイントだったわけですよね。

ムベ でも、それは過去のことだから！ そういう病んだ心境からよい結果や未来が生まれることは絶対にないし、無駄だから考えるのはやめた。それに俺は金がほしかったわけじゃないんだ。結局は自尊心の問題だったんだ。

―なぜ俺が彼らより下なんだ？ ということですよね。

ムベ でも、俺の自尊心はその問題をとうに越えたから（キッパリ）。一番恐れているのは、電車はもう出発しようとしているのに、お金のことばかり考えていて乗り遅れてしまうことなんだ。年齢の問題もあるから、やらなければいけないことに没頭したい。そんなときにお金や自尊心に迷わされたくないんだよ。



ちぇ・むべ■1970年6月27日、韓国・釜山出身。レスリングの実力者。ファンとして『PRIDE』観戦のため来日した際、ファンイベントに参加。ヒョードルとスパーする機会に恵まれ、「ただのファンじゃない」と皇帝を本気にさせたことがきっかけで『PRIDE』参戦に至る。190cm、115kg。

―はあ～、ムベさんは人間としての器がグッと大きくなった感じがしますねえ。それに、強さだけではなく客を呼べるという要素を、まだ発展途上の土壌のなかで気付いてることにも感服しました。

ムベ そうかな？

―その姿勢だから、ムベさんの試合がファンの記憶に鮮烈に残ってるんでしょうし。

ムベ （照れながら）カムサハムニダ。もしも日本のファンがそう俺を評価しているなら、ほかの韓国人ファイターには俺を乗り越えるよう頑張ってもらいたいよ。そうすれば韓国格闘技界は発展するだろうしさ。いま韓国の格闘技界には、才能に満ち溢れた選手がたくさんいる。そういう選手たちが俺と同じような挫折を味わわないような土壌ができあがってほしいね。

―そうですよねえ。

ムベ ……ま、そうは言っても、一番大きな問題は俺自身の今後なんだけど（笑）。

―ダハハハハ！ 他人を心配してる場合じゃないという（笑）。

ムベ ホントにそう。

韓国格闘技界は発展してほしい 俺の今後のほうが問題だけど（笑）

―で、『PRIDE』を離れたあとに、『HERO'S』韓国大会に出場されましたが、今後の出場予定は？

ムベ 『HERO'S』との契約は一回限り。

―そうだったんですか。さっき谷川さんと食事をしてきたんですけど、ムベさんのことを絶賛してましたよ。

ムベ そうなんだ。

―スーパーバイザーの前田（日明）さんもきっとムベさんのことを気にいると思いますし。

ムベ ああ、前田さんはキム・ミンスがデビュー戦の準備していたときに、この道場にやってきたんだよ。

―そのときのエピソードは最高ですよ！ 前田さんがムベさんをミンスだと勘違いしたまま1時間近くも打撃の指導してた……。

ムベ （まったく聞かずに）あのときは前田さんからは打撃について指導を受けたんだよ。アゴを上げないで腕を回しながらパンチを打つように、と。

―そうですか。ま、いいや（笑）。では、最後にファンへメッセージをお願いします！

ムベ 日本にはいまでも自分のことを応援してくれるファンがいるということがよくわかるので、一刻も早く日本のファンの前で試合がしたいです。それがなかなかかなえられないことが本当にもどかしい。自分のことを待っててくれるファンに闘う姿を見せること、それが自分にとって最も大事なことだから。

―わかりました。再びリングでフィーバーポーズを見られることを期待してます！

【06年6月3日／ソウル市内「チーム・タックル」ジムにて収録】

◆インタビュー後記

ムベさんは元気だった!! いや、必死に生きていたというべきか。格闘最前線から姿を消して一年。ムベさんは「誰が悪いわけじゃない」と過去を振り返っているが、急激な潮流に巻き込まれてしまった感もある。格闘技市場がまだまだ発展途上の韓国。"格闘技先進国"日本の影響をダイレクトに受け、その日本マット界が20年近くかけてじっくり歩んできた道のりを猛スピードで駆け抜けようとしている。どこかで歪みが出てしまうのは当然だ。しかし、その歪みでもがきながらも、"悲劇の英雄"を演じることもなく、ムベさんは前向きに闘い続けていた。闘う場所はリングだけではない。フィーバーポーズを作るムベさんの人差し指は、ずっと空を指差していた。ムベさん、今度はリング上で!!



あの"ストロングマシン2号の正体"を韓国サウナで発見！ キムチを漬けながら次号を待て!!



五味を破った
マーカスに完勝！
6·4『PRIDE武士道』
MVPは
この男だ！

いまこそPRIDEに芝生を!!

髙田延彦公認「さわやか」新党ファイター

石田光洋

［T-BLOOD］

まどろみ聞き手／ジャン斉藤　さわやか撮影／乾晋也　designed by bun-chan（Two Three）

自分では「さわやか」だと思ってないから。恥ずかしくなっちゃう

——今日は石田さんのさわやかぶりをたっぷりと味わいにきました！

石田　え？　さわやかですか？

——はい。昨日のマーカス・アウレリオ戦後に石田さんはマイクアピールをしたじゃないですか？　そのとき解説席の髙田本部長が石田さんのことを「さわやかだね！」って評したんですよ。しかも二度も。

石田　そうなんですか（笑）。

——はい。だから、〝ミスター・さわやか〟の髙田さんからそう言われる石田さんって、とってもさわやかなんだろうなって。

石田　ハハハ！　そうですか（笑）。

——そうなんです！　で、その髙田さんが「青春のエスペランサ」と呼ばれていた〝さわやか絶頂時代〟はご存知ですか？

石田　知らないです。ボクが髙田さんを初めて観たのは、腕十字でベイダー選手の腕を折った衝撃的な試合だったんで。

——Uインター時代のことですね。じゃあ「さわやか新党」はご存知ですよね？　Uインター時代の髙田さんが選挙に出馬したときの政党ですけど。

石田　いや、知らないですねえ。

——あ、知らない。では、石田さんが通っていた学校の校庭は芝生でしたか？

石田　（戸惑いながら）は、はあ？　違いますけど。普通の地面ですけど。

——それは残念ですねえ。ちなみに石田さんはさわやかって聞いてどういうイメージをお持ちですか？

石田　え〜、どうなんすかね。さわやかって言われても……。難しいですね。

——では、さわやかと聞いて、単純に何を頭に思い浮かべますか？

石田　う〜ん。青空かなあ。

——そういえば、石田さんのイメージカラーは青。さわやかな色ですよね。

石田　そうですね、はい。青はけっこう好きな色なんで。

——どういう理由で好きなんですか？

石田　……よくないですかね、青。

——いや、オッケーですよ、青。自分も好きですよ。でも、なんでこの色が好きなのかなと思いまして。

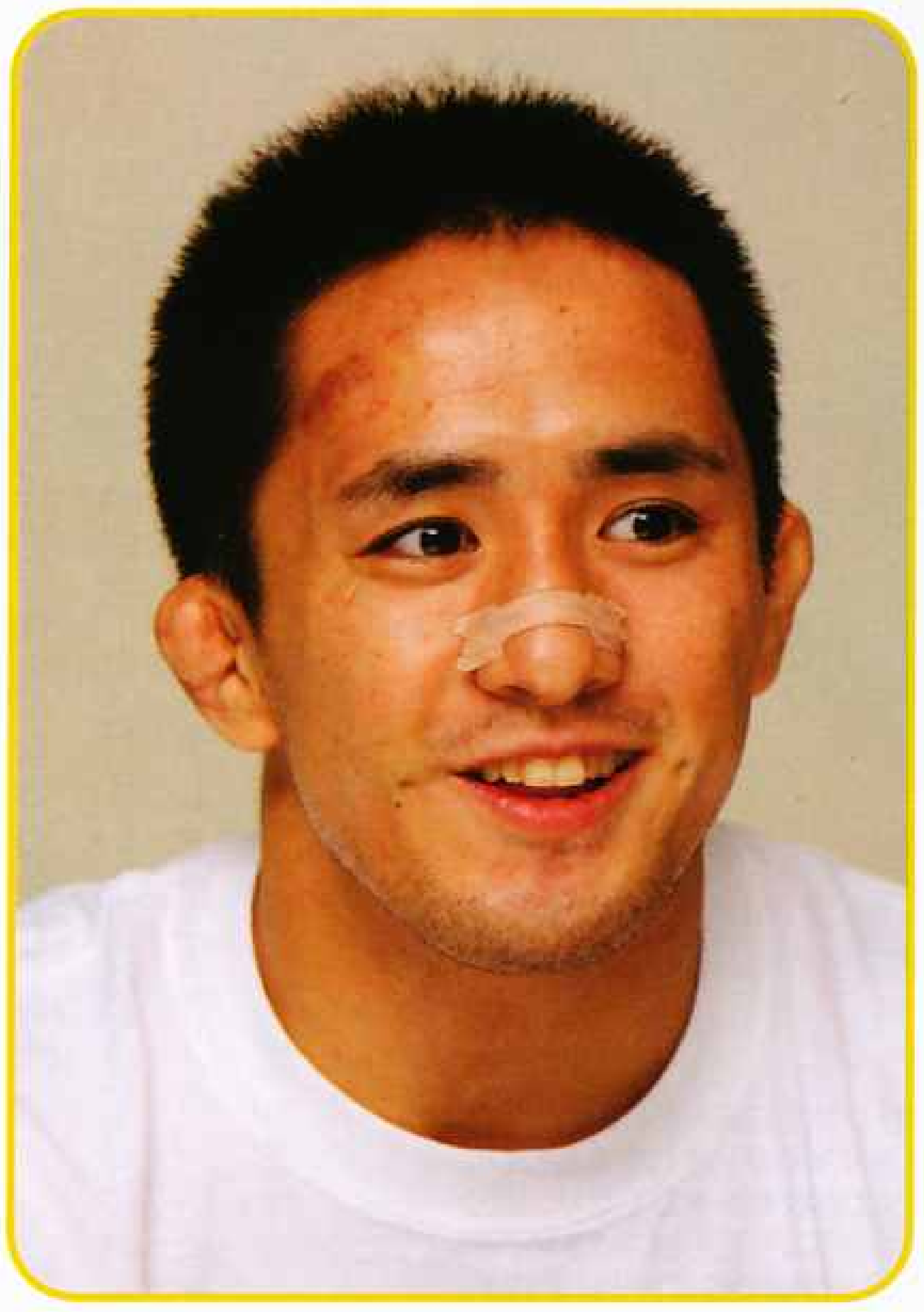
石田　う〜ん。なんでだろう？　やっぱり青ってさわやかで……あ！

——やっぱり、さわやかさに尽きると！

石田　そこに行き着きましたね（苦笑）。

——それは自分の個性として青が合っていると思ったんですか？

石田　そうですね。なんかイメージカラーを定着させたいなって思っていたし。で、青だけだとあんまりよくないから、何か違う色を



MITSUHIRO ISHIDA

組み合わせられればいいなと思ってて。

——それが白だったわけですね。

石田　はい。白と青が逆でもけっこうそれぞれの色が活きるし。ヒマなときは色えんぴつで「どういうのがカッコイイんだろう？」って描いてたりしてたんですよ（笑）。

——ああ、Tシャツとかコスチュームを自分でデッサンしてたんですか。

石田　昔の話ですけど。『週刊プロレス』を読んで参考にしたりして（笑）。そうしたらリングスの成瀬（昌由）選手が穿いていたパンツの色が白で、ラインが水色だったんです。それを見たときに「これだ!!」と思ったんですよ。

——な、な、な、成瀬ェ!?　もしかして、石田さんのさわやか原点は、あの成瀬さんだったんですか!?

石田　そうですねえ（しみじみと）。

——……話題を変えます。石田さんがさわやかだと思う人は誰ですか？

石田　やっぱり髙田さんかなあ（笑）。

——じゃあ、同門の川尻（達也）さんはどうでしょう？

石田　若干さわやかですよね。

——若干（笑）。石田さんは、自分が〝さわやか好青年〟と言われることにどう思ってるんですか？

石田　いや、そう言ってもらえるのはありがたいです。「そうやって見てもらえるんだな」って。自分ではそう思わないじゃないですか。「俺って好青年だな！」とか。

——いや、自惚れてる人はけっこういるもんですよ。「俺ってカッコいいぜ！」というオーラを出していたり。石田さんはそう思ったりすることはないですか？

石田　全然ないですよ（笑）。

——じゃあ、「さわかやだね！」（髙田本部長調）って言われることに対して、「じつの俺はそんなイメージじゃないぜ！」という反発心はありませんか？

石田　というか、なんか恥ずかしいです。恥ずかしくはなりますね……。

——じつにさわやかな反応ですねえ。

石田　本当に自分ではそう思ってないから、「あ、そうなんだ」と思って、自分が恥ずかしくなっちゃう。

——マスコミやファン、周囲の視線ってやっぱり気になるもんですか？

石田　そうですね。これから周りから見られることって多くなると思うんで、やっぱり人としての行動はちゃんとしなきゃなっていうのはあります。礼儀もそうですし、人として最低限のことはやっぱやらなきゃいけないなと思ってます。

——だからアウレリオに「イシダなら勝てる」と挑発されたときはカチンときたところもあったんですか？

石田光洋 さわやかな全戦績 15戦12勝2敗1分

01.07.06	修斗	×	vs 杉江“アマゾン”大輔	2R 判定 0-3
01.09.27	修斗	○	vs 小谷ヒロキ	2R 判定 3-0
01.11.26	修斗	○	vs 小島直人	2R 1分58秒 TKO
02.01.12	修斗	○	vs 倉持昌和	2R 判定 3-0
03.02.06	修斗	○	vs 朴 光哲	2R 判定 3-0
03.07.13	修斗	△	vs 松下直揮	2R 判定 1-0
04.01.24	修斗	○	vs 大河内貴之	2R 判定 3-0
04.03.04	修斗	○	vs 福本よう	2R 判定 3-0
04.07.09	修斗	×	vs ビトー・ヒベイロ	3R 判定 0-3
04.11.12	修斗	○	vs 杉江“アマゾン”大輔	3R 判定 3-0
05.03.12	DOG	○	vs 佐東伸哉	1R 3分31秒 TKO
05.08.20	修斗	○	vs 中蔵隆志	3R 1分31秒 TKO
06.02.17	修斗	○	vs 冨樫健一郎	3R 判定 2-0
06.04.02	PRIDE	○	vs ポール・ロドリゲス	1R 2分29秒 フロントチョーク
06.06.04	PRIDE	○	vs マーカス・アウレリオ	2R 判定 3-0

石田　「そう見られてもしょうがないかな」っていう気持ちはあったんですけど、シャオリン（ビトー・〝シャオリン〟・ヒベイロ）にボコボコにやられたのは3年前ですからね。3年前といまではまったく違うし。あんまりいい気分はしないっていうのはありましたね。

――アウレリオはプロとして挑発したところもあったんじゃないかって思うんですよ。

石田　それは多少、感じました。プロとしてリップサービスで言ってるのかなと。でも、海外のインタビュアーにもそう言ってるみたいなんで、「ああ、本心で言ってんだ、この人」と思って。

――石田さんはこれまでああいったさわやかなじゃない挑発をしたことあるんですか？

石田　挑発したことは……ないです。

――やってみたいですか？　へんな質問ですけど（笑）。

石田　思わないですね。

――それはどうしてですか？

石田　「それはどうしてですか？」って言われてもアレですけど、べつにする必要もないですからね。その人がホントに心の底から憎たらしかったら挑発すると思うんですけど、対戦相手としてやっぱリスペクトするから。

――ちなみに嫌いな人って誰かいるんですか？

石田　いないです！（さわやかに）。

――ここだけの話でいいですから。絶対に書きませんから（笑）。

石田　本当にいないですよ（笑）。

――でも、誰にかに対して怒ったことぐらいはありますよね？

石田　ま、そういうのはあるし、ムカつきもしますけど……。でも練習して汗かいちゃうと忘れちゃうんで。けっこうストレスはそこで発散できてるんで。

――石田さんは格闘技以外にストレスを発散できるものというか、何か趣味とか没頭できるものってあるんですか？

石田　それがですねえ、ビックリするぐらいないんですよね。でも最近フットサルを始めたんですよ。

――フットサルってさわやかなんですか？

石田　そう聞かれても困りますね（笑）。フットサルというよりも、友だちとやるのがおもしろいんですよ。昔、スポーツクラブでインストラクターをやってた頃、仲間内でフットサルのチームをやってたんですけど。

――いわゆる青春のヒトコマ的な楽しみなんですね。

石田　はあ（笑）。趣味はほかに何もないですね。だから多趣味な人ってなんか羨ましいなって思っちゃうんですよ、やっぱり。いろんなことに興味を持って行動するわけじゃないですか。ボクは格闘技以外あまり興味を持たないですから。

――いま「これはおもしろそうだな」って興味を惹くものはありますか？

石田　なんだろうぉ……？　そう言われると出てこないですね。

――おそらく明日はお休みですよね。どういう予定で過ごされるんですか？

石田　明日はパラエストラ松戸で松根（良太、前・修斗フェザー級王者）さんの取材があるらしいんで、そこに行って。そのあとはもしかしたら夜のパンクラスを観に後楽園に行こうかなって。

――休日も格闘技漬けなんですね。

石田　そうなんですよね〜。練習して疲れて家に帰るじゃないですか。で、格闘技のビデオ観てますからね（笑）。「なんか寂しいな〜」って思うときもたまにあるんですけど、でもまあ自分の好きなことだし、あんまり気にもせずいいかなと思って。

――まあ、格闘家ならどうしてもそういうライフスタイルになっちゃいますよね。



[『武士道』ライト級ワンマッチ]
○石田光洋 vs マーカス・アウレリオ×（2R 3-0）
前回の『武士道・其の拾』で“エース”五味隆典を下したアウレリオに挑んだ石田。修斗では70キロ以下級で闘っているため、アウレリオと体躯では見劣りするが、それをもろともせずに豪快なタックルでテイクダウン! アンダーからのアウレリオの攻めをかいくぐり、パウンド＆鉄槌で追いつめ、とくに2R終盤には“無酸素パウンドラッシュ”とも呼ぶべき驚異的な波状攻撃!　文句なしの判定勝ちを収めた。この勝利によりライト級戦線はますます混迷!!

6・4『PRIDE武士道』ウエルター級GP開幕戦



[ウェルター級GP一回戦]
○ゲガール・ムサシ vs 瀧本誠×
（1R 5:36 TKO）
ゲガールは瀧本の腕十字で完璧に極められるが、あえて腕を伸ばして見事に脱出!!　スゲエ!! そのまま背後に絡み付く。瀧本は道衣を着たことが災いとなり、足のフックをほどけない。そのまま殴られ続け、目を腫らした瀧本は眼窩底骨折の疑いのためドクターストップ。



[ウェルター級GP一回戦]
○長南亮 vs J・ヴィラセニョール×
（2R判定2-1）
ジョーイはKOTCミドル級チャンピオン、現在15連勝中の猛者。アメリカ修行帰りの長南は、ミドルやローを効かせるが、パンチで逆襲されヒヤリとする局面も。結局、スプリット判定で辛くも勝利をゲット。「負けたことがトラウマになって、警戒しすぎてしまった」（長南）



[ウェルター級GP一回戦]
○パウロ・フィリオ vs G・ブーシュラゲム×
（2R 3-0 判定）
ユン・ドンシクの欠場を受けて、フランスから柔術家グレゴリーが緊急エントリー。対するフィリオはブッチギリのグランプリの優勝候補。フィリオはポジションを奪いまくったが、決定打を与えることができず決着へ。“優勝候補”の印象を与えることができなかった。



[ウェルター級GP一回戦]
○アマール・スロエフ vs M・ブスタマンチ×
（2R 3-0 判定）
寝技に持ち込みたいブス先生。しかし、タックルをことごとく封じられ、打撃戦の行方が試合のポイントに。ショートレンジのフックで確実に主導権を握ったスロエフが判定勝利を飾ったが、無理せず深追いしないスタイルのため試合は盛り上がりに欠けてしまった。



[『武士道』ライト級ワンマッチ]
○ジェイソン・ブラック vs オ・ウォンジン×
（1R 6:25 TKO）
“首狩り”の異名どおり、幾度となく首を極めかけるジェイソン。しかし、ウォンジンは恐るべき粘りでそれを許さず脱出。逆に打撃で追いつめるが、スタミナ切れしたところで寝技に持ち込まれ顔面ヒザ!!打撃に難が見えたジェイソンだが、“首狩り”寝技は一見の価値あり！

石田 そうですね。それに格闘技を極めるっていうかチャンピオンになる人って、ある意味で〝格闘技バカ〟だと思うんですよ、いい意味で。で、ボクも〝格闘技バカ〟になんなきゃダメだなと思って。24時間、格闘技のことを考えられるくらいじゃなきゃいけないかなって思って。

――それもまた濃いエネルギーが必要ですよね。言葉は悪いですけど、ちょっと気がふれるぐらいじゃないといけない。

石田 そうですよね。ただ、1年365日〝格闘技バカ〟だと、それこそ頭がおかしくなると思うんで。たまに息抜きとかも必要ですし。

――極限まで追い詰められて、いまの自分を保つ自信はありますか?

石田 いや、たぶん無理ですね。鬱になりますね(笑)。

――さわやかから鬱に。

石田 ホント、鬱になりそうなときありました。いまはもう試合が終わったあとなんで大丈夫ですけど。そういうときはもう練習しないで友だちと遊びに行ったりとか。



MITSUHIRO ISHIDA

いしだ・みつひろ■1978年12月29日、茨城県つくば市出身。T-BLOOD所属。大学時代はレスリング部。99年アマチュアリングス優勝、01年7月にプロ修斗デビュー。03年アブダビ・コンバット級日本代表(76.9キロ以下)。06年2月、富樫健一郎を破り、修斗環太平洋ウェルター級のベルトを獲得。得意技は「絶対に切ることができない」と本人が公言するタックル。168センチ、72キロ。

嫌なことがあっても、練習で汗を流せば忘れちゃうんですよね!

――石田さんのファイトスタイルって何かを弾き出すような印象がありますけど、その〝何か〟って〝格闘技バカ〟としての鬱なのかもしれないえすね。

石田 そうですか?

――アウレリオ戦のパウンドのラッシュには狂気さも見え隠れしてたんで。

石田 もう魂を込めて殴り続けましたから。もうとにかく殴って殴ろうと。

――スタミナ、そして精神力の勝負。石田さんは精神的に強いほうなんですか?

石田 弱いです。たぶん弱いと思います。

――どのぐらいのショックで打ちひしがれるんですかね。

石田 たぶんいまここで「バカ!」って言われたら、本気で一週間ぐらいヘコむと思いますし(笑)。

――じゃあ、罵りましょうか!

石田 やめてください(笑)。ボク、ちょっとした悪口でもすっごいヘコみます。

――石田さんは悪口を言うほうなんですか?

石田 言わないっす。全然言わないっす…。…ということにしといてください(笑)。

――じゃあ、いままで一番怒ったことってなんですかね。

石田 最高に怒ったことってなんだろう。……すぐ忘れちゃうんですよ。あるんですけど。例えば練習でボコボコにされて自分にムカついたりとかはありますけど。なんかに対して怒ることもあるんですけど、う~ん、忘れちゃいますよね。なんかすぐに。

――そうですか。そんなこと言われると、おもいきり怒らせたいですね!

石田 やめてください。やめてください、そんなこと。

――いま何やったら怒ります?

石田 ……凄い質問ですね。そうですねえ。いきなりビンタとかされたら。

――そりゃ誰でも怒ります。石田さんの怒りのツボを知りたいんです。

石田 そう言われましても……う~ん。

――国の政治に怒ったりとかないですか?

石田 べつに……あ! 最近、ガソリンが高いんですよね。アレにはちょっとヘコみますよねえ。

――ささやかな怒りですね(笑)。

石田 ま、それも練習して汗を流すと忘れちゃうんで。試合をやってるときも周りの熱気で夢中になって、もう自分が入り込みますから。もう嫌なことなんて何もかも忘れちゃいますよね。

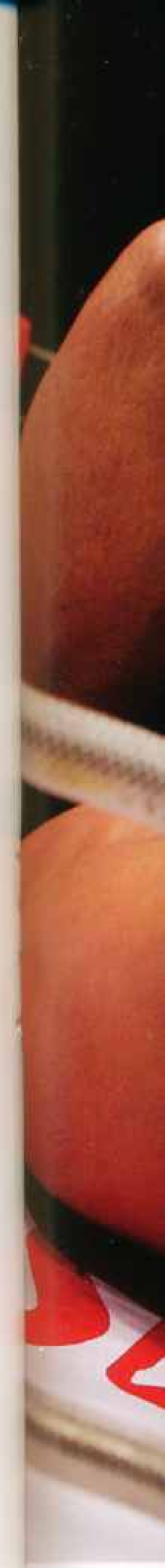
――汗を流せばなんでもできる! 本当にスポーツ青年なんですね(笑)。

石田 やっぱり運動しないとストレスたまりますよ!

――わかりました(笑)。これからもその〝闘うビューティフルサンデー〟ぶりを貫き通してください!

石田 はあ(笑)。

【06年6月5日/DSE事務所にて収録】





[ウェルター級GP一回戦]
○三崎和雄 vs フィル・バローニ×
(2R 判定 3-0)
三崎はパワフルなバローニのフックを交わして的確に打撃をまとめる。そして、やっぱりスタミナ切れしたバローニ兄貴……最後の筋肉を振り絞って猛然と打ち合いに臨むが、試合をリードし続けた三崎に判定で敗れた。哀しみの“夕焼け番長”バローニに励ましのお手紙を!



[ウェルター級GP一回戦]
○デニス・カーン vs ムリーロ・ニンジャ×
(1R 0:15 KO)
グランプリ台風の目とされるカーンがニンジャを瞬殺した!! 試合後の鬼気迫るマイクアピールも含めて、これぞ“PRIDEファイター”と思わせる佇まい。ウェルター級覇権の争いは、二回戦からシード出場するダンヘン、フィリオ、そしてこの男の三つ巴になるか!?



[ウェルター級GP一回戦]
○郷野聡寛 vs ヘクター・ロンバート×
(2R 判定 3-0)
“キューバの柔道王”噂のロンバードが初見参。判定で敗れたが類い希なる身体能力を発揮。一方、“爆笑王”郷野もD.J.OZMAをパロった入場パフォーマンスや、試合後のマイクで、微妙なプロ魂をあらためて発揮。まぁオメェはそれでいいや(アントン調)。



[武士道』ライト級ワンマッチ]
○桜井“マッハ”速人 vs オラフ・アルフォンソ×
(1R 1:04 KO)
4月に路上で土木作業員に殴られ、骨折した事件が世間を騒がせたマッハ。しかし、試合になれば「リングでは殴る!」と言わんばかりに右のクロスカウンター一発でKO!! 試合後、竜ヶ崎マッハ道場の子どもたちにリング上で「清い心、強い体、いい頭」と連呼させた。



[武士道』ライト級ワンマッチ]
○川尻達也 vs クレイジー・ホース・ベネット×
(1R 2:30 ヒザ十字固め)
修斗王者vs馬鹿馬!今秋、ハリウッドデビューするとのたまう、あいかわらず“馬鹿”なホースは、ゴングと同時にコーナーポストに腰掛け川尻を挑発。試合では生意気にも腕絡みを狙い、なんと背後も奪ったりしたが、地力にまさる川尻が流れるような動きでヒザ十字!

NEW APPAREL SERIES

PRIDE

デザイン一新! 世界最高峰の商品たちを手に入れろ!!

※表示価格は全て税込み価格です

BRAZILIAN TOP TEAM



BRAZILIAN TOP TEAM TANK TOP
WHITE/GREEN/BLACK ¥3,500
S/M/L/XL

BRAZILIAN TOP TEAM WORK SHIRT
BEIGE/OLIVE ¥8,900
S/M/L/XL



BRAZILIAN TOP TEAM SPORT TOWEL
GN/YELLOW/GN/WHITE ¥3,465

BRAZILIAN TOP TEAM MESH CAP
BLACK/OLIVE ¥4,725

BRAZILIAN TOP TEAM WRISTBAND SET
¥2,310

WANDERLEI SILVA



WANDERLEI TEE
IVORY/BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

WANDERLEI WORK SHIRT
IVORY/ BLACK ¥9,345
S/M/L/XL



WANDERLEI SPORT TOWEL
IVORY/BLACK ¥3,465

WANDERLEI MESH CAP
IVORY /BLACK ¥4,725

WANDERLEI WRISTBAND SET
¥2,310

CHUTE BOXE ACADEMY



CHUTE BOXE TEE
WHITE/ BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

CB TEE
WHITE/BLACK Ä ¥4,725
S/M/L/XL



CHUTE BOXE SPORT TOWEL
WHITE/ BLACK ¥3,465

CHUTE BOXE MESH CAP
WHITE/BLACK ¥4,725

CHUTE BOXE WRISTBAND SET
¥2,310

MIRKO CRO COP



MIRKO V NECK TEE
WHITE/BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

MIRKO CHECK V NECK TEE
WHITE ¥4,725
S/M/L/XL



MIRKO SPORT TOWEL
WHITE/BLACK ¥3,465

MIRKO CAP
WHITE /BLACK ¥4,725

MIRKO WRISTBAND SET
¥2,310

MARK HUNT



HUNT HIBISCUS TEE
BLACK ¥4,725 S/M/L/XL



HUNT SPORT TOWEL
BLACK ¥3,465



HUNT MESH CAP
BLACK ¥4,725

HUNT WRISTBAND SET
¥2,310

EMELIANENKO FEDOR



FEDOR TEE
RED /BLACK ¥4,725
S/M/L/XL

FEDOR CROWN TEE
RED/ BLACK ¥4,725
S/M/L/XL



FEDOR SPORT TOWEL
RED/ BLACK ¥3,465

FEDOR CAP RED
¥4,725

FEDOR WRISTBAND SET
¥2,310

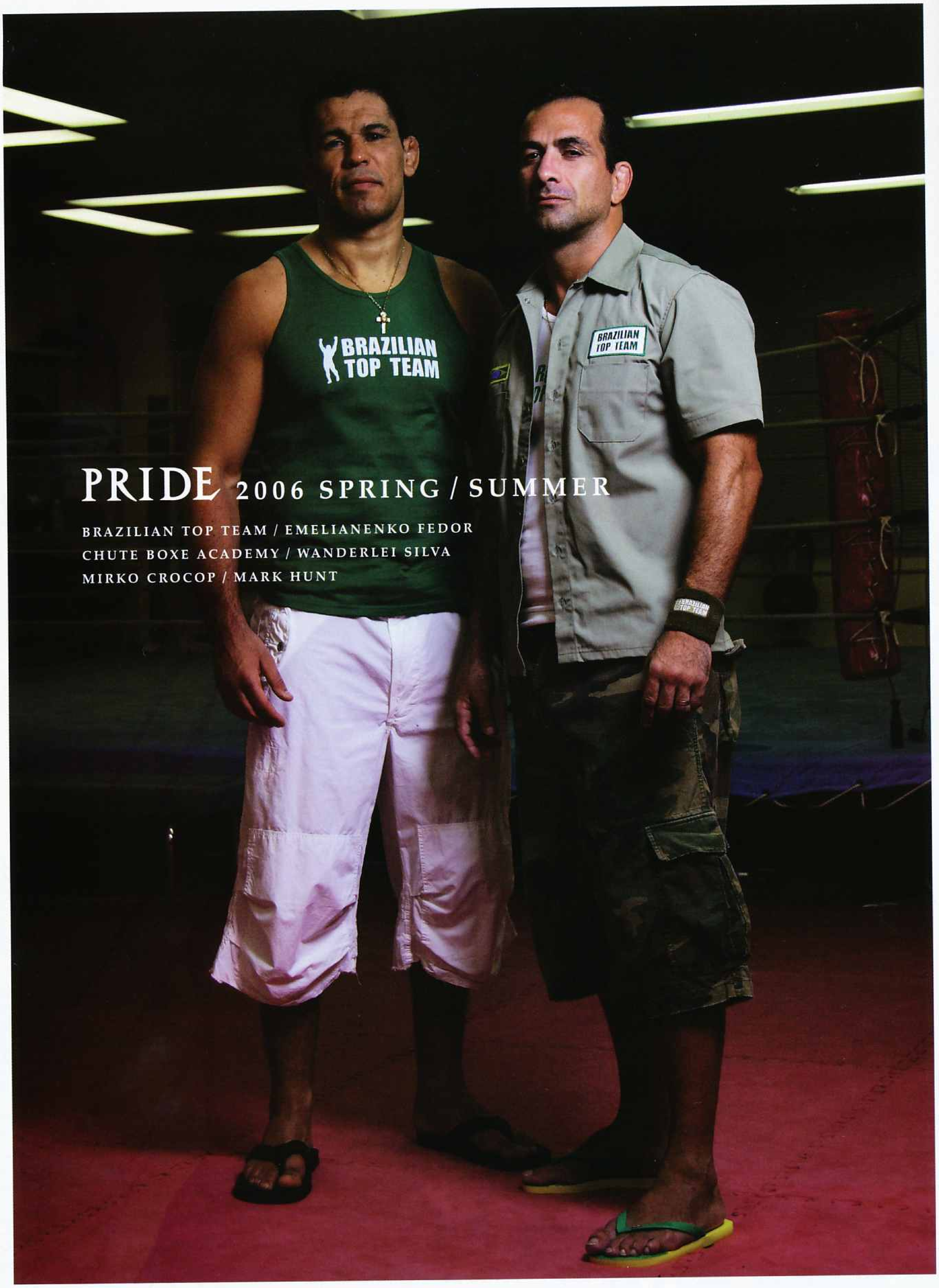
『PRIDE GOODS』
通販専用NAVIダイヤル

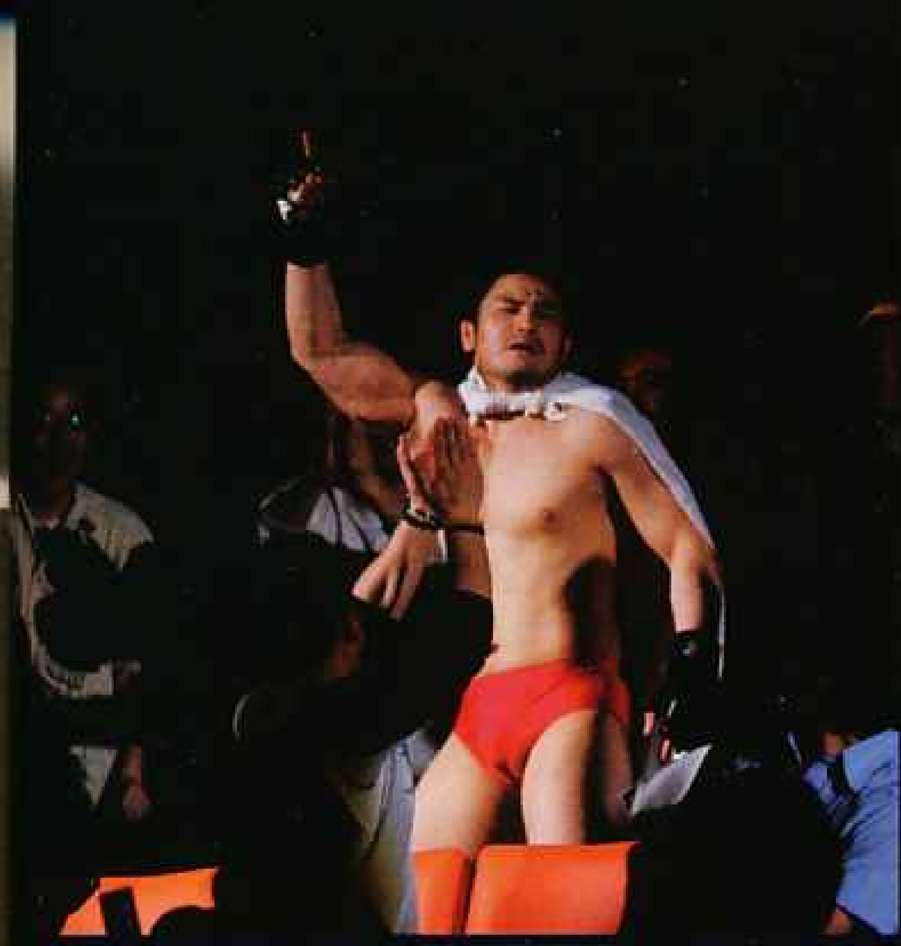
(株)ジャンボ
TEL.0570-00-7100
[月曜日～土曜日、AM10:00～PM6:00]

PRIDE オフィシャルサイト

http://www.pridefc.com/

[商品お渡し方法] 代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料約630円(クロネコ宅急便)、代引手数料約350円(いずれも地域によって異なります)がかかります。お届けはご注文を頂いてから、一週間前後で郵送いたします。オフィシャル携帯サイトからもオーダーできます。

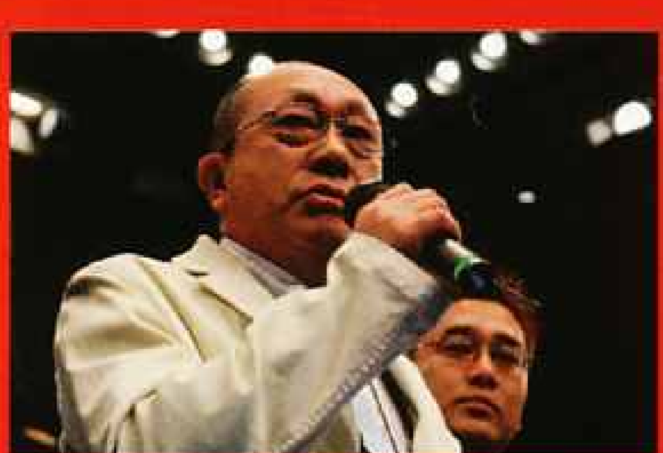

PRIDE 2006 SPRING / SUMMER
BRAZILIAN TOP TEAM / EMELIANENKO FEDOR
CHUTE BOXE ACADEMY / WANDERLEI SILVA
MIRKO CROCOP / MARK HUNT
BRAZILIAN TOP TEAM



パンクラス時代以来約4年ぶりの後楽園ホール凱旋となった美濃輪は、日の丸を背負い南側客席最上段から登場！　その瞬間、場内は一気にヒートアップ！　美濃輪ワールドの始まりだ!!



ゴング早々、ヒョンガップは右ローを放つも、美濃輪はこれを受け止め一気にテイクダウン。すかさず得意のアキレス腱固めを仕掛けた美濃輪はそのまま絞り上げ、わずか17秒で圧勝！



試合前に全選手がリングに上がり入場式が行なわれた。マイクを持ったCMAの諸岡秀克会長は「韓国と交流を始めて10数年、聖地・後楽園で日韓対抗戦をやるのが夢でした！」と挨拶。次も期待してます！



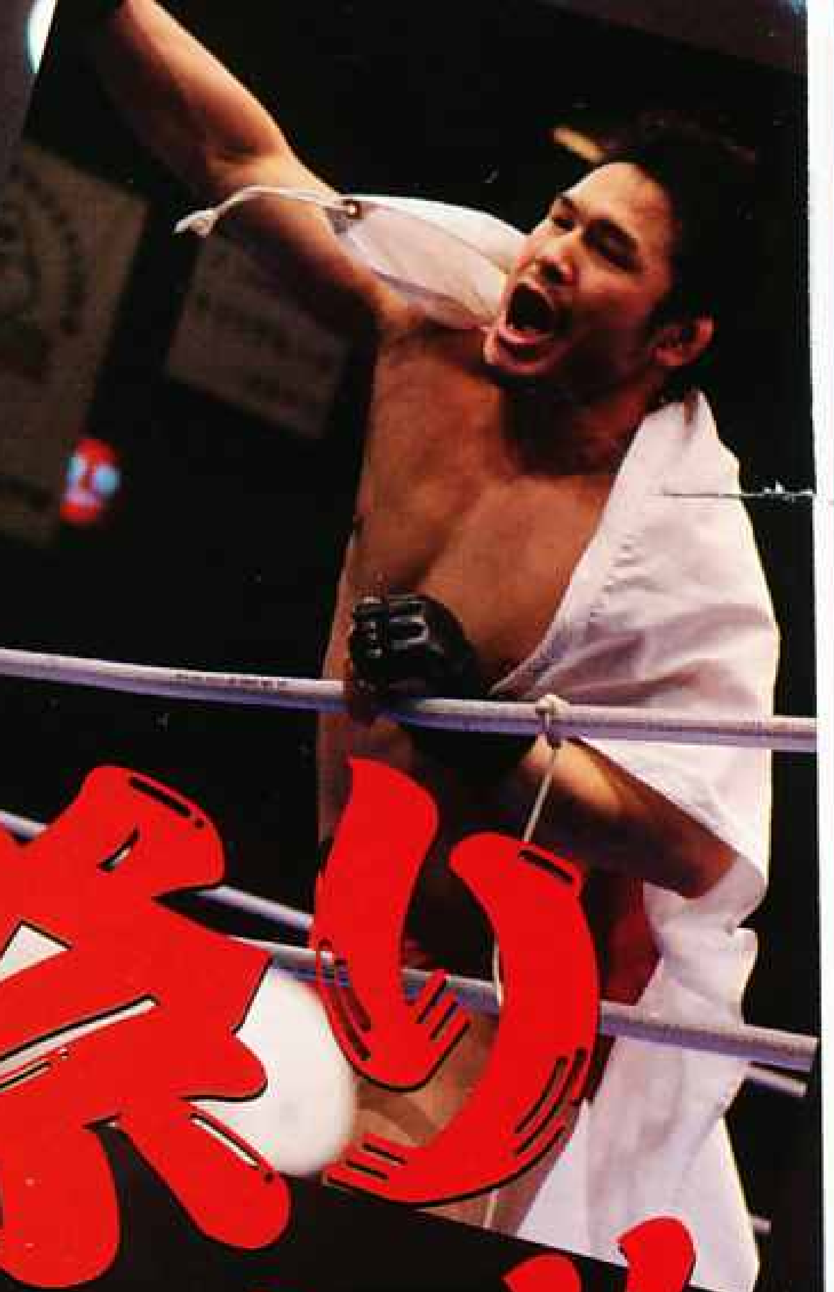
パンクラスから龍舟會GODSへ移籍していた窪田幸生がフリーとなり久々にリングに登場。窪田は三島をKOしたこともあるスンファン相手に足関で秒殺勝利！



昨年は0試合ながら今年は、このヨンジュ戦で4試合目（6・10には初のボクシングルールでライカと対戦、KO負け）の高橋洋子が2R47秒、足関節で見事一本勝ち！



道場閉鎖につき、この日がSOD女子格闘技道場所属としてラストファイトとなった藪下は、かつて一本背負いでKO勝ちしたヒョンソンとキックルールで闘うも判定負け！



秒殺で〝ゴーリキ〟を下した美濃輪は四方に向かって「oi－oi－!」と恒例の〝SRF8回〟で拳を突き上げ観客と完全に一体化！　う～ん、ヘブン!!



美濃輪祭り特盛り上がり!!

早い！
な、なんと17秒殺！

安い！
こんな間近で美濃輪が見れるなんて！

うまい！
大会記念の紅白まんじゅうが！

「♪ヘブン、ヘブン、ヘブンヘブンヘブン！」と、ウルトラセブン調で拳を突き上げたくなるぐらい、この日の〝ヘブン〟美濃輪は入場から試合、そして退場まで完璧だった。

5・5『無差別級GP』では、かねてから対戦を熱望していた〝バッファローマン〟ことミルコに、わずか70秒で完敗。美濃輪は「ミルコ戦は最低な試合でした。最低な自分が見えたからこそ、今度の試合は最高な試合をしたかった」と、バク・ヒョンガップ（ちなみにキン肉マンに例えるとゴーリキ）を下すと、ミルコ戦後の心境を明かした。

「後楽園ホールは最高ですね！　やっぱりアリーナとかは距離があるんで。入場のときにお客さんにバチバチ叩かれるのはプロレスラーとして憧れでしたから！」と目を輝かせた美濃輪は続けて「冷静に闘うというより、ブッ壊れないとお客さんも弾けられない。ブッ壊れて、そこから先がヘブンというか、火事場のクソ力になると思うんで」とキッパリ。

その言葉どおり、この日の美濃輪は入場時からブッ壊れていた。大好きな後楽園にハイテンションの美濃輪が登場すると、つられるように観客も一気にトランス状態に突入。ブッ壊れたまま試合に雪崩れ込んだ美濃輪は〝ゴーリキ〟を秒殺し、一瞬、陶酔の表情を浮かべると、次の瞬間には「oi－oi－!」の合図で会場をウルトラヘブン状態に誘った。

「ほんの一瞬でしたけど、最高の記憶と記録と感動を、お客さんの心に叩き込めたんじゃないかと思います」と、試合後は満足げな表情を見せた美濃輪。この日、会場を訪れた観客も、この言葉には異論はないだろう。CMAフェスティバルと銘打たれた今大会だったが、終わってみれば、美濃輪祭りとでも言いたくなるような大会だったからだ。

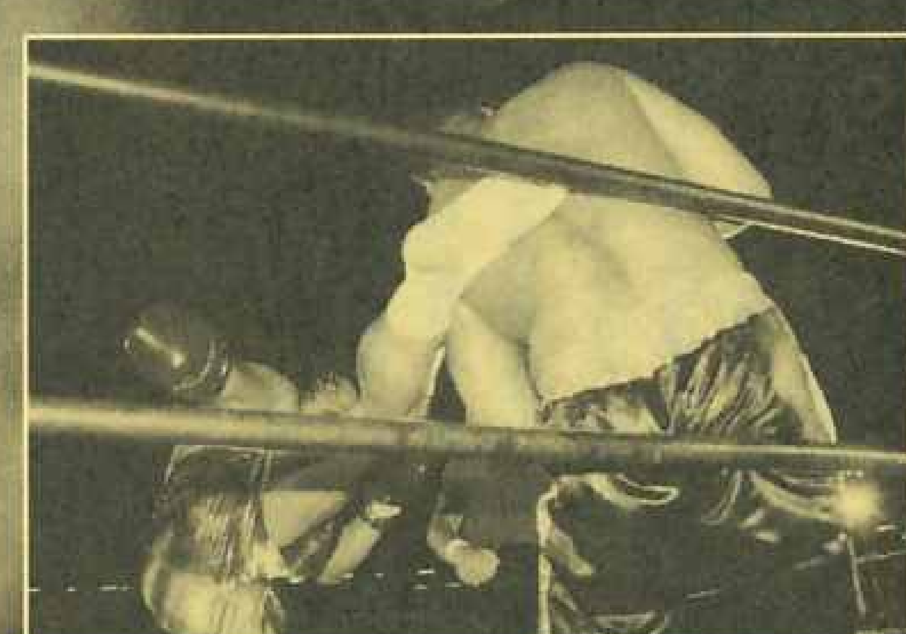
最後に、諸岡会長！　次は後楽園で美濃輪のワンマッチ興行なんてどうでしょう？　いまの美濃輪なら特盛り上がり間違いなし！　というか、美濃輪ならいけると思います!!



壮絶半生記

ボクシング、キック、プロレスから
ストリートファイトまで
元祖〝なんでもあり〟ファイター





リアル“殺しの右ヒジ”を持つ男
上田勝次

『PRIDE』やK-1から格闘技を見始めたという『kamipro』読者には馴染みが薄いかも知れないが、この上田勝次という男はただものではない。『kamipro』98号で登場した後藤達俊がプロレス界の“極ワルオヤジ”なら、上田はプロレス・格闘技界をまたにかけた“極ワルオヤジ”なのだ。ボクシング、キック、プロレスからストリートファイトまで、なんでもありの、この男の壮絶人生を食らえ！

聞き手／松澤チョロ　撮影／平工幸雄　designed by shiraki(TwoThree)



秒殺で〝ゴーリキ〟
方に向かって「o-
の〝SRF8回〟で
完全に一体化！ う

——今回の試合出場（5・5 IBFプロレス）はかなり久々ですが、たしか九州でのZERO1・MAX参戦以来ですよね？

上田 そうそう。一年半ぶりぐらいですね。あのときは九州のある知り合いが「プロレスの興行やりたい」って言うから。で、ZERO1と話をしようと思って久留米（大会）に行ったんですよ。そういうつながりで出ることになったんだけど、そのときの相手が唇10針も縫っちゃって。たしか大作（現・不動力也）か。

——上田さんのパンチとかでですか？

上田 そうだったかな（苦笑）。そのときも今日と一緒で急に試合に出ることになってね。

——しかし、よくまあ急に試合ができますね。

上田 運動はいまだにしてるからね。今回は15日前に（ターザン）後藤さんに言われたからね。「もう60歳だから出ないから」って最初は断ってたんだけど、後藤さんが「昔のFMWの選手が集まるから、どうしても出てくれ」って言うから、しょうがなく。でも、維新力からの話を自分は断ってるんですよ。

——維新力さんからも頼まれて、PWCとかIWAにたまに出てたんですよね。

上田 そうそう。だから今回の話を聞いて「親父さん出るの？ 自分とこ出ないって言ったのに、なんで出んのよ？」って言われて。だから「要するにOB会っていうか、FMWの昔のあれだからしょうがないから」って納得してもらったけど。力さんは「ちゃんと金もらえるんだろうな」って言ってたな（笑）。

——維新力さんはいろんなインディー団体に出られてますし、ギャラをもらえないときもあるんでしょうね（笑）。

上田 でも、自分はちゃんともらいますよ。もらえないとこは出ないですから。

——あ、そうですか。でも今日の試合を観ましたけど、とても還暦には見えないですね。

上田 そうですか？ 20年生まれだから、去年の12月で60歳ですよ。見えないですか？

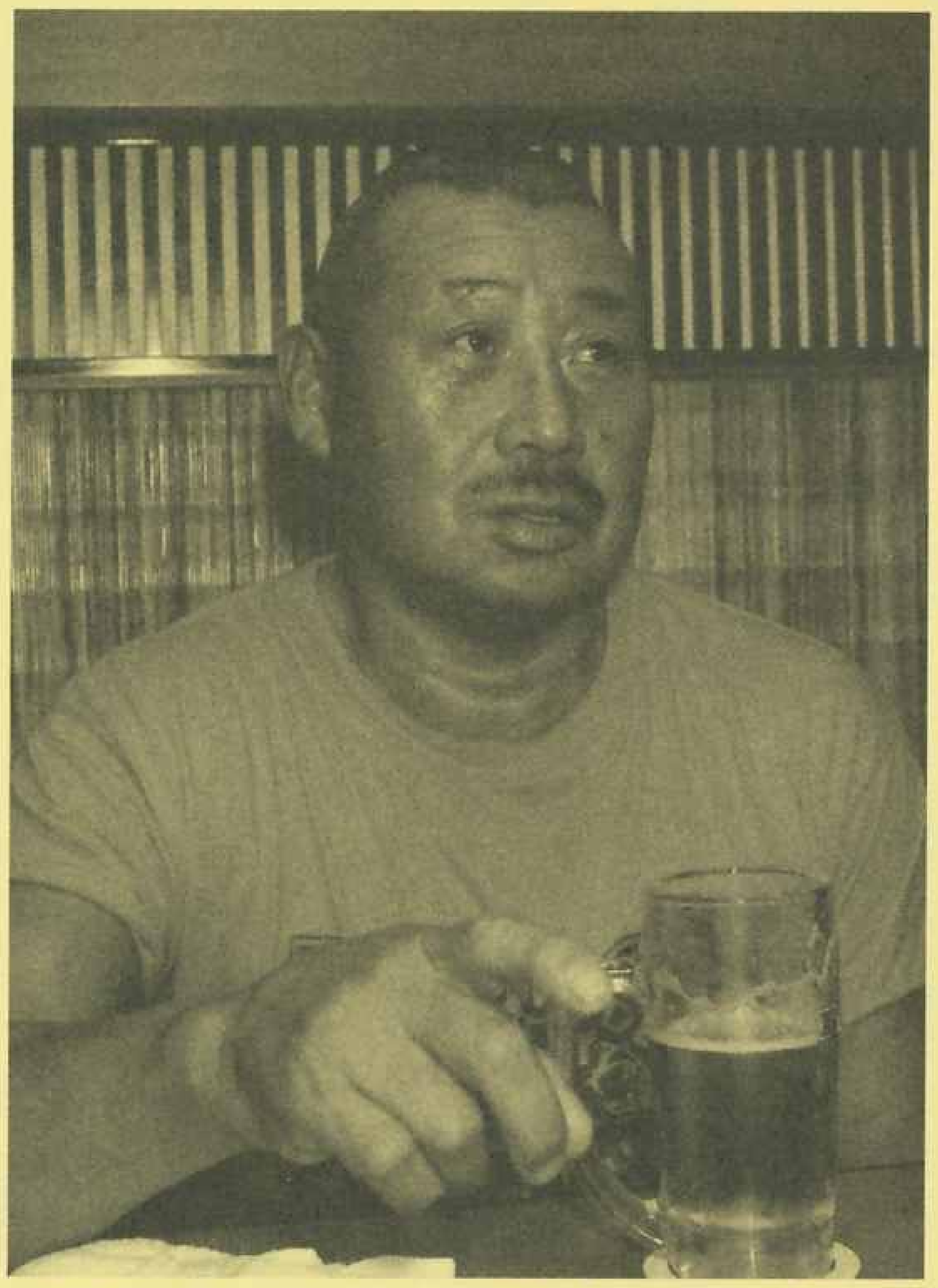
——見た目もそうですし、身体も凄いパンパンですし、とても60歳には見えません。

上田 ウェイトトレーニングはずっとやってたから。今回は試合が決まってから6キロ落としたんだけど、これから夏になるから、ちょっと減量しようかなって思ってた矢先だったの。その頃は一日置きに朝まで飲んでたから、ちょっと飲みすぎだなと思ってて。で、帰ってきたら朝に後藤さんから電話あって。試合に出たおかげで、しばらく酒飲まなくなったからちょうどよかったな（笑）。

——酒抜きができたと（笑）。今回はFMWの同窓会的な大会で、いろいろケンカ別れとかしてる人もいるんで、これだけ集まるっていうのは久々だと思うんですけど、上田さんにとってFMWっていうのは、どういう思い入れがあります？

上田 最初は、いま住んでる三鷹で大仁田（厚）と知り合いになってね。ボディビルセンターに行ったら大仁田がいたの。俺、鍛えるの好きだったから、キックは辞めてもしょっちゅう運動はやってたの。

昭和20年生まれだから、去年の12月で60歳ですよ。見えないですか？



上田の取材は、久々にプロレスのリングに登場した5・5IBFプロレス新宿大会後の歌舞伎町の割烹料理屋で行なった。「試合前に10日間禁酒するのは、コンディション造りのためでもあるんだけど、それよりも試合が終わったあとに最高にうまいビールを飲みたいからなんだよ」と言うと、豪快に生ビールを口元に運んだ。

——たまたまジムで大仁田さんと出会われたわけですね。

上田 そうそう。そういう意味ではFMWっていうのは〝上田勝次〟が生まれたとこだよね。〝勝次〟って自分がつけたんじゃないからね。大仁田がつけた名前だから。

——一応、プロレス用のリングネームになるんですかね。

上田 そうだね。FMWの旗揚げ戦を後楽園に観に行ったんですよ。青柳（政司）と大仁田がやったとき。で、大仁田のこと知ってるから控室行ったの。そしたら「上田さん、いい身体してますね」って言われて。そのときはそれで終わったの。で、ジムで練習やってたとき、なんとかトーナメントって新聞に載ってて、〝上田勝次〟って出てて、ジムの人間が「これ、お前か？」って言うから「俺じゃないよ」って言ってて。それでちょっとしてからターザン後藤と大仁田から電話があって、「上田さん、会いたいんだけど」って言うから会ったら「今度出てもらえますか？」って。「新聞に載ってる上田勝次って俺か？」って言ったら「そうです」って（苦笑）。

——プロレス界では、けっこうそういうことがあるみたいですからね（笑）。

上田 そうそうそう。だから〝上田勝次〟っていうのはFMWで生まれたものなんだよね。それで最初は松永（光弘）とやったの。

——そのときの松永さんは誠心会館所属の空手家として出場してましたけど、プロレスのデビュー戦は空手vsキックの異種格闘技戦だったわけですね。

上田 こっちは真剣勝負だと思ってたから、知り合いの極真空手の人間をセコンドにつけたんですよ。杉山君っていう世界大会2位になったことある人間と、あともう一人。角田（信朗）ともやった黒澤（浩樹）のとこにいた人間なんだけど。

——それは頼もしいセコンドですね。

上田 こっちは完全にやる気だったし、大仁田も黙ってたから、真剣勝負やるんだなって。そしたら、なんか違ったみたいで（苦笑）。俺はプロレスはそのとき一回だけだと思ってたから、もういいや、反則負けでって。

——暴れるだけ暴れて反則負けを選んだと？

上田 そうそう。そしたら杉山君が「プロレスは汚いよな」って怒ってたけどね。空手の人間だから。

——当時の上田さんは、試合からは離れていたとはいえ、ボクシングやキックのキャリアも長いし、空手家には負けないっていう自信もあったんでしょうね。

上田 うん。その頃は杉山君とだってガンガン練習やってたんだから。

——プロレスの仕組みのようなものはデビュー前から理解されていたわけですか？

上田 初めはわかってなかった。大仁田も言わなかったもん。

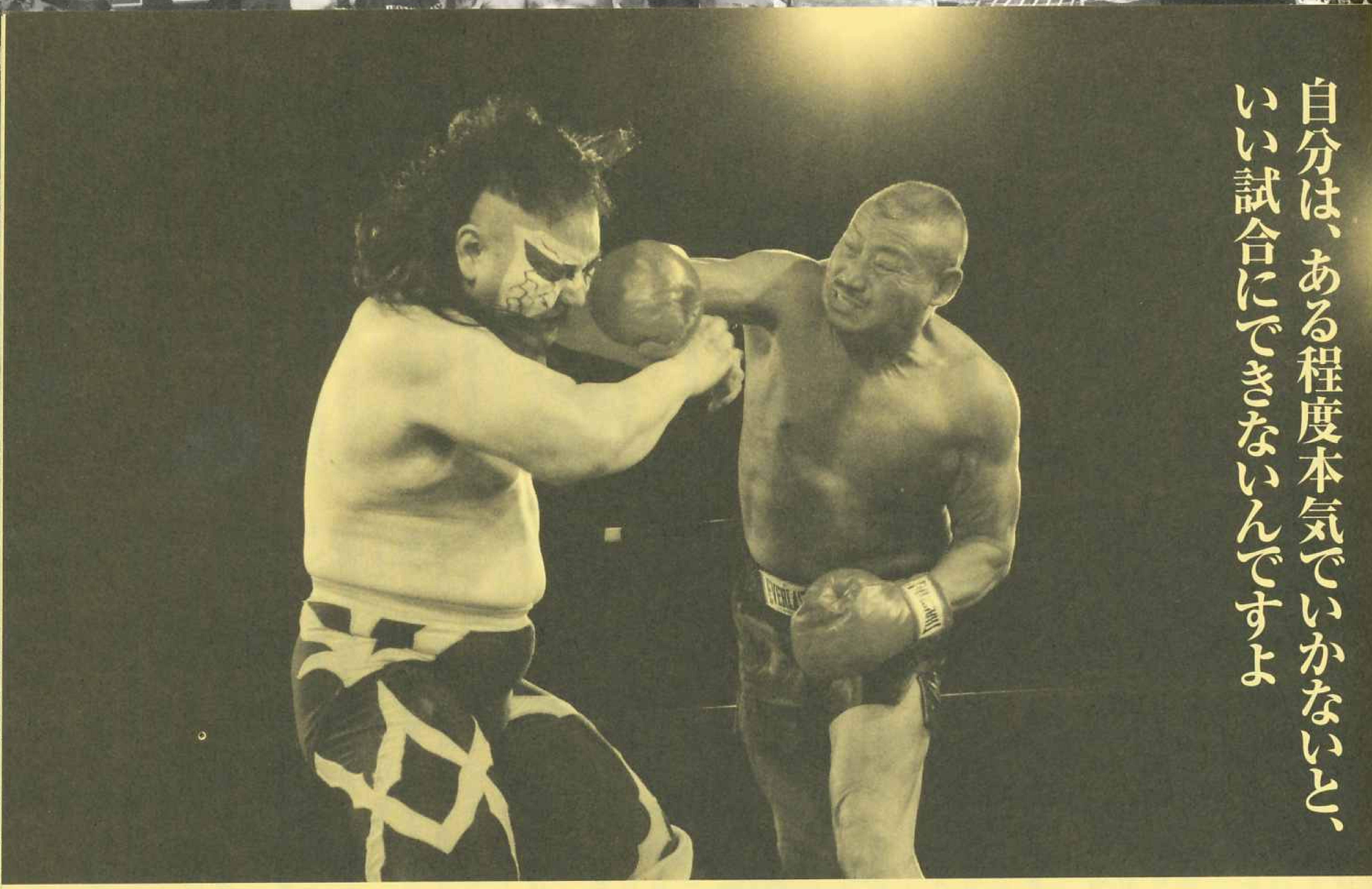
——大仁田さんからも、あえて「プロレスはこういうもんだ」という説明はなかったと？

上田 とくになかったね。やっていくうちに









自分は、ある程度本気でいかないと、いい試合にできないんですよ

——覚えていったような感じだったな。

——結果的にはモノ凄く幅広い相手とやってますよね。プロレスラーはもちろん、ボクシングの世界チャンピオンから柔道家やテコンドーの選手まで。

上田　やったねぇ……（しみじみと）。やってるうちに、だんだんわかってきたけど、リングに上がったらこっちのもんだと思ってたから（笑）。

——デビュー戦と同じように、実際にリングに上がったら好き放題やってたと？

上田　そうそう。ガイジンだってみんなそう。

——大仁田さんとシングルでやったとき、打撃のガードができない大仁田さんを、ボコボコにしちゃって、危うく立てなくなりそうな試合もあったみたいですけど。

上田　そんなことあったかなぁ（苦笑）。加減とかなんにもないですよ。当時でいえば（ビッグ・）タイトンなんてデカいじゃないですか。アイツともやったことあるんですよ。

——2メーター近くありますからね。

上田　タイトンとの試合は、いい試合だったの。ただ、タッグでやるとね、「ノーセメント、ノーセメント」って言ってて。大仁田が「上田さん、悪いね。アメリカ人はダメなんだよ」って。

——アメリカ人相手だと思うように暴れられないわけですね（笑）。

上田　そう。でも、（グレゴリー・）ベリチェフとはガンガンやったの。だからいい試合できたの。自分はね、ある程度本気でいかないといい試合にできないんですよ。だから相手も受けなくていいよって感じで。

——それはリアルな試合になりますよね。

上田　一番最初の頃ね、タッグで（ディック・）マードックとも当たったんですよ。

——マードックともやってましたか。

上田　何回かやってる。それでほら、俺はもともとプロレスファンだったから。セコンドとかつけばリングサイドより前で観れるじゃない？「俺が一番いいとこで観てんな」って（笑）。

——たしかに、セコンドは誰よりも近くで観れますからね（笑）。そのマードックも亡くなってだいぶ経ちますけど。

上田　死んだんだ。彼はいい人だったね。

——酒も強いし、それこそ上田さんと同じくケンカも強いってよく言われてましたね。

上田　そういうんだったら、グラジエーターもちょっと怖さがあったね。試合じゃなくてプライベートで。よくケンカになりそうになってたから。

——ボクシング世界王者の（レオン・）スピンクスとかはどんな感じでした？

上田　スピンクスはダメですね。2回ぐらいやってるけど、「2ラウンド、3ラウンドは蹴るな」とか言ってきてさ。

——ボクシングの選手がプロレスのリングに上がると、そういう条件をつけてくる人が多いらしいですからね。ましてや元世界王者だったらプライドも高いでしょうし。

上田　こっちだってボクシングやってんだから、「思いきり打つな」って言われても難しいんだよ。

——そのへんは難しいでしょうね。

上田　いまK—1とか総合やってる相撲取りいるでしょ。

——曙さんですか。

上田　そうそう。曙だって足なんかボンボン蹴ったら終わりでしょ。最後のほうにチョコッと足蹴って、それだけで倒れるんだもんね。最初から足蹴ってやれば、もう絶対ダメよ。

——そう言われると観たかったですね。曙 vs 上田勝次っていうカードは。

上田　もう自分はやらないよ。あ、でも北尾（光司）とやる予定があったんですよ。

——それはFMW時代ですか？



見てみい、この身体！　とても還暦とは思えないマッチョバディだ（ちなみにターザンと同年齢）。FMWの同窓会的興行となった5・5－BF新宿大会では、FMW時代に何度も闘ったグレート・パンク（新山勝利）と対戦。最後はネックロックで敗れたものの、あと5年は充分やれそうだ！



秒殺で"ゴーリキ" 方に向かって「0-」の"SRF8回"で 完全に一体化！ う

上田　まだ荒井（社長）さんがいたとき。大仁田なんかがもう辞めてたときで「上田さん、北尾とやんない？」って言われてさ。「上田さん●●●なるけど」「ああ、●●でもなんでもいいです。リングに上がっちゃえばね、ガンガンいけば大丈夫ですよ」って。

――リングにさえ上がってしまえば、こっちのもんだと（笑）。

上田　そうそう。だって勝敗なんか関係ないじゃないですか。試合でガンガンいければ、こっちはいいんだから。

――今日のグレート・パンク（新山勝利）選手もそうでしたけど、FMWでは若手の壁みたいな感じで、デビュー直後の選手ともよくやってましたよね。

上田　前はね。でも、その当時よくやってた田中（将斗）君も伸びてるもんね。アイツもグラジエーターとかタイトンにボコボコやられたからね。江崎（英治＝ハヤブサ）もやってたけど、江崎は結局はああなっちゃったしね。

――いまはリハビリ生活ですからね。

上田　江崎もいい選手だったよ。江崎と山梨で一対一でやったときもね、アイツもガンガンきてくれてね。（ミスター）雁之助は逃げてばっかいたけどね（笑）。いまでも「上田さんとはやりたくない」って言ってるよ。

――そうなんですか（笑）。あと、リー・ガク・スーとの試合も印象に残ってるんですけど、いかがでしたか？

上田　リー・ガク・スーとまたね、もう一人、身体がデカいのが来ててあれも蹴り速かった。タッグでもけっこうおもしろかったんですよ。向こうはリー・ガク・スーと（サンボ）浅子とキム・ヒュン・ハンが組んで、自分とポーゴとリッキー・フジが組んで。あのタッグはおもしろかったですよ。リー・ガク・スーをボコボコにしてヒザ蹴りやったらさ、レフェリーが来て「あんまりやらないでって言ってる」って（笑）。

――アハハハ！　またしても、やりすぎてしまったわけですね（笑）。

上田　そうそう。こっちも燃えたからね、相手がほら、テコンドーだから。

――同じ打撃系として負けられないわけですね。

上田　でも、リングに上がったらこっちのもんだから。あとになってビデオで観たらね、やっぱり、いいの入ってたね（苦笑）。

――当時、上田さんはコンクリート会社の運転手をしながら、その仕事を終えてから会場入りしてたみたいですね。

上田　そうそう。いまでも、その仕事やってるけど、だから巡業はほとんど行かなかった。でも、1回だけ試合に間に合わなかったんですよ。

――エッ、遅刻しちゃったんですか？

上田　サブゥーと後楽園でやることになってたんだけど、向かってたら渋滞して遅くなっちゃって。

――現場から会場に直行だったんですか？

上田　そうそう。家に帰ってからだとグローブとかみんな持ってかなきゃいけないから、もっと遅くなるから。それで会場着いたんだけど「上田さん、今日はもうダメです」って言われて。だからサブゥーとは一対一でやったことないんですよ。

――その対決も、かなりの異色対決ですけどね。

上田　楽しみにしてたんだけどダメになっちゃって。あの頃はバブルのちょっと前だったから現場も忙しかったんですよ。

――上田さんにとって、プロレスっていうのはストレスが発散できる趣味のような感じだったんですかね。

上田　どうだろうなぁ。やっぱりプロレスは難しいからね。格闘技のほうがやさしいもんね、自分の場合はね。

――格闘技経験者で、同じようなことを言う人は多いですね。

上田　でも自分の場合はプロレスはもともと好きだったから。だから「プロレスは八百長だ」とかって言われたら「じゃあ、お前も練習やってみな！」って言ったんだよ。「同じような練習やってから言え！」って。

――八百長呼ばわりされるとカチーンとくるわけですね。

上田　そうそう。一般の人もそうだし、キックとか格闘技やってる連中の中には、プロレスのこと、よく言わない人も多いから。きちんと練習やって、大変か大変じゃないかってわかったらそういうことは言わないよ。何も知らない人間がそういうこと言うんだよ。みんな大変な思いしてやってるんだから、そういうこと言ったらダメ。実際、大変だからね。蹴られてケガしてるのに立たないといけないんだから。俺なんか受けないけど、田中君とかみんなガンガン受けてたからね。

――上田さんは基本的にキックボクシングスタイルでしたけど、受身とかロープワークとかも多少練習したりはしたんですか？

上田　まあ、俺はもともと柔道部だったからね。

――そういう基礎もあったんですね。

上田　今日だって足かけてマウント取って殴ろうかなとか思ってて（笑）。

――そんな総合ムーブまで考えてましたか（笑）。柔道からキックボクシング、プロレスまで様々な世界を経験してる上田さんですけど、もともとはプロボクサー志望だったんですよね。

上田　うん。15歳のときに名古屋にボクシングやりに行ったんだけど、いろいろあってジムをいくつか転々として。あるジムの会長が「プロレスやってみないか？」って言ってきて。

――年代的に日本プロレス時代の話ですね。

上田　そうだね。で、プロレス（のテストを）受けようかって思ったときにね、会社の寮が火事になったんですよ。持ち物も全部、燃えちゃったの。

――あららら。

上田　その補償の問題で社長とケンカして実家のある九州に帰ったの。で、ちょっとした友だちが「東京に行こう」って言うから、東京に出てきて。そのときは牛乳配達しながら、ボクシングのジムに行って。で、プロテストを受けに行ったんですよ。3回ダウンさせたけどね、荒いからってダメだったの。

――3回ダウンさせても合格できないもんなんですか。

上田　ラフすぎるってことでダメだったの。それで頭きちゃって（ボクシングを）辞めてね。

――猪木さんがいた東京プロレスに入門されるお話もあったみたいですね。

上田　新宿のね、薄暗いビルだったんですよ。そこに自分、面接に行ったんです。猪木さんが座ってて、豊登はウロウロしてて。で、「じゃあ、あとで連絡するから」って言われて。そしたら結局破産したんですよ。

――入門するより前に会社がなくなってしまったと。先ほども言ってましたけど、もともとプロレスにも興味はあったんですよね。

上田　興味ありましたよ。あったけど、東京プロレスがダメだとわかってからは、キックもいいなと思って。

――沢村忠さんの活躍でキックブームと騒がれだした頃ですね。

上田　それまではキックなんか知らなかったからね。目黒の野口ジム……そのときボクシングジムだったんだけど、そこにバイクで通って。いまでいう道場破りみたいなもんだけど、あのとき7人しかいなかったの。沢村と、いまの会長の野口さんとか。で、沢村とスパーリングやって、俺はボクシングしか知らないから手だけでやってたから、ヒザ蹴りをまともに食らって倒されてね。

――初めてのキックのスパーリングが沢村さん相手っていうのも凄いですよね。

上田　それからキックをやるようになったんだけどね。3回ぐらい通ったら野口さんに「タイに行ってこい」って言われて、沢村とかと一緒に行かされたの。そのとき自分は2試合やったの。5ラウンドKO負けと、ヒジで目一杯やられてTKO負け。そのあと初めてキックの試合で勝って、それで日本帰ったの。タイに行く前はキックってそんなに有名じゃなかったんだけど、日本に帰ってきて野口ジム行ったら人がいっぱいいるの。

――タイ遠征しているあいだにキックブームが来てたわけですね。

上田　そうそう。テレビでやり始めて、あと高倉健が主役の『キック』っていう映画をやってからだね。そんなもんだから、ジムに溢れるぐらい人がいっぱいいて。「えっ？」て感じで。そこから要するにキックのブームになってくんですよ。それで4チャンネル（日本テレビ）が放映しだして。その前は6チャンネル（TBS）だったの。それから12チャン



手がほら、テコンドーだから、
——同じ打撃系として負けられないわけです
スのこと、よく言わない人も多いから。きち
上田　新宿のね、薄暗いビルだったんですよ。
ネル（ＴＢＳ）だったの。それから12チャン

（テレビ東京）でもやったんですよ。

——いまでは考えられないですけど、当時は民放3局でキック中継が放送されてたんですね。ブームのときは試合のギャラだけで生活できた選手ってけっこういたんですか？

上田　だってあの頃はね、一カ月に多いときは4試合やってからね。

——一カ月に4試合も!!

上田　だから大変だよ。一度だけ「休ませてくれ」って言ったのよ。そしたら「ダメだ」って言われて。その頃、全日本のチャンピオンになって、東洋チャンピオンになったときでね。それでマネージャーとケンカして辞めたんですよ。それからは川崎でね、印鑑の販売やったりヤクザの用心棒やったり。

——そ、そうですか（笑）。それはどういうつながりからやられたんですか？

上田　キックの後輩がヤクザになってたんですよ。もう破門になっていないけど。そこに二年ぐらいちょっと厄介になって。そのあと、いまの女房と28歳で結婚したときから会社で働くようになったの。

——ヤクザの用心棒だったら修羅場はしょっちゅうだったんじゃないですか？

上田　用心棒っていうのは、要するにあれですよ、ノミ屋やってるでしょ、競馬かなんかの。だけど払わないで逃げるヤツいるじゃないですか。

——ああ、それをとっ捕まえる役目と。

上田　そう。でも、だいたいがサングラスかけてヤクザのうしろに立ってるだけでよかったんだけどね。

——サングラスは重要なんですね（笑）。

上田　今日もね、このへんは怖いとこだから、サングラスかけてたんですよ。女房は「ヤクザと同じになっちゃうからかけるな」って言うんだけど（笑）。

——かけなくても充分怖いですけどね（笑）。

上田　でも、似合うでしょ？

——は、はい。歌舞伎町でそのビジュアルですと、あまり近づきたくはないです（笑）。

上田　いや、新宿はこれでいいんですよ。こういうのがいっぱいいるから。

——まあ、そうですね。その頃に、ヤクザ同士のケンカの仲裁に入って日本刀で斬りつけられそうになったこともあるんですよね。

上田　あれはね、三鷹にいたときかな。いまでもある店だけど、そのへんのハンパ者っていうかさ、みんな知ってるヤツなんですよ。飲み仲間っていうか。で、一人だけ渋谷のヤクザ者がいて。そこにたまに飲みに来てて。そしたら当然こっちの人間とケンカになるじゃないですか。

——縄張りが違うこともあって。

上田　そうそう。でも、いい人間なんですよ、自分と気が合って。みんなとは合わないけど自分とは合ったの。こっちもハンパ者だから、ケンカになったから自分が止めたの。そしたら日本刀持って戻ってきて、もう止める人がいないじゃない。それで表に出て止めようしたら今度はこっちに食ってかかってきたから「コノヤローッ！」って。ついついね……それで死んじゃったけどね（淡々と）。

——報道によれば、上田さんの右ヒジで……。

上田　そう。至近距離からだったら、ヒジは一発で倒れますよ。自分は4～5人相手によくケンカしてたから。2～3人はもう平気だった。いまはダメだけどね、前は平気だったですよ。三鷹じゃヤクザに名前覚えられてたの。

——つまり、顔だったんですか（笑）。

上田　いまも三鷹でちょっと暴れたら「なんだ、アイツかよ」って感じ。

——正当防衛ってことで、半年後には出所されたみたいですけど……。

上田　いや、正当防衛じゃないんですよ。

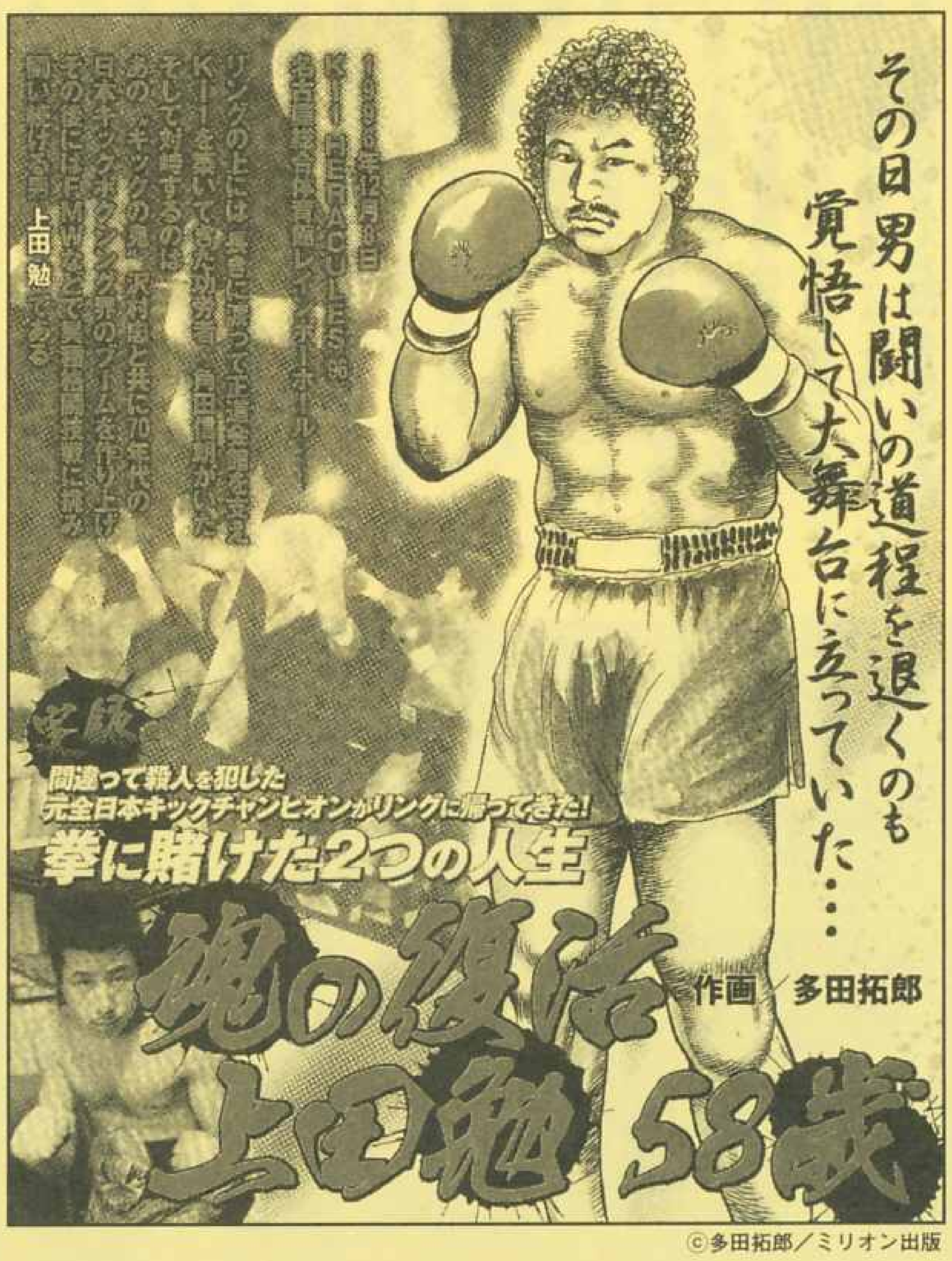
——エッ、違うんですか？

上田　だって正当防衛だったら無罪じゃないですか。傷害致死ですよ。よく記事とかで「正当防衛」って書いてるけど、正当防衛じゃなくて傷害致死で3～4年の執行猶予だから。だから示談したんですよ、女房が向こうと。で、出てきてから死んだヤツの親父と酒飲みましたよ。親父は九州の人間で。

——地元が近かったわけですね。

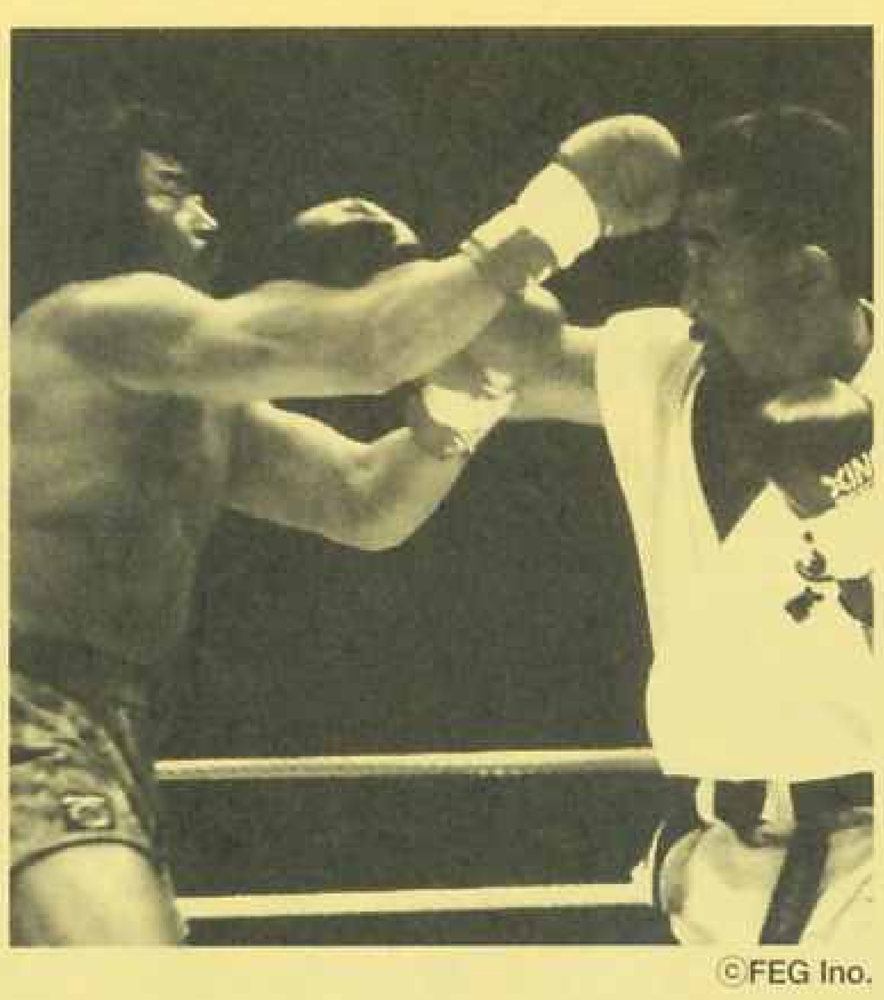
上田　そうそう。それで執行猶予が切れる頃にまた3人殴っちゃったの（苦笑）。

K—1での角田戦の仕掛け人は漫画家の多田拓郎先生だった



©多田拓郎／ミリオン出版





©FEG Inc.

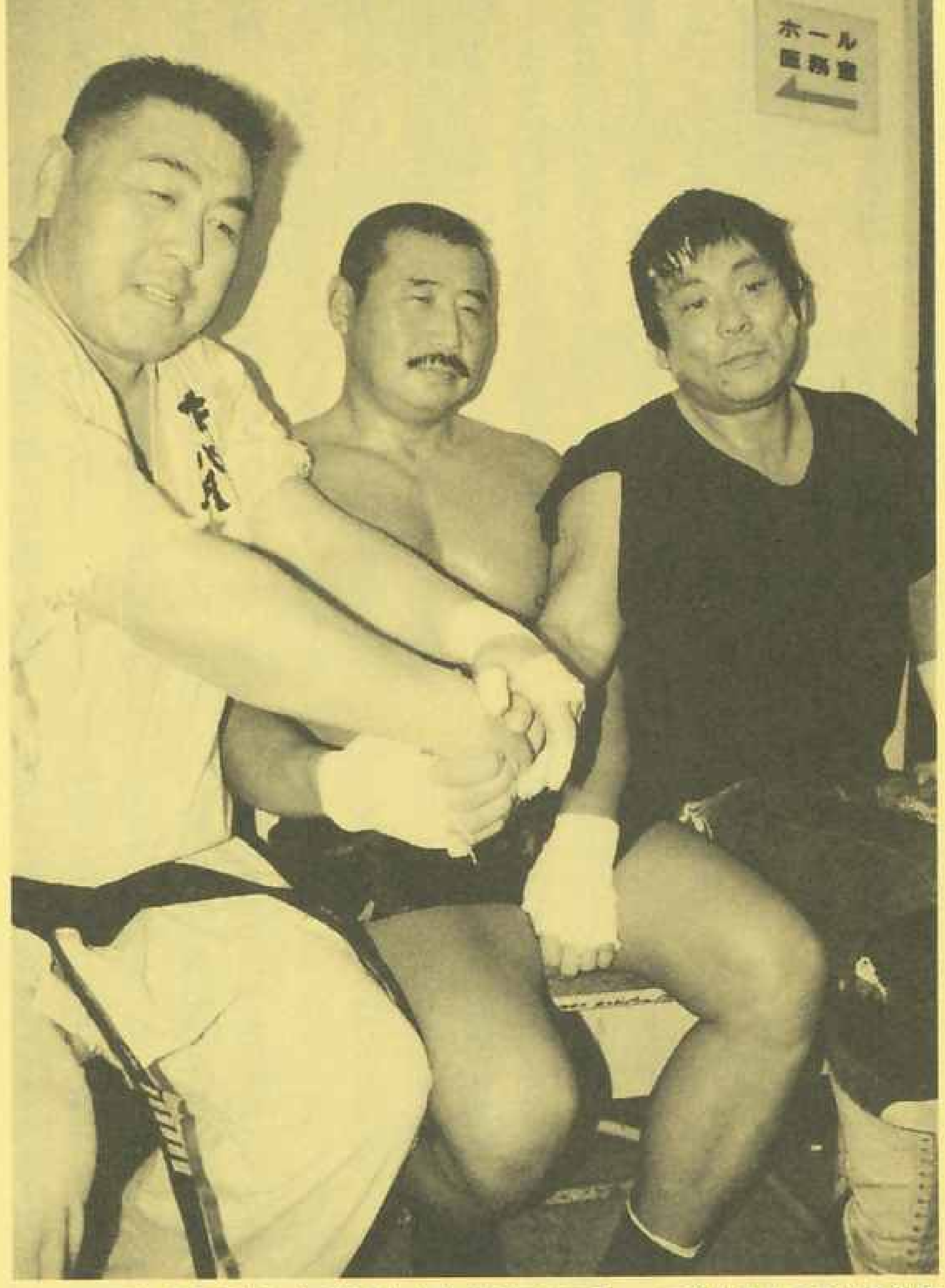
96年12月8日、50歳にしてK—1マットに初参戦を果たした上田は、当時35歳の角田と対戦。上田はキック時代を思い出すため本名の上田勉として出場。試合は15歳若い角田が上田のローやパンチをかわし右フックで最初のダウンを奪うと、立ち上がった上田がパンチを狙ったところにカウンターのフックを決めKO勝利。本文中にも出てくるが、この試合の仕掛け人は上田、そして角田の共通の友人で漫画実話ナックルズ（04年5月号）で上田勉物語を描いた漫画家の多田拓郎先生。読みごたえ充分のこの上田物語、いまならまだ古着屋等で探す価値あり!!
見つかるはず！





秒殺で〝ゴーリキ〟
方に向かって「0…
の〝SRF8回〟で…
完全に一体化！
う…

――それは、さすがにまずいですね。
上田　そのときもまた女房が示談してくれて。
――それじゃあ、奥さんには頭が上がらないんじゃないですか？
上田　そうだね（苦笑）。それからは、ほとんどケンカはしなくなったよね。
――昔の記事を読んだら、試合よりもケンカは楽だって書かれてましたけど、もう何回ケンカしたか覚えてないぐらいですか？
上田　わかんねえな（苦笑）。キックやってた頃はね、戦場に行く感じでね。これから試合ってなるとね、度胸が要るもん。「今日、どっか壊れて試合中止にならないかな」ってよく思ってた。でも、ケンカは酒飲んだら「お前、コノヤローッ！」の世界だから。
――突発的ですからね（笑）。
上田　そう、だから全然違うの。楽ですよ。
――プロレスも違う意味の緊張感とかあるんじゃないですか？
上田　プロレスの場合はリング慣れしてなかったから。だってプロレスは毎日だってやれるじゃないですか。だからプロレスの難しいところは、自分なんか受けれないからね。（サンボ）浅子なんか頭切ってガイジンにボコボコにされて、いつも怪我してたし。
――上田さんってFMW名物の有刺鉄線マッチとかはやってるんですか。
上田　一回やったんですよ。川崎球場で。自分とパンクと後藤さんと組んで、向こうがタイトンとグラジエーターとリッキー・フジで。
――そのときは有刺鉄線には……。
上田　あんまり近づかなかったね。
――さすがの上田さんでも近づかなかったと。
上田　嫌だもんね。でもサブゥー、アイツは偉いと思ったよ。自分からどこでもなんでも行くからね。けっきょく身体おかしくなっちゃったんでしょ。
――そうですね。ちなみにプロレスのリングで闘って一番強いなって感じたのは誰ですか？
上田　やっぱりベリチェフだろうね。
――ロシアの柔道家ですね。身体も大きかったですしね。
上田　力が強いの。だから、こっちが嫌がっても力で持ってかれちゃうから。

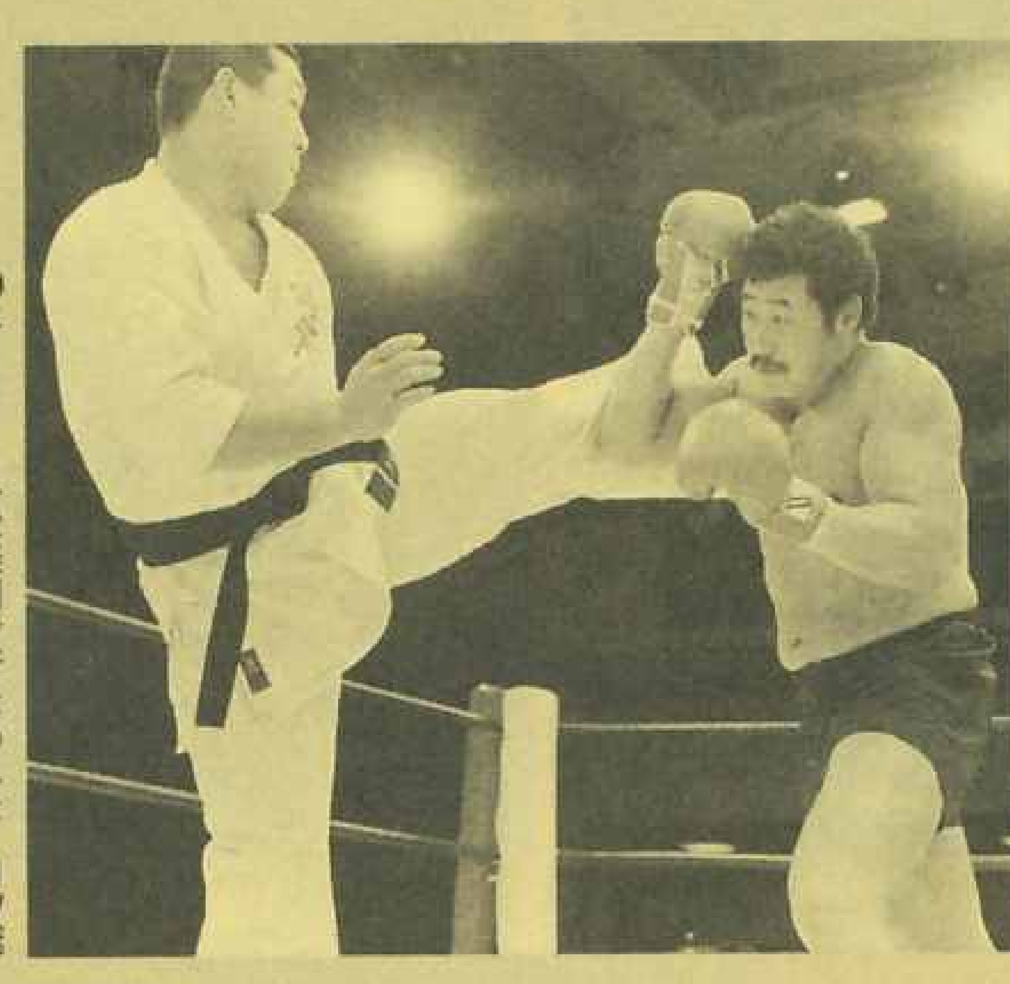


FMW10周年記念興行として行なわれた大仁田プロデュース後楽園大会では青柳館長＆シューター1号とタッグを組み、プロレスラーとしての名付け親、大仁田組と対戦した上田。試合後には青柳も交え3人でガッチリ握手。ちなみに、このときの上田は短髪だがプロレスのリングに上がっている頃はアフロがトレードマークだった。

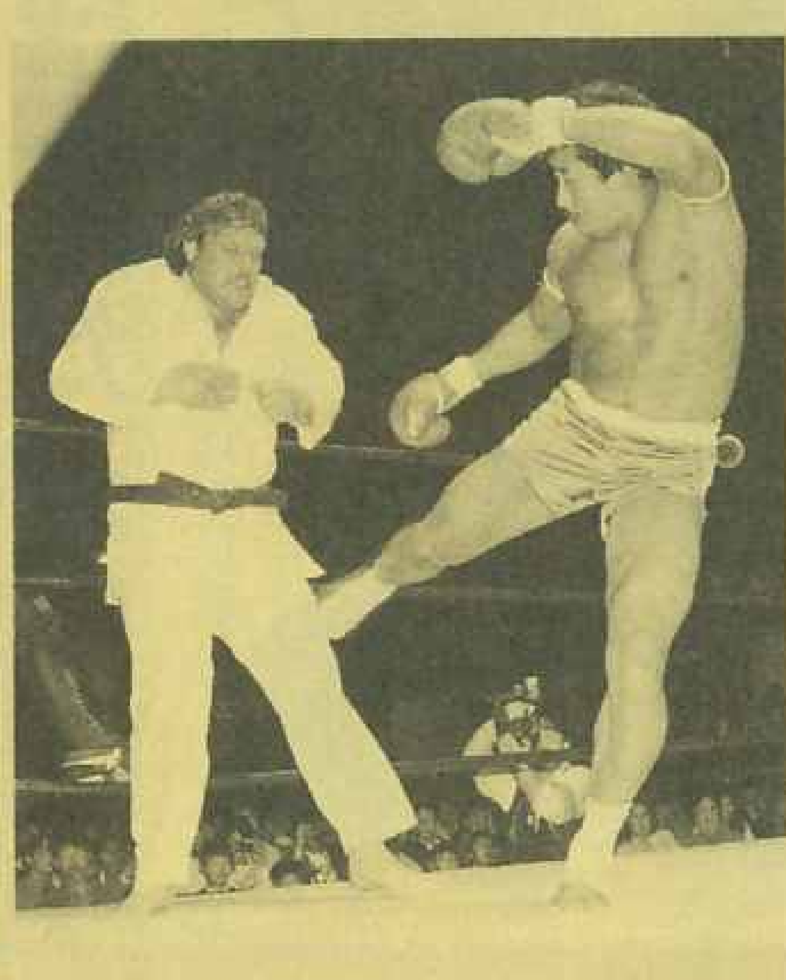
――ただ、ベリチェフもプロレスルールには戸惑ってたようにも思ったんですけど。
上田　だからいいんですよ、自分なんかとは合う。自分なんかはプロレスはあんまりしないほうがいいんですよ。それならガンガン行けるし。若手なんかはプロレスっていっても、上の命令だからしょうがないから俺とやってるわけでさ。
――結果的にはボコボコにされちゃうわけですからね（笑）。
上田　うん、ボコボコにされてね。でも、後藤さんなんかに「当てないでください」って言いに行けないじゃないですか。
――若手がそんなこと言えないですよね。
上田　だから「なんでプロレスに来たのにこんなことやらなきゃいけねえんだ」って思ってたんじゃない？（笑）。
――先ほども、ちょっと話題に出てましたけど、沢村忠さんが強いと噂を聞いて、道場破りのような形でジムに行って、結果的にはボコボコにされたのがキックを始めたきっかけなんですよね。
上田　ボコボコっていうか、ヒザ蹴りでね。
――そのときは、ホントに道場破りのような感じだったんですか？
上田　道場破りっちゅうか……昔はそんなのいっぱいあったから。いまもあると思うけど、仙台に青葉ジムっていうのがあって、そこにも道場破りに行ったんですよ、集団で。
――集団で道場破り!?
上田　そうそう。それで「若い人間とやってくれ」って言われたんで俺はやらなかったんだけど、若い人間がボコボコにされたりね。当時はそういう道場破りはいっぱいいましたから。自分もそうだし、みんなやってた。
――プロレス界でも昔はたまにあったみたいですけど、最近はほとんど聞かないですね。
上田　いまはべつに道場破りしなくたって、習いに行けるし。当時は「キック」って言われてもどういうのかわかんないじゃないですか。空手の人間は「俺のほうが強いかもしれない」って思ってるし、道場破りに行くのは自分に自信があるヤツだから。で、やってみ

上田勝次 激闘ファイル

キックボクサーとして活躍した上田は90年にFMWでプロレスデビュー。その後は、プロレスラーはもちろん、ボクシング元世界王者からロシアの柔道王まで様々なファイターと対戦している。ここで、何試合か上田のファイトを振り返ってみよう！

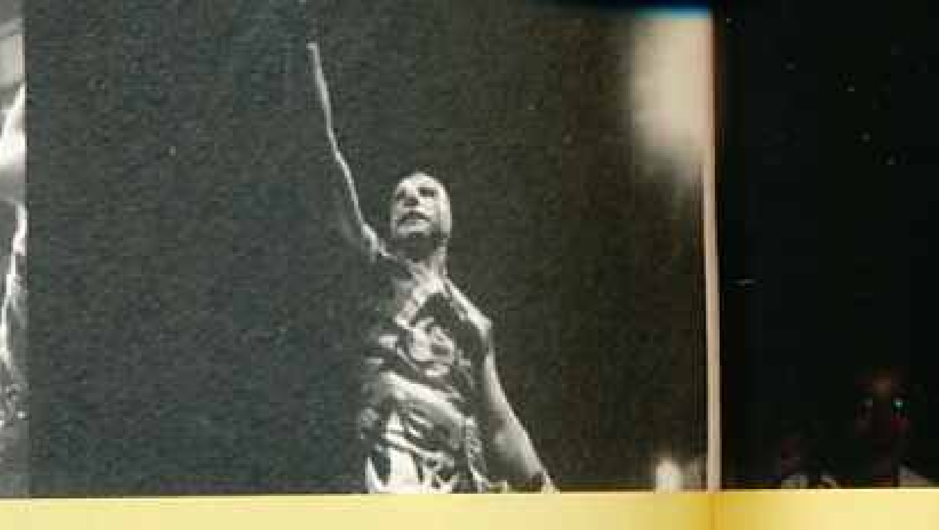


90年1月7日、後楽園で行なわれたFMW総合格闘技トーナメントでの松永光弘戦でプロレスデビューを果たした上田。試合は散々暴れまくった挙げ句、上田の反則負けという結果に。トーナメント優勝は、なんと栗栖正伸！



91年5月15日、大宮スケートセンターで行なわれた異種格闘技タッグ戦、上田＆シューターvsグリゴリー・ベリチェフ＆ボリス・ゴキチャシビリ戦。上田は「一番強かった」というベリチェフ相手に強烈なローキック！





壮絶半生記

て、俺よりも強いって思ったら、そこに入門してやればいいだけで。昔から自分が言ってるのは「プロレスはお客を沸かせてなんぼ」って。だから、もちろん真剣なんだけど、キックとかの真剣勝負とは違うってことで。

――キックやボクシングは基本的には「客を沸かせる」っていうよりは勝利に向かって一直線って感じですからね。

上田 そういう意味では自分はプロレスはあんまり好きじゃないの（笑）。これは性格的なものもあると思うけど。

――そんなこともあってか、しばらくプロレスから離れてた時期もありましたけど、いきなりK－1での角田伸朗戦が発表されたときは驚きましたね。

上田 あれはね、一回、「上田勉物語」っていうのを1～2年前に『ナックルズ』って雑誌で書いてもらったことがあるんだけど、それを描いてる漫画の多田（拓郎）先生が角田戦の仕掛人だったんですよ。

――多田先生は以前から角田さんと知り合いだったみたいですね。

上田 そうそう。角田もそうだし、石井館長も知り合いだから。その漫画の先生が三鷹にいて、角田とか、佐竹（雅昭）とか、みんな飲みに連れて回ってたの。それで俺が吉祥寺の店に飲みに行ったら「アンタに似た人がこの前来たよ」って言うからさ、誰かと思ったら角田のことなんだよ（笑）。

――似てはいないと思うんですけどね。

上田 で、「誰が連れてきたの？」って言ったら「いま売れっ子の漫画家の先生」って言ってて。そのときは俺もキックの会場に行くようになってたから、「その漫画の先生に会いたいから渡して」ってチケット渡して、後楽園で会ったんですよ。だから角田と自分が間違えられて、それからの付き合いでね。

――多田先生を通して、対戦が実現したわけですね。

上田 そうだね。それで石井館長を紹介されて。初めて石井館長が後楽園で興行やったとき自分も行って。たしか、後川（聡之）とスタン・ザ・マンがやったときかな。それと実験リーグで後川と平（直行）がやったの、あれも石井館長に招待されて行ったんですよ。

――それはリングスの後楽園大会ですね。

上田 そうそう、前田（日明）のところの大会。それぐらいから多田さんとの付き合いがはじまって、いまは友だちなんですよ。で、K－1で角田と自分が50歳のときにやったときは多田さんの紹介で、急に「やってくれ」って。

――エッ、K－1での角田戦も急遽決まった試合だったんですか⁉

上田 ホント、急に。その前に北海道でジョージ高野とやったんだけど。

――あれ、ジョージさんとの試合はキックの引退試合じゃなかったでしたっけ？

上田 いや、引退試合はK－1に出た後だから。北海道でもキックルールでジョージさんとやって、そのときは勝ったんですよ。もちろん、真剣勝負でね。

――キックルールで、しかも真剣勝負だったら当然負けられないですよね。

上田 そうだね。維新力に「向こうで格闘家を募集してる」って言うから、「自分が行ってもいいけど、真剣勝負じゃないとやらないから」って言ったら、「いいですよ」って。で、1回目行って引き分けたんですよ。自分も向こうも3回ダウンして。で、2回目はね、向こうのローカルのNHKかなんかで放送されたんですよ。そのときは自分が勝ってね。

――北海道でジョージ高野vs上田勝次のガチンコが一度ならず二度まで実現してましたか。

上田 ジョージさんとの試合はどっちも真剣勝負。

――たしか、ジョージさんは北海道で、どっかの中学校の先生に負けたっていうのも報道されてましたね。

上田 そんなのもあったかな。それから一ヵ月も経たないうちに「角田とやってくれ」って言われて。

――同じ真剣勝負と言っても北海道の小さな体育館とK－1ではエライ違いですよね（笑）。

上田 そうだよな。そのときは足も痛かったし、自分はメシが食えなかったんですよ。おかゆしか食えなかったの。歯がもうやられてっから。

――体調的にもあんまりよくなかったわけですね。

上田 全然よくない。でも、それは理由にならないからね。断ろうか迷ったけど、角田とは一回やってみたいなと思ってて。

――たしか、角田さんとは年齢差が15歳ぐらいあったんですよね。

上田 歳はいいんだけど、最後ダウンもらったとき、ホントはまだ起きれたんですよ。

――エッ⁉ それはどういう意味ですか？

上田 いや、レフェリーが自分の頭を押さえて起こさないんだもん（笑）。

――アハハハハ！ 押さえつけられてましたか。

上田 そうそう。角田もね、グラグラしてたんですよ。それはよくわかったの。

――角田さんのほうもダメージがあったと。

上田 効いてるなと思って。カウンターで入って、自分はそんなに効いてなかったから起きようと思えば起きれたんだけど、10カウント取られてね。ジョージさんとの引退試合のときは何回も倒れたけど。

――キックの引退試合は後楽園でしたよね。

上田 あのときは足がダメだったんですよ。階段が昇れないぐらいダメで。でも引退試合だからいいやって感じで。あとで女房に怒られたけど。「足痛いのにやるな」って（苦笑）。

――奥さんの制止を振り切って試合をしたわけですね。

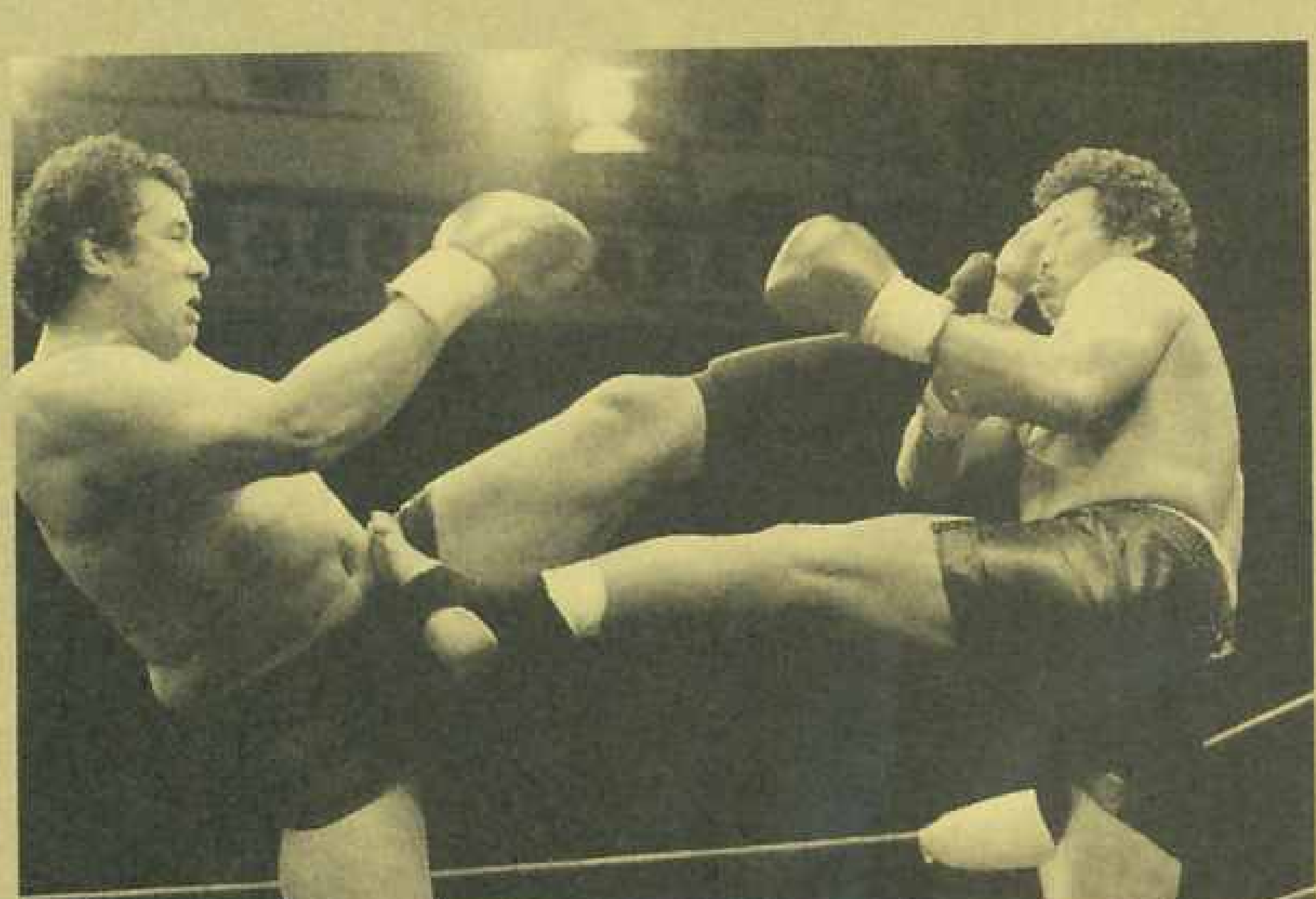
上田 結局はね。でもいいんだよ、引退試合なんだから負けたってなんだって。ボコボコに負けましたよ。

――K－1での角田戦は時間的には1分50秒でKO負けということですけど……。

上田 だからもう、あの試合は普通はいかないんだけどね、最初からガンガンいったのよ。でもほら、起きようと思っても起こしてくれないから。参ったな、あれ（苦笑）。

――（当時の『格通』に載ったダウンシーンの写真を見て）たしかにレフェリーが押さえつけているようにも見えますね（笑）。

上田 そうそう、まだ効いてないのよ。カウンターで当たっただけで、その勢いで倒れた


98年1月18日、新東京プロレス後楽園大会でジョージ高野相手にキック引退試合を行なった上田。当時52歳の上田は5Rまで持ち込んで見せるも最後はKO負け。試合後は「プロレスを愛してください！」とマイク。


93年8月22日、西宮スタジアムで実現したキックの元東洋王者の上田とボクシング元世界王者のレオン・スピンクス戦。試合は当時47歳の上田が大方の予想に反し8歳年下のスピンクスに右ミドルで見事KO勝ちを収めた。



蝶野の暴走族時代の頭が知り合いでね アイツはたいしたことなかったけど

んだから。だから大会後のパーティ出て酒も飲みましたから。

—そうでしたか（笑）。あの試合はテレビでも放映されましたし、やっぱりギャラ的には、いままでで一番よかったんじゃないですか？

上田 お金はね。だって、プロレスは安いじゃないですか。みんな可哀想ですよ。ケガしたりなんかするとくにね。どっちもやってることのハードさは変わらないから。

—いまは逆に『PRIDE』とか総合格闘技の人気が高いですけど、興味はあります？

上田 このあいだも『HERO'S』をテレビで観たけど、柔道の秋山（成勲）も結局、パンチとかキックになっちゃうもんね。

—こないだの永田克彦戦はキックでKOしましたからね。

上田 あれね、たぶんアバラ折れてると思うよ。ちょうどいいとこ入ったんだよね。秋山はほとんどパンチの練習ばっかりやってんじゃねえの？

—ここ最近は打撃の練習にかなり力を入れてるみたいですからね。

上田 結局倒して、それから絞めに入ったっていいんだもんね。でもどうなのかね？ 何でもありの人気って、ずっと続くのかね？ キックはK―1があって、K―1にはほとんどプロレスのファンが行ったでしょ。

—そういうファンも実際多いですよね。

上田 キックなんか知らないプロレスファンがK―1に行ったから。だからキックはちょっとダメになってるし。プロレスファンは「格闘技はちょっと違う」っていう人が多いからね。プロレスっていうのは子どもだって観れるもんだから。

—ただ、プロレスは、いまはそういった子どもたちが観れない時間帯にやってるんで、プロレス人気も正直下降気味なんですよ。

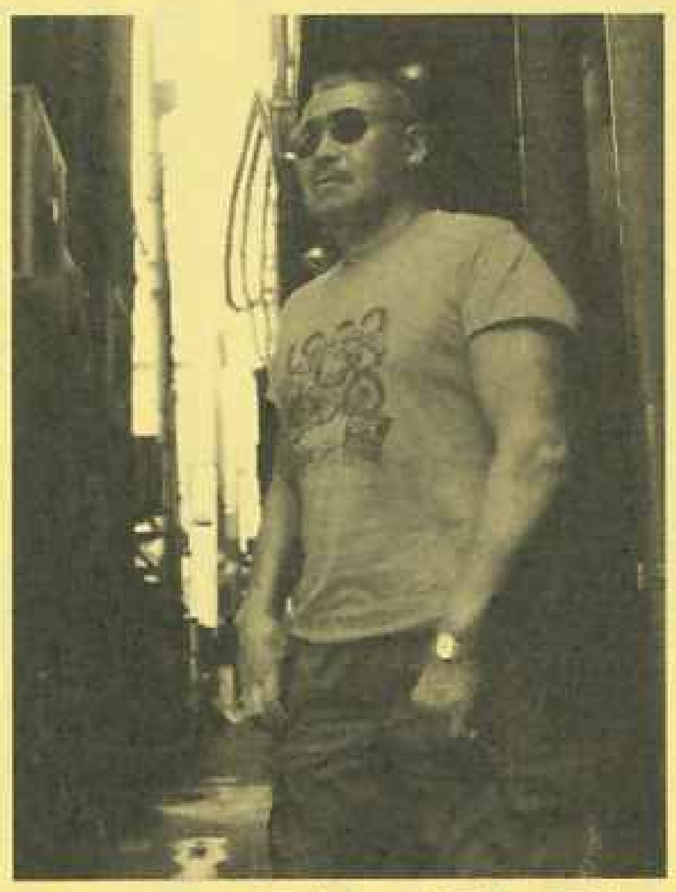
上田 でも子どもが観れる時間に変なのやったってね。なんか最近「ハッスル」とか変なのやってるでしょ（笑）。

—へんなの、ですか（笑）。

上田 ああいうのもウケるのかもしれないけど、やっぱり、ちゃんとガンガンやるプロレスを一試合でもやれば違うと思うんだけど、どうですか？

—どうなんですかねぇ。

上田 要するにしょっぱいプロレスっていうのは違うからね。しょっぱいプロレスをいくら見せてもダメだけど、ガンガンやるプロレスをちゃんと見せたら絶対伝わるから。ちっちゃい団体だって、いいレスラーはいるし。



うえだ・かつじ■本名・上田勉。昭和20年12月15日、長崎県出身。中学時代は柔道に打ち込み、卒業後はボクシングを始めるもプロテストで不合格となり挫折。キックボクシングと出会って東洋チャンピオンまで上りつめるも、その後は裏街道へ。数年後、FMWでプロレスデビュー、今年の5月5日に久々にプロレスのリングに登場。

—最近、誰かいい選手はいました？

上田 DDTにちっちゃいのいたけど、あれはけっこういいプロレスやってたもんね。

—MIKAMI選手ですかね？

上田 そう、MIKAMI。アイツいい試合やったのよ。前に高木（三四郎）と組んだりしてやったことあるからさ。

—ああ、何年か前に大仁田興行の地方大会とかに一緒に出てましたね。

上田 そう。やっぱりいい試合してればね、お客も来るって。自分も観てていい試合だなと思うもん。闘龍門はもうないんだっけ？

—いまはドラゴンゲートっていう名前でやってますね。

上田 あれはけっこう人気があるみたいね。

—地方とかでも、しっかりお客さんを入れてるし、後楽園も毎回超満員ですからね。

上田 客が入るっていうことはおもしろいっていうことだよ。プロレスとわかって見てても面白いんだから。

—逆に、いま、あまりお客さんが入らなくなってきてるのが新日本ですね。

上田 いま、新日本は誰がいるの？

—蝶野さんとかがトップで、長州さんが現場監督をしてますね。

上田 蝶野も三鷹なんですよ。アイツの暴走族時代の頭が俺の知り合いで。

—蝶野さんといえば、昔は三鷹近辺で、かなりのワルだったって有名ですもんね。

上田 いや、アイツなんかたかが知れてるよ。

—たかが知れてましたか。

上田 あそこの族からヤクザになったヤツもいるんだけど、蝶野自身はたいしたことなかったよ。そのへんの連中が集まる店があって、たまに顔合わせたりすることもあるんだけど。

—その場には居合わせたくないですね（笑）。

上田 ところで今日の亀田の試合って何時からでした？ 間に合うように帰らないと。

—やっぱり、上田さんでも亀田兄弟は気になりますか？ 良くも悪くもいろいろと話題になってますけど。

上田 でも練習やってっからいいんじゃないの？ あれで練習やらなかったらダメだけどね。それに、いまは協栄（亀田三兄弟の所属ジム）が協力してるから、あそこは興行うまいからね。

—テレビ局の力も大きいんでしょうけど、興行としては、対戦相手をはじめ、うまく考えてやってますよね。

上田 相手は日本人じゃないからね。でも、あれでオヤジの言うこと聞かなくなって、練習やらなくなったらどうかわかんないけど。

—オヤジとケンカでもしたら大変ですよね。

上田 まあ、そんなにうまいとは思わないけど、練習やってっから。技術的に言うんなら、あんまりフットワーク使えないでしょ。だからフットワーク使うヤツと当たった場合どうなるか。スタミナがあればそれだけでやれるけど、辰吉（丈一郎）みたいにスタミナがなくなってくるとダメになっちゃう。

—やっぱり、いま一番気になる格闘技というとボクシングになるわけですか？

上田 そうだね。キックも多少は気になるけど。魔裟斗はいま伊原（信一・新日本キック会長）のとこに行ってるでしょ？

—自分のジムもありますけど、伊原ジムにも、たまに行ってるみたいですね。

上田 伊原は自分の後輩なんですよ。で、武田幸三のとこの会長、長江（国政・治政館館長）なんかは自分がもう30何戦やって、一番最後の試合のとき、まだ4試合目とかだったの。伊原も俺が辞める頃に入ってるし。

—いまのキック界の重鎮も上田さんから見ると、ほとんどが後輩になるわけですね。

上田 それだけ歳取ったってことですよ（苦笑）。

—いやいや。でも、よくリングは麻薬だとか言いますけど、久々にリングに上がったら、また出たいとか思ったりしません？

上田 もういいな。でも後藤さんにインタビュー受けるって言ったら「また出たいって言ってくださいね」って言われたよ（苦笑）。

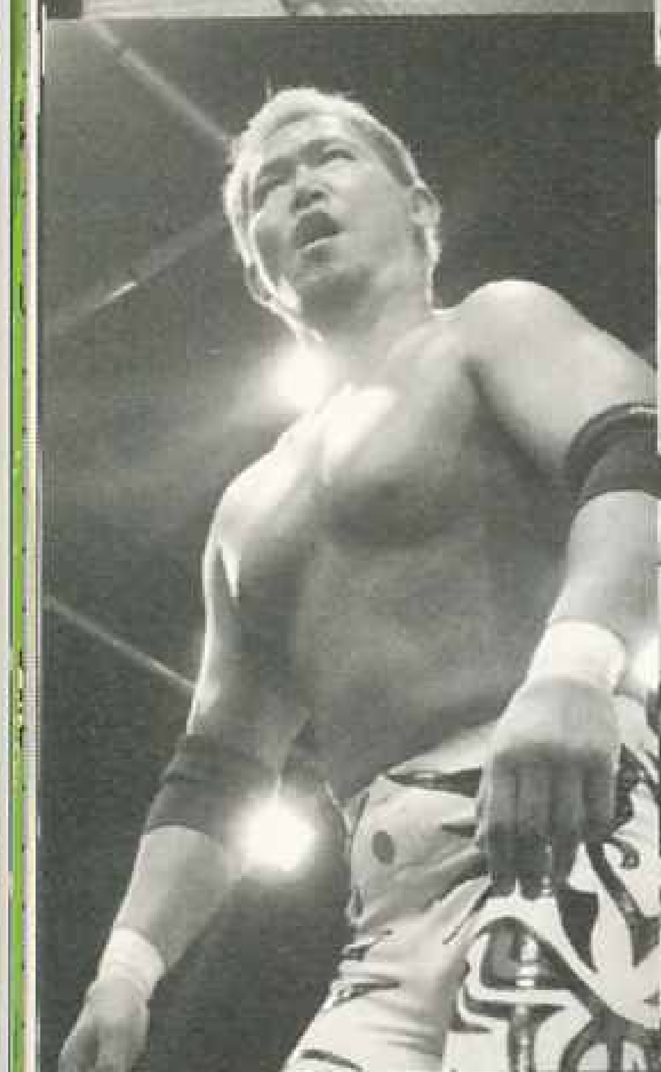
—アハハハハ！

上田 そう言ってくれって。でも、そうすると今度は維新力から言われるからね。「なんでウチには出てくれないんですか」って。

—いろいろと付き合いがあって大変ですね（笑）。後藤さん関連の大会でも、維新力さん関連でも、どちらでもかまいませんので、また試合を観られるのを楽しみにしてます！

【5月5日／新宿歌舞伎町某所にて収録】













DRAGOMANIA

闘龍門9周年記念 in アレナ・メヒコ
“dragomania”

GREATMUTA in MEXICO

昨年、初代タイガーマスク27年ぶりのメキシコ凱旋を目玉に、初のアレナ・メヒコ自主興行を実現させた闘龍門が、今年はグレート・ムタを初めてメキシコに招聘！ 9周年記念のビッグイベント『ドラゴマニア』を開催した。ルチャとムタ、これまで一切接点がなかったこの初遭遇からいったい何が生まれたのか？

取材＆撮影／堀江ガンツ　design by さおとめの事務所





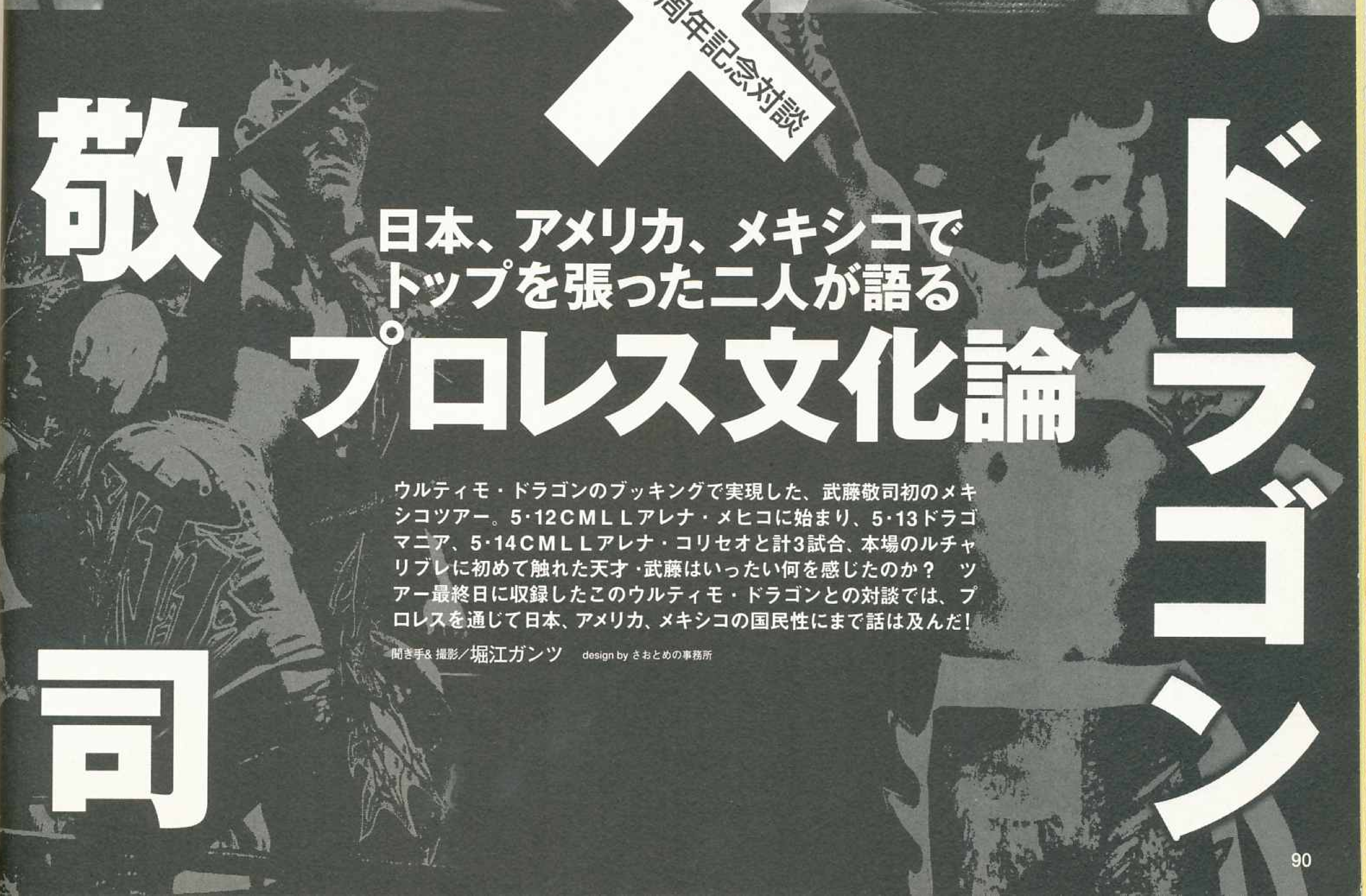




闘龍門9周年記念対談

ウルティモ・ドラゴン × 武藤敬司

こんな話ができるのは俺と浅井だけだよ!!（武藤）



日本、アメリカ、メキシコでトップを張った二人が語る

プロレス文化論

ウルティモ・ドラゴンのブッキングで実現した、武藤敬司初のメキシコツアー。5・12CMLLアレナ・メヒコに始まり、5・13ドラゴマニア、5・14CMLLアレナ・コリセオと計3試合、本場のルチャリブレに初めて触れた天才・武藤はいったい何を感じたのか？　ツアー最終日に収録したこのウルティモ・ドラゴンとの対談では、プロレスを通じて日本、アメリカ、メキシコの国民性にまで話は及んだ！

聞き手＆撮影／堀江ガンツ　design by さおとめの事務所

――武藤さん、3日間お疲れさまでした！

武藤　うーし。お疲れ。でも、3日間って言っても『kamipro』は2日しか観てねーじゃん。

――前号の締め切りの都合で、メキシコ入りが1日遅れちゃったんですよ。「武藤敬司」として出場した初日のCMLLアレナ・メヒコ大会はどうだったんですか？

武藤　そりゃあ初日が一番良かったよぉ。

――ホントですかぁ？（笑）。

武藤　ムーンサルト2回転したからね。

――そんなウルトラCが飛び出してましたか（笑）。そんなことはともかく、初のメキシコ遠征を終えてみていかがですか？

武藤　疲れたよ。浅井はもっと疲れたと思うけどね（笑）。

ドラゴン　いやぁ、さすがに疲れましたね（苦笑）。アレナ・メヒコで（自主興行を）やるのは去年に続いて2回目ですけど、去年以上にお客さんを入れなきゃいけない、グレート・ムタを満員の観客の前で闘わせたいと思ってたんで、試合当日のお昼まで営業してましたから。

――でも、その甲斐あって、あの〝ルチャの殿堂〟が満員になりましたからね。

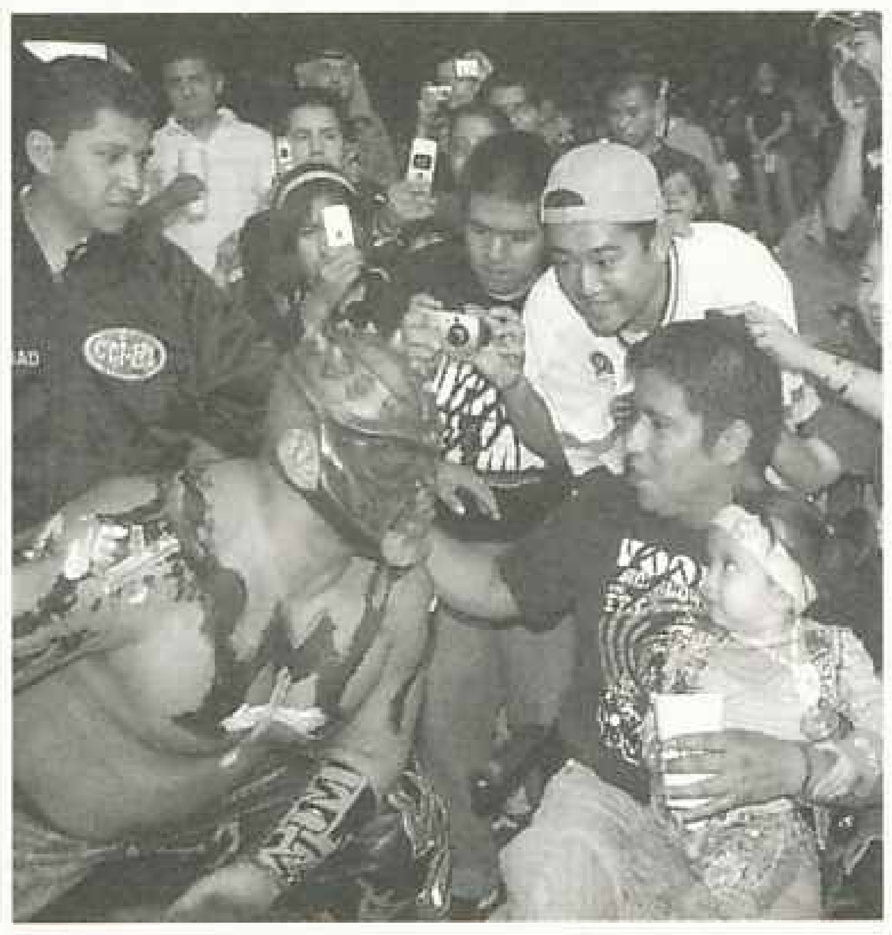
武藤　初日がこっちの興行（CMLL）で2日目が浅井んとこの興行だったけど、2日目のほうが入ってたもんな。たいしたもんだよ！

――武藤さんは初のメキシコでしたけど、カルチャーショックは受けましたか？

武藤　カルチャーショックではないけど、やっぱり「プロレス」ってひと言でいってもさ、国によって全然ルールが違うんだよ。だからメキシコは初めてっていうことで、そういう難しさはあったよな。

みんなマスク被ってるから敵か味方か最後までわからなかったよ







武藤&ムタ初のメキシコツアーは、初日CMLLアレナ・メヒコ（武藤）、2日目の闘龍門アレナ・メヒコ（ムタ）、3日目のCMLLアレナ・コリセオ（ムタ）と3試合登場。ムタは慣れないメキシコマットのリング上での闘いには、あえてほとんど加わらず、勝手にリング周辺を徘徊したりと、独自の世界観でメヒコの観客をムタワールドに誘っていった。

だいたいさ、みんなマスク被ってるから、誰が誰なんだか、敵なのか味方なのかも最後までよくわからなかったからな。

――そこまで手探りでしたか（笑）。だから、しゃべらないはずのグレート・ムタが試合中、パートナーのウルティモ・ドラゴンに何度も話しかけてましたよね？

武藤　わっかんねぇんだからしょうがねーよ。

――でも、あれ日本でもテレビ放送されますけど、大丈夫なんですか？

武藤　マジかよ!?　サムライ（TV）で？　ちょっとカットしてもらわないと（笑）。

――いや、CMLLの映像なんでもう手遅れだと思います（笑）。

武藤　でもさ、あの状況にいきなりセッティングされて順応できるレスラー、おそらく日本にはいねぇよな。俺だって「武藤敬司」だったら苦しかったと思うよ。ムタは勝手なことやってられるけど、何をどうしていいのか、わからねぇからな。

ドラゴン　プロレスとルチャリブレって、じつはサッカーとラグビーぐらい違いますからね。

武藤　そうだよな。だってさ、3日目の8人タッグなんて、こっちが2本取られてるのに、なんで負けにならねぇのかわからなくてさ。俺、慌てちゃったよ。いまだにどうやって勝敗が決まるのかわからねぇよ（笑）。

――試合が終わってもまだわかりませんか（笑）。

武藤　あれ、どうなってんの？

ドラゴン　こっちの6人タッグマッチって、相手チームのキャプテンをフォールするか、2本先取したほうが勝ちなんですよ。それで2日目と3日目は8人タッグだったじゃないですか。で、8人タッグって、じつは僕も厳密なルールはよくわからないんですよ（笑）。

武藤　浅井がわからねぇんじゃ、俺がわかるわけねーじゃん！　グレート・ムタが何にもしないうちに、味方が2本取られて「おいおい、試合終わっちまった」と思ってさ（笑）。

――あのときの、うろたえるグレート・ムタというのは貴重な絵ですよね（笑）。

ドラゴン　俺もどう説明していいかわからないんですよ。なんとなく、両チームがフォール取り合って、最後いいところで取ったチームが勝ちみたいな（笑）。たぶん、オフィスに聞いても厳密なルールはわからないと思いますよ。それを観客が受け入れてるのが凄いんですけど（笑）。しかも、こういうところもルチャリブレなんですけど、試合が始まるギリギリまで選手が会場入りしないんですよね。（対戦相手が）試合の15分前ぐらいに着きやがって、お前らおせーよって（笑）。

――まさにぶっつけ本番なんですね（笑）。

武藤　コスチューム着てマスク被るだけなら15分でもいいけどよ。俺、ヒザ悪いから、テーピングにすげー時間かかるんだよ。いつもはトレーナーが巻いてくれるからいいけど、今回は（ブルート）一生が巻いたから、どれぐらい時間かかるか予測つかねーんだよ。だから、テーピング巻いてムタの格好して支度終わったの入場するホントぎりぎりだったからね。

――ムタの前にやった、MAZADA&OKUMURA組の試合がやたら長かった理由がなんとなくわかりますね（笑）。

武藤　だってさ、俺はMAZADAに嘘つかれて遅れたんだから。あいつ「第2試合の女子が3本勝負だから（準備する）時間ありますよ」とか言ってたのにさ、一本勝負ですぐ終わりやがるんだよ（笑）。

――だからそのぶん、MAZADA選手に長く試合をやってもらったと（笑）。

ドラゴン　そういうことも含めて、今回の企画の発端は、武藤さんやグレート・ムタとルチャリブレって凄くミスマッチじゃないですか。逆にそれが凄くおもしろいだろうなって思って。それと武藤さんは日本では、新日本と全日本で長いこと活躍して、アメリカでも長いこと活躍して、言い方悪いですけど、見慣れちゃってるじゃないですか。たとえば東京ドームや日本武道館でグレート・ムタが観られるのは当たり前みたいになってるでしょ？　でも、アレナ・メヒコにグレート・ムタが上がったら凄いおもしろい絵が撮れるんじゃないかって、マスコミ的な視点で考えたんですよね。だから、新しいシチュエーションに入ってもらえれば、ムタがまた大きくなるし、ムタの幅も広がると思うんですよね。

武藤　WCWでムタが初めて出たとき、これはゲーリー・ハート（当時のマネージャー）のプロデュースが良かった。すげぇ小出しにしてくれたんだよ。一番最初に出たときは、ゴングが鳴ってから1分間、ずーっと拝んでるだけで、そのあと急に動き出して一発だけ技バーンと出して勝ったんだよ。それから何試合かやるウチにムタの全貌が見えてくるっていうか、少しずつビルドしていったからな。

――おかげでムタの神秘性が保たれたわけですね。

武藤　だから最初は毒霧も吐かなかったんだよ。赤とか緑の液体を口からだら～っと垂らすだけ。そっから構築していったんだけど、それがプロレスの良さであって。もし、俺がメヒコで定着してやらなきゃいけなかったら、そのへんから構築してやりてぇって思ったよな。ただ、



いまの俺はそういう"時"という一番の敵が立ちはだかっていて、そういうことをする時間がないけどね。

ドラゴン　グレート・ムタってアメリカで生まれたものじゃないですか。だから、あの時期に武藤さんがメキシコに来られてたら、ああいうグレート・ムタになってなかったと思うんですよ。だから逆にいまムタとしてメキシコに来ることに意味があると思うんですよ。それにグレート・ムタが上がるには、それなりの舞台って必要じゃないですか。ムタが小さい会場でやっても仕方ないし、マスコミが少ない中でやってもしょうがない。それが昨日はアレナ・メヒコという大会場で日本からもメキシコからもホントに多くの取材が来てくれた。あれを見て、やっぱり世界のスーパースターなんだなって思いました。普通、日本人のレスラーがメキシコに来ても、現地のマスコミは適当に写真撮って終わりですよ。

武藤　だから、先ほど言ったストーリーの重要性？　いまの日本の団体ってそれさえもわかってない人たちが大部分だよな。それに引き換え、昨日のドラゴン、いうなればプロデューサーだよな。すべての指揮官、そういう意味ではいろんなことをまじまじと勉強させてもらったっていうのはすげぇあるね。

——アレナ・メヒコで興行打って満員の観客を集めるんですからね。

武藤　だから、レスラーとしてもいいけど、そういう才能も素晴らしいよな。いま、浅井とドラゴンゲートがどういう関係だとか、俺はわかんねーけど、作り上げる能力さえあれば、そんなもん、どんどんまた生産できるんだよ。そういうノウハウを持ってるんだよな。

——闘龍門メキシコ道場も初めてご覧になったと思いますけど、いかがでしたか？

武藤　いやぁ、いいシステムだと思うよ。これ、日本でやろうとしてもできねぇと思うけどな（笑）。そういうところを考えつく素晴らしさってあるよな。

ドラゴン　武藤さんの言うとおり、あの学校システムの道場は日本じゃ無理ですよ。あれメキシコだったからできたんですよ。メキシコって試合がもの凄くたくさんあるんですよ。だから、どんなにしょっぱい若手レスラーでも、お金のこと考えなければ試合するチャンスっていくらでもあるんですよ。やっぱり試合がないと励みにならないし、経験も積めないからうまくならないじゃないですか。



武藤　試合慣れって大事だよな。

ドラゴン　だから、武藤さんぐらいが最後ですよね。海外武者修行して成長して日本に帰ってくるって。

武藤　いま、そういう経験できねぇよ。

ドラゴン　それがメキシコだったらできるんですよ。だからジュニアヘビーの選手なら、凱旋帰国でスターになれるかもしれない。ヘビー級は難しいですけどね。

武藤　メキシコってギャラ安いのかと思ってたけど、やっぱりトップは一流どころのギャラ取ってるもんな。日本との物価の違いを考えたら、凄いぜ。それだけ底辺が広がっても当たり前だなと思うものがあるよな。

——メキシコのイメージ変わりました？

武藤　イメージ変わったのと、いろいろ勉強になったよな。

——武藤さん、メキシコのもともとのイメージはどうでした？

武藤　ぶっちゃけ、あんまいいイメージなかったよ（笑）。

——やっぱり（笑）。

武藤　それは俺らの先輩方から、いろいろとんでもない話聞かされてたからなんだけどさ。一説によるとジョージ（高野）さんかヒロ（斉藤）さんが働いてた頃、ペソが一日で大暴落して稼いだ金全部が紙切れになっちゃったとか聞いたからな。

——そういう数々の悪いウワサが（笑）。

武藤　そうそう。あとは身体壊すとかですよね。

——武藤さんも今回、洗礼を受けたらしいですけど（笑）。

武藤　ケツから毒霧だよ！（笑）。

——ダハハハ！　汚い毒霧ですね（笑）。

ドラゴン　だから今回、来る前に武藤さんにメキシコはこうですよこうですよ、っていろいろ説明したんですけど、武藤さん信用しないんですよ。「ホントかよ？　そんないいこと言ってさ」とか言って（笑）。だからこそ、実際にメキシコを体感してもらって、何かを感じ取ってくれたらいいと思ったんですよ。だってプロレスがこんなに盛んな国って世界中探してもここだけじゃないですか。

武藤　それからメキシコはコミッショナーがしっかりしてるのが素晴らしいよな。やっぱり日本も、小さいプロモーションがいくつもあってもいいんだけど、それを統一するコミッショナーの必要性をまじまじと感じたね。そうなればアングルも作りやすいからな。

——すべてストーリーに筋が通るわけですからね。

ドラゴン　昨日だって、試合前にアトランティスとウルティモ・ゲレーロが「こんな試合やってらんねぇから帰るぞ」って控室に戻ろうとしたとき、へんなオヤジがマイク持ってしゃべってたじゃないですか。あれはコミッショナーで、「これは協会が許可した試合だから、ボイコットするなら2週間の出場停止だ」って言ったんですよ。それで彼らは戻ってきて試合再開になったんですよ。

武藤　そういう絶対的なルールがないと、プロレスが成り立たないよな。

ドラゴン　だからもともと力道山先生の時代は、そういう目に見えないルールがあったじゃないですか。それを馬場さんと猪木さんの時代に確立できなかったのが、いまの無法地帯、プロレス界低迷の遠因でもあるんじゃないですか。

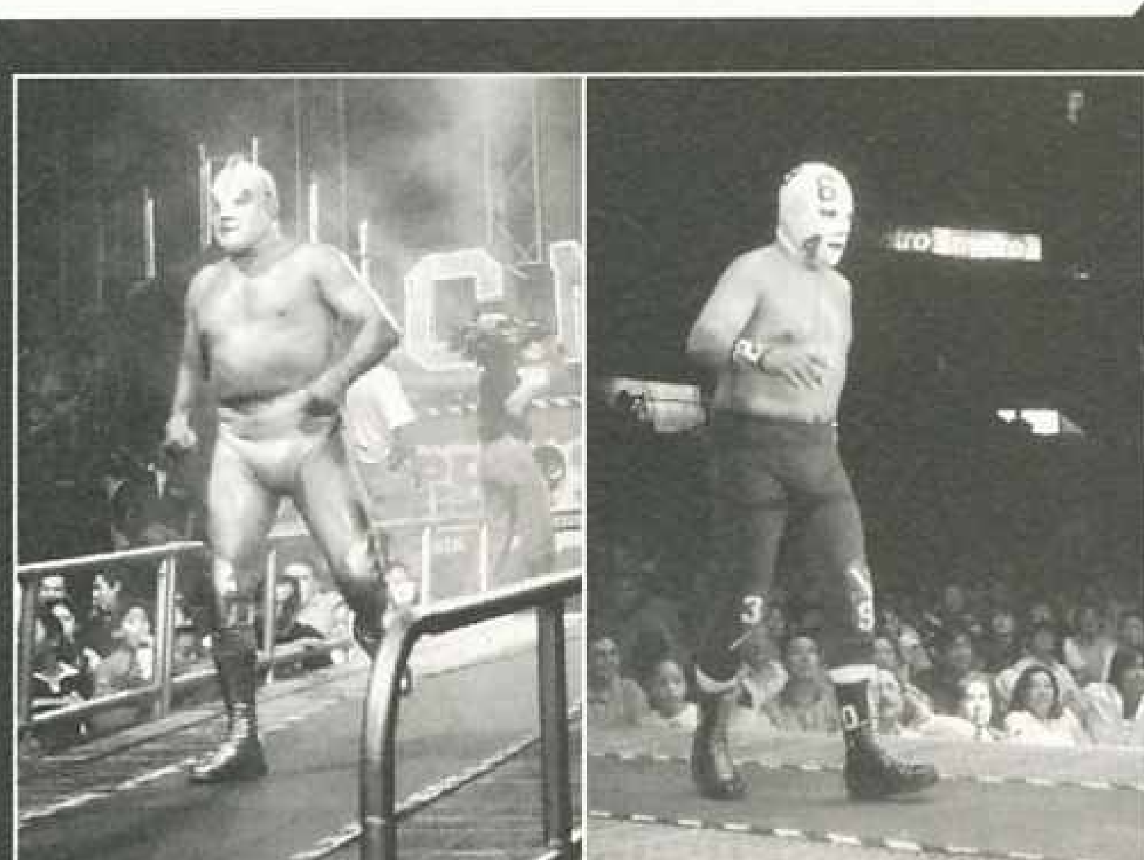
武藤　たぶんね、維新軍とかあのへんからだよな、ルール無視してきたのは。

——それこそ掟破りの逆サソリなんかは、

5・13 dragomania DIGEST



見てみ、この客入り！　盛り上がり！　昨年に引き続き、二度目となる"ルチャの殿堂"アレナ・メヒコでの闘龍門自主興行は、昨年を上回る1万2063人の大観衆で埋め尽くされた。来年の10周年記念大会では札止めを狙う！



ドラゴンスクランブル（バトルロイヤル）にはウルトラマンや、"数学仮面"エル・マテマティコなど、子どもの頃、憧れた伝説のルチャドールが登場！



ドラゴンスクランブル優勝は、旧UWFにも登場したファンタスマの息子、エル・イホ・デル・ファンタスマ！　ちびっ子ファンにも大人気だ。



メキシコで何が困ったかってリングの周りに凶器がないこと!

ホントに掟破りなわけですよね（笑）。

武藤　それとか、レフェリー無視して3人掛かりでやったり、合体パイルドライバーとかな。あれは絶対レフェリーが見てたらやっちゃダメなんだよ！　凶器だってレフェリーが見てる前で使ったら、即反則負けじゃないとおかしいんだよ！

――昔のブッチャーみたいに、ジョー樋口さんがパートナーに気を取られて見てない隙に隠していたフォークを突き刺さなきゃダメってことですよね（笑）。

武藤　そうだよ！　レフェリーは見てないけど、観客は見ていて、気づかないレフェリーにやきもきする。それじゃなきゃ、反則する意味すらねーよ！

――ヒールは観客をヒートさせるために反則するわけですからね。

武藤　俺もムタでヒートさせようと思ったんだけどさ、メキシコで何が困ったかって、リングの周りの凶器がないことないこと。

――ダハハハ！

武藤　凶器になるもん探そうと思って、リング下をめくろうとしても、めくれないようになってんだよ。しょうがねぇから、リングに上がるための階段持ち上げたら、壊しちまったんだよな（笑）。

――レフェリー慌ててましたよね（笑）。

武藤　でもさ、凶器は見つかんねぇけど、あの体育館（アレナ・メヒコ）はいいよな。あれは日本武道館と違って、プロレスを見るための体育館だろ？　コンサートやったり、なんかイベントやるためじゃなくて、プロレスのための専用体育館なんだから、そこがすげぇよ。

ドラゴン　ホントに毎週金曜日のプロレス以外には使ってませんからね。

武藤　ちゃんと入場ゲートもあってさ。しかも、今日の小さめの会場（アレナ・コリセオ）プロレス専用だからな。

――日本でいえば、武道館と後楽園を自



この日、最も会場が盛り上がったのは、ロス・ブラソス＋パッション長谷川vs東京愚連隊の6人タッグ。客席からは〝おひねり〟が飛び交い、ポルキー（ブラタ）の代わりに〝ポルキー役〟を務めたブラソ・デ・プラティーノは控室で涙を流して喜んだ。



ミラノ・コレクションA.T.もイタコネ時代からのペット（?）ミニゴリラのベネティアを連れて登場。岡田和陸とタッグを結成した。



闘龍門期待の大原はじめは、現ナショナルウェルター級王者ラ・マスカラを破り、空位となっていたNWA世界ウェルター級王座を奪取!

前で持ってるようなもんですからね。

ドラゴン　コリセオは毎週火曜日と日曜日にやってるんですよ。それでおもしろいのは、火曜に来るお客さんと日曜に来るお客さんは別なんです。それでアレナ・メヒコも客層が違うんですよ。だから、火曜と日曜のコリセオが3000人ずつ、金曜のアレナ・メヒコが1万～1万5000人、だからメキシコシティだけで、毎週、2万人が会場に来てるんですよ。

武藤　浅井ね、このメキシコシティでそれだけの興行があったら、やっぱりあれぐらいアドリブ性のあるプロレスじゃないと通用しないな。固められたらお客飽きがくるな。

ドラゴン　そうですね。

武藤　メキシコってすげぇアドリブ性が高いんだけど、そうしなきゃお客に読まれちまうよ。

ドラゴン　いま一番メキシコで売れてるミスティコは金土日だけで15試合やったりしてるんですよ。

武藤　15試合ぃ!?　マジかよ。

ドラゴン　それがなぜ可能かというと、そんなに離れてない場所で別の興行があるってことなんですよね。だから日曜日なんか、メキシコシティ近郊だけで30試合ぐらいやってるんですよ。

武藤　MAZADAなんて、俺らの試合の前にほかで2試合して、俺らと試合して、そのあと別の興行でまた2試合するらしいぜ。

ドラゴン　1日5試合ですよ。考えられないですよね。

武藤　たぶん今日、MAZADAがやってる会場って小さい会場だと思うけど、それと昨日のでかい会場（アレナ・メヒコ）ってクオリティにも差があるんだろうな。

ドラゴン　凄いありますよ。こいつレスラーか？　っていうのたくさんいますよ。吉本新喜劇みたいなレスラーが（笑）。そういうのが出てきても、お客さんはブーイング飛ばしますけど、「もう観にこない」っていう人いないんですよ。

武藤　そのへんが日本の他団体時代のヒントになるかもしれねぇな。やっぱり興行が栄えられるのは東京しかねえじゃん。その中でこれだけ他団体がたくさん興行打ってるわけだから、なんかヒントになるかもしれねぇよな。ただ、物価が違うし、体育館の使用料が違うよな～。

ドラゴン　昨日のアレナ・メヒコだって、上の方の席、400円ですからね。子どもなんて10円らしいですよ（笑）。

武藤　じゅ、10円!?　それで元取れるんだからすげぇよ！　そこが貨幣価値の違いだね。

――それでどうやって採算とってるんだか、不思議ですよね。

ドラゴン　不思議っていうか、このシステムをどうやって確立したのか、ちょっと勉強してみたいですね。なんでこうなったんだろうって。アメリカにWWEがありますけど、アメリカにはプロレスよりメジャーなスポーツやエンターテインメントが山ほどあるんですよ。だから、こんなにプロレスが盛んなのってメキシコだけじゃないですか。プエルトリコも盛んですけど、メキシコほどポピュラーじゃないですからね。

武藤　なんでメキシコってこんなにプロレス盛んなの？

ドラゴン　俺が思うに、アメリカの隣だからっていうのもあると思うんですよ。アメリカがプロレスの本場じゃないですか。その隣だから入って来やすいじゃないですか、文化が。だから南米のほうに行くと遠すぎて、受け付けないのかなって。わからないですけど。

武藤　俺もわかんねぇけどさ。アメリカ人はでけぇけど、メキシカンちっちゃいじゃん。その中で、プロレスならそれでも「勝てる」んだよな。

――ふんふん。

武藤　そういう部分も、もしかしたらあるかもしれないな。

――メキシコで不思議なのは「ボックス・イ・ルチャ」っていうくらいで、ボクシングとルチャリブレって同じ協会が仕切ってるんですよね。

ドラゴン　そうなんです。プロレスとボクシングのコミッションが一緒で、両方



日本人唯一のCMLLフルタイムレギュラー

OKUMURA 奥村茂雄

「日本に対する意地はムッチャあります」

OKUMURA
本名・奥村茂雄。1972年5月25日、大阪府出身。東京プロ、石川一家、新東京などを経て、2000年に全日本入団。一昨年3月に全日本退団、5月からメキシコに渡る。180cm、100kg。

現在、世界を股に掛けて闘うウルティモ・ドラゴンを除けば、メキシコのメジャー団体CMLLで日本人唯一のフルタイムレギュラーの座を獲得しているのが、このOKUMURAだ。一昨年、全日本を退団後、ゼロからルチャの世界に飛び込んだ男はいま何を考えるのか。

――全日本を退団して、メキシコに来てからどのくらい経ちますか？

奥村　昨日でちょうど丸2年、今日から3年目に突入です。でも、まだ浅井さんに比べたら9分の1ですよ。3年目なんでもうこっちの試合に対する違和感はなくなりましたけど、ルチャって突き詰めれば突き詰めるほど、奥が深いなと思いますね。

――どういった部分でですか？

奥村　たとえばテクニック一つにも全部意味があるんですよ。こっちの選手は引き出しがいっぱいあるし、そういう技術を日本にいたままなら、何も知らないまま終わってたんだな、と思いますね。

――こちらではどういった生活なんですか？

奥村　もうとにかく試合と練習の繰り返しですよ。去年までサタニコのクラス（CMLLが開いているルチャ教室）に出てたんですけど、今年から新しいグループに入って新しい先生のもとで練習してるんです。

――そのクラスっていうのは、上のほうの選手も習うもんなんですか？

奥村　ええ、みんな来てますよ。ウルティモ・ゲレーロ、オリンピコ、レイ・ブカネロ、サングレ・アステカ、ネグロ・カサス、ドスカラスJr.、みんな一緒にやってますよ。

――へぇ、エストレージャ（スター選手）ばかりですね。

奥村　その練習が毎週火曜と木曜にあるんですけど、朝8時スタートなんですよ。だから7時40分ぐらいに集まって、なんかホントに学校というか、ハードなラジオ体操みたいな感じですよね（笑）。それ以外に月曜から土曜まで自分の練習、そして夜は試合があるわけじゃないですか。たとえば水曜にアカプルコで試合したら、帰ってくるの朝6時とかだから、アレナ・メヒコで1時間仮眠して、そのまま練習してますから、ハードですよ。

――練習は休めないんですか？

奥村　休んだら置いていかれるだけですから。こっちはとにかく競争率が激しいし、日本だったら団体に所属しただけで試合が組まれるでしょ？　その時点から違うんですよ。僕らは日々、結果出さなかったら試合が組まれないんです。代わりのルチャドールなんて、数えきれないほどいるんですから。だから手が抜けない、練習は休めない、休んだら遅れをとって仕事がなくなるだけですから。

――生存競争の真っ只中にいるわけですか。

奥村　たまに新日本の選手とか、ケンゾー選手とかがアレナ・メヒコに単発で出たりしますけど、彼らは単発のゲストですから。でも、ボクはもうゲストじゃなくて、メキシコの選手と一緒なんですよ。彼らと同じ条件で勝負してるんで、気が抜けませんよね。僕はまだまだ吹けば飛ぶような存在ですけど、飛ばされちゃったら終わりですから。そう考えると、浅井さんは凄いな、浜田さんは凄かったんだなとつくづく思いますよね。

――日本人がこっちでトップを張るのが、いかに凄いことかわかる、と。

奥村　そうですね。これだけ層が厚い中で、外国人というハンデを背負いながらチャンピオンになったわけですからね。

――そういう厳しい中でやっていると、日本にいるプロレスラーに対して、お前らには絶対に負けない、みたいな気持ちってあります？

奥村　意地ですか？　ムッッッチャクチャあります！　ボクが毎日、クラスに通って試合で結果出して、アレナ・メヒコのセミで試合しても、それが日本の人たちに評価されるのは難しいと思うんですよ。これは来た人にしかわからないから。最初は「なんでわかってくれないんだ」って思いましたけど、地球の裏側ですからね。でも、そういう意地は持ってますよ。

――日本に帰ってくることは考えてないんですか？

奥村　僕のいまの目標はとにかくCMLLの上に行きたいってことです。上に行ってチャンスがあれば、なんでもトライしたい気持ちはありますよ。チャンスがあれば日本に行きたい気持ちもあるし。でも、どっち付かずになりたくないんで、いま僕がやるべきことは、CMLLで確固たるものを残すことだと思ってます。

【06年5月15日／メキシコシティにて収録】

運営してるんですよね。だから、国が認めてるんですよ。

——日本でボクシングコミッションがプロレスラーのライセンスは絶対に発行しませんよね（笑）。

武藤 なんだかんだで人口1億いる国だからな。

ドラゴン プロレスラーが1万人近くいるんですからね（笑）。僕なんかが日本で「プロレスって昔テレビでよく見てたけど、最近やってないね」ってよく言われるんですよ。「いや、夜中にやってますよ」って言うんですけど。

武藤 日本人の一番悪いところはさ、やっぱりみんな「右へ習え」なところあるんだよな。もしカリスマがちょっと出てきたら、みんなそっちへ向いてっちゃうんだよ。でも、アメリカ人とかって、右へならえしないヤツいっぱいいるんだよな。日本人はテレビに出てるヤツが有名、テレビに出てないと見ないみたいなところあるんだよな。でも、こいつらさ、たとえばさ、（ブルート）一生なんかでも、名前も知らねぇけど、ルチャドールだから「サインくれ」とかさ、有名人じゃなくてもサインくれっていうんだよな。

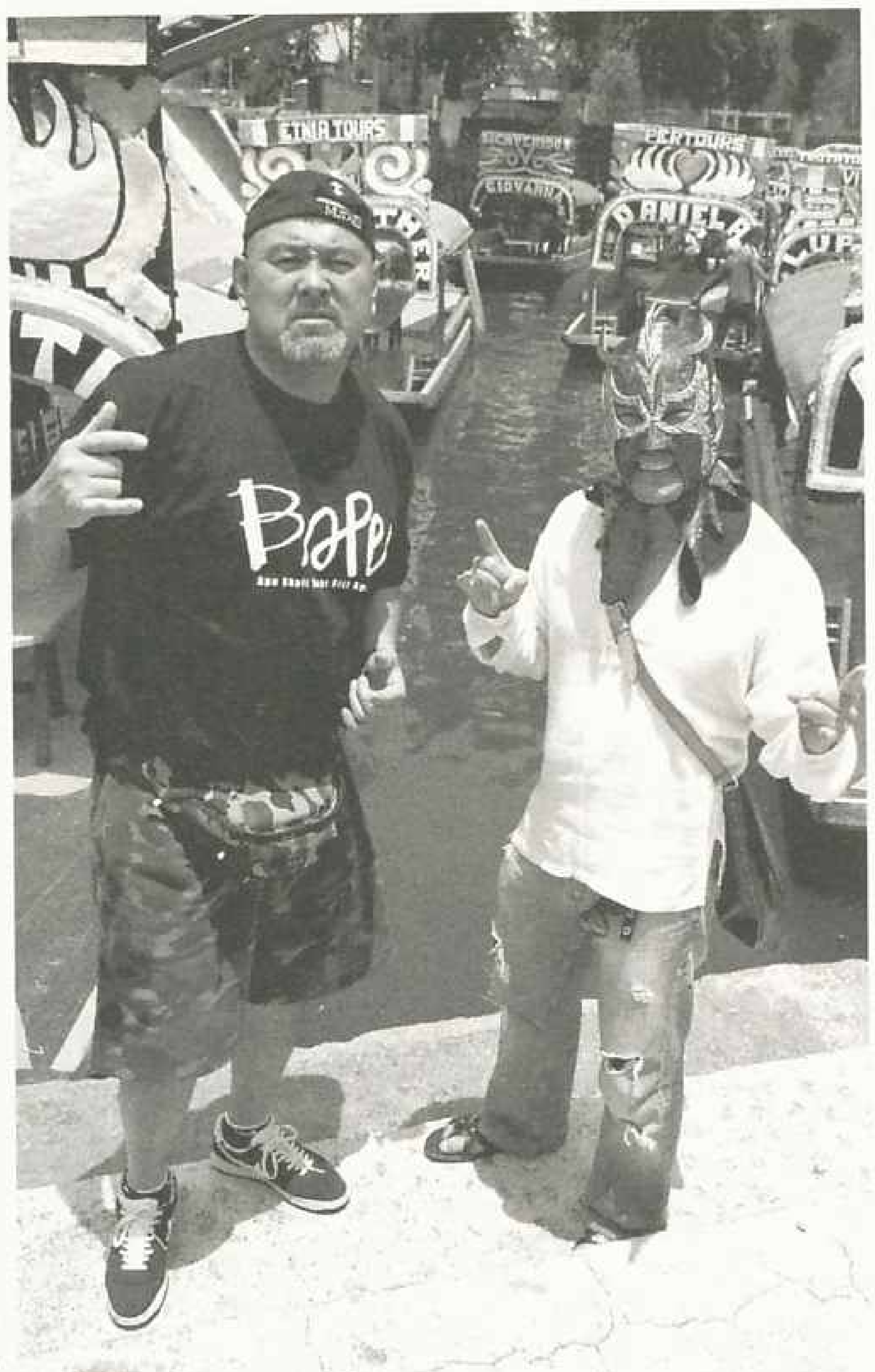
ドラゴン 僕もそうですよ。「サインくれ」って言われてサインしたら、「ところで、あなたのお名前なんですか?」って聞いてくるんだから（笑）。

——僕も昨日、アレナ・コリセオ行ったら、日本人だっていうだけで、子どもからサインせがまれましたよ（笑）。

ドラゴン アハハハハ！　それがメキシコですよ（笑）。こっちの子どもおもしろいですよ。俺に「日本はバスで何時間かかるの?」って言うんですよ（笑）。それで「バスじゃ行けないよ」って言ったら、「バスで行けないわけないよ」って言うんですよ。この世にバスじゃたどり着けない場所があることを知らないんですよね。

日本とメキシコってプロレスの成り立ちがじつは同じなんですよ

プロレスは文化であり人間の深層心理に根ざしたものなんだよ



ULTIMO DRAGON

1966年12月12日、愛知県出身。単身メキシコに渡り、87年にデビュー。以後、メキシコ、日本、アメリカと世界中で大活躍。97年にメキシコにプロレス学校「闘龍門」を設立。校長を務める。

KEIJI MUTO

1962年12月23日、山梨県出身。84年、新日本に入門。武藤とムタ、二つの顔を使い分け、日米を股にかけて大活躍。02年に新日本を離脱し、全日本プロレス社長に就任。188cm、108kg。

武藤 たぶんさ、中国と韓国と日本の違いわかんねぇだろうな。

ドラゴン だから、俺も「バスだと、たぶん2週間ぐらいかかるな」とか答えるんですよ（笑）。あと一番おもしろいのは俺のことホントにブルース・リーのファミリーだと思ってるんですよ。大人も（笑）。だから、何度も「ブルース・リーによろしく言っておいてくれ」って言われましたよ。

武藤 ただね、俺が感じたのは人種的に日本人とメキシコ人は合うな。

ドラゴン 近いですね。

武藤 近いよな。

ドラゴン 歴史的に見るとメキシコはかつてスペイン統治下にあった過去があるじゃないですか。そして日本もアメリカに戦争で負けた過去がある。両方とも同じような境遇なんですよ。日本でプロレスがなぜ人気が出たかって言ったら、日本人がアメリカ人をやっつけるところがウケたわけじゃないですか。メキシコもスペイン系の白人がヒールになって、地元の土着のインディオがマスクを被ってベビーフェースやってたんです。おんなじなんですよ。

武藤 メキシコはよくわからねぇけど、アメリカの気質って日本と全然違うんだよ。たとえば、日本はデカいのと小さいのがやったら判官贔屓で小さいヤツ応援するけど、アメリカはデカけりゃデカいほどベビーフェースなんだよ。

——ああ、なるほど！

武藤 だからアンドレは日本ではヒールだけど、アメリカだとどこ行ってもベビーフェースなんだよ。そういう感覚の違いはあるよな。

ドラゴン アメリカは絶対的に強い選手がヒーローなんですよ。これも戦争にかかわると思いますけど、アメリカって唯一と言っていいくらい戦争に負けてない国じゃないですか。だからリング上でもアメリカの強さを象徴するような人がヒーローなんですよ。

武藤 ハルク・ホーガンみたいなのが絶対的に強いっていうのが、アメリカ人の理想郷なんだよな。日本人って勝ち続けてるヤツは人気出ないで、負けて落っこちて、そこからカムバックしてくるヤツを応援するよな。浪花節なんだよ。

——『PRIDE』なんかでも、ミルコとか負けてから人気出ましたからね。

武藤 「柔よく剛を制す」が日本で「剛が柔を制す」っていうのがアメリカだよ。力がすべてなんだよ。

ドラゴン そういう意味で、日本とメキシコってファン気質が似てるんですよ。

武藤 だからアンドレが日本以外でヒールやったのってメキシコだけじゃなかったっけ?

ドラゴン そうです、そうです。カネックが挑んで大人気だったんですよ。

——でも、プロレスの成り立ち方が、かつての戦争によって違うんですね。

武藤 絶対そうだよ。それが美的感覚の違いにも繋がってるんだよ。

ドラゴン メキシコのマスクって、もともとはマヤとかアステカ時代の戦士が着けてた仮面をモチーフにしたものが多いんですよね。それはルチャリブレの起源が、先住民族vs侵略してきたスペイン人という図式だからですよ。

武藤 （聞き手に対して）ちょっとこれ貴重な話だよぉ。プロレスを考える上で凄く大事なこと。これを語れるレスラーって日本にそういないよ。先輩レスラーでもいねぇよ。どうしていないかっていうと、必ずどっちかに偏ってるから。日本で成功するか、アメリカで成功するか。だから思想的にもどっちかに偏っちまうんだよな。

ドラゴン だから歴史的に見て、日本とアメリカ両方でホントに成功したのってジャイアント馬場さんと武藤さんだけですよ。

武藤 あとは、日本とメキシコで成功した浅井だよな。これ語れるのはいないよ。他の雑誌には載ってねぇぜこんなこと。

——だから、プロレスって考えれば考えるほど、おもしろいんですよね。

武藤 プロレスっていうのは文化であり、人間の深層心理に根ざしたものなんだよ！

【5月14日（現地時間）／メキシコシティ・日本料理『DEIGO』にて収録】

敵に塩を送るというのは戦国武将の常
の流れを汲むレフェリーだ。だから鈴木
〜 博士だけが見つめてる 悲しい夜に
あるわけですね。
——その二人が希望の相手だと？

またまた本誌独占

超異次元バトル 鈴木みのる戦直前！

メカマミーがまたしゃべった!!

しかも！ 今度は電話インタビュー!!



前号での特集が意外や意外、各方面で大好評だったメカマミー。6・18新木場でのメカゴロー（メカ化した鶴見五郎）戦に続いて、6・23後楽園では鈴木みのる戦が決定！ 一億総メカ化をもくろむメカマミーのさらなる野望とは!? 今回は多忙につき電話取材を敢行!!

——もしも〜し、メカマミーさんですか？

メカマミー そうだ。オレの名はメカマミーだ。

——電話取材も大丈夫なんですね（笑）。

メカマミー 問題ない。携帯サイトも良くチェックしてるからな。お前のところの「kami-pro Hand」も見てるよ。

——あ、ありがとうございます。前号の特集が思わぬ反響を呼んだので、今回もみのる戦を控えたメカマミーさんにお話を聞かせてもらえればと思ってます。

メカマミー わかった。何から話せばいいんだ？

——メカマミー戦に向けて、みのるさんが会見をやりまして、辛らつな意見を連発してたんですが、耳に入ってます？

メカマミー もちろんだ。そういった情報はインターネットとかで収集しているからな。「スポーツナビ」なんかは当然として、ファンサイトでもある「angle JAPAN」や「BLACK EYE2」とかもマメにチェックしているんだ。

——凄い情報収集力ですね。

メカマミー まあな（得意げに）。ちなみに「BLACK EYE2」っていうのは、もともとメカマミーの前身であるインディー好きのオタク少年がよくチェックしていたサイトなんだ。

——そういえば、メカマミーの前身はインディーファンでしたね。

メカマミー そういうことだ。携帯サイトだって、お前のところの「kami-pro Hand」、ほかにも「モバイル・ゴング」、「週プロ・モバイル」、「プロレス・格闘技DX」……ほかにもたくさんチェックしてるんで、月々の番組情報料が軽く2000円以上はいってるんだ。

——ちなみに、パケ代定額制とか入ってないんですか？

メカマミー オレはウィルスを使って直接アクセスしてるんで、パケ代は全然かからないのさ。フフフッ。

——ヒドイ話ですねぇ。ちなみに、みのるさんは、メカマミーなんてメカなわけねえだろ！ どうせ背中にチャックでも付いて……。

メカマミー （さえぎって）チッチッチッ、残念だな。背中にチャックが付いていないということは、オレの後ろ姿の写真を載せてもらえば一発でわかるよ。

——わかりました。必ず載せておきます。

メカマミー それに「メカなわけねえだろ！」って、お前はメカの何を見たんだと言いたい。だいたい、オレの試合なんて見たことねえだろ！

——いや、この間の会見前にメカマミーの試合映像を見たらしいんですよ。

メカマミー サムライTVめ、余計なことをしやがって！ ……オレのロケットパンチやドリルなんかも当然見たんだろうなぁ（ちょっと不安げ）。

——おそらくチェックしてるはずです。

メカマミー ということは、ひょっとしたらいままでの兵器では通用しない恐れもあるな。正直、その部分ではちょっと警戒している。

——これまで闘ってきた、佐野直やスタンリーだとかメカスタンリーのようにはいかないと？

メカマミー いま名前が挙がったのは、みんな同一人物じゃないか。まあ、佐野直よりは確実に強い相手だろうというのは認識している。ひょっとしたらひょっとして新兵器も飛び出すかもしれな……おっと、口が滑ってしまった。

——し、新兵器の導入ですか!? それがあれば必殺のスリーパーも怖くない？

メカマミー すでに対策済みだ。みのるがスリーパーをかけてきたら、それを察知して首からオイルを出し、滑りやすくして絞まらないという機械をシステムとして博士が組み込んでくれたんだ。

——それはスリーパー対策としてはバッチリですね！

メカマミー スリーパーで絞められた瞬間、首に開けられた無数の穴から一斉にオイルが流れ出す。そういうシステムになっているんだ。どうだ、凄いだろ？

——そ、それは凄いです！ でもどうなんですかね？ その情報が試合前に出ちゃったら、まずいんじゃないですか？

メカマミー ……まずいな。まあでも、

ズバリ、オレが狙っているのは大晦日の『Dynamite!!』参戦だ！



6月7日、鈴木みのるがメカマミー戦へ向け会見を行なった。不機嫌そうな顔で会見場に現われたみのるは「メカ対策？あるか、そんなもん！お前ら何、真剣にメカマミーはロボットって前提で話してんの？ バカじゃねえの」と記者陣にツッコミ。「あのドリルだってホントに金属とかでできてたら持ち上がらないだろ！」とタブー発言を連発。しかし最後には「俺も当日までに改造手術でも受けようかな（ニヤリ）」と驚愕のメカ化宣言。いったいどうなるんだ!?



鈴木みのるは「メカマミーとかいっても、どうせ背中にチャックがあるんだろ？」と小馬鹿にしていたが、どうですか、この後ろ姿！　チャックどころか、どこからどう見てもメカにしか見えないよ！　みのるのメカ化は決定!?

敵に塩を送るというのは戦国武将の常だ。あえて、ウィークポイントを教えた上で勝つのがオレの美学でもある。

——メカの口から戦国武将が出てくるとは。あと、一部で噂されているのが、かつて鈴木みのると、ちょっとした因縁があったアポロ菅原がメカマミーの正体ではないかと。

メカマミー　インディーファン的には、そういった見方をしたいという気持ちは元インディーファンとしてわからないでもないが、残念ながらそういう事実はない。アポロ菅原というのは、かつてマミーの中身に入っていたんじゃないかということはオレも知っている。ただ、メカマミーの正体はオレ自身だ。というか、メカマミーに中身なんてあるはずがない。

——そうか、覆面レスラーとはわけが違いますからね。

メカマミー　そういうことだ。メカマミーは中身も機械だからな！（キッパリ）。

——は、はい。そういえば、レフェリーは和田良覚ということで発表されましたけど、それについては何かありますか？

メカマミー　それについては一言も二言も言いたい。和田良覚というのはＵＷＦの流れを汲むレフェリーだ。だから鈴木みのる寄りの裁定をするんじゃないかとメカマミー的には危惧している。

——たしかに、その可能性もないとは言えませんね。

メカマミー　そこで要求したい。レフェリーをアイアンマン西田に変更しろ！

——アイアンマン西田といえばインディーには欠かせないレフェリーですよね。

メカマミー　そういうことだ。和田良覚だとインディー臭さが薄れてしまう怖れもあるし、実行委員会には公平を期すためアイアンマン西田にも声をかけろと言いたい。最悪でもダブルレフェリーにしろ！　これは必ず載せておけ！

——了解しました。あと、みのるさんといえば中村あゆみの「風になれ」での入場がお馴染みになってますが……。

メカマミー　（さえぎって）いいことを聞いてくれた。オレは、メカ村あゆみの「メカになれ」というテーマでの入場も考えている。

——エッ!?　メカ村あゆみですか？（笑）。

メカマミー　（無視して突然歌い出す）「♪教えてよ〜メカはなぜ　探し続けるの〜　限りなく切ない　古代の〜神秘を〜　博士だけが見つめてる　悲しい夜にはオイル〜　メカ化をたしかめたくて　オイルを挿したね〜　ずっと追いかけ続けた魔裟斗戦は　いつつかめるのか〜　メカにもそれはわからないけれど〜　何一つかえられない　この思い譲れない〜　Woo in the Seikaichiba　ジャスコに向かって〜　羽ばたく　ロケットパンチのように〜　スイッチを押され〜　メカになれ〜！」。

——す、素晴らしいテーマ曲です！

メカマミー　そんな、ホメ言葉はいいから、コーラスの合いの手でも入れてくれ。

——わ、わかりました（笑）。

メカマミー　ここまでブレイクしたからには、オレはマット界にメカブームを巻き起こしたい。それには、まずはマスコミ界のメカ化から始めたいと思う。

——マスコミ界のメカ化!?　具体的にはどのへんから着手するつもりですか？

メカマミー　そうだな、すでに一部はメカ化しているとの情報もあるが、まずはプロレスマスコミ界の大御所・菊池孝をメカ菊池孝に改造したい。

——メ、メカ菊池孝!?

メカマミー　あとは『ｋａｍｉｐｒｏ　Ｈａｎｄ』で「メカナザワ」とメカ化願望とも取れる原稿を書いていた金沢克彦もターゲットの一人だ。

——ホントによく見てますね（笑）。一部では「インディー界の母」と呼ばれている三田佐代子さんなんかはどうですか？

メカマミー　まだメカ化の対象ではないな。インディーに愛があるのはわかるが、メカになるにはキャリア不足だ。

——いろいろと基準があるわけですね。

メカマミー　もちろんだ。メカになるにはエキセントリックな面を持ち合わせていないとな。ちょっとエキセントリックじゃないと、この業界を生き抜くことは難しい。それはオマエもわかるだろ？

——なんとなくわかります。最後に鈴木みのる戦以降の野望を少しだけ聞かせていただけませんか？

メカマミー　前にも言ったが、オレはＫ−1派なので、今回のフジテレビ騒動は気にしていない。

——あ、フジテレビ騒動も把握してましたか（笑）。でも、たしかにメカマミーさんはＫ−１ＭＡＸ参戦を狙ってるって言ってましたね。

メカマミー　そうだ。もっと言えば、狙っているのは大晦日の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』参戦だ。……まあ、巷で噂されている『亀田祭り』にも興味はあるよ。

——エッ、『亀田祭り』まで視野に入れてるんですか？

メカマミー　ボクシングスタイルでも全然問題はない。まあでも、本気で興味があるのは、やはり魔裟斗、そして須藤元気。この二人だ。

——その二人が希望の相手だと？

メカマミー　そういうことになるな。メカといえどもファイターとしてやっていくなら大晦日に出たいというのは当たり前の願望さ。

——まあ、そうでしょうね。

メカマミー　今年の年越しはメカマミーで決まりだ。……オマエも見たいだろ!?

——は、はい、大晦日にメカマミーが見たいです！（笑）。

メカマミー　オレはみのる戦はステップとしか考えていない。まずは鈴木みのるを完膚無きまでに叩きのめして、メカみのるに改造だ。その後は、メカマミー、メカみのる、そしてメカポーゴらと「ＭＥＫＡ」という新団体を立ち上げたい。

——ポーゴ様もメカ化!?　しかも、新団体まで考えているんですか!?

メカマミー　そういうことだ。ちなみに……"マーシャルアーツ・エンターテインメント・カイキハ・アライアンス"の略だ。

——素敵な団体名ですね（笑）。新団体旗揚げ期待してます！

メカマミー　まあ、その前に鈴木みのる戦を楽しみにしていてくれよ！

【6月12日／電話取材にて収録】

Back Number

50号記念企画てんこ盛り号

no.50 '02.05 880yen
「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!/ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立

no.51 '02.06 880yen
両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をキャッチ! 小池栄子/天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談/新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!

no.52 '02.07 880yen
全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム/戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!

no.53 '02.08 880yen
ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ/爆裂! 川村社長ガチンコ語録!/偽造王の知られざる半生!

『Dynamite!』を大総括!

no.54 '02.08 880yen
"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー/"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット/純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!

no.56 '02.10 880yen
田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 高田延彦/蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山/『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号

no.57 '02.11 840yen
サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ/北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!

no.58 '03.01 880yen
夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×高阪/Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健/カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸

no.59 '03.02 880yen
いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス/爆発!! WJマグマ語録/吉田道場の秘密兵器 中村和裕/UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!

no.60 '03.03 880yen
ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気/あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし/全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!

no.61 '03.04 880yen
裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也、1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン/プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

地殻変動の予兆アリ!!

no.62 '03.05 880yen
ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介/現役復帰間近!? 船木誠勝/藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル/新日本バードを徹底検証!!

マット界、超絶リボーン!!

no.63 '03.06 880yen
「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!/憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー/芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!

no.64 '03.07 900yen
"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー/ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!

no.65 '03.08 880yen
"最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル/"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ/吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司/闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!

no.66 '03.09 880yen
緊急独占インタビュー! ミルコ/マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮/"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦/『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!

no.67 '03.10 880yen
ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー/アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!

no.68 '03.11 880yen
大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦/曙とは何者か!?/一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志/"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林聡

ハッスル1開催、ド直前!!

no.69 '03.12 900yen
出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也/『泣き虫』著者登場! 金子達仁/大晦日直前インタビュー! 田村潔司/アイアム リアルプロレスラー 美濃輪育久

紙プロ大賞'03発表!!

no.70 '04.01 880yen
PRIDE征服宣言! ミルコ/シウバに宣戦布告! 近藤有己/ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶/発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!

no.71 '04.02 880yen
『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/待望の『紙プロ』初登場! 川田利明/理想のプロレスを追い求める! AKIRA/幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!

no.72 '04.03 840yen
GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁/全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

最も過酷な道を行く男!!

no.73 '04.04 880yen
GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド/キックの名伯楽登場! 伊原信一/魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!

no.74 '04.05 880yen
PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー/掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!

no.75 '04.06 880yen
シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇跡の独占インタビュー! 高田総統/インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン/年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!

no.76 '04.07 880yen
小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志/新連載『月刊PG鎮(仮)』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!

no.77 '04.08 880yen
「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ/サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号

no.78 '04.09 840yen
衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 高田延彦/K-1のトップが小川を語る 谷川貞治/壮絶インディー人生! 田中将斗

高田総統がビターンと降臨!

no.79 '04.09 840yen
キャプテンに休息なし! 小川直也/特別付録・高田総統ポスター/谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』/ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!

no.80 '04.10 880yen
独占ロングインタビュー ミルコ/ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也/新連載! 佐山サトルの右流タン探訪記/袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!

no.81 '04.10 880yen
ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/スーパーひとし君登場! 草野仁/佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!

no.82 '04.12 890yen
"道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪/伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

大晦日格闘技戦争、大爆発!

no.83 '05.01 880yen
『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括!/蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝/『シベ超5』公開記念SP対談! 水野晴郎×サスケ

RTTが皇帝に宣戦布告!!

no.84 '05.02 880yen
"殺人落下傘"が39越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司/"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!

no.85 '05.03 860yen
PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、高田延彦/パンクラス2大王者が揃い踏み! 高阪剛×近藤有己/HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号

no.86 '05.04 860yen
大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!/PRIDE GP&K-1 MAX 出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!

no.87 '05.05 860yen
敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫/蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

通 販 申 し 込 み 方 法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文　②電話注文 03-5368-1797

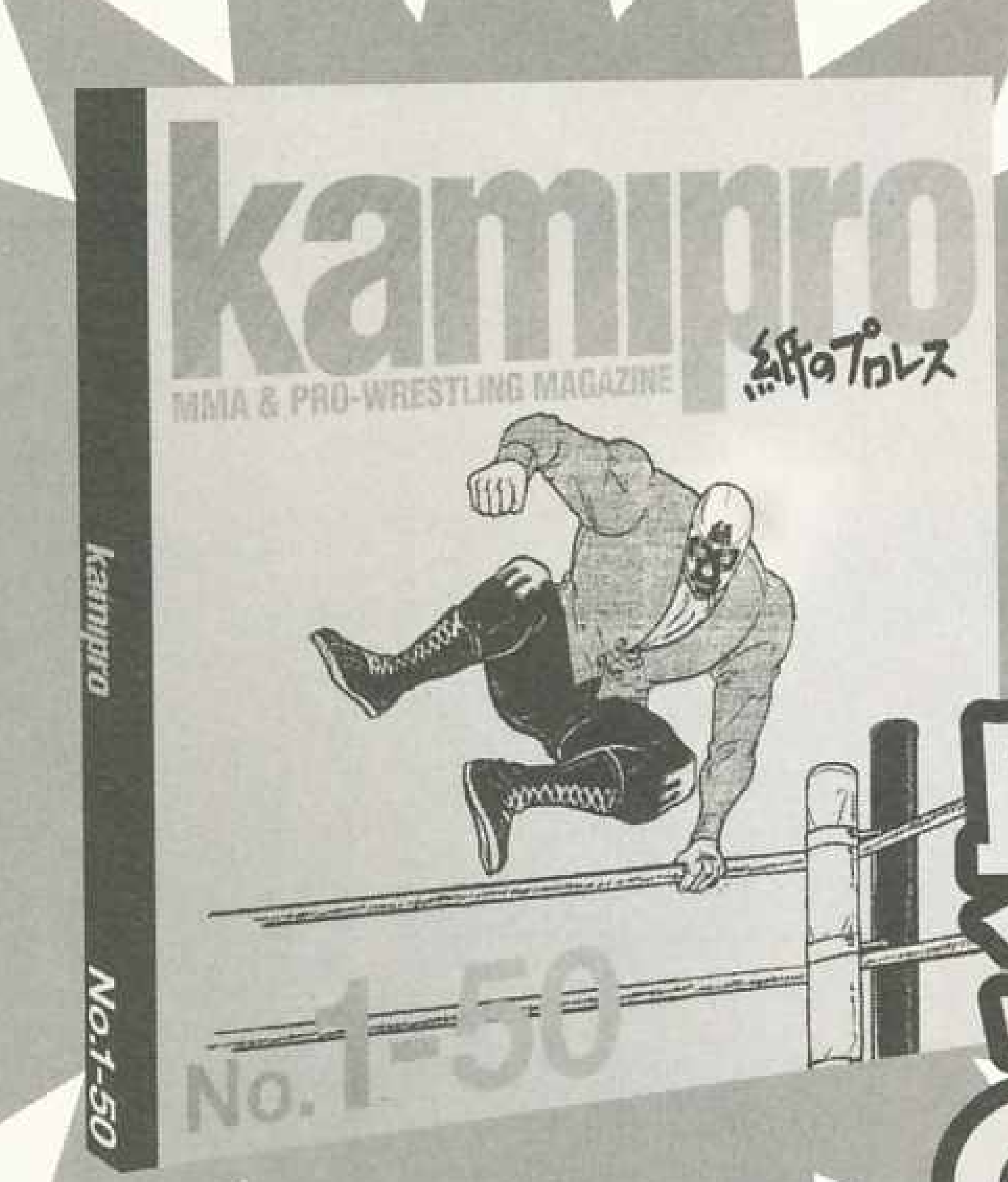
③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。
※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。

ご 注 意　郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

100号記念特別付録の

"小冊子"を読んで紙のプロレスRADICALに興味を持ったみなさん!!



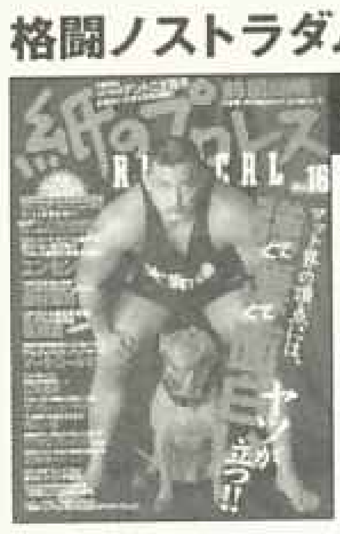
注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

平日
15:00〜22:00
販売元
(株)ダブルクロス

格闘ノストラダムス!



no.16 '99.03 780yen

アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!/引退後初! 前田日明インタビュー/相撲多重アリバイ 石川孝司/語ろうジャンボ鶴田

純プロ王国NOAHに迫る!!



no.29 '00.07 840yen

三沢、秋山『紙プロ』初登場!!/プロレススーパースター列伝 仲野信市/本誌独占ジャンボ鶴田夫人最愛の夫の真実を語る!!/TKおかん

本誌 Back Number

特集 神秘とは何か?



no.14

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 インディペンデントの逆襲

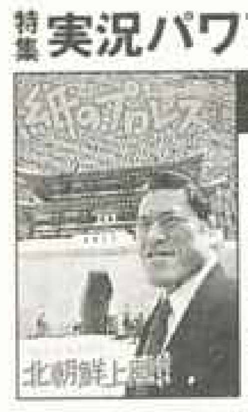


no.15

あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!/K−1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK−1三兄弟(当時)インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 実況パワフル北朝鮮



no.17

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野/バトの原点はここにある! 「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本



矛・盾

97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF

"新"プロレスとは何か?



no.32 '00.10 840yen

田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村/"和製カレリン"本田多聞

純プロレスを徹底検証!



no.35 '01.02 840yen

ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/"ノアの怪物"杉浦貴/UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

燃えよ、闘魂の火種!!



no.36 '01.02 840yen

ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言/W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く/吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

純プロレス戦国絵巻!



no.37 '01.04 840yen

安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!/アブダビコンバット01一大探検記!/シュート活字×ファンタジー活字/比類なきプロレスがWWFにはある!

小川直也は是か非か?



no.38 '01.05 840yen

忘れ物の正体は——。高田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル/プロレススーパースター列伝 阿修羅原/死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

前田日明は是か非か?



no.39 '01.06 840yen

前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男/プロレススーパースター列伝・田上明

地上最強のプロレスとは?



no.40 '01.07 880yen

蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎/プロレススーパースター列伝 グラン浜田

"最後の黒船"WWF来襲!!



no.41 '01.08 880yen

リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!/W☆INGの真実・茨城清志/毒舌知能犯 秋山準語録

アントンパワー大爆発!!



no.42 '01.09 880yen

ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/"ヒャッホーの真実"辻よしなり/蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光

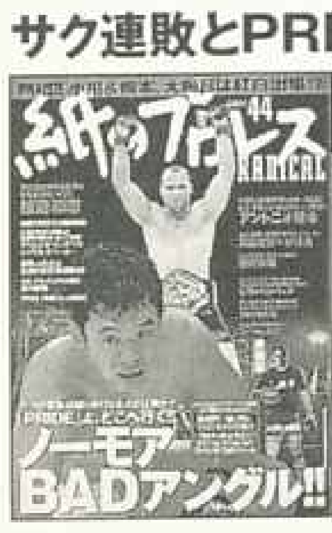
聖戦『PRIDE.17』迫る!!



no.43 '01.10 880yen

ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会/野武士が語るんだよな 中野巽耀

サク連敗とPRIDEの未来



no.44 '01.11 880yen

その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴/ハンス・ナイマン&ディック・フライ/闘龍門大特集

一寸先はハプニング!!



no.45 '01.12 880yen

悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談/プロレススパースター列伝 グレート小鹿/語録で振り返るマット界2001

WWE日本侵攻、5秒前!



no.47 '02.02 880yen

"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!/プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

桜庭、満開の日は近い!



no.48 '02.03 880yen

奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光/伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン

究極の格闘技大戦争勃発!



no.49 '02.04 880yen

和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田/アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?/破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐり!

読者がやみつきになってもしらないインフォメーションコーナー

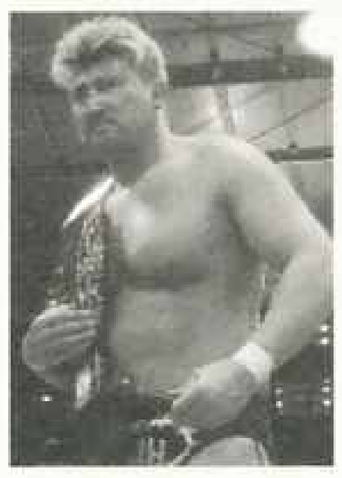
kamipro Addict!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

マット界中毒警報発令!

Fight 大森と中西がワイルドタッグ結成!!





★日時　6月24日(土)18:00開始

★会場　東京・ディファ有明

★主要対戦カード

【NWAインターコンチネンタルタッグ選手権】

(王者組※6/20神奈川大会の勝者)Y2P・160kg & スティーブ・コリノ or 佐藤耕平 & 崔領二 vs (挑戦者組)大森隆男&中西学

【WWA世界Jr.ライトヘビー級選手権】

(王者)中嶋勝彦 vs (挑戦者)佐々木義人

佐々木健介 & 大谷晋二郎 vs X & XX

【NWAインターナショナルライトタッグ3WAY選手権】(王者組)日高郁人 & 藤田ミノル vs 菅原拓也 & 景虎 vs GENTARO & 澤宗紀

★問　ZERO1・MAX　03-5730-3966

Fight 打撃プロレスってなんだ!?

"打倒プロレス"を合い言葉に掲げる小笠原和彦が空手軍団・押忍闘夢(ストーム)を旗揚げ!!「5年間、プロレスルールに合わせて不利な闘いを続けてきた」という小笠原先生は空手家でも不利にならない"打撃プロレス"なるものを考案。寝技30秒、スタンディング・フォール(※フラフラになった相手をコーナーやロープに押し付け3カウントを取る!)ありのこのルールで、"空手最強"を証明していく。押忍!!

押忍闘夢『プレ押忍闘夢』

★日時　6月25日(日)12:00開始　★会場　埼玉・バトルスフィア

★主要対戦カード

【打撃プロレスルール】小笠原和彦 & 小林昭男 vs 木村浩一郎 & ガロガ4号

※特別レフェリー・藤原喜明

【プロ押忍闘夢マッチ】板倉孝 vs 宮沢一紀、726 vs カラテスタンリー

【オーディションマッチ】

小笠原和彦 vs 水口智子、大野満 vs 庭田タカシ

★問　ストーム事務局　042-349-3352(担当:米山)

Fight 驚異! 全試合がタイトルマッチに!

DDT『KING of DDT 2006』

★日時　6月25日(日)13:00開始　★会場　東京・新宿FACE

★主要対戦カード

【KO-D無差別級選手権】

(王者)大鷲透 vs (挑戦者)ポイズン澤田JULIE

【CMLL認定KO-Dタッグ選手権】(王者組)フランチェスコ・トーゴー&モリ・ベルナルド vs (挑戦者組) THE MAC&シーサ・ザイオン

【自由ヶ丘6人タッグ選手権】HARASHI魔 & 魔ッスル坂井 & 猪苦魔裕介 vs KUDO & 諸橋晴也 & 諸橋正美

【GAY世界アナル級選手権】(王者)男色ディーノ vs (挑戦者)飯伏幸太

【アイアンマンヘビー級ベルト争奪バトルロイヤル】

※6月8日現在、王者はドリームキャッチャーの夏樹☆ヘッド。出場メンバーは未定。

★DDTではなんらかのタイトルをお持ちの方、またはタイトルを持っていながら防衛戦の機会に恵まれない方を募集中。我こそはと思う王者はDDT事務局まで。

★問　DDT　03-5360-6653

Fight 二見、激情! 伝説のT-1興行第4弾開催! 前川戦の主催者とスポンサーまでも募集!!

T-1『スペシャル・ワンマッチ興行』

★日時　6月24日(土)18:39開始　★会場　埼玉・バトルスフィア

★対戦カード

T-1マスク1号 & 2号 & シャーク土屋 vs 阿部幸江 & 中島安里沙 & X

★その他、二見社長の"俺がONLY ONE"トークショー、や前回できなかった堀田裕美子に壊された二見社長のサングラスのオークションを開催。

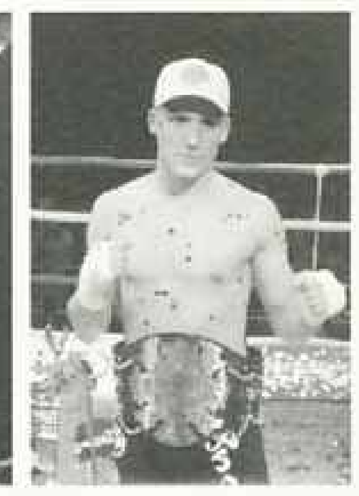
二見社長が総合ルールでの"二見 vs 前川久美子戦"を実現する第三者のリングを募集中。T-1と絶縁している団体は公平を保てないため対象外。また、大会をバックアップするスポンサーも募集中。

★問　チケット&トラベルT-1　03-5275-2778

Fight 好調の王者サワー、2連覇なるか!? 魔裟斗とコヒが4年ぶりの対決へ!!







4月に行なわれたWORLD MAX開幕戦で股関節の負傷を乗り越え、イム・チビンに激勝したコヒが、同大会のメインでレミーガをKOしエースの威厳を示した魔裟斗とトーナメント初戦で激突!! また、その二人が不在とはいえ、ブっちぎりで日本人代表決定トーナメントを制した佐藤嘉洋の存在も侮れない。前年度覇者のサワーも5月末に行われたシュートボクシング後楽園大会で大野崇にキッチリKO勝ちしており好調をキープ。いったい誰が栄冠を手にするのか!?

K-1『WORLD MAX 2006』

★日時　6月30日(金)18:00開始　★会場　神奈川・横浜アリーナ

★世界一決定トーナメント

魔裟斗(日本)
小比類巻貴之(日本)
アンディ・サワー(オランダ)
ヴァージル・カラコダ(南アフリカ)
アルバート・クラウス(オランダ)
ドラゴ(アルメニア)
ブアカーオ・ポー.プラムック(タイ)
佐藤嘉洋(日本)

優勝

【トーナメント・リザーブファイト】
ライアン・シムソン(オランダ) vs
アルトゥール・キシェンシコ(ウクライナ)

★その他対戦カード　TATSUJI(日本) vs 白須康仁(日本)　武田幸三(日本) vs X
ヨーセングライ・フェアテックス(タイ) vs カメル・アムラーニ(ドイツ)

★問　FEG　03-3796-5060

Fight メインは勝者ギャラ&賞金総取りマッチ! 覆面戦士15も4ヵ月ぶりにリングに復帰!!

多くのオリンピック選手を輩出してきた中京女子大レスリング部仕込みのタックルを武器に、スマック初代ライト級女王として、ジョシカク界に君臨する辻と、4月にキックIKMF東洋女子バンタム級のベルトを戴冠し、総合でも現在5連勝中と波に乗るWINDYが対決! なおこの試合は寝技制限時間なしの特別ルールで行なわれ、グラウンドでの顔面へのパンチも解禁。レスリング vs 打撃の異種格闘技戦となるこの賞金マッチを制するのはどっちだ!?



会見でWINDYは手にしていた辻ちゃんのパネルを真っ二つに!

SMACK GIRL『頂女決戦』

★日時　6月30日(金)18:00開始　★場所　東京・後楽園ホール

★主要対戦カード

【勝者ファイトマネー&賞金総取りマッチ・SGS特別ルール5分3R】

辻結花(総合格闘技闇愚羅) vs WINDY智美(パンクラスism)

【高橋洋子デビュー10周年記念試合】高橋洋子(巴組) vs 武田美智子(空手道禅道会)

大室奈緒子(和術慧舟會東京本部) vs 山戸志保(空手道禅道会)　15(チーム黒船) vs 関友紀子(巴組)

【フルコンタクト空手特別ルール】

小林由佳(西山道場) vs X　岡田円(西山道場) vs 立分結(九伽倶楽部)

【ネクスト・シンデレラ・トーナメントミドル級準決勝】中村さくら(空手道禅道会) vs 森藤美樹(T-BLOOD)

【ネクスト・シンデレラ・トーナメントフライ級準決勝】

長嶺妙子(空手道禅道会) vs 浜田福子(総合格闘技闇愚羅)

メインイベント"辻結花 vs WINDY智美"懸賞金募集中!

スマックガール実行委員会では、"辻結花 vs WINDY智美"の実現にあたって、その勝利の価値をさらに高めるべく、企業・個人を問わず懸賞金を募集中。VIP席や広告などの特典が与えられる。詳細は下記の実行委員会まで。

★問　スマックガール実行委員会　03-3331-7426

Fight 殺るか? 殺られるか!? エンセンが『心』を開催!!

"大和魂"でお馴染みのエンセン井上が格闘技イベント『心〜Kill or be Killed〜』を開催。大会名の「心(こころ)」は、エンセン自らが付けたもので、ハートを見せられるかどうかが問われる過酷なリングとなる。現在、参加選手は未定だが、幅広いネットワークを持つエンセンだけに、強豪が集うのは間違いなし!

ピュアブレッド『心〜Kill or be Killed〜』

★日時　8月15日(火)開始18:30　★会場　東京・後楽園ホール

★問　ピュアブレッド大宮　048-686-3328

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5385-8285
〒164-0001 東京都中野区中野3-17-1 コーポフロンティア301
http://www.cbox100.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘 03-3524-1071
〒104-0061
東京都中央区銀座4-14-17 渡辺ビル4F JNT事務局内
http://www.gtkn.com

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区東六本木7-5-11-605
http://www.kings-road.jp

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏会館 075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seikenshinkageryu.com

■仙台ガールズ・プロレスリング
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F
http://alljapan.keyblog.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場 03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.net

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp

■GIRLS DOOR
03 - 3907 - 2909
東京都新宿区西新宿7-2-6 西新宿K—1ビル6F
株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO
044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R
044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193—11
http://www.hiromitsu-kanehara.com

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS
0270-24-8991
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒106-0023 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

GYM 大久保にDEEP&GRABAKAジムがオープン!!

東京・大久保に二つのジムがオープンした。一つは菊田早苗率いるGRABAKAの柔術クラブ。都内・中野で打撃からレスリングまで学べる総合的なジムを開いているGRABAKAだが、チーム名の語源“グラップリング・バカ”にふさわしく、その柔術クラスが人気を集め、柔術専門の道場を新設する運びとなった。もちろん、希望すれば柔術クラブの生徒も中野の道場にも通うことができる（追加料金必要）が、まずはグラップリングからという人にはオススメだ。一方、DEEPジムIMPACTは、多彩なコーチ陣による総合、柔術、キックのクラスに加え、ボクササイズやヨガなどユニークなクラスも。どちらのジムも都心にある上、駅からのアクセスも近いので、まずは気軽に見学に!

❶GRABAKA柔術クラブ 場所:新宿区新大久保2-18-10 新宿スカイプラザ208／インストラクター:山崎剛、菊田早苗、三崎和雄、林俊介、弘中邦佳、横田一則、桑原幸一／月会費 男性=10,500円、女性=8,500円、中学生=7,000円、子ども=6,000円（※6月中は男性以外入会金タダ。男性のみ5,000円）／問:GRABAKAジム 03-5348-3092

❷DEEPジム IMPACT 場所:新宿区北新宿1-1-10岩田ビル1F／インストラクター:長南亮、滑川康仁、今成正和、しなしさとこ、ニコラス・ペタス／月会費:男性=¥12,000、女性&大学生=¥10,000、中高生=¥8,000、ヨガクラスのみ=¥5,000（※6月中は入会金半額、またDEEP8月大会のチケットがもらえる）／問:IMPACT 03-5348-6977




DVD 健介と北斗のプライベート映像が流出!? 健介オフィス公式DVD発売!!



いまやプロレス界どころかバラエティ界でも人気沸騰中の夫婦コンビ、佐々木健介とその“鬼嫁”北斗晶の生態が明らかに！ 健介デビュー20周年を記念して、健介一家の貴重な名場面集とプライベート秘蔵映像が満載された健介オフィス初の公式DVD『健介・北斗・勝彦の一生健命!』がユークスから発売された。このDVDでは、2月11日に後楽園ホールで開催された『佐々木健介デビュー20周年興行』の全試合はもちろんのこと、その舞台裏まで余すことなく完全収録。また勝彦クンが撮った、健介と北斗のアツアツデート現場などオリジナル映像も充実!! この映像を見て、ジメジメした梅雨なんて、ヴァーッと吹っ飛ばせ!!

『健介・北斗・勝彦の一生健命!』 ★価格 6,300円（税込） ★発売中
★収録 本編約110分＋特典約68分 佐々木健介&小橋建太 vs 天龍源一郎&中嶋勝彦／健介トークバトル3連戦（武藤敬司、小島聡、高山善廣）／フロリダ・エキスプレス vs 菊タロー&スペース・論・ウルフ&マスク・ド・ボルケーノなど
★問 ユークス カスタマーセンター 072-224-7211

TV 川田と石狩が解説! 世界最強の甲虫はMONDO21が決める!



カブトムシとクワガタ、どっちが強いのか？ という人類にとってはるか昔からの疑問がついに解決！ スカパー！の『MONDO21』では、6月からクワガタGPを開催。その解説を務めるのは川田利明と石狩太一。試合前に逃げ出すクワガタを見た川田が「石狩みたいだ」とコメントするなど、二人の掛け合いもおもしろい。7月にはカブトムシGP、8月にはカブトムシとクワガタのタッグトーナメントも開催予定！ 奇跡の映像を目に焼き付けろ!!

スカイパーフェクTV! MONDO21『世界最強虫王決定戦』
★初回オンエアー 6/24 22:00～23:00
※その他の放映予定日はHP参照
http://www.mondo21.net/variety/mushi/index.html
★問 JICカスタマーセンター 03-5463-0789

Game なんとkamiproキャラまで存在!! 女子プロ団体経営ゲーム発売!!



“プロレス業界を最も再現したゲーム”として熱狂的ユーザーを持つ女子プロゲーム『レッスルエンジェルス』シリーズがついに復活！ シリーズを通して人気の団体経営シミュレーションは、選手を育成しながらコストを配慮しつつ、サイン会などで多くの観客を集めて経営を軌道に乗せていく、というマニアックなもの。選手の失踪や失恋などリアルなアクシデントもあり、将来団体を興したいというファンには、その日に備えてまずはこのゲームで練習することをお勧め。ゲーム中にはかわいい『週プロ』『ゴング』のキャラクターに混じって、kamiproキャラもいるので要チェック!!

これがkamiproキャラのグリズリー山本!



『レッスルエンジェルス サバイバー』
★対応機種 プレイステーション2
★価格 7,140円（税込） ★8月発売予定
★問 サクセス 03-5740-7611

Game 豪華初回特典あり! レッスルキングダムがプレステ2に完全移植!!



ノア、新日本、全日本などメジャー団体のレスラーが実名で一同に介したプロレスゲーム『レッスルキングダム』がプレイステーション2に移植！ 今年1月にユークスからXbox 360用として販売され、映像面でもリアルにこだわったプロレスを楽しむことができると好評だった『レッスルキングダム』。PS2版では、ついにブロック・レスナーが参戦！ また初回予約特典として、蝶野、武藤、健介らトップレスラーが熱く本音をぶつけ合う“クロストークDVD”も用意されるのでお見逃しなく!!

『レッスルキングダム』
★対応機種 プレイステーション2
★価格 7,140円（税込） ★発売日 7月20日
★問 ユークス カスタマーセンター 072-224-7211

Hand

携帯サイト『kamipro Hand』では、ただいまPHSキャリア・ウィルコム配信開始を記念して「30の質問」スペシャルを実施!! プロレスラー＆関係者が毎日登場、普段は決して聞けない恋話や人生観を語ってくれてます！ 写真は6月カレンダーの「疾走ボブ・サップ」。6月よりついに「kamiボイス」配信開始！ ここでしかゲッツできないケロちゃんボイスを配信中！ 7月にも追加しちゃいます。もちろん激動中のマット界、ニュース・コラムは毎日毎日、最速で配信中!! いますぐアクセス!!



Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技
WILLCOM	趣味＆スポーツ	スポーツ	総合	

紙プロHand

はみだし情報!! “聖地”水道橋にあるファイティングカフェ・コロッセオがプロレス・格闘技好きなスタッフを募集!!
★職種 ホール ★待遇 時給900円 ★勤務時間 16:30～24:00 ★問 ファイティングカフェ・コロッセオ 03-3512-0522

新 卓球少女(似)松下ミワのハガキ愛ランド



いったい全体、マット界はどうなっているんだ!　と右往左往している読者のみなさま、こんにちは。そんな最中に、なんと『kamipro』は100号を迎えることになりました。今号は記念企画として、気になるあの方も登場!! よそ見しないでチェックだ!　というわけで、もういきなり始めましょう。いくぞー!　3、2、1、台風、台風、う～、吹っ飛んだ!!（つるっぱげ）。

kamipro99号へのお便り紹介

TKおかんインタビューがよかった!　とくにマーク・ハントを選んだ主催者に感謝するくだりは思わず「ウルッ」ときました。TKを褒められたときのオトンの「……そうですか」という間が何かよかったです……（涙）。

【静岡県・佐久間孝さん・会社員・34歳】

⬇TKおかんの聞き間違いオンパレードは見事!!　しかし、おかんに間違われたヴォルク・ハンとTKとの対戦は、「エキシビジョンマッチでもいいからやってくれ!」と、一部でニーズが爆発しております。

「TK激戦史」の企画がよかったです。個人的には99年のvs田村潔司がベストバウトです。TKおかんの会場での「ツヨシ、しっかりしんさい!!」のコールが聞けないかと思うと、やっぱりTKの引退は寂しいばかりです。

【広島県・今村さん・会社員・28歳】

⬇もしかして、フジテレビ系毎週日曜夕方に放送されていた『ちびまる子ちゃん』のあと番組、『ツヨシしっかりしなさい』は、TKおかんの声援から生まれたものなのか!?　と疑いたくなりますね。

「金ちゃんのどこまでやるの」がおもしろかったです。私もいま、メンタル面で悩んでいるので、とっても励みになりました。

【栃木県・内藤政行さん・会社員・29歳】

⬇いや、前回の金ちゃんコラムは垣原選手の引退によせて書いただけで、メンタル面でまいっている話はなかったと思うんですが……。何か伝わるものがあったんでしょうか?　まあ、励みになったのならノープロブレム!　こんなときこそ「パワーアップでオー!!（死語）」ですよ!!



堀辺先生の「桜庭和志移籍問題を考える」のページがおもしろかった。ちょうど、私自身の会社の退職と重なり、いま一度、思考をハッキリさせる上で役立った。

【徳島県・井村仁志さん・会社員・31歳】

⬇先ほどの読者といい、『kamipro』読者には悩める人が多く感じるのは気のせい……?　まあ、それは置いといて、桜庭選手も井村さんも次の舞台でも、ぜひおおいに活躍してほしいと思います!

榊原代表インタビューがよかった。代表の本音を聞けてよかったと思う。桜庭選手への思いが伝わってきました。

【神奈川県・佐々木学・会社員・40歳】

⬇サクの移籍は100年に一度の大事件!　と思ったら、また今月目ん玉飛び出る大事件が勃発!!　2号連続で榊原代表が巻頭ってのは、マット界が揺らぎまくってる証拠!?

桜庭和志選手が『HERO'S』に移籍したことはとてもびっくりしました。ほかは、ヴァンダレイ・シウバ選手が『PRIDE無差別級GP』に出なかったことが、僕はとても意外でした。

【新潟県・小川原功さん・中学生・12歳】

⬇ご存知、ヴァンダレイ・シウバは二回戦から『PRIDE無差別級GP』への参戦が決定!!　いろんな意味で凄まじい盛り上げをみせている本大会、これは絶対目の離せないものになりそうだ!　見るべし!!



ダンヘンと長南の「日米・男の友情対談」がよかった。ピラニアは最高!　男の中の男だと思う。

【山形県・渡部孝介さん・高校1年・15歳】

⬇ダンを頼って飛んだアメリカ修業の成果か、『PRIDEウェルター級GP』は長南選手が一回戦を突破!!　友情パワーの本当の威力はこれから発揮される!?

田村潔司×所英男の対談がおもしろかったです。田村さんが楽しんでいる感じが伝わってきました。なにげに前田日明の話が好きだということもわかりました。

【大阪府・福島佳重さん・OL・26歳】

⬇田村選手と所選手に対する前田日明の接し方のあまりの違いに、田村選手、絶句。所選手が「前田さんの家のお風呂に入らせてもらっている」と言ったくだりでは、田村選手は本気でビビってました。田村さんのあんな反応は珍しい!

藤田和之インタビューはいつ読んでもおもしろい!『kamipro』しか読めないのでまたインタビューしてほしいです。

【埼玉県・梶浦信夫さん・会社員・30歳】

⬇藤田選手がコメントした「相手から絶対に目を離すな!!」という〝長州理論〟には本当に驚き。プロレスの理論が総合格闘技の世界に通じているという、なんともワクワクすることを体現してくれた藤田選手は本当に素敵です!　二回戦もぜひ突破してほしい!!

こんにちは、毎月、『kamipro』を見ています。『kamipro』に協力してほしいことがあります。K―1で曙に勝ったボビーでありますが、あいつは、どうも、格闘技を舐めてる気がして腹立つ気分です。あいつに、何とかして、制裁を加えたいです。そういう意味で、あいつに、本当に強い男、ジェロム・レ・バンナと闘ってもらいたいです。これ以上、ボビーに格闘技を舐められたら、K―1はおわりです。こういうときは、もう、学校の番長がケンカを売ってきた相手を締め上げるように、K―1の番長がボビーを締め上げるべきです。そういう意味で、この試合を実現させたい!　そのためには、『kamipro』の協力が必要です。

【カスタマーサポート宛】

⬇ボビーがそんなに調子に乗ってるとは知らなかった!!　これはもう、K―1ファイターのジェロム・レ・バンナというより、ボビーの〝外タレ最強説〟に本気で怒っている（ウソ）チャック・ウィルソン（御年60歳）に出陣してもらうしかない!

99号・おもしろかった記事ランキング

1位	TKおかんと、時々オトン
2位	田村潔司×所英男
	髙阪剛インタビュー
3位	榊原代表インタビュー
	ジョシュ・バーネットインタビュー

「桜庭和志「HERO'S」移籍」と「TK引退」の二大特集が躍った99号。そのトップに輝いたのは、TKおかん&おとんが語る髙阪剛。TKがおかんにグローブを渡す話は涙なくしては読めませんよ!　そして、衝撃の巻頭を飾ったのは素晴しい表情でカメラに収まった榊原代表インタビュー。「泣く子も黙る」素敵な一枚でした。さらに『PRIDE無差別級GP』のMVPと言っても過言ではないジョシュ・バーネットのインタビューもランクイン。試合同様、インタビューもジョシュはハズレがありません!



大阪府・えりかなおずみさん
➡夢の装置『Inoki Natural Power-IV』（I.N.P）に夢中のアントンを送ってくれました。この永久電機がある限り、猪木さんは永久に不滅か。



埼玉県・中川雅博さん・イラストレーター・28歳
➡先日、引退したTK、『武士道・其の十一』では名解説っぷりでさっそく現場復帰。個人的には「何やっとんねん」の素敵な発言にしびれました!!



埼玉県・中川雅博さん・イラストレーター・28歳
➡般若のお面で登場する辻結花選手のイラストも中川画伯から。『kamipro』100号への大盤振る舞いに感謝!!

●kami-pro初めて物語●

コ～ノ～ヤ～ロ～（高田総統調）!!　さあ、突然ですが、読者のみなさん、『kami-pro』を読み始めたきっかけを教えてください！　というわけで前号のハガキで募集した読者の「『kami-pro』初めて物語」を、100号発行を記念して発表したいと思います（まったく関係ナシ）。どうぞ!!

週刊プロレスを電車の中で読むのが恥ずかしくなったから。そんなときにちっちゃい『紙プロ』を読んでみたらおもしろかった。
【広島県・広川徹さん・会社員・36歳】

▽まったく関係ありませんが、電車と言えば、私は電車の中で『プロレスラー選手名鑑』を読んでいたときに、親近感を抱いたのか、新日本プロレスの社員と名乗る人から声をかけられたことがあります。新日本のサ●ウさん、お元気ですか？

生まれてから10年間だけ格闘技を見なかった僕に、再び興味を抱かせてくれた一冊。田舎に帰ったときに近所の書店に置いてあった。
【千葉県・八角宗一さん・店員・47歳】

▽10年遠ざかってたマット界に八角さんが再び目を向けた事件 or 記事ってなんだったんでしょう？　ん～、気になる！

とにかく高田さんが大好きで、少しでも情報が知りたくて読み始めました。
【北海道・葉柴和範さん・会社員・32歳】

▽第1号からインタビューしている高田延彦さんは、それこそお友だちである高田総統まで掲載されるほど『kami-pro』には欠かせない人ですね。そんな高田さんが大好きな葉柴さんには、一日平均3回（適当）更新されるブログ『高田延彦フォトノート』をお勧めします。

書店で格通の横にあったから。
【徳島県・竹内博史さん・会社員・41歳】

▽この短いひと言がどのような意味を含むのか真意はわかりませんが、とにかく『kami-pro』を選んでいただいてありがとうございます。

オブラートに包まれたプロレスの世界を見事にぶち破った雑誌であったからです。また、マス大山、A・猪木、前田、高田、UWF、国際プロ、SWSなどを取り上げていたので、嬉しく思いました。
【神奈川県・佐々木学さん・会社員・40歳】

▽佐々木さんのような、「ちっちゃい『紙プロ』から読んでます」的オールドファンも多数。ちっちゃい『紙プロ』のハチャメチャさはいま読んでも素晴らしいですからね。

※読者のみなさま、『kamipro』101号からも、どんどん読め!!



埼玉県・稲葉聡さん

紙のTarzan

ショック!! 山本隆司氏、逮捕!!


元交際相手殺害依頼メール
不特定多数350通
神奈川県警戸塚署は23日、元交際相手の女性の殺害を依頼するメールを不特定多数の人に送ったとして、脅迫の疑いで、茨城県高萩市の会社員山本隆司容疑者（33）を逮捕した。山本容疑者は殺害依頼メール約350通を送信。調べに対し「女性とよりを戻そうとしたが断られ、恨んでいた」と容疑を認めているという。
調べでは、山本容疑者は2月9日、横浜市保土ケ谷区の男性会社員（21）の携帯電話に「殺してくれた人には報酬を払います。幸せにした者は殺す」などと、元交際相手の同市戸塚区の女性派遣社員（32）の殺害を依頼するメールを送信し、女性を脅した疑い。
メールには女性の氏名や住所のほか、通勤に利用する駅名も書かれていた。受信した男性が戸塚署に届け、女性が内容を確認。メールの履歴から山本容疑者を特定した。

5月24日、衝撃のニュースが編集部を駆け抜けた! なんと、あの“山本隆司”氏が逮捕されたというのだ!! 記事によると、山本氏は「元交際相手を殺してくれ」というメールを不特定多数の人に送りまくっていたという。その数、約350通。山本さん、そんなピュアな悩みを抱えていたとは……。あっ、でもこの方のお名前「やまもとりゅうじ」さんと読みます。決して“あの”山本さんではないので悪しからず。

スクープ！ ザ・目撃!!



●5月30日東急大井町線で新日本プロの棚橋選手とバッタリ!!『SPA』を熟読してたんですが話しかけました。10分ほど話したけど、我らが藤波社長のムダ話になると、もうファンのキラキラした目でした。「ぜひ新日本プロ、見に来てください」って言って握手してくれました。ハンティング帽が可愛いかった。
【ほと（kamipro Hand投稿）】

●新潟からなんすけど、地元のパチ屋チェーンかな？のイメージキャラクターを猪木がやってて、イベント名が「猪木祭」っていって猪木自身がCM出てました。こちらがドキドキしちゃいました。
【フェイクさん（kamipro Hand投稿）】

●22日、所英男トークイベントへ行きました。極度の緊張から目は泳ぎまくりで、水を大量に摂取し続ける所選手に母性本能をくすぐられた観衆は釘づけ。トーク中垣間見られる長いものには巻かれろ精神、明らかに不慣れな関節技講座、照れ顔でのダンスなど見所たくさんでした。ヴォルグ・ハンばりの下ネタは次回に期待します。
【ロペスさん（kamipro Hand投稿）】

●先日、青山を歩いていると、向こうからキャップ帽を深々とかぶった安生洋二さんを見かけました!!　5月半ばにしてすでに半袖姿でした。近くで有名人を見たのが初めてだったので嬉しかったです　。それが安生さんだったので、もっと嬉しかったです!!【SMマスクさん（kamipro Hand投稿）】

●先日、私のバイト先のファミリーレストランにドラゴンこと藤波辰爾さんが来店しました。 私自身キッチンで働いていたので話をすることできなかったのですが、私の作った料理を食べてもらったのかと思うと感慨深いものがあります。【柴玉健さん（kamipro Hand投稿）】

●ZSTのGT-F2の会場に観戦に来ていた宮田和幸さんを見ました。女の子に写真をせがまれまくっていました。私も声をかけようかと思ったのですが、疲れてそうだったので辞めました。でも、快くファンサービスをしてあげるナイスガイでしたよ！　イメージより小さかったけど、バランスよかったです。さすがサラブレ。
【大阪府・福島佳重さん・OL・26歳】

100号突破記念企画 中尾さんの人生相談

犯罪、恋、暴力、お金……悩み多き『kami-pro』読者のために、今回の100号から、なんと！　ハガキ愛ランドに人生相談コーナーを立ち上げることになりました。拍手!!　そして、その相談相手を快く引き受けてくださったのが、いろんな意味で経験豊富な、あの中尾芳広さん!!　感謝。では中尾さん、さっそくよろしくお願いします！



お悩みごと

岡山県の高山順一さん（26歳・大学生）から恋のご相談。
■今日は相談したいことがあってメールしました。自分は付き合って2カ月の彼女がいるのですが、彼女の性格は凄くさっぱりしている感じです。最初はそれがいいと思っていましたが、じつは付き合ってから自分は一回も「会いたい」と言われたことがありません。会いたいと言うのはいつも自分。なので、自分が会いたいと言わなければ、そのままずっと会わないような気がしてしまうんです。そこで、試しに自分から言わないようにしようかと思ってみたのですが、そういうのっておかしいと思いますか？

中尾

「100号から『kami-pro』読者の方の人生相談にのることになりました。よろしくお願いします！　いや～、自分ですね、格闘家の仲間内ではもう毎日が人生相談ですからね！（自信満々）。いや、大変なんですよ～。本当に格闘家って寂しがりやでですね。まあ、自分もそうなんですけど、本当に寂しがり屋。やっぱり、ずう一っと自分を見てもらってないと気が済まないっていうかね！　それはもうみんな同じだと思うんで。（中略）……あっ！　で、その相談なんですけど、何？　彼女が「会いたい」って言ってくれないんですか？　……はぁ～（ため息）、自分、思うんですけど、20代前半の人たちって、けっこう男がなんかこう、ちょっと引きこもりっていうか、いまの人ってそうなんっスよね。そんなことじゃ、男にもキスができないぞ！　アハハハ!!　だから、ほんとガンガンいかなきゃダメだって言いたいですよ！　まあ、自分はちょっとガンガン行きすぎちゃったんですけどね！　でも、本当に思うんですよねえ、そんな深く考えていても、女性はもっと楽天的に考えてる。そうですよね！　だからもう、野人じゃないですけど、会ったら声をかけろ！　って感じですよ。そんなことだから、子どもが本当に少なくなっちゃう。ホントそれわかりますね！　少子化問題もここにあるのかなって。ちょっとこう、う～ん、考えたいところですよね（神妙になって）」

高山さん、おわかりになりましたでしょうか？　どうぞ、中尾さんの渾身のアドバイスをご参照ください。
※中尾さんへの人生相談もドシドシ送ってください！　メールでもハガキでも可。宛先は同左参照。

中尾さんの近況：7月か8月か9月にとっておきのコスチュームでどこかの大会に参戦する予定です

ジャンプレ

虫を食べよう！



K-1韓国大会に飛んだジャン斉藤からとびっきりのコリアン虫をプレゼント。ハングル文字で書かれてあるので、中身の詳細はまったくわかりません!!　食べた人は気絶しないように～。

※読プレページを参考に募集してください。また、当選した人は、編集部まで取りにきてください。

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス　kami-pro編集部
「二度とこんなことがないように」係まで。
携帯サイト『kami-pro Hand』からの投稿もできます。

kamipro calendar



22 THU.

DRAGON GATE■栃木・鹿沼総合体育館(18:30)

23 FRI.

ZERO1-MAX■茨城・水戸市民体育館(18:30)
DRAGON GATE■宮城・仙台市体育館(18:30)
UD:FIESTA■東京・後楽園ホール(18:30)
THE WOMAN■東京・新木場1stRING(19:00)

24 SAT.

ZERO1-MAX■東京・ディファ有明(18:00)
DRAGON GATE■栃木・矢板市農業センター(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
JD■東京・新木場1stRING(18:30)
T-1■埼玉・バトルスフィア(18:39)
全日本キック■東京・新宿FACE(18:30)

25 SUN.

LOCK UP■東京・新木場1stRING(12:30)
全日本■東京・後楽園ホール(12:00)
DRAGON GATE■埼玉・桂スタジオ(16:00)
DDT■東京・新宿FACE(13:00)
クルーザーゲーム■東京・新宿FACE(19:00)
フーテン■東京・北千住シアター(17:00)
押忍闘夢■埼玉・バトルスフィア(12:00)
東海プロ■愛知・露橋スポーツセンター(13:30)
グレートプロ■埼玉・バトラーツ道場(18:00)
NEO■東京・キネマ倶楽部(13:00)
JWP■東京・キネマ倶楽部(17:00)
R.I.S.E.■東京・ディファ有明(16:00)
NKB■後楽園ホール(17:00)

26 MON.

ZERO1-MAX■福島・ビッグパレットふくしま(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(19:00)

27 TUE.

全日本■茨城・牛久運動公園体育場(18:30)
RING■東京・ヴェルファーレ(19:00)

28 WED.

全日本プロレス■青森・八戸市体育館(18:30)

29 THU.

NEO■東京・新宿FACE(19:00)

30 FRI.

K－1 MAX■神奈川・横浜アリーナ(18:00)
WRESTLE LAND■東京・新宿FACE(19:00)
全日本■長野・長野運動公園総合体育館(18:30)
DDT■大阪・豊中市庄内ローズ文化ホール(19:00)
SMACK GIRL■東京・後楽園ホール(18:00)



1 SAT.

PRIDE■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:00)
NOAH■東京・ディファ有明(18:00)
新日本■埼玉・川越ペペホール(18:00)
全日本■福島・福島体育館(18:30)
DDT■広島・福山ビッグローズ(19:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
WMF■東京・新木場1stRING(19:00)
キングスロード■東京・北沢タウンホール(18:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)

2 SUN.

NOAH■静岡・アクトシティ浜松(17:00)
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
ZERO1-MAX■千葉・横芝B&G海洋センター(15:00)
DRAGON GATE■兵庫・神戸ワールド記念ホール(15:00)
DDT■島根・松江くにびきメッセ(15:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
ビッグマウス・ラウド■東京・後楽園ホール(12:00)
JWP■東京・板橋グリーンホール(13:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(17:00)
レディゴンまつり■東京・新宿FACE(12:00)

3 MON.

NOAH■千葉・千葉公園体育館(18:30)
全日本■東京・大田区体育館(18:30)

5 WED.

NOAH■大阪・大阪府立体育館第二競技場(18:00)
新日本■茨城・水戸市民体育館(18:30)

6 THU.

NOAH■高知・高知県民体育館(18:30)

7 FRI.

NOAH■兵庫・高砂市総合体育館(18:30)
新日本■兵庫・明石市立産業交流センター(18:00)
シュートボクシング■東京・後楽園ホール(18:00)

8 SAT.

DRAGON GATE■埼玉・川越ペペホール(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■大阪・IMPホール(18:30)
JD■東京・新木場1stRING(18:30)
DEEP■東京・新宿FACE(14:30&17:00)
UFC■米国／ラスベガス・マンダレイベイイベントセンター
Move On! Kings!■東京・デイファ有明

9 SUN.

ハッスル■神奈川・パシフィコ横浜(17:00)
NOAH■京都KBSホール(17:00)
新日本■岐阜・岐阜産業会館(16:00)
DRAGON GATE■東京・ディファ有明(16:00)
DDT■愛知・中村スポーツセンター(13:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■愛知・中村スポーツセンター(17:00)
ガロガ■埼玉・桂スタジオ(15:00)
仙台ガールズ■宮城・仙台サンプラザ(17:00)
M-1■東京・新宿FACE(17:00)

10 MON.

DRAGON GATE■神奈川・横浜赤レンガ倉庫1号館(18:30)

11 TUE.

ハッスル■東京・後楽園ホール(19:00)
NOAH■岩手・岩手県営体育館(19:00)
DRAGON GATE■静岡・キラメッセぬまづ(18:30)

12 WED.

新日本■青森・野辺地町立体育館(18:30)
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール(18:30)

13 THU.

NOAH■宮城・多賀城市体育館(18:30)

14 FRI.

NOAH■福島・福島市国体記念体育館(18:30)
新日本■北海道・苫小牧総合体育館(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(19:00)
高橋奈苗10周年興行■東京・新宿FACE(19:00)

15 SAT.

新日本■北海道・釧路市コミュニティ体育館(18:00)
ZERO1-MAX■新潟・新潟市体育館(18:00)
DRAGON GATE■大阪・岸和田市体育館(18:30)
みちのく■東京・新宿FACE(18:30)
IWAジャパン■神奈川・茅ヶ崎青果市場(17:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
JD■東京・新木場1stRING(18:30)

16 SUN.

NOAH■東京・日本武道館(17:00)
新日本■北海道・旭川地場産業振興センター(16:00)
DRAGON GATE■広島・ドルフィンビーチ(15:00)
K-DOJO■東京・新宿FACE(18:30)
エル・ドラド■東京・後楽園ホール(12:00)
阿部四郎興行■東京・立川競輪場横駐車場(19:00)
息吹■東京・新宿FACE(12:00)
JWP■東京・キネマ倶楽部(13:00)
新日本キック■東京・後楽園ホール(17:00)

17 MON.

新日本■北海道・月寒グリーンドーム(16:00)
大阪プロ■大阪・IMPホール(15:00)
IWAジャパン■東京・新宿FACE(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(13:00&16:30)
NEO■東京・後楽園ホール(12:00)

19 WED.

新日本■秋田・大館市民体育館(18:30)
アパッチ■東京・新木場1stRING(19:30)

20 THU.

ZERO1-MAX■東京・後楽園ホール(19:00)

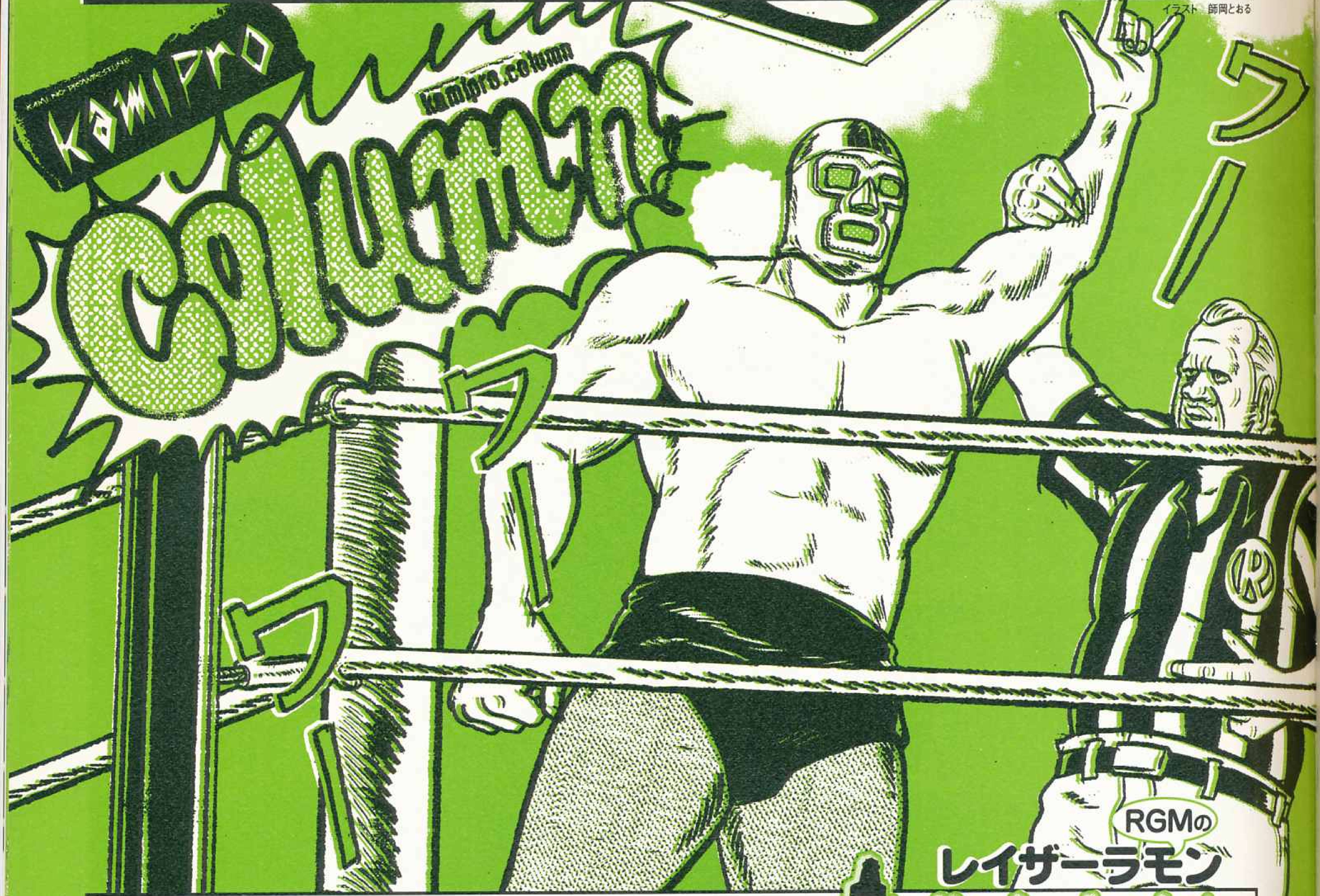
21 FRI.

みちのく■岩手・大船渡市体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。　また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

祝100号突破!　コラムに熱がある限り『kamipro』も生き続けます!

イラスト◎師岡とおる



第9回　100号だってな？ RGMからの“お祝い”だよ!

イラスト◎出渕誠

どうも～RGMで～す。いや～『kamipro』100号、おめでとうございますヨウ！　思えば僕も素人時代に『紙のプロレスRADICAL』に投稿でおじゃま～おじゃま～して、このコラム連載にこぎつけるまで長い年月かかりました（しみじみ）。

しかも投稿時代、3回も原稿掲載されたのに、担当のチョロさんが「一回載るごとに贈呈する」って言った賞品を一回しかもらってないヨウ！（賞品は桜庭Tシャツ）その一回も電話催促してやっと来た！　あと二回はどうしたチョロさん？【※編集注「非は認めますが催促までしたのは出渕さんだけです」BYチョロ】しかも投稿欄で対決した武田いづみちゃん、真下純子さんは連載を持ったのに僕は音沙汰なし！

まぁ、いまではコラムを連載し、ハッスルの最高権力者で、月給も倍々ゲームで増え、床暖房＆駐車場つきの家に引っ越しを考えてる僕には、ほんの小さなことですけどね～。オッケ～！　これからも『kamipro』とRGMは「一ッ生一緒にいィてくれやァ♪」（BY三木道三）。

そんな最近のRGMは記者から、「今後のハッスルの展望」を聞かれたりする立場だけど、ちゃんとハッスルの未来も考えてますヨ～！　そう、『紙プロ』のバックナンバーを読み直したところ、気になる凄玉を発見したんです。それが「中原奈々　全日本女子プロレス所属（97年デビュー）」。

中原奈々は中学時代〝あまりにもワルすぎた〟ため、卒業時に「もう一度、中学一年からやりなおす」、「鑑別所に入る」、「面倒を見てくれる就職先（全女）にいく」の三択を迫られ、迷わず全女をチョイス！　腹筋も腕立てもできなかった彼女は、全女のプロテストでいきなり場外乱闘、イス攻撃！「プロテストでイスを攻撃した子はいない」という前代未聞の理由で合格。当時のインタビューで「凶器しか使わないプロレスがしたい」と豪語しつつ、中学時代にはいわゆる〝3禁〟（酒・タバコ・男）もすべて経験済み……。

う～ん。なんてハッスル向きの人材！　極悪ぶりが健在なら、ぜひカムバックしてほしい！　漫画『NANA』が流行ってるいまだからこそ、NANA待望論ですよ！

こうして日々、ハッスル活性化を考えるRGMなんですが、その一方でドレッシングルームの「かわいがり」も度を増すばかり。某S選手やK選手からのチョップはもとより、タバコの押しつけ、グーパンチまで！　さらに恐怖は「なんかおもろいことやって」のリクエスト。芸人がもっとも恐れるこの言葉……。はたしてレスラーの笑いのツボとは？　モノマネ、一発ギャグ……とクスリともせず。もはや僕のお笑いハードディスクには何も残ってない。

そこでしぼり出すようにして出した芸……それが「〝セパラドス〟（ウルティモ・ドラゴン入場テーマのメキシコポップス）歌います！」。これ聞いた大谷選手が吹き出した。「いける！」。そして（めちゃくちゃな歌詞の）セパラドスで笑いを奪取！

大学時代にルチャファンの同級生を笑わそうとしたのが役に立つとは……。以来、大谷選手は何かにつけ「おい！セパラドス！」と振ってくる。「少し距離が縮まったな」とRGMも感激。セパラドスよありがとう！　グラシアス、セパラドス！　でもお笑いの舞台じゃ絶対うけないな、セパラドス……。



Izubuchi Makoto
◎出渕誠（レイザーラモン）
HGを“アレンジ”した「ヨウヨウヨウ!」をキメ言葉に活躍中。ハッスルでは最高責任者という名の前説男、RGMとして参加。

第9回

こんなときこそアブダビ王子に

東京ゾンビDVD、7月28日発売!!

花くまゆうさく

リングの汁ミニ

いま小規模な短編映画を監督して作っています。主役は村田卓実くんで。他にも足関十段・今成さんや、いまグラップリングで大活躍の徹肌イ郎選手、中村K太郎くんも出演してグラップラー率が高くなってます。(『kamipro』前号の「ハガキ愛ランド」に掲載された、桑本薫平くんも出てるから村田くんとともに『kamipro』投稿者率も高い?)

この映画に向けて、村田くんにはパンチパーマしてきて、と指令したのですが、実際にパンチになり、作業着姿の村田くんはいいかんじを醸し出していた。

本間優二(『十九歳の地図』、『狂った果実』)のように、童顔版・山田辰夫(『狂い咲きサンダーロード』)のように……たぶん。これを機に役者の出演オファーが来ればおもしろいのになぁ。公開は秋ごろみたい。

グラップリングといえば、こないだの5月27日前後はグラップリングデーでした。ZSTとアメリカの大会とで、ZSTのほうは、バレットを圧倒したフーベンス・シャーレスが凄かったなぁ(ZST判定では負けになっちゃってかわいそう)。昔からのバレット好きにとっては、バレット優勝は嬉しいけども。この日のバレットは、ツイスターモードでしたね。こうなると元祖ツイスターのオレ様エディも見たいが、クロスもハーフも禁止なZSTルールでは持ち味がまったく消されるので、違うとこで呼んでほしい。

そんでアメリカでは、我々のグラップリングアイドル、マルセーロ・ガルシア&ジャン・ジャック・マチャドが出場の大会! 桜庭にはUFCだけでなく、こっちの大会も見に来てほしかったなぁ。ガルシア見て、何かを感じてほしかった。

しかし、この日のジャンジャックは弘中選手に敗れてしまったのでショック・ショック・ショック……。階級上のTKを、グラップリングであんなに翻弄したジャンジャックが……。

そんなショックの中、またしても衝撃的な、フジテレビPRIDE打ち切りニュースが!! これにはマジでたじろぎ度肝抜かれ鳥肌立った。ホント、どうなっちゃうの?





Hanakuma Yusaku
◎大ノゲイラvs藤田か吉田のが見たかった

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第7回

ムリーロ・ニンジャにいったい何が起こったのか?

前回のパウロ・フィリオ戦に続く敗戦——。いったいムリーロ・ニンジャに何が起こったのか?

6・5『PRIDE武士道ウェルター級GP開幕戦』で行なわれたデニス・カーン戦を目の当たりにして、そう疑問に思ったファンは多かったことでしょう。

今回のコラムでは、シュートボクセをマネージメントする私だけが知っている、ニンジャ敗戦の舞台裏をご紹介したいと思います。

まずこれは決してフォローするわけではないですが、前回は大会二日前から下痢が続いて、入場セレモニー時にも急にも下痢止めを持ってるか? と聞かれたり、今回も、そもそもニンジャは今回のウェルター級GPに参戦する予定はまったくなく、『PRIDE』からの急なオファーのもと出場が決まったのです。

試合の予定がなかったニンジャは、セミナーのためにヨーロッパ各国を回っており、ウェイトは104キロとはるかにリミットオーバー。

予定外の参戦決定を受け、そこから二週間をかけて87キロまで体重を落とし、来日後にリミットをなんとかパスするまでに至りました。

そういうわけで、じつはニンジャはポテンシャルを発揮できない状態で、闘いを強いられたのでした。

しかし、急激な減量に加えて、トレーニングはフィジカルのみ。来日後もフィジカルトレーナーの作成したメニューをただ一人ジムで黙々と、しかも一人でやって数を間違える始末(笑)。

横で見ていたバローニが試合着全のなのになんてことをやってるんだという感じで首を傾げていました。

そのうえ相手は〝優勝候補〟の一角と目されるデニス・カーン。シュートボクセのフジマール会長が「彼はかなり強い」と警戒する猛者です。

ニンジャの体調を考慮し、フジマール会長はデニス戦を断ることも視野に入れたそうですが……ニンジャはデニス戦を受け入れました。

今回のウェルター級GPにシュートボクセから参戦選手がほかにいなかったことも理由の一つでしょう。

そしてなにより「シュートボクセには逃げるという選択はない」。その闘いの哲学がニンジャを参戦へと後押しすることになったのでした。

それは、ヒョードルの欠場を受けて、『無差別級GP』参戦のオファーを快諾したヴァンダレイ・シウバも同様です。彼らの頭には「逃げる」という三文字はないのです。

だからこそ、万全の体調で闘わせたかった——そういった彼らの心意気、姿勢を見るにつけ、その思いはいっそう強くなります。

皆さんもご存知のようにニンジャは、現ウェルター級王者のダン・ヘンダーソンやランペイジ・ジャクソンと互角以上の勝負を演じた実力を持っています。

シュートボクセのファイターは「逃げない」と同時に、ただ引き下がることもしません。かならず強いニンジャは帰ってきます! ビッグ・カムバックを期待していてください。

椎名基樹の サムライ三味

第5回

『kamipro』100号とホイスvsヒューズ

なんでも今号で、この雑誌が100号だそうで、おめでとうございます。そして、それを祝うかのごとく飛び込んできた、プロレスファンなら誰もが「良かったね」と拍手を送りたくなる事件、否、ニュースが「ジャガー横田さん、妊娠」の報である。いや〜本当、めでたい。あのジャガーさんがお母さんになるなんてな!? しかし、この報道の中で一番驚いたことはジャガーさんが、4姉妹の末っ子で、さらに4姉妹すべての夫婦関係が、ジャガー夫妻と同じく、鬼嫁&のび太カップルだったこと。男女の仲というものは、うまくできているものですな。

さて、『kamipro』も100号ってことで、時の流れを感じずにはいられませんが、同じ思いがしたのが、UFCで行われたホイス・グレイシーvsマット・ヒューズである。試合のほうは見たり、報道を読んだりした方も多いと思うが、予想通りの、いやそれ以上のマット・ヒューズの圧勝だった。圧勝の中でもバーリ・トゥードにおいてこれ以上の圧勝はなく、上になられ、バックを取られ、伸ばされ、身動きが取れなくなって殴られ止められてしまうという、まさに10年前にホイスがUFCで披露してくれた基本セオリーでやられてしまったのであった。

試合前のインタビューで、パット・ミレティッチは「ホイスは、現在の総合のレベルを知ることになり、血まみれの悲惨な試合になるだろう」と語っていた。ジョシュ・バーネットは「ホイスはただの柔術家であるが、マットは完成された総合の選手である。それが証明されるだろう」というようなことを言っていた。まさにその通りになったワケである。これらのコメントの中に感じるのは、これが単なる試合予想ではなく、グレイシーが去った後、総合を作り上げてきて、そして、とんでもなくハイレベルになった中で闘ってきたことへの自負なのであろう、ということである。



イラスト©中川画伯

現地時間の5月27日、UFC60で対戦したホイス・グレイシーとマット・ヒューズ。衣を脱いでヒューズに挑んだホイスだったが、結果的には、ほとんど何もできずバックマウントからのパウンド連打で完敗！

また、試合後オクタゴンの中でさっぱりした表情でインタビューに答えるホイスにも、総合格闘技の世界が変わったことを感じた。昔だったら「負けることは死を意味する」と公言してはばからなかったグレイシーであったが、今回は「引退するか？」の問いに、さわやかに「また戻ってくるさ」と答えたのである。第一回のUFCのときは本当に「負けることは死」という覚悟でリングに上がっていただろう。当時の試合内容は死を覚悟しなければならないほど凄惨だったし、グレイシーを世に知らしめるために、決死の覚悟で闘っていたハズだ。しかし、それを達成し、総合の表舞台から身を引いて、再び戻ってきたUFCは、一族の格闘技を世間に知らしめるための舞台ではなく、新しく完成されたプロスポーツの舞台であることを理解していたインタビューであった。

それにしても、見事に畳まれたもんだ。試合前は筆者には「もしや」の気持ちも少しはあった。ミレティッチもジョシュも、あれほど強く否定する裏には、ほんの少し幻想に対する恐れがあったのではないかと想像する。みんなグレイシーを見て総合を始めたのだ。しかし、幻想は消えた。ただ、最近総合ファンになった人にわかってほしいのは、この結果はグレイシーはやっぱり弱かったなんてことではなく、総合は結局ガードポジションを起点とするセオリーの中で行われる（たとえスタンドのみの攻防で試合が終わったとしても）格闘技であり、それを最初に披露して証明したのがグレイシーであるということだ。ガードポジションを知らずに闘った格闘家は、初期UFCで全員ホイスに負けたワケだから。ブラジリアン柔術家だけが「なんでもあり」に明確な答えを持っていたことをわかってほしい。

それにしても、時の流れを感じずにはいられなかったのは、試合内容だけでなく、ホイスのルックスである。せめて道衣を着てほしかった。70キロ台に減量した痩せた身体にハゲあがった頭は、まさにそのまんま東。10年前のUFCの映像が流れたが、あの頃のホイスは凛々しくてカッコ良かったなあ。まあ、ルックスの劣化のことは他人に言えませんけど。いや〜参った。

と、ここまで書いて、重大なニュースが筆者の耳に飛び込んできた。それは、佐々木健介が「関口宏の東京フレンドパーク」に長州小力とともに出場し、修復不可能かと思われた長州との関係を擬似的に回復成功。そして、最後のダーツコーナーでは、希望賞品だった薄型テレビをゲットしガッツポーズ。さらに新しくできる道場に設置するために所望した、もう一つの希望賞品のばかでっかい業務用冷蔵庫を、視聴者プレゼントとして当ててしまい、どー考えても普通の家庭にそんなもの送られたら迷惑だったこと（どっちもほしかったら換えてやれよ！）では断じてなく「PRIDEからフジテレビが撤退」のニュースなのであった。

『PRIDE』初期には、どう考えてもなんの効力もないが、少しでも力になればと思い、いや完全な自己満足だとわかっていても、全然関係ないのに、自らの持つ連載の中で勝手に『PRIDE』の話題を書いてきた筆者である。いま思えばそれを見て、『kamipro』編集部が連載の声をかけてくれたのだと思う。第1次UWFが誕生以来ずっと夢見てきた「最強の男は誰だ？」という問いに答え続けてくれた『PRIDE』にはいい夢を見せてもらっているし、もちろん、筆者に何をいう権利はないのだけれど、こんなさっぱりわからぬ事情で、『PRIDE』がなくなってしまうとしたら、じつに残念である。総合の未来を自分のことのように案じていた青く暇なほんの数年前の自分を思い出すと、赤面したくなると同時に、「私ってなんて甘いんだろう」と故・山田花子の言葉が浮かぶのであった。

Motoki Shiina
◎今後、フジテレビ問題がどうなるのか非常に気になります。あとはとくに何もありません。

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来



電流爆破マッチが決まるまで……の巻

浩子 プロレスファンのためのトークショー『サヨコアリーナ』（5月23日、新宿ロフトプラスワン）は……。

健想 お前は楽しかっただろ？

浩子 楽しかった!! 最近の仕事であれだけおかまいなしにしゃべりまくったのは久々だ！

健想 凄かったもん。〝機関銃トーク〟ってのをまざまざと見せつけられた感じ。一言も口を開くことなく終わるところだった。

浩子 いつもは私も「健ちゃんにも話をふらなきゃ」って抑えるんだけどね。今回はショーの初めが私と三田さんだけだったでしょ。あれで「今日は話せるぞ」と味をしめてしまい……。お酒も入って、「今日くらいはしゃべりたおしてもいいだろ〜！」と、結局、途中で出てきた健想には目もくれずに爆裂トークをしてしまった。

健想 途中で「俺の存在は消されてるんじゃないか？」って心配になった（笑）。

浩子 そんなぁ！ だけど三田さんとの掛け合いが楽しくって。切り返しが早いの。三田さんはすっごく頭のいい人よ。話してるとすぐにピンと勘が働くから、かぶせてかぶせて、隙間なく乗っかっていく。

健想 ああいうの見ると、やっぱさすがだよ。二人とも元・局アナって感じ。

浩子 テンポが合うんだよね。だからどんどん話も進む。

健想 普段できない話が出る出る！

浩子 話だけじゃないよ、映像も出たじゃん（笑）。

健想 アナ時代の二人……きつかったなぁ。

浩子 しゃあないんだって！ あれは地方局の宿命！

健想 にしても三田さんの映像は笑った。金ボタンのボディコンスーツで街の薬局レポートしてたからね。お前はウサギの被り物で天気予報してるし。

浩子 あの〝ローカル感〟たまんないでしょ（笑）。でも、私はいい経験させてもらったと思ってるよ。三田さんもそう言ってた。照明を自分に当てたり、台本書いたり、撮影したり……。本当になんでもやるんだから！ キー局のアナとは確実に職種が違うもん。

健想 キー局のアナ達がヒルズ族と合コンしてる間にな（笑）。

浩子 本当だよ！（笑）。

健想 ま、トークショーでは本当にいろいろ話してたよな。

浩子 やっぱりさ、お金を払ってわざわざ来てくれてるファンにはそれなりにお返ししたいじゃない？ あの日は雨でさ。雨の中面倒な思いしながら来てくれた人たちに『来て良かった！』って。それから、三田さんのファンにも「ケン・ヒロの回に来てけっこう良かったよ」って言ってもらいたいしね。

健想 サービス過剰なネタ満載だったよ。坂口（元）会長や、長州さんや、思い出のマル秘エピソードが盛りだくさんで。

浩子 盛り沢山の内容で、時間も1時間オーバー。聞きたい人はぜひトークショーに足を運んでいただきたい！ 損はさせません！

健想 で、一日早く電流爆破のニュースもチラッと出した。

浩子 そうそう！ で、電流爆破……やられるんですか？

健想 やりますよ。もちろん。

浩子 私と？（笑）。

健想 いいじゃない？ やりますよ！

浩子 いやいや、〝やりますよ〟じゃなくて。あなたね、ああして発表の席で勝手に言っちゃうからあの後、親は半べそ！「プロレスするって聞いただけでも、心臓が破裂しそうだったのに、どうして電流爆破なんて」って。気がついたら私が電流爆破することになってるし（笑）。

健想 じゃあ、やらない？

浩子 電流爆破か……考えさせて。

健想 やるのかよ!?（笑）。



Suzuki Kenzo&Hiroko
◎元WWEタッグ王者の健想と妻の浩子。8・20「WRESTLE EXPO」に参戦する健想は電流爆破マッチを熱望。

日本在住メキシコ人ホセPresents

アメプロウワサルーン



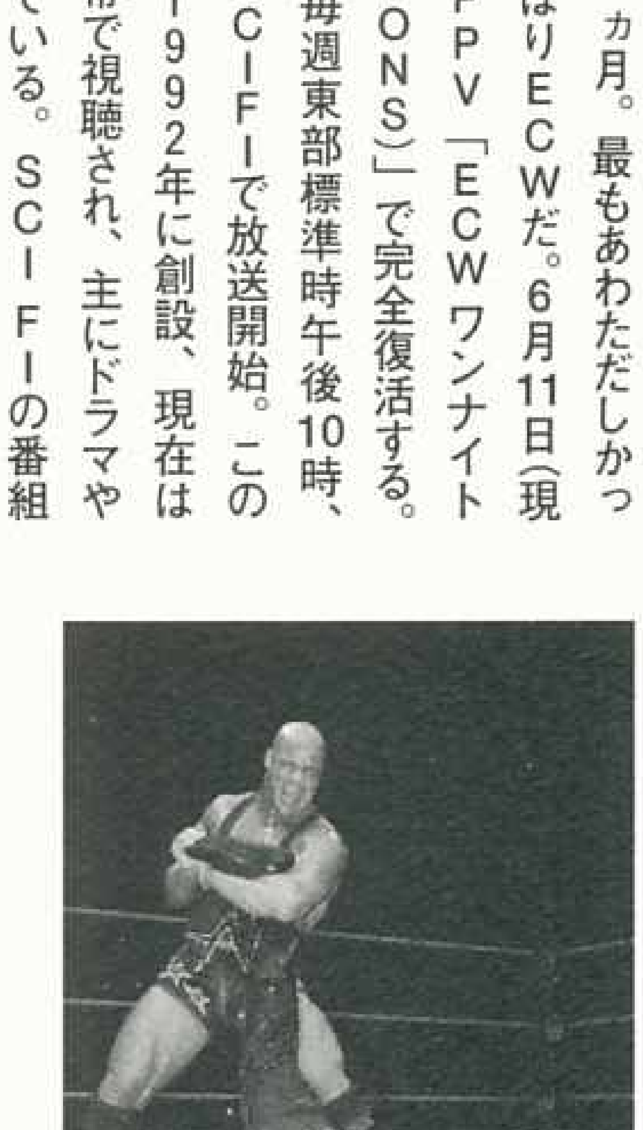
イラスト◎エロコエロオ／Photo◎George Napolitano

No.2 WWE第3のブランド。ECWを成功に導くのは“あの男”だ!

さて、この一ヵ月。最もあわただしかった話題はやっぱりECWだ。6月11日（現地時間）からPPV「ECWワンナイトスタンド（以下ONS）」で完全復活する。6月13日から毎週東部標準時午後10時、チャンネルはSCI－FIで放送開始。このSCI－FIは1992年に創設、現在は8500万世帯で視聴され、主にドラマや映画を放送している。SCI－FIの番組表を見ると、「トワイライトゾーン」や、「Xファイル」といった映画&ドラマばかりが目につくのだが、火曜日の番組表に目をやると、〝10時「ECW」〟と記されている。これがなんだかじつに異質に見えるのはオレだけ？ こんなチャンネルでハードコアレスリングをやっちゃっても本当に平気？と、いらぬ心配ばかりしてしまうのだ。

で、今後ECWは、PPVだって行なうし、週末にはハウスショーだって開催する。それにECW勢はWWEの4大PPV（レッスルマニア、サマースラム、サバイバーシリーズ、ロイヤルランブル）にも顔を出す。ECWの登場で、4大PPVもより厚みを増しイベントへの期待も高まるぜ！

6月11日の「ONS」では、WWE王座戦としてジョン・シナ対RVD、世界王座戦としてレイ・ミステリオ対サブゥー、このたび晴れてECW所属となったカート・アングルとランディ・オートンが対戦。さらには「SMACKDOWN！（SD）」のコメンテーター（解説者）であるタズが現役に復帰し、「RAW」のコメンテーターのジェリー・ローラーと闘った。ECWはスタートで、「RAW」&「SD」にケンカを売るというアングルからスタートしたんだよ。つまりこれは〝もしECWが崩壊していなかったら？〟という、ECWが成し得なかった夢の続きを初っ端から持ってきたんだな。WWEに肉薄していた頃に時計を戻したとは、当時を知る人にすればニクいアングルだ。



で、特筆すべき点は、カート・アングルをECWに移籍させたこと。五輪出場後に、プロ転向を宣言したカートは、旧ECWのリングに登場したが、当時のECWを見て「残酷なリング」と一蹴した。今回、カートが新生ECWに身を投じたことで、首の状態が不安視されているが、本当のカートの移籍理由はズバリ言って彼の〝統率力〟なんだろうな。つまるところカートは、「RAW」、「SD」というWWEの2大ブランドにおいて、見事なまでにリーダーシップを執った。人望が厚く、ボーイズをはじめ、スタッフのモチベーションを上げるのに長けているらしい。こういう人物の存在こそが、運営における成功のカギなんだろうな。もはやカートはWWEにとって大事な〝指揮官〟なのかもしれないぜ。

それにWWEはECWを単なる当時のリバイバル、にするのではなく、キッチリとレスリングを見せることに重点を置いているのだろう。復活させるには進化がなければ意味がない。オレはそう見るね。

そうそう、ビンスはECW復活に向け、こう言ったんだぜ。「ECWを世界的なブランドにする」と。そこにカートを置いたってことは、世界最高のハードコアレスリング集団を創るんじゃないのかね？ うーん、なんだかゾクゾクしてきたぜ！ ということで、また次回！ アディオス！

イナズマKの ハードコアドージョー Special

料理のコツは「よく焼く」こと!? ミスター・ポーゴの串焼き屋に大潜入！

〝デスマッチの帝王〟のみならず、最近は〝マラソンマッチの帝王〟の名もほしいままにするミスター・ポーゴ。過去『ポーゴ寿司』開店を企てたり、本庄市でサウナを経営したり、多角的ビジネスに乗り出してきた彼が、なんと〝串焼き屋〟を開店させたという。その名も『ちゃんこダイニング若』ならぬ『串焼ダイニング うずら』！

そこで我々ハードコアドージョー・クルーは、彼のホームタウンであり、〝暗黒街化計画〟発祥の地である群馬県伊勢崎市に向かった。

しかしこの時点でわかってるのは、店の名前と電話番号。そして「つばめタクシーに乗れば着くから」というポーゴさんの言葉のみ。不安ながら駅前に停まっていた「つばめタクシー」に乗り込むと運転手さんから「あぁ、だいたいあそこらだな」と答えが返ってきた。ポーゴさんの言葉にウソはなかった！ のどかな風景を5分ほど走るとスナックやバーが並ぶ一帯に。その一番左側に『串焼ダイニング うずら』は実在した！

中に入ると、デスマッチ色は一切ない綺麗な店内で、なんとポーゴさん本人が、開店前の準備をしている！ 忙しい合間を縫いながら、インタビューがスタートした。



これがポーゴの串焼きだ！ わかったか～！（カマを持って絶叫）

『串焼きダイニング うずら』
【TEL】0270-24-5003
【営業時間】18:30～26:30（月曜定休）
※ポーゴさんは24時まで。
【お薦め】名古屋コーチン料理、焼き鳥、チーズせんべい
※伊勢崎駅から「つばめタクシー」で、佐波医師会病院そばで下車。

——まずは、串焼き屋を始めたきっかけから聞かせてください。

ポーゴ オレ様の兄貴が「新しく串焼き屋を始めるので、一緒にやるか」と誘われたのがきっかけだ。

——昔から〝ポーゴ寿司〟の計画もありましたし、飲食店に興味があったんですか？

ポーゴ 昔アメリカにいたとき、プロレスで食えない時期があった頃ＬＡの日本食屋で修行したんだ。寿司から居酒屋料理、串焼きもやってたから、だいたいわかる。（鶏肉を指差し）これもオレ様が仕込んで焼くんだからな！

——ポーゴさん自身が焼くんですね。レスラーの飲食店って多いですけど料理の腕前は……。

ポーゴ 一番だろ！ みんな料理の修行はしてないだろうが、オレ様は修行してるからな。

——「味には自信あり」と。この店の売りはなんでしょう？

ポーゴ 売りは、名古屋コーチン料理だ。あと鳥刺しもうまいぞ。それにチーズ１００パーセントの〝チーズせんべい〟。これはうまいぞ！ 食べてみるか？

——い、いただきます。あと焼酎もかなり数がありますね。

ポーゴ なかなか手に入らない酒もある。オレ様が吟味してるから味も間違いない。

——なるほど。ではポーゴさん流の串焼きのコツは。

ポーゴ もちろん、よく焼くこと！

——よく焼くこと、ですか。

ポーゴ そう。焼けば焼くほど味が出てくる。もちろん焼きすぎじゃダメだぞ。焦げ目ができないように焼くと、最後に白い油がじわっと出てくる。そうすると外がカリカリっとなって中がトロッとなる……。どうだ、ウマそうだろ？

——はい。串焼きも注文させていただきます。あと、ポーゴさんといえばビッグ・ファイヤー！ 飲食業では串焼き屋が一番合ってるかもしれない。

ポーゴ 焼き方のコツは「人間から鶏まで」わかってるからな（ここで串焼きが焼き上がる）はい、お待ちどうさま～！

——あ、いただきます。ウ、ウマいですよ！ ポーゴさん！ やっぱり名古屋コーチンに思い入れあるんですか。



衝撃!! これがポーゴ兄特製の「チーズせんべい」だ！ たしかな食感といつかどこかで食べたコクある味わい……。取材班はその犯罪的うまさから「やめられないとまらない」状態に。

ポーゴ いや、その昔、W★INGの頃、名古屋でコーチン食べて下痢になって二日間動けなくなったんだ。だからウチではよ～く焼いてるんだ。お店もキチンと保険にも入ってる。お客さんに出すもんだしな。（ここで、チーズせんべいができあがる）おい、食べてみろ、うまいだろ？

——うわー！ なんかパリパリしてて、これはいままでに味わったことない食感ですよ。チーズの革命ですよ、これ。

ポーゴ チーズは大好きなんだ。あと乳製品な。朝は牛乳と「飲むヨーグルト」をガブガブ飲んでる。

——ところでポーゴさんが以前から進めてる〝伊勢崎暗黒街化計画〟はどうなってますか？

ポーゴ 着々と進行してるよ。じつは、この『うずら』もその一環だから。

——そうなんですか？ じゃあ店名の『うずら』にも深い意味が……？

ポーゴ いや、ウチの兄貴がつけた。オレ様は『大王様』にしようと思ったんだけどな。あと店を始めた理由は、来年に伊勢崎の県議会選挙があるからだ。今度の選挙は〝地域密着型〟でいこうと思ってる。

——それは、関川哲夫として出馬するんですか？

ポーゴ いや今度はミスター・ポーゴとして出る。前回、関川哲夫で落っこちゃったし。

——ミスター・ポーゴで出馬！ グレート・サスケさんもリングネームで当選しましたから、いずれは県議会員対決も見れそうですね。

ポーゴ その前に、サスケをギャフンといわせる計画を練ってる。まだ内容は言えないけどな……（意味深に）。あと、７月にＷＷＳの6周年興行がある。松永と組んで「猛毒サソリマッチ」をやるから、これ読んでるヤツは必ず来い！

——それは楽しみです。話はそれますが、以前に「怖いものは〝お化け〟」といってましたね。

ポーゴ あぁ、でも最近は怖くなくなったよ……。逆にお墓が好きになってきた。オレ様もお化けに近づいてきたのかな。

——あと好きな女性のタイプは、いまもオリビア・ニュートン・ジョンですか？

ポーゴ オリビアはいまも好きだねぇ。車ではずっと聴いてるからな。あと最近はＮＨＫの朝のドラマ『純情きらり』のあの子、宮崎あおいちゃんはいいね。

——宮崎あおいちゃんですか！ 予想外の名前にビックリです。では最後に、読者へのメッセージをお願いします。

ポーゴ 『うずら』を拠点に〝伊勢崎暗黒街化計画〟どんどん進めていくんで、プロレスファンのてめえらも、応援する形で店に食いに来い。それだけだ、わかったか～！

【5月31日店内にて収録】



ユニオンプロレスでの空手ポーゴ化など本業のプロレスでも絶賛活躍中のポーゴさんが、7月24日、本拠地・WWSの伊勢崎大会開催！ 松永とのタッグで「サソリデスマッチ」敢行！ 伊勢崎暗黒街化計画にまた一歩近づくか？

5月28日にUWFインター時代の先輩、垣原（賢人）さんの引退試合があったから、ひさびさに新日本プロレスの後楽園ホール大会に行ってきたよ。

最初、始まる前はどんな人が集まるのかわからなかったんだけど、結局、元Uインターのほとんど選手が集まって、しかもみんなスーツで来てたのが、Uインターらしいな、と思ったよね。

Uインターの頃ってさ、宮戸（優光）さんが「プロレスラーたるもの、きちんと正装で会場入りするのは当たり前。巨人軍がスーツで球場に来るなら、俺たちはタキシードで会場入りしてもいいくらいだ！」っていう考えの人だったからさ（笑）、俺たち当時の若手はその教えが染み込んでるんだよね。だから今回も宮戸さんを始め、田村さん、高山君、あと上山（龍紀）もみんなスーツだったんだけど、松井（大二郎）だけは宮戸さんが辞めたあとの選手だから私服で来てるんだよ。高山君が試合前に「松井は宮戸さんの教育を受けてないから、絶対私服で来ますよ」って言ってたんだけど、ホントその通りだったからね。あと他のゲストだと藤原組育ちの柳澤（龍志）選手は私服で来ててさ、控室で「やっべ～、みんなスーツだよ」とか言ってたんだけど、今回は宮戸さんの教育を受けたか受けないかでこれだけ違うといういい例を見せられた感じだよね（笑）。

あと余談だけど、あれだけ宮戸さんと関係が深かったはずの安生さんは思いっきり私服で来てたんだよ。それで宮戸さんに「安生さん、その格好はなんですか。いい大人なんだから、ちゃんとした格好しなさい」って、これまたUインター時代の頃を思い起こさせるような、小言をいわれてたよ（笑）。

だからというわけじゃないけど、垣原さんの引退試合観ながら凄いUインターの初期を思い出したんだよね。俺はUインター旗揚げ前に新弟子第1号として入門したんだけど、旗揚げ戦の第一試合が田村さんと垣原さんの試合だったんだよね。俺がこの世界に入って初めてセコンドについた試合もその田村vs垣原戦で、場所も同じ後楽園ホールだからさ、その当時のことを凄く思い出しちゃって、試合観ながら泣きそうになったんだよ。そしたら、リングを挟んで対面に座ってた田村さんが目をまっ赤にして泣いてるのが見えてさ、それ見て「俺は泣いたらいけない」と思ったよ。やっぱり田村さんは新生UWFのときから付き合いも深かったから涙も出るだろうけど、俺まで泣いてたらダメだもんね。それでも、試合後、垣原さんの子どもが「パパへ」っていう手紙を呼んだときは、じーんときたよね。垣原さんの子どもって2～3歳の頃会ったことあったんだけど、それがあんなに大きくなってさ、立派な作文読み上げたの見たらさ、俺は子どもがいないけどウルッと来たりしてね。やっぱり感慨深かったよ。

ホント今回は、垣原さんの引退試合を観て初心に帰らせてもらったというか、なんか高田さんの付き人やってた時代に戻ったような気分にさせてもらったよ。あれがもう15年も前なんだからビックリだよね。最近、日体大レスリング部に練習に行ってるんだけどさ、練習相手の学生ってよく考えたら、俺の半分の年齢なんだよね（笑）。俺、今年36歳で奴らは1年生とかは18歳だからね。でも、18歳でも強くて根性はあるし、見習いたいところがいっぱいあるんだよ。いくらでも、向かってくるからね。そこでも、なんか自分の新弟子時代を思い出してさ。昔は俺なんかも「スクワットいけ」って言われたら、ナンボでもやってたからさ、そんな感じだよね。

まぁ、垣原さんの引退試合と日体大での練習で初心に戻らせてもらったんで、俺もまだまだ頑張るよ！



金ちゃんのどこまでやるの？

イラスト◎中川画伯

●第6回● いまも息づく宮戸イズム

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

ささきぃの STAND BY ME second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

第2回

マジかよ!?　シュートボクシングにGKとケロちゃん登場!!

「ｋａｍｉｐｒｏ　Ｈａｎｄ」で、ＧＫこと金沢克彦氏のコラムが人気である。そもそもＧＫとの縁も、編集長を辞めたＧＫがムエタイを観にタイへ行ったときのことを文章化していて、それを観てＧＫファンの私が「おもしろいです！」って、名刺をたよりにいきなり連絡をしたのがきっかけにもなっているので、ＧＫと立ち技の関係は意外と深いのですよ。せっかくうちでコラムを書いてもらうのだからと思い、シュートボクシングや全日本キックにも連れて行っている。

ＧＫがシュートボクシングについて書いたコラムがきっかけで、シーザー会長との対談が実現することになった。〝こういう〟再会〟が実現するのはコラム＆立ち技担当としても嬉しいものだなぁ。しかし対談をまとめるプレッシャーで胃が痛くなる。

5月10日　緊張しつつも二人の対談が実現。対談の模様は、5月25日後楽園大会のパンフレットに掲載されたほか、後編が7月7日後楽園大会のパンフレットにも掲載される。沢村忠時代のキックボクシング話から、キックを指導していた前田日明、高田延彦を中心とするＵＷＦ話、そして「寝技がダメで柔道をやめた」という、徹底した立ち技指向のシーザー会長の揺るがなさに感心するばかり。トークは『ヤンヤン歌うスタジオ』出演話にまで及んだ。リングで闘い、レコードも出し、映画俳優もやり、あのタランティーノが「日本で会いたい俳優ベスト5」にあげるほど惚れ込んだシーザー会長。ある意味、男の夢の体現者ではなかろうか。会長は「生きてる限りは暴れ続ける」と宣言してくれた。

5月25日　緒形健一vs大東旭、宍戸大樹vs安廣一哉、そしてアンディ・サワーvs大野崇という目玉カードが並んだ今回の後楽園。だが、直前になって大東と安廣が怪我で欠場。さらに大会当日にはシーザー会長も急病で初の大会欠席という、前代未聞の事態に見舞われた。対談を行なったばかりということもあって、よけいに心配だし、会長の不在が大会に与える影響が不安だった。

だが、大東の代役ポール・スミス（服はポールスミスじゃなさそうだった）から、二度ダウンを奪われての逆転勝利をみせた緒形健一をはじめとするシュートボクシング勢の闘志はこっちの想像をはるかに超えていた。そして、この日〝初参戦〟をはたしたもう一人の男に場内が騒然。ケロちゃんこと田中秀和リングアナが、シュートボクシングのリングに登場したのだ。

「Ｋ－１、ＰＲＩＤＥ、何するものぞ。いいか、よ～く見てろぉ！　これが立ち技総合格闘技、シュートボクシングだ！」。日本のリングアナの中でも群を抜いて大げさであり、ドラマチックでもあるケロちゃんのアナウンスは、新日本の世界観を作りあげてきた一人だと思う。そのアナウンスは〝人生格闘劇場〟シュートボクシングワールドに、不思議なほどよくマッチしていた。



シュートボクシング創設者・シーザー会長とGKの再会。GKは、5月29日が19年ぶり、2回目のシュートボクシング取材となった。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑



イラスト◎ゴローちゃん

発売日に出ないのが当たり前だったチンタラ発行プロレス誌『kamipro』もなんだかんだでついに100号！　ヒャッホーッ！　めでたいときにはめでたいゲストということで、結婚に続き、妊娠が発覚したジャガー横田夫妻が登場！　萌え萌えを一旦おいといて愛のジャガー&愛のドクター木下に迫る！

掟　このたびはご懐妊おめでとうございます！　不妊治療もされたりと、たいへんだったみたいですね。

ジャガー　短期間で済んだんでそれほど苦労じゃなかったんですけどね。去年の10月に不妊治療の手術して、今年の2月に体外受精をして、3月に妊娠ですから。それに妊娠したことがわかってから5試合しましたしね。

掟　エーッ!?　せっかく身ごもったのに危険すぎますよ！

ジャガー　いや、4月のスケジュールは決まっていましたから。

掟　でもそこは断るべきかと……どうですか木下さん、医者の立場として。

木下　そうですね……。

ジャガー　ダメですよ、試合のスケジュールに合わせないと！　大事をとったところで、そういう運命にない子は残らないですから。

木下　医者として言いますけど、これは本当にジャガー流なんですよね。

掟　ジャガー流すぎますよ！

ジャガー　その時期、ちょうどテレビ番組の企画で激しいタップダンスもしてて、そっちは心配になりましたけど。

掟　試合のほうがよっぽど危険な気が……。しかも対戦相手にも気を使われたくないから、妊娠の話はしてないんですよね。伊藤薫選手にフットスタンプなんてされたらとんでもない事態になるじゃないですか！

ジャガー　そんな技させないし、受けないですもん。マットには倒れないようにしてましたし。……でも胎教にはよかったと思いますよ（笑）。

掟　ガハハハハ！　プロレスは胎教のうちだと。

ジャガー　胎教って普通は「クラシックを聴く」とかじゃないですか。でも本人が穏やかな気持ちになればいいことですから。ストレスを溜めないことが、子どもにもいいんだなって。

掟　家庭内では揉めませんでしたか？

木下　う～ん。以前、体外受精のときは、約1ヵ月間プロレスも芸能の仕事もカットしてずっと家にいたんですよ。それが凄いストレスだったみたいで。

掟　「泳ぎをやめると死ぬ」というマグロみたいな性格ですね（笑）。

木下　体外受精に失敗したときも凄い落ち込んでたんですね。そのときプロレスが彼女を救ってくれた部分があって、試合をしたら元気になってきたんです。それに彼女は僕よりプロレスのほうが好きですから(笑)。

掟　あ、木下さんよりプロレスを愛してるんですか？

ジャガー　そうですね（笑）。プロレスは30年間、ワタシをいろいろな形で支えてくれましたから。30年後も一緒にいたら、この人が一番かもしれないけど。

掟　でも、そのあいだにもプロレスをやり続けるわけですよね（笑）。

木下　いつまでも追いつけないですよ！

掟　木下さんは今日もオペ終わりで来ていただいてますけど、本来は外科医で、大腸ガンの権威なんですよね？

木下　いえいえ、とんでもない！　ヤブ医者です！

掟　ガハハハハ！　そこで謙遜すると手術を受けた患者さんの立場がないです(笑)。

ジャガー　自分でヤブとか言うな！

木下　だって「ワタシはエリート医師です」って言うの？

ジャガー　「中堅の外科医です」って言ゃぁいいじゃない。ヤブ医者なんて言ったら、誰も行かねーよ！

掟　ドクター木下は腕がいいと評判ですけどね。ちなみにジャガーさんは体調はいかがですか？

ジャガー　（恥ずかしそうに）いや～、じつはまだ〝つわり〟がないんですよ。

――え？　ジャガーさんが痛みに強いだけで、本当は痛いんじゃないですか？

ジャガー　いやいや、〝つわり〟は気持ち悪いもんですから。

――あ、〝つわり〟は痛くない？

ジャガー　知らないの？　〝つわり〟はね、気持ち悪いんですよ……きっと。

――きっと（笑）。〝つわり〟がないなら木下さんが支えてあげることもできない？

木下　いや、だから日常生活はぜんぜん変わってないんですよね（笑）。

掟　ところで、木下さんは生まれたお子さんの名前をマーガレットにしたいとか。『木下マーガレット』というとなんか〝窓辺のマーガレット〟こと桂三枝みたいですけど……。

木下　漢字では『木春菊』って書くんですよ～。

ジャガー　でも『木下木春菊』って、木が続くからへんなんだよね。それに万が一ブスだったらさ、「マーガレット」って名前は辛いよ～。

木下　（すかさず）そのときは整形するもんね！

掟　ウハハハハ！　生まれた子どもの顔面にいきなりメス入れ宣言ですか！（笑）。

ジャガー　この人、整形はなんとも思ってないんです。お化粧と同じ感覚で。医者だからか、そのへんは飛んでるなぁと思います。

掟　ちなみにジャガーさんはどんな名前がいいんですか？

ジャガー　アタシは『心』という言葉を入れたいんですよ。こないだベランダで月を見ながら、男なら『広心（こうしん）』とか『大心（だいしん）』もいいかなって。女だったら『心（ここ）』って読ませるのもいいかと思ったけど、キムタクの子どもが『心美（ここみ）』って聞いて、ちょっとカブるかなと。

掟　じゃあ、心に一と書いて『心一（ここいち）』はどうですか？

ジャガー　それじゃ、ラーメン屋みたいじゃない!!

掟　カレー屋です。男の子か女の子かはまだわからないんですよね？　どっちなのか先に知りたいですか？

ジャガー　絶対に知りたいですもん！　旦那には教えるつもりないけどね～（笑）

掟　べつに内緒にしなくても（笑）。

木下　ちょっとおかしいよ～、それは！

ジャガー　出てくるまで、待ちな！

（後編につづく！）



じゃがーよこた■1961年東京都荒川区出身。日本を代表する、現役最古参女子レスラー選手。159cmと小柄ながら、鬼気迫るファイトで活躍。04年7月、医師の木下博勝氏と結婚。この5月には妊娠が発覚。
きのしたひろかつ■元リングドクターのエリート外科医。ジャガー横田と結婚後は、ジャガーと好対照の気弱な旦那キャラが受けて、お茶の間の人気者に

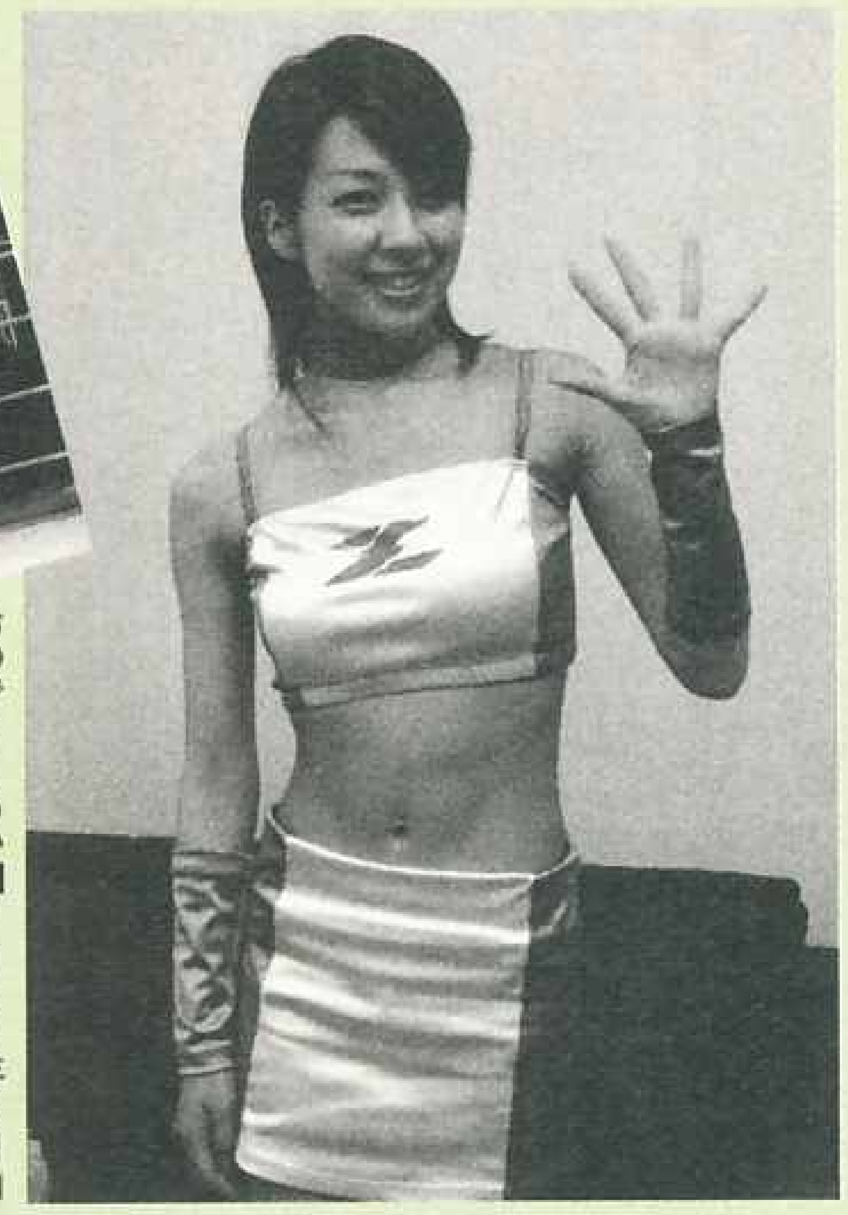


5月15日に会見し、「この3月に妊娠した」ことを発表したジャガー夫妻。子宮筋しゅの発覚、摘出手術、体外受精失敗が続いたが、2度目の体外受精が成功、44歳で奇跡的に普通妊娠！　さすがはジャガー！

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）ロマンポルシェ。フジテレビ系毎週土曜23時～放送の『くるくるドカン』に準レギュラーっぽく出演中。東海道五十三次を徒歩移動&その間にある川は全部泳いで渡るという無駄にガチンコな企画をやらされゲンナリする毎日。その他のイベント出演情報などは掟ブログを各自チェック！
【http://blog.excite.co.jp/porsche】

新連載!!

ZST News MONTHLY
小さな団体の小さな連載





おのでら・あい■1984年8月31日、神奈川県生まれ。サイズ：T・156cm、B・83cm、W・60cm、H・82cm。血液型A型。特技：ネイルアート、料理。趣味 小物メイク。

“ZSTの女神”さよならインタビュー
小野寺愛

今月からスタートする、小さな団体の小さな新連載「MONTHLY ZST NEWS」。第1回目のゲストは、5・27『GT-F』を最後に惜しまれつつZSTガールを卒業した、小野寺愛ちゃんを卒業直後にキャッチ！ “リアル・エース”最後のメッセージをお届けします!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄

卒業してもずっと変わらず大好きなZSTを応援し続けます

——長いあいだ、お疲れさまでした！

愛　ありがとうございました。

——最後のZSTガールを終えた、いまの気持ちは？

愛　ホントにたくさんの人に応援していただいてて、改めてホントに感謝の気持ちでいっぱいです。

——これが最後という実感はありますか？

愛　そんなにまだないですけど、モニターでいままでのVTR映像が流れたときに、「あぁ、最後なんだなぁ」って、泣けてきましたね。

——ラウンドガールが引退式を行なって、しかも特別な映像まで流れるっていうのは、ZST以外ありえないことですよね（笑）。

愛　そうですね。本当にありがたいです。

——今回でZSTガール卒業、そして芸能界もお休みする形になるわけですよね。

愛　はい、ちょびっと。

——どういった決心で卒業しようと思ったんですか？

愛　え〜と、そろそろ時期かなぁと（笑）。いちおうちょっと自分で勉強したかったこと、やりたかったことを少し時間をとってやってみようかなという思いがあったので。まぁ、すぐ戻ってくるかもわかりませんが（笑）、そういう形を取らせていただきました。

——ZSTガールも立派な後輩が育ってきましたしね。

早紀　後がまです（笑）。

——これからは早紀ちゃんは一人ZSTガールになってしまうんですか？

早紀　たぶん、もう一人増えると思うんですけど、次の大会が8月なので、3カ月後に愛ちゃんが戻ってきてくれることを願ってます（笑）。

——また早い復帰ですね（笑）。

愛　こんな派手に卒業したのに（笑）。

——愛ちゃんが卒業するというのは、早紀ちゃんからするとどうですか？

早紀　メッチャさみしいですね。最初、ラウンドガール始めて、一緒にやっていたのが愛ちゃんで、ずっと愛ちゃんと一緒にやってきたから、愛ちゃんがいなくなるとどんな感じになるんだろうなって。まったく見えないです。ずっと目の前に愛ちゃんがいて、愛ちゃんが助けてくれたから、「これから一人でやらなきゃいけないんだ」って。

——これからZSTガールのリーダーとして、“新・ZSTのリアルエース”にならなきゃいけないわけですからね（笑）。

早紀　年上の人が早く入ってほしい〜（笑）。

愛　そればっかり言ってるんですよ。年下は嫌って（笑）。

早紀　あと「タメも嫌だ！」って（笑）。

——二年半を振り返ってみて、いま一番印象に残ってることってなんですか？

愛　なんだろう〜。でも、一番印象深いのは、初めてZSTガールになった大会はよく覚えてますね。初めて近くで格闘技を観て、いろいろ驚かされました。

——ZSTファイターは愛ちゃんから見てどんな人たちですか？

愛　みんな裏表がない感じで、人としても凄く素敵だと思います。

——愛ちゃんの場合はZSTの小さなイベントにも足を運んでましたよね。

愛　やっぱりZSTを盛り上げていこうという気持ちが強くなって、自然に仲間を応援したくてやってましたね。

——では、小野寺愛にとってZSTとはなんでしたか？

愛　仕事ですけど仕事じゃない、プライベートな感情が凄く入った安心できる場所ですね。ホントに帰る場所というか、仕事していく上で凄く必要な場所でした。

——ZSTガールとしては今回で終わりになってしまったわけですけど、これからいちファンとして、ひょっこり会場に来たりすることはありそうですか？

愛　それは普通にあると思います（笑）。ZSTの選手がほかのイベントに出るときも行けるときは応援に行きたいですね。

——最後にファンにひと言お願いします。

愛　ホントにいままで長いあいだ、応援ありがとうございました。これからも、皆さんに「頑張ってください」と言われたので、これからどんな道に行ったとしても、どれくらいもらったかわからないくらいの「頑張ってください」の言葉に応えられるように、頑張っていきたいと思います。

——“後がま”の早紀ちゃんにもひと言あれば（笑）。

早紀　コツがあったら教えてください（笑）。

愛　自然体で自分らしくやれば、自分にとっても、見てる人にとってもいいと思います……こんな感じでどうでしょう？

——まぁ、そんな感じですかね（笑）。

愛　アハハハハ。

——では、これから新たな道で頑張ってほしいと同時に、再びお会いできる日を楽しみにしてます！

【06年5月27日／ディファ有明にて収録】



とても仲がいい愛ちゃんと、その“後がま”である吉田早紀ちゃん（左）。愛ちゃんが卒業しても「業界随一のラウンドガール」の座は揺るぎないのだ。

所英男2連覇ならず！
バレット・ヨシダがGF-T優勝!!



第1回大会で所英男が優勝し、飛躍のきっかけをつかんだZSTグラップリングトーナメント『GT-F』が5・27ディファ有明で2年ぶりに開催。柔術世界王者フーベンス・シャーレス、アブダビ準優勝2回を誇るバレット・ヨシダなど前回以上のメンバーが集まる中、2連覇が期待された所だったが、準決勝の盟友・勝村周一朗戦で一本負け。『HERO'S』一回戦負けからの再起はならなかった。なお、優勝は決勝で勝村を下したバレット・ヨシダ。このバレットと、準決勝敗退となったものの強さをみせつけたフーベンスは今後もZST継続参戦が決定。下半期のZSTマットはこの二人に注目だ。



“世界の”所英男が
あなたの質問に答えます！

次号より、このコーナーでファンの質問に“世界の所さん”本人が答えるミニ連載がスタート！ 素朴な質問、人生相談、クイズ、なんでもいいから、所さんに聞いてみたいことがある人は下記まで、お便り&メールお待ちしてます。

〒151-0051
渋谷区千駄ヶ谷5-15-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「所さんに質問」係
E-mail ▸▸▸▸▸▸ radical@kamipro.com



100号記念スペシャルインタビュー

やっちゃっていいんだね？

永田裕志

YUJI NAGATA

BLUE JUSTICE

俺がkamiproと新日本プロレスの架け橋になる!!

9年ぶりに
新日本プロレス
取材再開!
そして
"ミスター
IWGP"が
待望の本誌
初登場!!

キラー永田、kamipro初降臨!! 長らく取材拒否状態にあった本誌と新日本プロレスが、このたび電撃和解！　通巻100号となる今回より、９年ぶりに取材を再開することとなった。それを受けて、我らがブルージャスティス永田裕志が待望の本誌初登場！　王者の哲学から禁断のヒョードル戦舞台裏まで、「言っちゃっていいんだね？」とばかりに語り尽くした！ 白目をむき出しにしながら読め!!

聞き手／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
design by さおとめの事務所



"あの"イノキ・ボンバイエ2003 ヒョードル戦、禁断の舞台裏をついに語った!!

――『kamipro』が新日本プロレスさんを取材させていただくのはじつに9年ぶりなんですよ。

永田　そうなんですか。10年ぐらい前に、初期の『紙のプロレス』ですかね、よく道場に送られてきてたのを拝見してましたけど。その頃からいらっしゃったんですか？

――いえ、僕はまだ6年目なんですけど。9年ぶりの取材再開ということで、今回は永田さんに『kamipro』と新日本プロレスさんの架け橋になっていただこうと（笑）。

永田　僕が架け橋ですか？

――はい。最近、ウチの雑誌は格闘技ファンの読者が増えてるんですけど、プロレスファンだけでなく、そういった人たちのあいだでもちょくちょく永田さんは話題になってますからね。

永田　またよからぬ話題なんでしょうね（笑）。

――いやいや、よくも悪くも（笑）。

永田　まあ、格闘技ファンの言ってることはなんとなく読めますよ（笑）。わかりました。私が架け橋になりましょう！

――よろしくお願いします！（笑）。今回は永田裕志を再評価しようじゃないか、という企画でもありますから。

永田　いままで叩いてたのに？

――なにをおっしゃいますやら（笑）。

永田　叩かれてたっていうか、イジられてたんだよな。

――いつも楽しませていただいてますよ（笑）。この前の『週プロ』（※ちょい悪オヤジファッションに身を

包んだ永田さんのインタビュー掲載）も素晴らしかったですね。ちょい悪ユウジ（笑）。

永田　まあ、開き直れる年代になってきたってことですね。ただ、逆にIWGPのチャンピオン時代っていうのは日頃の振る舞いですとか服装に関して各方面からお叱りを受けてたんですけどね（笑）。

――叱られてましたか（笑）。

永田　一度、『東スポ』の取材ででですね、温泉に行ったんですよ、ちょうど九州シリーズで。博多の温泉に行きまして、風呂場で闘魂のハチマキを巻いて、股間に桶を当てて、初防衛戦に向けて気勢を上げるっていうのをやったんですけど、その姿はかなり周りの方からお叱りを受けたんですよ。

――IWGP王者の品位、イメージの保守を怠ったと（笑）。

永田　やっぱりチャンピオンっていうのは、ある意味看板ですから、そういう意味ではちょっとチャンピオンらしくしないといけないな、という気持ちにもなりましたね。

――それは服装も変えたりとか、そういうのもあったんですか？

永田　ありましたね。やっぱり一流は一流どころで食事して、一流のものを着なきゃいけないっていう。だから後楽園ホールには最低襟付きのシャツを着て、ジャケットを着て会場入りして。昔でしたらジーパン、Tシャツ、ウエストポーチが当たり前だったんですけど。

――ウエストポーチ！　それは新日本プロレスのあの世代のトレードマークですよね（笑）。

永田　僕らが若手の頃ってウエストポーチが流行ってたんですよ。当時はTシャツとかポロシャツをズボンの中に入れてた時代ですからね。

――パステルカラーのポロシャツをズボンにインですよね（笑）。

永田　それがカッコよかったんですよ。それがカッコよくないっていう時代になっても、まだそういう格好してましたけど（笑）。でも、30歳前後になってからは服装も考えて、ウエストポーチから、セカンドバッグに変わりましたから。

――そしていまや、ちょい悪オヤジに目覚めた、と（笑）。



表情豊かにインタビューに答える永田さん。この笑顔がファンのハートをつかんで離さない。

永田　「まだ顔じゃない」ってさんざん言われましたけどね。

――ちょい悪には、ちょい早すぎた（笑）。で、王者として振る舞いにも気を配る永田さんですけど、プロレスのうまさに定評があり、アマレスでの強さのバックボーンもあって、本来なら強くてうまいプロレスラーの理想像のように言われてもいいはずだと思うんですけど、そこまでの評価は正直ありませんよね。このあたり、ご自身ではどのようにお考えですか？

永田　それは新日本プロレスの風潮じゃないですか。レスラーが評価されるのって、うまさより、アクの強い部分だったりしますからね。とくに新日本の歴代のトップは個性が強い人ばっかりで。でもね、僕からするとそういう個性が際立つ人たちを支えてくれてるのはうまい選手なんですよ。

――そこをわかってくれ、と。

永田　だから長州vs藤波の名勝負数え歌にしても、藤波vs剛竜馬にしても、やっぱり藤波さんのうまさっていうのは並じゃないですからね。だけど、藤波さんが天下を取ったかと言ったら、そうとも言えないじゃないですか。

――「俺が天下を取る」っていう本は出しましたけど、結局実現しなかったというか（笑）。

永田　僕も「天下を取り損ねた男」なんて言われましたけど（笑）、新日本プロレスって昔からそうなんですよ。アクの強い人のほうが上に立つというね。

「一流は一流のものを身につける」ということで、ウエストポーチからセカンドバッグに変えましたね

――やっぱり新日本って「俺が俺が」という選手が多くて、対戦相手を光らせるような選手は損な役回りになりがちですよね。

永田　逆にその「俺が俺が」っていう部分を競わせることで、ある意味隆盛を築いてきたところがあったと思うんで、それが悪いとは言えませんけどね。僕はWCWでアメリカ武者修行をしたんですけど、そういった競い合う部分っていうのは一緒なんですよ。一緒というかもっとシビアですね。

――新日本以上ですか。

永田　WCWは多いときで契約選手180人いましたからね。その中で毎週月曜日のテレビ放送『マンデー・ナイトロ』に出れるのって、わずか30人。ヘタすりゃ20人ってときもあるんですよ。だから、その枠に食い込む競争はハンパじゃないし、出ちゃえば勝ちなんですよ。

――そんな中で永田さんはけっこう、『ナイトロ』に出演してたんですよね？

永田　僕の場合、マネージャーのサニー・オノオと組んだのが幸運だったという部分もあるんですけどね。サニーさんって当時の副社長エリック・ビショフと親友で、わりと意見が通りやすい場所にいたんですよ。だからサニーさんと組んですぐに『マンデー・ナイトロ』に出られるようになって、街中でジョギングしてると、工事現場で働いてるおじさんとかが指差すんですよ。「アー・ユー・ユージ・ナガタ？」って。プライムタイムの恐ろしさというか凄さを知ったのもそのときでしたね。

――テレビの力というのは日本も同じだと思うんですけど、いま新日本は時間帯がなかなか厳しいですよね。

永田　深夜ですからね。ただ、僕らが上がってきた頃は定期の放送は深夜でしたけど、ドーム大会の特番とかで、けっこうゴールデンで放送してくれたりしたんですよ。だいたいメインイベントとかでゴタゴタがあって、あんまり評判が良くないことが多かったですけど（笑）。

――数年前までは、ドームになると最後は猪木さんが出てきちゃうような試合が多かったですもんね（笑）。

永田　でも、僕自身は番組中盤のいい時間帯で、まともないい試合をしてフルに流してもらったりしたんで、そういう意味では、いまの棚橋君たちよりはいい思いもできたんでしょうね。ただ、ゴールデンのメインでハチャメチャな試合をやりすぎたがために、悪いイメージが浸透しちゃって、結局いまこういうことになりましたけどね（笑）。

――ガハハハハ！　その積み重ねが。その一方で、永田さんといえば、大晦日のミルコ戦、ヒョードル戦でのイメージが強すぎるのも、ゴールデン放送の怖さだと思うんですけど。

永田　2回やってますからね。

――あれはどういった経緯で出るこ



やる前まではミルコには絶対に勝てると思ってましたから

とになったんですか？

永田　1回目のほうは言えるけど、2回目のことしゃべったら、いま問題になるんじゃないですか？

——ダハハハ！　そんなにヤバいんですか？（笑）。

永田　そんなこともないけど（笑）。

——では、まずは1回目のほうを。

永田　1回目をやる前までは、僕が総合格闘技に参戦することは絶対ないと思ってたんですよ。

——興味がなかったんですか。

永田　興味がなかったというか、当時は偉大な先輩である武藤（敬司）さんを目標にしていて、プロレスでトップに立ちたいという気持ちだけでしたから。その中で、２００１年の『G1クライマックス』で初めて武藤さんに勝って優勝できたんですけど、やっぱり決勝戦なんかでは自分より武藤さんの素晴らしさが際立つような部分があって。試合に勝つには勝ったけど、本当の意味でこの人に勝つにはどうしたらいいんだって考えてたんですよ。

——優勝はしても、まだ武藤敬司を超えたことにはならなかった、と。

永田　で、武藤さんを抜くためには、同じことをやってちゃダメだと。武藤さんが絶対にできないことってなんだろうって考えたときに、〝そっちの世界〟だなと思って。

——武藤さんは常々、「プロレス道を極めるためには、ガチンコなんてやってる暇ねぇよ」って言ってますもんね。

永田　でも、じつはその武藤さんですら、ちょっと思いかけた時期があったんですよ。

——武藤さんが総合格闘技参戦をですか⁉　オタービオ戦とか？

永田　いや、WCWから帰ってきて、２００１年の年頭ぐらいですよ。「小川直也と総合格闘技ルールでやってもいい」みたいなことを口走って、会社が止めたらしいですけどね。

——へぇ～、そうだったんですか！

永田　それぐらい武藤さんは日本に帰ってきてから自分の居場所を探すのに必死だったんですよ。それが当時の永島（勝司）さんのラインで全日本の救世主になって、武藤さんは居場所を見つけちゃって。だからそういう試合は流れたんですけど、あの武藤さんでさえ一時的にはそういうこと考えてたんですよ。

——それは知りませんでしたね。

永田　そういうこともあって、武藤さんができなくて僕ができることっていったらこれかなって思ったんですね。そして「やろう」という思いを大きくするきっかけになったのが、藤田君とミルコの試合なんですよ。

——あれも同じ時期でしたっけ。

永田　僕がG1で優勝した直後に、藤田君がミルコのヒザ蹴り食って大流血したんですよ。そういうきっかけがあって、自分の中にやりたい気持ちが芽生えて。そのあと11月に木戸修さんの引退試合が横浜であったとき、猪木さんに突然そういう話を振られたんですよ。「お前、（『猪木祭り』に）出たいだろ」って。

——急に「出たいだろ」って（笑）。

永田　「俺はなんでも知ってる」みたいなこと言われて。

——ガハハハハ！

永田　そのとき「じつはそういう気持ちはあります」って言ったら「じゃあその気持ちを大切にしろ」って言われたんですね。それからですね、どうせやるんだったら、旬な時期にやろうって思って、11月の終わりぐらいに正式にやろうと決めましたね。

——じゃあ無理矢理やらされたとか、そういうことじゃないんですね。

永田　そうではないですよ。やっぱり揺れてる気持ちがあって、後押しは受けましたけど、最終的には自分で決めましたから。それはヒョードルのときもそうです。最終的に決断を下したのは僕です。無理矢理やらされたわけじゃない（笑）。猪木会長はホントは小川選手とやらせたかったみたいですけど、なかなかそれは難しかったみたいで。

——小川さんはどんなにお金を積まれても、首を縦に振らなかったらしいですからね。

永田　俺にも積んでくれたらよかったのに（笑）。

——もうちょっとゴネたらよかったかもしれないですね（笑）。

永田　いや、俺がゴネたら「じゃあいい」って言われてなくなっちゃいますよ（笑）。でも、そこから一週間で仕上げなきゃいけなかったんで、忙しかったですよ、あの頃は。シリーズ中にミルコ戦に備えての練習やって、試合やって。で、シリーズ終わってすぐロスに行って。そこでいい練習できたんですけどね。

——じゃあ永田さん自身は、短い期間ながら充実した練習を積んで当日を迎えられたわけですね。

永田　はい。いよいよかって感じで気持ちも盛り上がってきましたしね。だからゴングが鳴ったあとも、最初から積極的にどんどん組み付いていったんですよ。

——胴タックルを仕掛けていきましたよね。

永田　距離を取って、ちょっと差し込めるかなと思ったらスッと横に行かれたんですね。そこで次はどのタイミングで狙おうかと思ったとき、一瞬だけわけわかんなくなって。気がついたら立ってるのに試合が終わってたんですよ。ホントわずか何秒で。終わってハッと気づいて「え、なんで？」とかレフェリーの島田さんに聞いたと思うんですけど。

——じゃあ、左ハイキックの記憶はないんですね。

永田　痛みも何も感じなかったんで、なぜ自分が負けなのかすらわか

YUJI NAGATA

らなくて。だって俺、試合前までは絶対に勝つもんだと思ってましたからね（笑）。

――絶対の自信がありましたか（笑）。

永田　けっこうコン詰めて練習やってたんで、自信にもなったし。まあ、相手はそれ以上だったということでね（笑）。その後のミルコ選手の躍進を見れば、そうだったんだなって。

――あそこから、ミルコはさらに巨大化していきましたからね。

永田　ゴールデンでプロレスラーやっつけてね。「プロレスは終わった」って書かれましたからね。

――あの結果に対する反響は、ご自身が考えていた以上でした？

永田　どうですかね。あの直後に1・4東京ドームがあったんですけど、プロレスファンは温かかったですね。むしろ時間が経ってからそういう反響は聞きました。IWGPのチャンピオンになって防衛していくうちに、そのへんのことをほじくり返されるようになって。

――「ミルコに20秒で負けたヤツがチャンピオン」みたいな感じで。

永田　だから、チャンピオンとしての僕に対する要求はかなり高かったですね。

――あのあと、もう一回やってやろうとは思わなかったんですか？

永田　そういう気持ちにまたなるだろうとは思ってましたけど、焦ってはいなかったです。チャンピオンになって自分の勝手な気持ちだけで動けなくもなりましたし。

――それで2回目は、その2年後の大晦日だったわけですけど。

永田　ちょうどその前ぐらいから、「永田はミルコともう一回やらないのか」って話が急に上がってきて、そういうところを突いて誌面とかで言ってくる輩が出てきたんですよ。

――ああ、第1回の『PRIDE武士道』前にそんなことがありましたね（笑）。

永田　それが癪に触って、逆にヘソ曲げてたんですよ。「なんでてめえに言われてやらなきゃいけねえんだよ」って。人に言われてやるもんじゃないですからね。ただ12月の10日すぎぐらいになって急に「ヒョードルとやってほしい」って話が来たんですよ。

――『PRIDE』からの〝挑発〟を無視したあとに、『イノキ・ボンバイエ』からオファーが来た、と。

永田　12月シリーズ最終戦の2～3日前ぐらいですね。そのときに二つ思ったんですよ。一つは、イベントってもっと早く決めるはずなのに、こんなギリギリになって言ってくるとは、ちょっとバカにしてるな、と。誰もいなくて俺に来たのかなって。

――最初から出てほしかったら一番最初に言いますよね。

永田　だから俺が駒のように使われてるっていうことに凄い腹立って。それとは別に、ミルコより凄いヤツとだったらアリかなと思いましたね。ヒョードルって『PRIDE』のチャンピオンですよね。じゃあ、やってみるのもいいかって気持ちも芽生えたんですよ。ただもう12月すぎてるし、シリーズでけっこうボロボロだったんですけど、二つの気持ちがいろいろ葛藤したら、逆に気持ち的にパワーが出てきたんですよ。

――考えてるうちに、燃えてきちゃいましたか。

永田　で、シリーズ後に正式に猪木事務所の方と会って。そのとき言ったんですよ、「なんでこの時期なんですか？　誰もやる人がいないからじゃないんですか？」って。そしたら「日テレサイドはずっと永田を出したかったけど、正月のドームも控えてるし、それは我々がストップしてた。ただどうしてもって声があったんで、改めてオファーした」って。そういうことも含めて話をして、「ちょっと考えさせてくれ」って言ったんですよ。そしたらですね、12月15日だったかな『日刊スポーツ』の1面に「イノキ・ボンバイエ消滅」って出てたんですよ。

――出ましたね（笑）。ミルコが出れなくなって。

永田　そうそう。それでまず一回断りの電話を入れたんですよ。「この話はなかったことにしてくれ。イベント自体がなくなるって今日のニッカン見たら出てた」と。「いや、そんなことはない」「じゃあ、ちゃんとした状況でまた改めて話をしてくれ」って言ったんですね。それで猪木事務所の人たちがモンゴルから帰ってきたときに、再度オファーがあって。「絶対、何も問題なくできるから、やってくれないか」って言われて。で、ちょっと考えて1時間後に「やります」と。「じゃあ明日、記者会見に来て。赤坂プリンス」って言われてですね、翌日、赤坂プリンスホテルに向かったら到着直前に「会見ができなくなったから、戻ってくれ」って。

ギャラも出ないのにヒョードルと闘って
俺こそ「馬鹿になれ」を体現した男ですよ！

――会見ができなくなった（笑）。

永田　それで新日本の当時の事務所に行って「どういうこと？　どうも怪しい」って言ったんですよ。

――どう考えても怪しいですよね（笑）。

永田　「バカにしてねえか？『トラブルは起こらないから』って言ってたからOKしたのに、そりゃないだろ。だったら俺はやらねぇよ」ってことで、その日はたまたま年末の特番で『朝まで大宴会』っていう収録がテレビ朝日でありまして、それに出演したんですよ。

――大宴会に出ちゃいましたか（笑）。

永田　僕はその時点でもう総合格闘技は出るつもりなくなってたんで、大酒飲んでカラオケ歌って楽しくやってたんですよ。それで深夜12時半ぐらいに収録が終わったんですけど、ウチの宣伝部の人間が「いますぐホテルオークラに来てください」って言うんですよ。

――大宴会のあとに（笑）。

永田　それでオークラに行ったら猪木会長と上井執行役員がいたんですけど、僕はもういい加減にしてほしかったんですよ。

――もう酔っぱらってますしね（笑）。

永田　そのとき、猪木さんに「ヒョードルは『PRIDE』の選手だから、やっぱり出られない。その代わりノゲイラはどうだ？」って言われたんですよ。

――ノゲイラも『PRIDE』の選手なんですけどね（笑）。

永田　だから結局出られなかったんですけど（笑）、そのときは、また余計なこと考えたんですよ。「ノゲイラってこないだミルコに勝ったよな」って。

――たしかにミルコに一本勝ちして暫定王者になったばかりでしたよね。

永田　それが頭をよぎって、どっちかっていったらヒョードルよりノゲイラのほうが旬かなとか、また余計なこと考えちゃって。で、猪木さんに「いま結論出せ」って言われて。「え、いまですか？」。「こっちも時間ねえんだよ」。「そりゃそっちの都合だろ」って思ったんですけど（笑）。

――ムチャクチャですね（笑）。

永田　こっちは酒飲んでるし、酔ってるんで、いますぐ結論と言われてもなぁって、しぶってたんですよ。そしたら「頼む！」って頭下げられたんですよ。猪木さんに頭下げられちゃうと、やっぱりね……。

――そこまでされたら、断れませんよね。

永田　あの天下のアントニオ猪木が自分に頭を下げてるわけですから。それで立ち上がって「やらせていただきます」って言ったんですよ。そしたら猪木さんも立ち上がって「よし！」って張り手をバーンッ！（笑）。

——ガハハハハ！　いきなり闘魂ビンタ（笑）。それは素晴らしい名シーンですね！

永田　傍らで見てた上井さんが「カッコいい〜〜〜！」って涙ぐんでましたから（笑）。

——それは感激屋の上井さんならシビれまくりでしょう（笑）。

永田　そのあとに日本テレビの番組プロデューサーと、いま世間をお騒がせしている川又誠矢社長と名刺交換をしまして。「明日会見やるから。詳しいことは電話する」って言われて、やっとこれで落ち着いたと思って帰ったんですよ。で、当時『ゴング』の編集長の金沢さんから電話が来て「ノゲイラに決まった」って言って。

——ああ、「スクープ、永田vsノゲイラ戦決定」って当時の『ゴング』に載ってましたね。

永田　そのスクープは結果的に誤報になっちゃったんですけど（笑）。で、次の日待てど暮らせど連絡がなくて、「永田出場」だけ発表されて相手が出てないから「おかしいな」と思ったんですよ。そしてクリスマスイブに日テレの番組に出る予定だったんですけど、「その前にちょっとオークラに来てくれ」って呼ばれて、なんか様子がおかしいんですよ。猪木事務所の倍賞社長と川又社長がやたら僕を持ち上げて。



あの強いヒョードル、ミルコの二人と闘った日本人って俺と藤田だけじゃない その現実をどう思うかってことですよ!

——それは怪しいですね（笑）。

永田　そしたら川又社長が「私はプロモーターとして永田選手にミルコよりも凄い選手に勝ってほしい」って言うんですよ。それがノゲイラじゃないのかと思ったら、「マイケル・マクドナルドと闘ってほしい」って。

——ガハハハハ！　今度はマイケル・マクドナルド！（笑）。

永田　昔、K—1時代のミルコに勝ったことがあって「だからミルコより上だ」って言うんですよ。

——もはや屁理屈ですね（笑）。

永田　僕はその選手がどうこうより、また変更することに疑心暗鬼になったんですよ。高阪さんのジムでジョシュに付き合ってもらって、ノゲイラ戦用の練習もしてましたしね。だから「ノゲイラだったら出るけど、そうじゃなかったら出ない」って言って。

——でも、結局ノゲイラも出られるわけもなく。

永田　そしたら27〜28日に「もう一度ヒョードルを引っ張り出すからやってほしい」って。なぜかと言うと、その試合が実現できなかったら、大会自体がなくなるってところまで来ちゃったんですよ。

——最初に予定されてた高山vsミルコに準ずるカードが実現できないなら中止という話だったんですよね。

永田　だから「とにかくヒョードルをどんなことをしてでも引っ張り出さなきゃいけない」ってことで相当無理したらしいですね。僕も『イノキ』という名前のついたイベントをなくしてしまったら、僕が猪木さんの顔を潰してしまうみたいな気がして。もうしょうがねえやと思って。ヒョードルが試合できるようになるってわかったのが29日。

——ガハハハハ！　二日前（笑）。

永田　で、正式に発表できるようになったのが30日。試合前日ですよ？　もうヤケクソというか、世のため人のためですよ！

——ガハハハハ！　素晴らしい（笑）。

永田　世のため人のために、すべてこの身を捧げますっていうようなね。そんな状態でしたね。さすがにね、これはあとになってどうのこうの言ってもしょうがないけど、やっぱりその状態で腹から沸き上がるテンションっていうか、燃えるものっていうのはなかったですね……。

——あるわけないですよね（笑）。

永田　どんな逆境からでも力を出すのがプロレスラーなんだけど、残念ながら、いつ何時誰とでも闘うことは実践したけど、結果は残せませんでしたね。

——しょうがないですよ、それは（笑）。

永田　それによってですね、かなりレスラー永田としてはいろいろダメージもあったみたいですけど、悔しいって感情すらそんなに出てきませんでしたから。中傷記事というかそういうものを見ても、そんなに怒りも沸かず、確かに不様な試合でしたけど、あればっかりはしょうがないかなって感じでしたね。

——自分としては最善を尽くして、人にとやかく言われる筋合いはないって思いますよね。

永田　そうですね。いつ何時誰とでも闘ったんで。それ言ったら、これだけ格闘技業界盛り上がってる中で、あの強いミルコ、ヒョードルとやった日本人って俺と藤田だけじゃないですか。その現実をどう思うかってことですよ！

——総合格闘技デビュー戦がミルコ・クロコップ、第2戦がヒョードルですからね（笑）。

永田　プロレスラーだからできるんですよ。興行の看板にならなきゃできないんだから。それでお金ももらえないですしね。

——あっ、結局まだなんですか！

永田　まだですよ。川又社長も週刊誌でどうのこうの言う前にギャラを振り込んでほしいですね。

——そうですよね（笑）。

永田　こっちは世のため人のために、お金ももらえないのにヒョードルと闘って、これがホントの「馬鹿になれ、夢を持て」ですよ（笑）。

——ガハハハハ！『猪木祭り』を体現した男！

永田　ホント、馬鹿になりましたね。

——しかも、数年後にそのヒョードル戦を前田日明さんに揶揄されたりして（笑）。

永田　まぁ、確かにあの試合を観て「だらしない」と思われるのはしょうがないし、批判は甘んじて受けますけど、あの人は自分のドン・ナカヤ・ニールセン戦と俺のヒョードル戦を同じくくりで語ってるから、そりゃ違うだろ、と。あの頃、前田さんのこともそうですけど、それ以外でもいろいろストレス溜まってたんですよね。やる前から100パーセント失敗するとわかっていた伝説の『アルティメット・ロワイヤル』をやったあとでしたし。

——そんなのもありましたね（笑）。

永田　落ち込みましたよ、ホント。あれはやっちゃダメだって思いましたね。なんでああいう企画しかできないのか、なんでプロレスに自信が持てないのかって。ホントにやってて情けなかったです。そういうのもあり、前のハゲ社長の"踏み台発言"もありで、いろんなものを含めて頭にきてたんですよ。でも、しばらく我慢してたんですけど、天山が両国でひっくり返って、やっぱり何が起こるかわからない世界で、みんな身体張ってやってるわけじゃないですか。それなのに何にもしないあの人を、業界がまたへんに救世主みたいな感じで持ち上げたじゃないですか？



ながた・ゆうじ■1968年4月24日、千葉県東金市出身。アマレス全日本学生王者の肩書きを引っさげ92年、新日本プロレス入門。01年G1優勝、03年にはIWGP王座防衛記録を打ち立てるなど、押しも押されもせぬエースに君臨。ファンからも「永田さん」と敬称付きで呼ばれるほどの尊敬を集める。近年はチョコボール向井戦前に「殺っちゃっていいんだね？」という不穏な発言。さらに白目を剥いた鬼気迫るファイトで「鬼神」「キラー永田」と呼ばれるなど、白目が、いや目が離せない。愛称はゆうたん。183cm、108kg。

アルティメット・ロワイヤルは自分でやってて情けなかった！

——一部プロレスマスコミの中には「神」とまで称してたところがありましたからね。

永田　破壊はしても創造なんかしない人なのに。だからそれに関しては凄く腹立ちましたね。だってあれは、要は上井さんが新日本を出て、K—1と一緒に『WRESTLE—1』をやる話になってて、そういう上井さんのイベントをアテにした柴田と村上選手も新日本を出たわけですけど、それがなかなかうまくいかなくて、前田さんを使って俺に噛みついてきただけでしょ。

——結果的にはそういう感じでしたよね。

永田　「闘いがない」って言って新日本を出て行ったのに、あっという間に戻って来るのかっていうね。それで俺が逃げたとか言いやがって。だったらもうちょっとしっかりしろよ、と。とにかくあの頃は溜まってましたね、怒りが。

——まぁ、そのビッグマウス・ラウドとの抗争も向こうの都合で、突然終わってしまいましたけど、これからの新日本はどうなりそうですか？

永田　そうですね、今年になって改革というか、長年おられた社員の方が辞められて、新しいスタッフが入って。昔、新日本にいた方々がまた戻ってきてくれていろいろ協力してくれて、みんなが「なんとかしよう」という形で、好転しつつある状況にはありますんで。僕は政治的な部分を何も考えずプロレスに打ち込みたいし、ファンの人にホントにおもしろい試合、凄い試合っていうのをどんどん提供したいですね。だからここ2〜3年に比べりゃいまはいいですよ。

——ようやくリングに集中できるようになってきましたか。

永田　ええ、ちょっとずつ。だから僕ら選手は、いい試合を積み重ねていくだけですよ。やっぱりここ数年、いろんなことに嫌気が差して、新日本から離れていったファンの方も多いと思うし。サムライTVなんか見てると、よその団体のリングサイドに見たことがある顔がいるわけですよ（笑）。そういったファンの人たちの信頼を取り戻すためにも、しっかり試合に集中したいですね。

——わかりました。では最後に、永田さんはこの先、3回目の総合格闘技というのは頭にあるんですか？

永田　NOってことはないですね。でも3回目にそんな価値ないんじゃない？

——いやいや、いまでもファンに「PRIDE・GPに出てほしい選手」とかアンケートを取ると、必ず永田さんの名前が出てきますから。

永田　へ〜、僕の名前が。

——だから第1戦ミルコ、第2戦ヒョードルと来て、"3強"の残る最後の一人あたりとどうですか？

永田　ノゲイラですか？　そうですねぇ……あの3人と闘うというのは、藤田もやってないですからねぇ。

——ちょっと興味出てきましたか？

永田　まぁ、やる、やらないはわかりませんけど、一つ言えるのは、やるとしたらまともな運営ができるイベントでということですね（笑）。

——ダハハハハ！　少なくともギャラちゃんと出るイベントでということで（笑）。では、今後の活躍に期待してます！

【06年5月25日／新日本プロレス事務所にて収録】

あなたの町にも永田さんがやってくる！
新日本プロレス大会スケジュール

LOCK UP
6月25日（日）12:30PM　東京・新木場1stRING

WRESTLE LAND
6月30日（金）7:00PM　東京・新宿FACE

Circuit 2006 Turbulence〜乱気流〜
7月

1日（土）	6:00PM	埼玉・西武本川越ペペホール・アトラス
2日（日）	6:30PM	東京・後楽園ホール
5日（水）	6:30PM	茨城・水戸市民体育館
7日（金）	6:00PM	兵庫・明石市立産業交流センター
8日（土）	6:30PM	静岡・ツインメッセ静岡
9日（日）	4:00PM	岐阜・岐阜産業会館
11日（火）	6:30PM	青森・南部町民体育館
12日（水）	6:30PM	青森・野辺地町立体育館
14日（金）	6:30PM	北海道・苫小牧市総合体育館
15日（土）	6:00PM	北海道・釧路・鳥取ドーム
16日（日）	4:00PM	北海道・旭川地場産業振興センター
17日（月）	4:00PM	北海道・札幌・月寒グリーンドーム
19日（水）	6:30PM	秋田・大館市民体育館

橋本真也、もうすぐ一周忌記念特集

混乱のマット界、
いま、ボクらには
〝破壊王〟が足りない!!



イラスト／師岡とおる

語ろう!! 破壊王！

あれから1年。混乱がつづくマット界に、いまこそ破壊王のデタラメなエキスを注入したい！　今回は破壊王の一周忌を前に、橋本伝説の重要な証言者である天山と残された子どもたちに突撃インタビュー。さぁ、いまこそ語ろう!!　破壊王！

構成／真下義之
designed by matsu（TwoThree）



祝！『kamipro』初登場!!

多摩川の投網漁、
空気銃乱射事件、
スズメ料理、
矢ガモ犯人疑惑……

時は来た!!

破壊王イタズラ伝説の“重要参考人”&“最大の被害者”

天山広吉 登場!!

［新日本プロレス］

語ろう!! 破壊王! HIROYOSHI TENZAN

入門初日に、「死んだ猫埋めてやれ」って多摩川のほとりに埋めさせられて

聞き手／堀江ガンツ、真下義之
撮影／平工幸雄
designed by matsu（TwoThree）

――天山選手、はじめまして。今回は新日本プロレスの取材解禁にともなって、『kamipro』初登場です。よろしくお願いします！

天山　はい、どうぞよろしく!!（ニッコリ）。

――早速なんですが、今日はこの7月で一周忌を迎える、橋本真也さんのお話をうかがいたいんですよ。というのも昨年、弊社で橋本さんの本（『紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也』）を出したんですけど、大きな心残りがあったんです。

天山　（本を眺めながら）心残り、って？

――破天荒な破壊王伝説の〝重要参考人〟であり、〝最大の被害者〟でもある天山さんのインタビューが載ってないことなんですよ！

天山　ハハハハハ！　橋本さんのエピソードはいくらでもあるからね（笑）。

――とくに若手時代、付き人として橋本さんとの関係が濃かったと思うんですけど、最初にお会いしたときの話からうかがわせてください。

天山　最初はね、自分は高校を卒業して上京して、新日本プロレスの入門テストに受かったんだけど、そのとき橋本さんが「おお！　頑張れよ！」と声を掛けてくれたんだよね。ちょうど闘魂三銃士が最初の絶頂期を迎える頃で。ただ、そのとき自分もプロレスという未知の世界に飛び込んだんだけど……。

――天山さんは一度、練習生を辞めてるんですよね。

天山　そう。道場には入ったものの、自分の問題で逃げるようなかたちで辞めることになって。それも入って二日目の夜のことだったんだけど。

――えっ、たった二日だったんですか⁉

天山　（恥ずかしそうに）正味、二日間だったね（笑）。二日目の夜には「ここは自分の居場所じゃない」って思い込んでしまって。で、そのときにも道場に橋本さんがいらっしゃって。ま、橋本さんはたえず道場にいたんだけど（笑）。

――それはべつに毎日毎日、練習に明け暮れていたわけではなく……（笑）。

天山　うん。道場で遊ぶのが大好きな人だったから（笑）。

――本当に〝道場大好きっ子〟だったみたいですからね。



新日本取材再開を受けて、永田に続き天山も本誌初登場！　試合前の控室で「カルピスウォーター」を飲みながらきさくなトークが全開！

天山　そこで橋本さんに「今日限りで辞めます」と挨拶したんだよね。「短いあいだでしたけど」って。夜逃げ同然でいなくなる人もいたけど、僕は皆さんにきちんと挨拶したかったから。そこで橋本さんは「なんで辞めるんだ？　どこに行くんだ？　何がきついんだ？」って言葉を掛けてくれて最後は「どこの世界でも頑張れよ」と励ましてくれて。

――普通なら冷たい目で見るものなのに。

天山　そうそう。実際、冷たい態度の先輩もいたんだけど、橋本さんの言葉で救われた部分があったよね。そのあとに2ヵ月くらい経って、自分の中でプロレスをあきらめきれない気持ちが出てきた。「もう一回、プロレスをやれないかな」と思って。

――「どうしても辞めたかった」のに「どうしてもやりたくなった」と（笑）。

天山　そう（笑）。自分は新日本のプロレス学校出身で8ヵ月間くらい指導を受けてたから。そのつてで山本小鉄さんに「もう一回やらせてください」と頼みこんだら、「やってみろ」と了解をもらってね。

――ただ当時の新日本の道場で〝出戻り〟ってキツそうですよね。

天山　キツいよ〜。自分も「今度は絶対逃げられない」という覚悟があったけど、「また辞めるんだろ」って目で見られてたから。でも橋本さんに再会して「またお世話になります！」って言ったら「おお、来たかぁ！」って優しく迎えてくれてね。

――そんなに優しく。やっぱり破壊王はビッグハートですねぇ！

天山　その後の練習と生活は、地獄じゃないけど。道場の上下関係でもいろいろあったし。自分が辞めたあとに入った選手が先輩になるから、「一回、辞めてなければ、こんなに苦労しなかったのに……」って後悔したりしたけど。

――道場は有無も言わせぬ階級社会でしょうからね。

天山　それで橋本さんは「優しい先輩、かな？」って最初は思ってたんだけど。だんだん〝真実の姿〟が見えてきて（笑）。

――ダハハハ！　最初にその〝真実〟が見えたのはどのへんだったんですか？

天山　え〜と。ああっ！　……そうかぁ（と突然、頭を抱えて）。

――アレ、どうしました？

天山　じつは最初に入門したときに、ある事件があったんだよ。いま思い出したけど、それも橋本さんがらみなんだよね。

――そこでも事件の首謀者でしたか？（笑）。

天山　僕が入門した初日の夜だったんだけど、当時、橋本さんは空気銃で道場の周辺の野良猫とか野良犬を標的にバンバン撃ってたんだよね。

――噂はよく存じ上げております（笑）。

天山　そのとき野良猫に弾がガーン！と当たって、猫が弱っちゃって。それが橋本さんの愛車の下に入り込んじゃって、知らずに橋本さんがエンジンを吹かしたら、猫が死んじゃった。で、紙に「南無阿弥陀仏」って書いて、それを猫と一緒に空きダンボールに入れて「多摩川に行こう」って言われてね。もう雨も降ってきて……。

――いきなり凄まじい展開ですね（笑）。

天山　で「猫を埋めてやれ」って指示されて、もう一人の新人と自分で多摩川のほとりに埋めたんだけど。そこで「これは、常人の世界じゃないな」って。

――最初の思い出が「猫のお墓づくり」ですからね（笑）。

天山　そのインパクトは強烈だったね。思い起こせば、このときに「ここは俺の居場所じゃない。辞めよう」と思ったから。

――辞めたきっかけは橋本さんじゃないですか！（笑）。

天山　思い出してみたらそうなんだよ（笑）。本当にやんちゃな人だったから。自分が橋



ヤングライオン時代の天山と橋本を中心に、いま見ると4次元にワープしたような最狂メンバーが大集結した見事な一枚。三銃士に上井文彦、そしてミスター高橋!

本さんの正式な付き人になったのはデビューしてからだけど、橋本さんはずっと道場にいたから。自分や西村（修）さんは高卒で右も左もわからずに、橋本さんに捕まってしまって。小原（道由）さんもいたけど、あの人は要領よかったから。

―橋本さん専属の子分みたいになっていたと。

天山　ホントだよ！　どこに行くにも「広吉、いくぞ！」って声がかかるんだよ。心の中では「うわぁ〜、また来た！」って。こっちは練習疲れでクタクタなんだけど強引に連れていかれて。しかも若手があまりいない時期で、自分は途中から長州さんの付き人も同時にやってたから。

―えっ、長州さんと橋本さんの付き人を同時期にやられてた？

橋本さんが撃った スズメを7羽も 食べましたから

天山　そうそう。だから生きた心地がしなくてね。毎日、数えきれないくらい怒られたから。一日が長くて長くて……（と、ウンザリした様子で）。

―具体的にはどんなことで怒られるんですか？

天山　世間知らずで失敗ばかりだったからね。普通に小間使いで「アレ買ってこい」ってのを間違えたり。これは（獣神サンダー）ライガーさんのお使いだったんだけど『週刊文春』買ってきてくれ」って言われて、間違って〝瞬間接着剤〟買ってきちゃったんだよ（笑）。

―ガハハハハ！　それは凄いレベルの聞き間違いですよ！

天山　ライガーさんに「オチョクってんのか？」ってキレられて。「そんなことありません！」って謝ったんだけど。そんな失敗続きでどうしようもなく追い込まれた。入門のとき100キロあった体重が10キロやせたし、デビューしても体重が戻らないんだよね。

―その状況下では痩せても仕方ないですね。

天山　その太らない原因じゃないけど、一回、橋本さんが空気銃でスズメを撃って、それを煮て焼いてたことがあって。沸騰したお湯に入れて、毛をむしって。

―スズメ話は有名ですけど、そんなに手間がかかった料理方法でしたか（笑）。

天山　橋本さんが全部、自分でやるんだよね。で、醤油とかみりんで味つけして「うまいぞ、食え食え！」って。内心「えっ、アンタが食うんじゃないの？」って思ったんだけど（笑）。

―しかも、形状がモロに〝そのかたち〟なわけですよね。

天山　ええ。もう仕方ないから、食っちゃったけどね。……じつは意外とうまかったんだけど（笑）。

―ダハハハ！　破壊王の言うことは間違いじゃなかった！（笑）。

天山　そこで7羽も食わされたからね。

―7羽！　それ明らかに食べすぎですよ！（笑）。

天山　しかも1羽、噛んだら「ぐじゅっ」という音がする半生状態のがあって。で、その時期に自分があまりに痩せてるから、西村さんが「スズメを食ったとき、寄生虫が入ったんじゃないの？」って、目黒の寄生虫館を教えられたりね。

―寄生虫館に「自分は大丈夫でしょうか？」って問い合わせたんですよね（笑）。

語ろう!! 破壊王!
HIROYOSHI TENZAN

天山　いや、西村さんが電話してくれて「とにかく一度、来てください」って。自分は「まさか大丈夫だろう」と思って、それっきりになんだけど。

――あ、行ってはいないんですか。じゃあ、まだお腹にいるかもしれませんね（笑）。スズメもそうですけど、橋本さんのハンターとしての腕前は一流だったみたいですね。

天山　一度なんか道場のゲタ箱の前に立たされて、空き缶を頭の上に乗せられたんだよね。そしたら、向こうで空気銃構えてるから「ちょっと待ってください！　それはヤバイです！」って訴えたんだけど。でも橋本さんは「大丈夫や、心配すんな！」って。

――どう考えても、危険ですよね。

天山　仕方なくやらせたんだけど……命中したからねぇ（笑）。

――ガハハハ！　命中しましたか！

天山　缶の真ん中に穴が開いてたから。「凄えなぁ～」と思ったけど、万一を考えたらゾッとしたよね。あとは道場の外に出されて「10秒が数えるから、逃げろ！」って言われて、うしろで「イーチ、ニーイ、サーン……」ってカウントされて、ケツとか背中にガーン！　と撃たれてたり。

――でも橋本さんは道場にはそういうことをしたくて来てるわけですよね。

天山　「頼むから練習してくれ～」って思ってたよね。練習はチョロっとやって、道場でずーっと遊んで。いつも僕らが寝る前までいたから。

――そうやって、毎日、子どもみたいな遊びに付き合わされたわけですね。

天山　そうだね。巡業中も、散歩と称した「虫取り」に付き合わされたり。まぁ、橋本さんに何も言われないより、そうやってかまってもらえるのは嬉しかったんだけどね。アレはアレでいい思い出かなって。

――かなり人間離れした思い出ですけどね（笑）。橋本さんは、そういう遊びにも準備を怠らない人だったらしいですね。魚獲りのときは〝投網〟を用意したりして。

天山　投網！　やったねぇ～（なつかしそうに）。投網は多摩川の鮎を獲りにいったときかな。ちょうど大雨で台風のときだったんだけど。ライガーさんも一緒に行ってね。

――悪名高い、新日道場最凶コンビが一緒でしたか（笑）。



天山　橋本さんが、あの巨体で投網の道具を器用に作るんだよ。川に網を投げるのも「パーッ！」と漁師さんみたいにきれいに投げてね。橋本さんから「お前も投げてみろ！」って言われたけど「よくわからないからいいです」って断ったけど。「いいからやってみろ！」と言うから、仕方なく「ウワーッ！」と投げたら網がぐるぐるに絡まって、自分のせいで漁ができなくなっちゃって。そのときの橋本さんは、かなり固くなってたよね（笑）。

――ウハハハハ！　自分で命令しておきながら。

台風で大雨のとき、多摩川の鮎を“投網”持参で漁に行かされて

天山　あの日はマジだったよ。「何しに来たんだ、コラ！」って。投網に関してはシャレになんなかったみたいで（笑）。

――普段のミスは許せても投網のミスは許せない、と（笑）。あと夜中に大量のライトを持って、多摩川に行ったこともあるみたいですね。

天山　そうそう。夜中に「行くぞ～！」って言われて。頭にライトをつけさせられて。工事現場じゃないんだから（笑）。虫とかも凄い飛んでくるし。

――マシンガンみたいな空気銃で鯉とか鮎を撃ちに行ったらしいですね。天山さんがボンベ係で、西村さんがライト係だったとか。

天山　あ～、やったなぁ。しかし、そんなことなんで知ってるの？

――これは、かずみさんご本人からうかがってます（笑）。

天山　しかしアレは嫌だったなぁ……。もうあの時期の多摩川には鯉とかよく上がってたからね。

――物騒ですね～。しかし、橋本さんは武器関係には、本当にお金かけてたみたいですね。

天山　そうそう。空気銃もあったけど、ボウガンを買って、スズメとかもそうだし、あとはカモね。

――「矢ガモ事件の犯人は橋本真也」という説もありますよね（笑）。武藤（敬司）さんが「あれ絶対にブッチャーだ」って断言してましたよ！

天山　当時、凄い話題になってたから。自分も内心「これはヤバイんじゃないか？」って思ってたんだけど。

――身近に同じボウガン持っている人がいるわけですからね（笑）。

天山　そういうカモ見て、橋本さんから「ちょっと手当してやれ」って言われたりして。「自分でやってよ！」と思ってたけど。

――いやぁ、本当に生粋のハンターなんですね。

天山　一時は橋本さんが道場に来ただけで、犬も猫もいなくなってたから。ホントに一斉に逃げちゃって。

――昔は道場に山本小鉄さんの車が到着するだけで、練習生が震え上がっていたけど、その時期は橋本さんの車が来ると犬や猫が震えあがっていたと（笑）。あと橋本さんとライガーさんの〝かわいがり〟で新弟子が残らなかったって言いますよね。

天山　でも自分が入ったときくらいから、優しくなったみたいなんだよね。その前までかなり度を超えてたみたいで。長州さんも「いいかげんにしろ！」って注意したみたいで。

――その後は、あの二人もさすがにおとなしくなったと。

天山　だから、いくぶん甘くなっていたと思うんだけど。もちろん、ひどいこともあったけど。それ考えたら、入門する時期も重要なファクターかなって。

――武藤さんは「ブッチャーの下だったら絶対にもたなかった」って言ってましたからね。

天山　本当だよ！　入ったもん順だからね。それこそ一日、二日遅れただけで……。自分が辞めて戻ってくる一ヵ月半で、西村さんと小原さんが道場に入ったんだけど。とくに西村さんとプロレス学校で同期で仲が良かったんだよね。でも僕が道場に戻ったときに態度が豹変してて。凄い先輩面で「おう、山本！」みたいな。こっちは「なんだよ、西やん！」「山ちゃんって言ってたじゃん？」って（笑）。

――ダハハハ！

天山　西村さんは小原さんと仲良くなっち

やって二人で陰湿なイジメをされたしね。あとから西村さんとは仲が戻ったんだけど。

——それまで「小原の野郎、浜口さんのジムだから入れたくせに」とか一緒に悪口を言ってたくらいなのに（笑）。

天山　そうそう！「西やん、まじで？」って気持ちだったね。まぁ、橋本さんとかは明るいイタズラだったけど、小原さんとかは本当に陰湿な感じで。あの人が海外に出るまでは「ブっ殺してやろうか！」くらいは思ってた。でも、さんざんイジメられたあとにある時期から西村さんも僕の側に入ってくれて。それはそれで「いままでなんだったんだ、コノヤロー」と思ったんだけど。

——それはどの世代にもあるんでしょうねえ。藤原喜明さんも道場裏の木に「小鉄死ね～」って包丁で斬りつけてたらしいですから（笑）。

天山　ただ入門したときは「厳しくて当然」という思いもあったから。そういう先輩もいたんでやってこれた部分もあるし、まぁ感謝はしたくないけど（笑）。

——そう思わないと正当化できませんからね。ちなみに小原さんから受けた一番ひどかったイジメっていうのは？

天山　いまだから笑えるけど、まだ新日本の道場の一階の広間の小さいテレビで当時、流行っていたファミコンで野球ゲームを電話番やちゃんこ番しながら、みんなでやってたんだよね。自分が再入門したあと、すぐはできなかったんだけど、ちょっと慣れてたくらいの時期に、掃除とか用事がひととおり済んだから、西村さんと二人でやってたんだよ。「やろうよ、山ちゃん」って言われて。僕も嬉しくて「じゃ、お願いします～」ってやっていた。で、しばらく二人でゲームしてたら、いきなり「ガタタタタタ！」って階段の音がして誰か降りて来て。「うるせえなぁ」と思ってたら、いきなり後頭部に「ガーン！」って、思いきり飛び蹴りもらってね。

——ウハハハハハ！

天山　頭が「ガクーン！」とムチウチみたいになって、「何すんだ？」って振り返ったら、小原さんに「ゲームなんかやりやがってコラ！　お前なんか100年早いわ！」って言われて（笑）。

——ファミコンですら、100年早かったですか（笑）。

天山　「ゲームくらい、いいじゃない！」ってアタマきたけど謝るしかないからね。そんなふうにいちいち監視されて、ギャアギャア言われたんだけど、あとで誰かから「なんで小原さんがそこまで厳しく、自分に当たったか？」って真相を聞いたんだけど。じつは〝黒幕〟がいたんだよ……。

——何かイヤ～な予感がしますねえ（笑）。

天山　その黒幕が橋本さんだったんだよね。

——ガハハハハ！　やっぱり！

天山　「え～～っ！」って本当に驚いたよね。何年後かに聞いたんだけど。

——新日本の道場にそんな悪のコネクションがありましたか！（笑）

天山　橋本さんは小原さんには何もやらなかったから不思議だったんだけど。ある意味、小原さんと自分って生理的に合わない部分があったし、向こうもそう思ってたと思うんだけど。橋本さんから「ダメならダメでいいから、厳しくやれよ。甘い世界じゃないんだから」とか言われたみたいで。

——その指示を真に受けて、小原さんが異常に張りきってしまったと（笑）。

天山　練習で厳しくされるのはわかるんだけど、普段でも何から何まで命令されてね。だって「マッサージやれ！」とか言われるんだよ。

——ほとんど同期なのに、マッサージですか（笑）

天山　一ヵ月前に入ったやつになんでマッサージしなくちゃいけないんだ？　って。しかも毎日やらされたから。一回、ホテルで一時間くらいマッサージやらされてたんだよね。そのときドアが半開きになってて。たまたま木戸修さんが通りかかって「小原、いい身分だな～」って言われたから、小原さんがガバーッ！　と起き上がって「おい、やめろ！」って自分を押し退けるんだよ。

——ウハハハ！　自分でやらせたくせに。

天山　そういう裏のイジメを先輩は誰も把握してなかったから、逆に見てほしかったんだけど（笑）。

——それ考えたらエアガンで撃たれるくらいなんでもないですね。ところで付き人として、橋本さん一緒にタニマチとかの席に呼ばれたと思うんですけど。

天山　そうそう。いろんなタニマチの人がいたし、ちょうどバブルの頃だったから、羽振りいい人ばっかりで。道場でお茶出しただけで、小遣い10万円くれた人もいたから。

——お茶出ししただけで、10万円！

天山　「こりゃ、いいや」と思って何度もお茶出そうと思ったけど、くれたのは最初だけだったね（笑）。

小原さんの陰湿なイジメの裏に〝黒幕〟がいたんですよ。それは……



1年半に及ぶ欧州武者修行ならびにカルガリーでの肉体改造を終えた天山は凱旋帰国。95年、2月に橋本真也の保持するIWGPヘビー級王座に挑戦。垂直落下式DDTに敗れるも、大健闘。新日本の軸として期待される存在に。

語ろう!! 破壊王! HIROYOSHI TENZAN

―で、お酒の席とかではタニマチを楽しませるために例の「額に爪楊枝を刺す」お座敷芸をしたりしたわけですか？

天山　そうだね。きっかけは橋本さんじゃなくて、ライガーさんと船木（誠勝）さんなんですけど。藤原組の選手と新日本との飲み会の席で盛り上がって。最初は藤原組の臼田（勝美）さんがあの芸をやりはじめて、対抗してライガーさんから「お前もやれ！」って言われたのが最初かな。それが橋本さんにも伝わってね。飲み会とかで「アレやってみろ！」って。ひどいときは、20本くらい刺さってた。最後は刺すとこなくてコメカミに刺そうとしてたし。

―ウハハハハ！　それは危険ですね。

天山　本当に危ないよ！

―あと橋本さんといえば、女性関係の話も多く聞きますけど。付き人って、そういう場合の車での送り迎えとかもされるんですか？

天山　あ、それはやってないね。おもに西村さんがそういう係だったけど（笑）。

―あ、そっち関係は西村さんが担当でしたか（笑）。

天山　西村さんは車の運転では右に出るものはない腕前だったから。でも当時は橋本さんもモテてたし。いまはないけど、練習終わりで道場の前に何人も女性ファンが待ってたりしてたしね。

―じゃ橋本さんはファンの方も、ちょっとつまみ食いされたり。

天山　まぁちょこちょこと。それは皆さんやっていたんでね（笑）。でも、かずみさんは本当に大変だったと思うよ。橋本さんの性格って豪快というかクセが悪いというか……。

―常識では計れない部分がありますからね。天山さんは、そういう部分の破壊王イズムは受け継がれてないんですか？

天山　いや、あんまりね（笑）。そこは反面教師としてやめとこうと。

―ご家庭とかでそういう騒動になったらどうなるんですか？

天山　じつはウチも何回かバレてるんだけどね。

―あ、バレてましたか（笑）。

天山　携帯メールとかチェックが入ったりして。最初は、ガーッと説教されるんだけど、あとはもう「コレ買え、アレ買え」って指示されるから。トラブルはモノで解決するから。

―そこはモノで解決と。結局、橋本さんの付き人をやられた期間は何年くらいだったんですか？

天山　二年くらいだったかな。海外出る前までやってたんじゃないかなぁ……。同時進行で長州さんの付き人も同時にやってたけどね。まぁ、長州さんは橋本さんに比べたら手がかからなかったんだけど（笑）。

―山とか川に行かなくてもいいですしね。でも長州さんに〝食らわされ〟されたこともありました？

天山　いや、橋本さんも長州さんも食らわされたりはなかったけどね。冗談っぽく軽くハタかれたりはしたけど。そのぶん、道場で小原さんや佐々木（健介）さんにガンガン食らわされてたから（笑）。

―ガハハハ！　健介さんの〝かわいがり〟も有名ですよね。

天山　当時、佐々木さんはイケイケだったからねえ。小島（聡）とか大谷（晋二郎）とか高岩（竜一）とか、あの時期の若いやつは、佐々木さんに対して何かしらイチモツ持ってるよねぇ。ま、僕も忘れてませんけど（笑）

橋本さんの女性関係？　車の送迎は西村さんの係だった

―健介さんも道場にずっといらっしゃるんですか？

天山　そうだね。佐々木さんは自分に厳しくガンガン練習してたからね。あと、たまにちょっとした用事で2、300円のものを買ってくると、1万円を預かってたのに「おつりはいい」って言ったり。そういう太っ腹なとこもあったよね。けっこう橋本さんと意識し合ってたみたいで（笑）。

―見栄の張り合いみたいな感じですかね。しかし、橋本さんの練習しない伝説も有名ですよね。

天山　でも、ベンチプレスとか200キロとかも挙げたりしてたから。腹の肉にガーン！と当てながらね（笑）。「それズルじゃないの？」って。蹴りの練習はバンバンやってたし。蹴りの練習でミット持たされて。あの蹴りは凄かったよね。凱旋したときの試合で「ミットなし」で蹴りをもらったときも本当にキツかったから。

―当時は、本当に凄い破壊力でしたもんね。

天山　ヒザが悪いときもあったんだけど、あの体型であんな蹴りが出るのは凄いことだよね。それに身体は柔らかかったし、一緒に柔軟したりしてたから。……自分がこんなこと言っていいかわかんないけど、橋本さんがもっと真面目に練習してたら……。

―ああ小川直也さんも「死因は絶対に運動不足だ」って言ってましたからね（笑）。

天山　ただ太ってないと橋本さんらしくないから。でも「ちょっと節制してもらいたかったな」って。

―あの年齢であんだけ食べる人もそうそういないですからね。最後に付き人として、橋本さんから影響された部分を教えてください。

天山　よくも悪くも豪快な人だったんで。いいとこはお手本にさせてほしいし、自分の中ではいつまでも橋本真也という人間を尊敬はしてるよね。亡くなって……もう一年ですか？　でも、いまでもリングに戻ってきそうだよね。

―ちなみに天山さんの付き人の対応ってどんな感じなんですか？

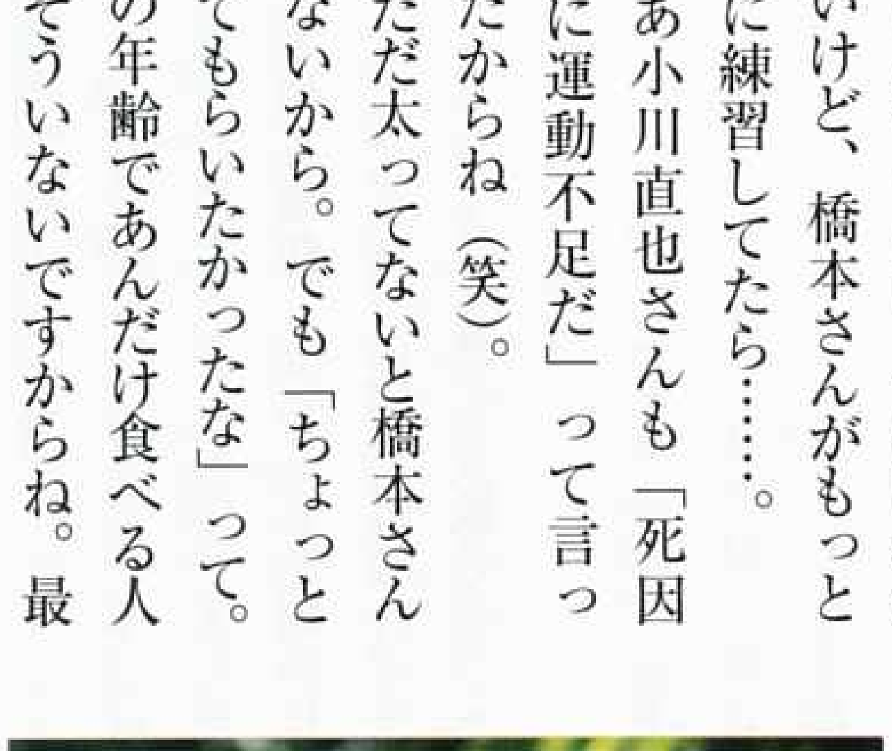
天山　みんなよくやってくれてるよ。最初は山本尚史がやってくれて、そのあと後藤洋央紀もやってくれたんだけど、今シリーズから内藤哲也ってデビューしたばかりの若手が付いてくれてる。でも僕はあんまり無茶せず、普通にかわいがっていこうかなと（笑）。いい教育をしてるつもりなんだけど、あんまり横着なことはしないで。

―橋本さんは手が届くとこにあるものでも、呼び寄せたりしてたみたいですからね。

天山　目と鼻の先にあるリモコンでも呼びつけられてたから（笑）。「それ、自分で取れるじゃんか～」って。

―ワハハハ！　これからも「いい部分」の破壊王イズムを継承して頑張ってください！　今日はありがとうございました！

【06年5月29日／幕張メッセにて収録】



てんざん・ひろよし■1971年3月23日、京都市生まれ。新日本プロレス学校を経て、90年に新日本に入門。93年のヤングライオン杯に優勝し、武者修行へ。帰国後は、nWoに加入し、一世を風靡。03年、G1クライマックスを初制覇し、IWGPヘビー級のベルトを奪取。現IWGPタッグ王者。必殺技はTTD。183cm、115kg。



破壊王ファミリーの現在

あれから もうすぐ一年……



昨年7月11日、突然の死を迎えてしまった我らが破壊王・橋本真也。あれから、もうすぐ一年――。前夫人の橋本かずみさんと3人の子どもたちに集まってもらい激動のこの1年を振り返ってもらった。といっても、湿っぽい話は破壊王ファミリーらしくないので、今回はプロレスラーになることを決意したという記事が一部専門誌で報じられた大地くんの話を中心にお届けする、つもりだったのだが……!?

聞き手／松澤チョロ　助手／真下義之
designed by matsu（TwoThree）

――〝破壊王〟橋本真也選手が亡くなって、もうすぐ一周忌ということで、本日は破壊王ファミリーに集まってもらいました!

かずみ&大地&茉莉　よろしくお願いします。

ひかる　（突然テレコに口を近づけて）橋本ひかるです。もうしゅぐ3歳です。よろちく、おねがいします。

――よろしくお願いします（笑）。かずみさん、今号で『kami·pro』は100号になるんですけど、このタイミングで新日本も取材できることになったんですよ。

かずみ　エッ、そうなんですか？　誰が出るんですか？

――破壊王とのエピソードを天山さんにたっぷり語ってもらいました（笑）。

かずみ　え～、なんで山本君（※天山の本名）なの～？　なんかね、一番取材してほしくない選手が山本君だったの（笑）。

――アハハハハ!　それは失礼しました（笑）。

かずみ　どんな話してました？

――有名なエアガン話とか、多摩川に投網を持っていった話とか（笑）。

かずみ　ありましたねぇ。エアガンに凝ってた頃、ちょうど矢ガモ事件があってね。

――当時、犯人は橋本さんだろうって言われてたみたいですね（笑）。武藤さんも「間違いない」って言ってたらしいですし。

かずみ　蝶野さんからはいつも「日本野鳥の会ですけど」って言って電話がかかってきてましたからね（笑）。

――三銃士はやっぱり素敵ですね（笑）。で、今日はですね、一部専門誌で「橋本ジュニアがプロレスラー宣言」と何度か報道されている大地くんを中心にお話を聞かせてもらえればと思ってるんですよ。

大地　よろしくお願いします。

――大地くん的には、お父さんが亡くなってからの一年はどんな感じでした？

大地　う～ん、どうなんですかねぇ。

――亡くなった当時、「大地は急に大人になった」とか「頼もしくなった」って周りの人からよく聞きましたけど。

大地　自分ではよくわからないです。

――「しっかりしなきゃ」みたいな気持ちが強かったんですかね？

大地　というか、いなくなる前は、まだレスラーになる気はなくて、いなくなってから「なる」って決めたんです。

――いまはプロレスラーになろうと思って
う話があったんで、「じゃあ、この子も含め
――憧れのレスラーっていうと、やっぱり、
かずみ　私に似て運動神経鈍いんですよ

語ろう!! 破壊王! HASHIMOTO FAMILY

――いまはプロレスラーになろうと思ってるわけですね。

大地　はい。思ってます。「なんで?」って言われるとわかんないですけど、なんか、ならなきゃいけないっていう気になりましたね。

――いまは、リングスの公式記録員としてもお馴染みだった田代先生の主宰する蒼天塾で空手を習ってるんですよね？

大地　空手というか、格闘技をやってます。

――蒼天塾のほかに部活とかも何かやってるんですか？

大地　部活はちょっと、微妙なんです（笑）。

かずみ　サッカー部に入ってたんですけど、格闘技がやりたいっていうことで、サッカーはどうしようかなって話してて。2年生になって美術部に入ったんです（笑）。

大地　（かずみさんに向かって）違うよ。サッカー部は辞めるって言ったんだけど、まだ退部届を出してないんで。美術部にも入りたいけど、サッカーも一応やりたいし。だから、どうするかで、すっごい悩んでんの。サッカーをすると時間がないじゃん。だから、難しいんだよね。

――美術部っていうのは、やっぱり絵が描きたいと思って？

大地　そうです。小学校のとき少し描いてたんですけど、中学入ったら絵がうまい人がいて、それ見て絵を描くのもいいなって思って。

――空手を始めたのは、自分の意志だったんですか？

大地　最初は「やれ」って言われてなんですけど。

かずみ　（田代）塾長と橋本が知り合いだったんで、塾長のほうから「あざみ野に道場出したいんだけど」っていう話があったんで、「じゃあ、この子も含めお友だちを集めます」っていうことで始めさせたんですよ。

――始めて何年ぐらいになるんですか？

大地　小学6年から始めたんで、2年ちょっとです。

――『PRIDE』とか総合格闘技をやりたいって気持ちもあります？

大地　いや、やっぱりプロレスがやりたいです。プロレスのほうが好きなんで。





昨年7月30日に行なわれた橋本真也さんのプロレス界・プロレスファン合同葬では小川直也、武藤敬司、蝶野正洋、大谷晋二郎らとともにリング上から追悼のトルネード・ハッスルを披露した大地くん。現在はリングスの公式記録員を務めた田代徳一氏が主宰する総合格闘空手・蒼天塾でレスラーを目指し格闘技を習得中。今年の3月末には蒼天塾・小田原道場で初の合宿を経験した大地くんだったが、なんと空手衣を忘れてしまったという。さすが大物だ！

©吉田みちこ

お父さんがいなくなってから「レスラーになる」って決めました

――憧れのレスラーっていうと、やっぱり、お父さんになるんですか？

大地　そう……ですね。でも、あそこまで太ってないですけど（笑）。

――まあそうでしょうけど（笑）。身長は176センチあるということですけど、中2としてはデカいほうですよね？

かずみ　でも、まだ足りないよね。

大地　やっぱり180（センチ）は、いると思うんで。

――ちょっと気が早いですけど、どういうプロレスをやりたいとかってあります？

大地　やっぱり、打撃中心ですね。

――個人的には将来、健介さんのところの健之介くんと大地くんが闘う日が来ればなって思ってるんですけど。

かずみ　あと、武藤さんちの荘司朗とか。まだ4年生なんですけど、一緒の道場でやってるんですよ。

大地　アイツは痛がりだからダメだよ。

かずみ　でも頑張ってるじゃん。

大地　頑張ってないよ。いつも怒られてるの荘司朗だよ。

かずみ　アンタ、人のこと言えないでしょ。

大地　荘司朗よりはちゃんとやってるよ。

かずみ　そんな、ちっちゃい子と比較してどうすんのよ！

――たしかに（笑）。

大地　だって、アイツもプロレスラーなるって言ってるんだよ。

――武藤ジュニアは小4にして、すでにレスラー志望なんですか？

かずみ　「お父さんを超えるレスラーになりたい」って言ってましたね。

大地　荘司朗はバク転とかも練習してた。

――すでにムーンサルトの練習ですか（笑）。大地くんはバク転はできるんですか？

大地　ボクはできないです。

かずみ　私に似て運動神経鈍いんですよ（笑）。一番性格が橋本に似てるのは、これ（ひかるちゃんを指差す）。

――そんな感じがします（笑）。

かずみ　橋本に似て怖いモノ知らずなんで（笑）。

ひかる　（自分の話題が出ていると気づき近づいてきて）ひかるね、エビ食べてんの（と言いながら、いきなり聞き手のチョロに肩車）。

かずみ　コラッ、ダメでしょ！

ひかる　大丈夫！　ねっ？

――はい、全然大丈夫です（笑）。ホント元気いいですね？

かずみ　よすぎるんですよね。でも、この子がいたから、なんとか家が保ててるっていうか。たぶん、私たち3人だけだったら、ホントに暗くなってたんだと思うんですよ。

――ひかるちゃんみたいな暴れん坊がいたら落ち込んでるヒマもないでしょうし（笑）。

かずみ　ホントに休むヒマなく暴れてますからね（笑）。たぶん、ウチで一番強いですよ。性格もホント、橋本に似てるし。

――女・破壊王なんですね（笑）。

かずみ　人見知りとかもしてたんですけど、最近は全然しなくなったし。一時は男の人がいると陰に隠れちゃったりしてて。

大地　（かずみさんに向かって）家が女だらけだからだよ。

――そういえば、大地くん以外はみんな女性ですもんね（笑）。

かずみ　そうなんですよ。あと安田（忠夫）さんちの娘がウチにいつもいるんで。

――エ～、そうなんですか!?　破壊王の付き人時代、安田さんがよく家にいたっていうのは聞いたことありますけど。

かずみ　昔は安田さんがウチに住んでるくらいいたんですけど、いまは娘が月の半分ぐらいいますね。

——それは初耳です。でも、それはどういった経緯で？

かずみ　やっぱり、この子たちが寂しいんじゃないかっていう彼女の優しさで。

——女ばっかりで大地くん的には肩身の狭い思いをしてるんじゃないですか？

大地　いや～、どうなんだろう（苦笑）。

——かずみさん的にはいかがですか？　亡くなってから約一年経つわけですが。

かずみ　う～ん、また一周忌が来たら、バタバタするだろうけど、生活とか自分の気持ちの中では少し落ちついてきましたね。凄いアッという間だったんですけど、いまでも信じられないし、でも凄い遠い昔のことのような気もするし……。なんか、橋本が、あんだけ大きくて強かったのに、あの身体自体がこの世に存在しないことが、ちょっといまだにピンと来ないっていうか。

——突然、「よぉ！」って現われそうな気がするって、みんな言いますからね。

かずみ　ですよね。もう最近になって、プロレスも普通に観に行かれるようになったけど、最初の頃はZERO1（・MAX）に行っても、大谷君を見ると……ダメなんですよね。大谷君に会うたびに大泣きしてて。

——それはどういう感情だったんですかね？

かずみ　大谷君がそのままZERO1（・MAX）を継いでくれてるっていうか、引っ張ってやってくれてるんでね。それで、最後に締めるときにマイクで話したりするじゃないですか？　それがね、どうしてもダブっちゃってしょうがないんですよね。最近は、ようやく大丈夫になりましたけど。

——このあいだの『ハッスル・ハウス』でも楽しそうに観戦している破壊王ファミリーの姿がPPVで流れてましたからね。

かずみ　そうみたいですね（笑）。ちょっと前の『ハッスル・マニア』でドリフのヤツをみんなで踊ってたことがあったじゃないですか？　あのときもダメでしたね。なんだか泣けてきちゃって。

——バカバカしいことをやってるのを見ると、逆にツライって思うこともありますよね。

かずみ　なんかね、橋本はドリフが大好きだったんで（笑）。みんなが踊ってるのを見てると、近くにいるんだろうなって思って。絶対やりたかっただろうなって。それを考えると可哀想だなって思えてきちゃって。

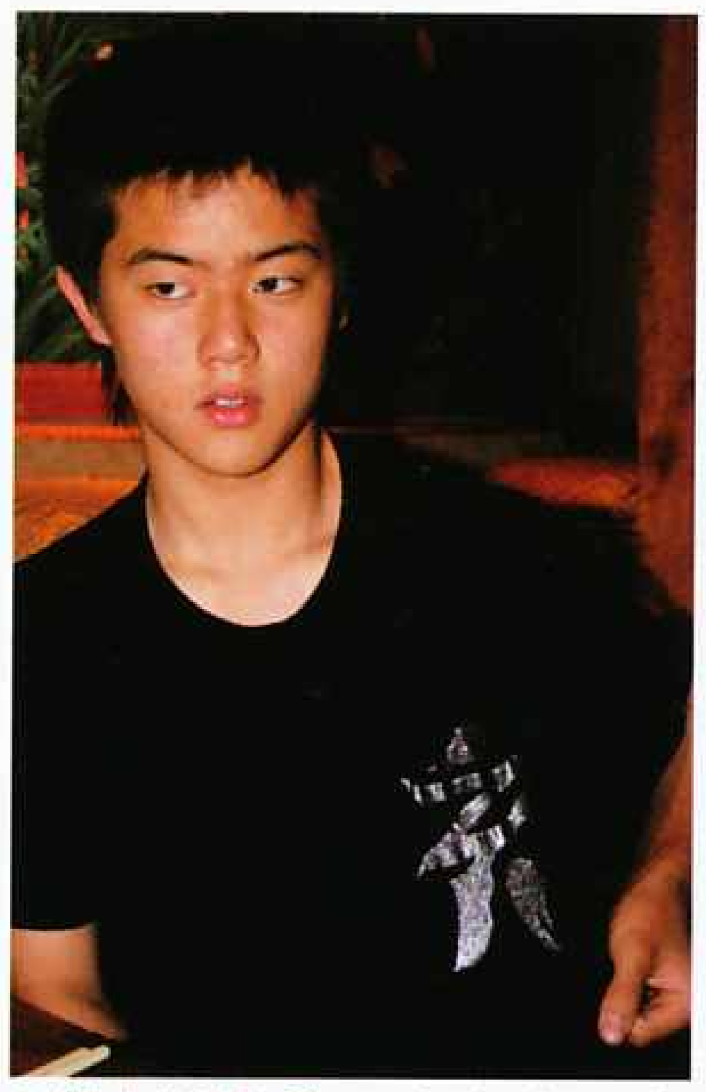
——OH砲でのドリフは見たかったですねぇ。かずみさん的には大地くんはプロレスラーとしていけると思います？

かずみ　どうなんでしょうねぇ。橋本とはタイプ的に違うし、かといって、私に似て運動神経もあまりよくないし。それに、いまの段階で本人が言ってるだけで、レスラーになれるのかどうかもわからないし。まして、橋本ぐらいになれるかって言ったら、それはとっても難しい話じゃないですか。

——まあ、そうですよね。かずみさん的には大地くんのやりたいことをやらせたいって感じですか？

かずみ　基本的には反対ですよ、私は。

——あ、基本的には反対なんですか？



かずみさんがプロデュースしているファッションブランドの一つが大地くんが着ている、こちらのTシャツ。胸に描かれた文字は大地くん自らが描いたものだという。将来はプロレスラーか？　それともデザイナー？

いまは安田さんちの娘がいつもウチにいるんです



かずみ　だって、橋本の場合は結婚する前からレスラーだったんで。

大地　ファンだったんでしょ!?

かずみ　そりゃもちろんファンだったけど。

——アハハハハ！　素晴らしいツッコミです（笑）。

かずみ　でも、我が子がやるっていうのは、ちょっと別なんで。橋本はレスラーをやってたから亡くなったってわけじゃないですけど、権平（弘光）君にしても、福田（雅一）君にしても、星川（尚浩）君にしても、亡くなったり、ケガをした子たちも何人も見てきてるし。他の仕事をしてても交通事故に遭ったりすることもあるかもしれないですけど、危険度は高い仕事ですから。私はちっちゃい頃から、なるべくさせたくないってことは言ってきたんですよ。

——じゃあ、お母さんを説得させるところから始めないといけないですね。

大地　……う～ん、そうですねぇ。

かずみ　でも、荘司朗にしてもそうですけど、お父さんがやってると、やりたいと思うんですかね？

——それはあるのかもしれないですね。

かずみ　私は仕事でTシャツ作ったりしてるんだけど、いま大地が着てるのも大地が描いたヤツなんですよ。

——へぇ～、それは凄いじゃないですか？

かずみ　プロレス界も、いまはあまり元気がないし、これからはレスラーだけで食べていくのは大変だと思うんで、ほかにもできることを見つけていかないとってよく話してて。それにプロレスって潰しがきくような仕事じゃないじゃないですか？　お相撲さんだったらちゃんこ屋さんやるとかありますけど、ほかの道も考えておかないと。

——じゃあ、将来的にはアリストトリストみたいな感じが理想ですかね（笑）。

かずみ　アハハハハ。でも、そういうものができればいいなって思って。でも、大地がなって、武藤家の荘司朗や健ちゃん（佐々木健介）とこの息子たちとか、みんなプロレスラーになったら、そのときはおもしろいですよね。

——そうなったらプロレス界も盛り上がりますよ！

語ろう!! 破壊王! HASHIMOTO FAMILY

かずみ　その頃に、またプロレス界も黄金時代が来てればいいですけどね。周りの人たちは「二代目なんで話題性もあるしレスラーになったほかがいい」とか言ってくれるんで、けっこう、この子、調子に乗っちゃってるところがあるんです。

――そうなんですか?

大地　いや、そんなことないけど。

かずみ　DSEに行ったときに、榊原社長に「高校なんか行かないで、すぐにこの世界に入ってこい」とかって言われて。「5年修業して、5年後ぐらいには、お前がプロレス界を引っ張っていかなきゃダメだろ」って本人に言っちゃったもんだから、「高校行かない」とか言い出して（笑）。

――もう、やる気満々なんですね（笑）。大地くん的には中学を卒業したらプロレス界に入ろうっていう気持ちなんですか?

かずみ　なるにしても、一応高校ぐらいは出てもらわないと。（大地くんに向かって）高校には行ってよ。

大地　う～～ん、どうしよっかなぁ。

――まあ、高校卒業してからとなると、あと4年ありますから、早くて5年後ぐらいのデビュー戦、期待してます!

大地　……が、頑張ります。

かずみ　どちらかというと、この子（大地）より、ひかるのほうが向いてるかなって思うんですけどね（笑）。

――絶対向いてると思います!（笑）。じゃあ、ひかるちゃんも15年後ぐらいのデビューを期待してますんで頑張ってください!

ひかる　う～～ん、どうしよっかなぁ。

――アハハハハ!　ひかるちゃん、最後に一言お願いします!

ひかる　（テレコに口を近づけて）橋本ひかる、もうすぐ3歳でしゅ。……ワン、チュー、シュリー、ハッチュル、ハッチュル!!

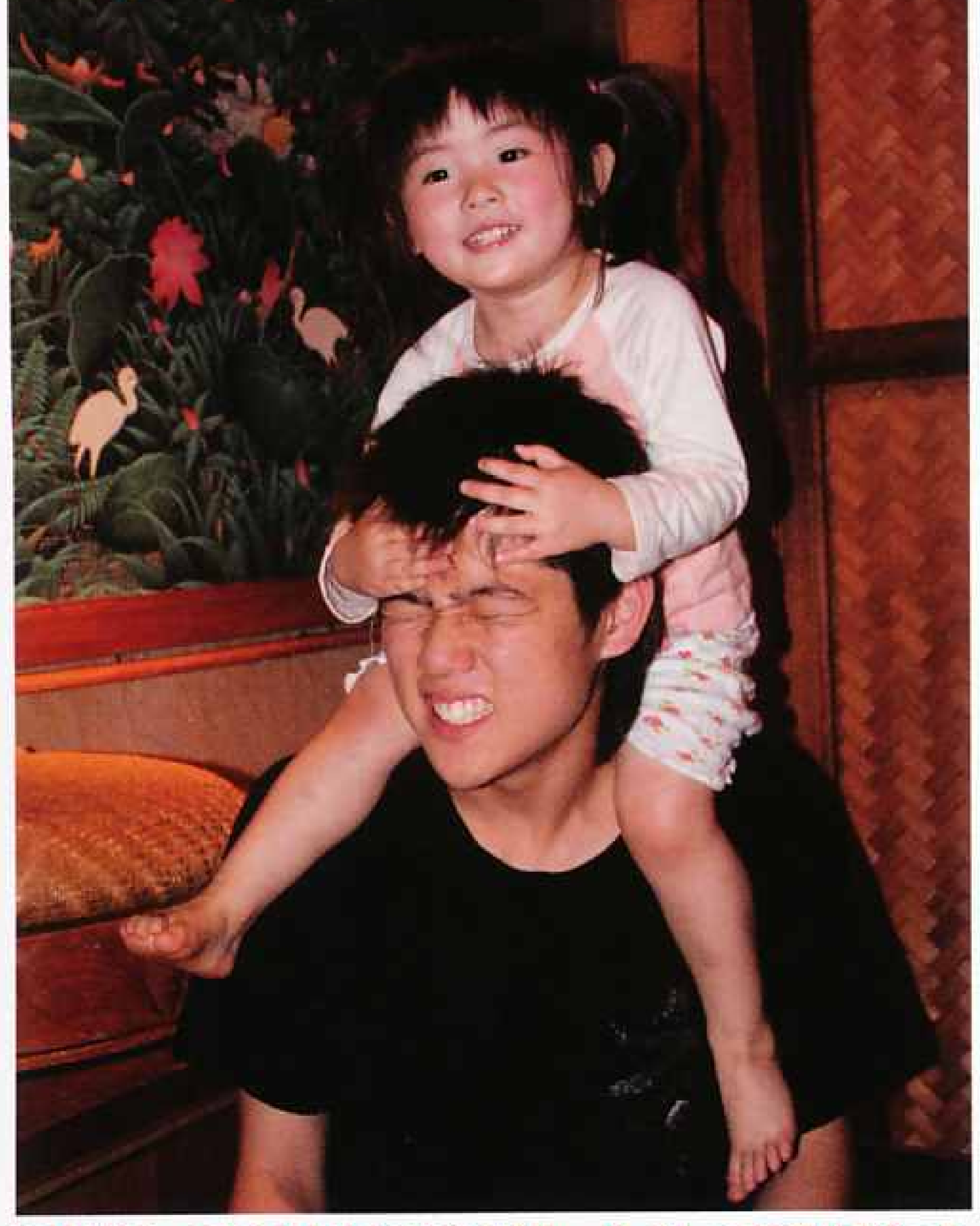
――最後はハッスルポーズですね（笑）。「ワン、チュー、シュリー」じゃなくて、「スリー、ツー、ワン」で、お願いします!

ひかる　は～い。スリー、チュー、ワン、ハッチュル、ハッチュル!!

――ありがとうございました!（笑）。

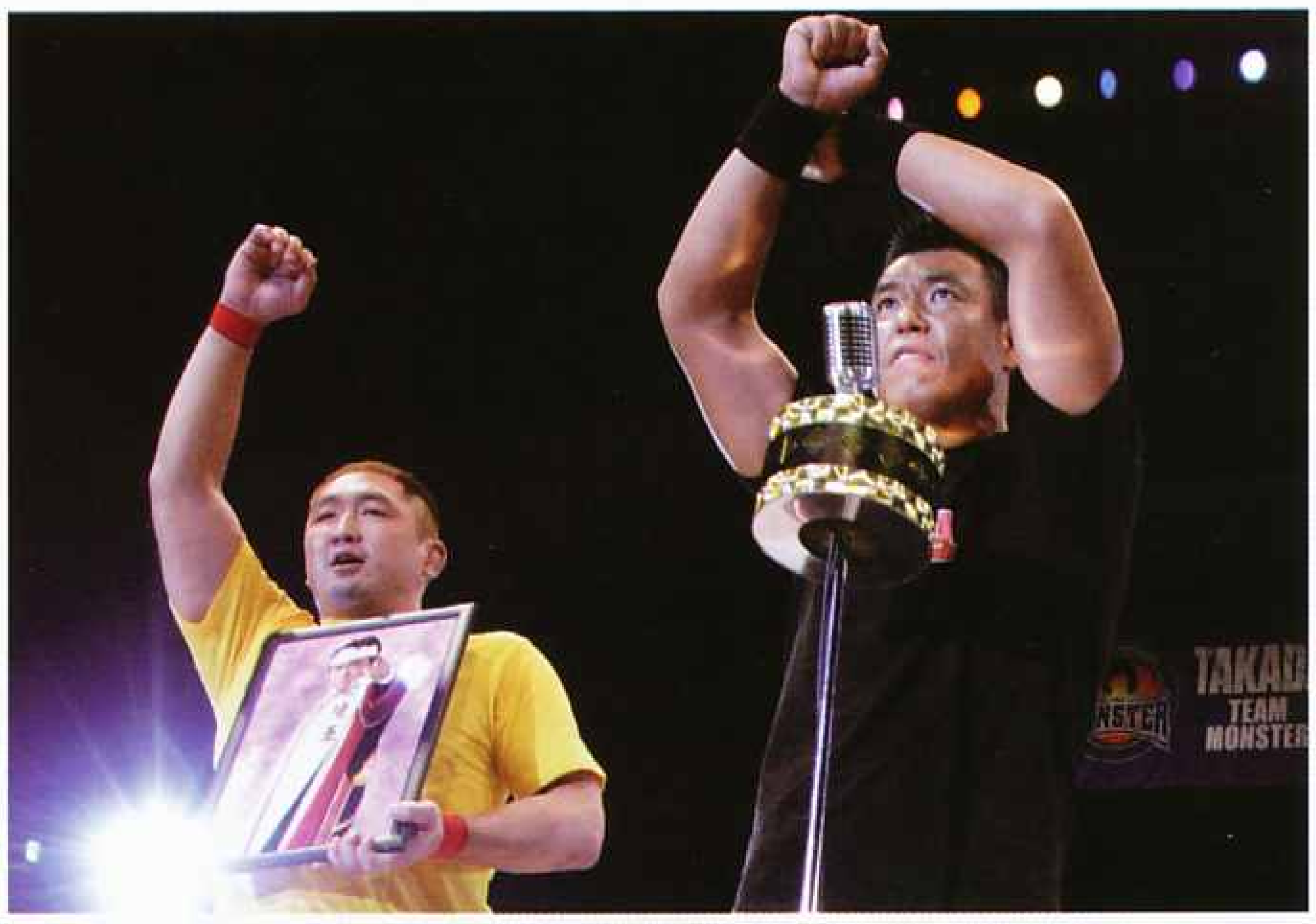
【06年6月6日／横浜・たまプラーザ『MONSOON CAFE』にて収録】

大地よりひかるのほうがレスラーに向いてるかなって（笑）



取材が始まってから終わるまでの約2時間、ノンストップで暴れまくった"女・破壊王"ひかるちゃん。レスラー志望の大地くんに対しても、隙あらばバックからスリーパーを狙うなど最強っぷりをアピールしまくり。

ぼくらのハッスル・キング、フォーエバー!!
ハッスルが横浜&後楽園で“破壊王追悼”大会開催!!


ハッスルは昨年7月も福岡、大阪で小川や大谷が中心となった破壊王の感動的セレモニーを開催。

あの悲しみから一年。ハッスルが橋本真也メモリアルとして7月9日と11日に大会を開催する。ご存知のように橋本さんの復帰戦の舞台はハッスルになるはずだった。その橋本さんに捧げるため、9日は橋本さんにゆかりの深い横浜で、11日は後楽園で趣向を凝らしたイベントを開催する。

ハッスルには橋本さんゆかりの選手が数多く参戦している。永遠のライバル〝キャプテン・ハッスル〟小川直也、ともにZERO－ONEを旗揚げした〝ハッスルあちち〟大谷晋二郎と中村カントク、リングで橋本さんからモヒカン頭に刈られた横井宏考ら、そして橋本さんがきっかけを作った和泉元彌の参戦も実現した。

そしてこの大会はハッスルのイベント内でHGの口から発表。HGは橋本さんが亡くなった直後の大会でハッスル初登場、笑顔と歓声を取り戻した男だ。生前の橋本さんと接点があった人もなかった人も「ハッスル」の名のもとで偉大な男を語りつぐ、そんなイベントになるにちがいない。

ハッスル“破壊王追悼”大会情報

★KYORAKU PRESENTS『ハッスル18』
パシフィコ横浜 国立大ホール
7月9日（日）開演 17:00（開場16:00）
■チケット料金■
ハッスルVIP【特典：ハッスルグッズ付】…12,000円／RRS…8,000円／スタンドS…6,000円／スタンドA…4,000円



★KYORAKU PRESENTS『ハッスル・ハウスvol.17』
後楽園ホール
7月11日（火）
開演 19:00
（開場18:00）
■チケット料金■
ハッスルVIP
【特典：ハッスルグッズ付】…10,000円
スタンドS…7,000円
スタンドA…5,000円
スタンドB…3,000円

“破壊王追悼”関連大会情報

★ZERO1・MAX『橋本真也一周忌追悼&がんばれ星川尚浩! 激励チャリティ』
新潟・新潟市体育館
7月15日（土）開始18:00
■チケット料金■
特別リングサイド席…7000円／リングサイド席…5000円／2階指定席…4000円／2階自由席…3000円

★新日本プロレスが、一周忌を前に橋本の故郷、岐阜で大会を開催
※セレモニーの開催等は現在、未定です。
岐阜産業会館
7月9日（日）開始16:00（開場15:00）
■チケット料金■
SS席…8000円／特別リングサイド…6000円／リングサイド席…5000円／2F特別席…4000円／ステージ席…4000円

ハッスルの前進は止まらない!
ハッスルTシャツで夏に備えろ!

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『kamipro Hand』でご注文の場合
詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合
平日15:00～22:00
（株）ダブルクロス
03-5368-1797

メールでご注文の場合
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承ください）。
販売元：（株）ダブルクロス

ハッスル & kamipro Collaboration Goods



高田総統ライオンTシャツ
［S・M・L・XL　ホワイト］¥3,990（税込）



「BITAAAAN!」Tシャツ
［S・M・L・XL　ホワイト］¥3,990


「ビビったか？ たじろいだか？」Tシャツ
［S・M・L・XL　ブラック］¥3,990

ハッスル Goods



TAJIRI Tシャツ
［S・M・L・XL　ブラック］¥3,990



HUSTLE ネオンTシャツ
［S・M・L・XL　ブラック／レッド］¥3,990



MONSTER ネオンTシャツ
［S・M・L・XL　ブラック／パープル］¥3,990



ニューリン様Tシャツ
［S・M・L・XL　ブラック］¥3,990



キャプテン リストバンド
［ホワイト／ブラック］¥1,050
あちち リストバンド
［レッド］¥1,050



HUSTLE カレッジTシャツ
［S・M・L・XL　ホワイト／レッド］¥3,990



MONSTER カレッジTシャツ
［S・M・L・XL　ブラック／パープル］¥3,990

※価格はすべて税込みです

SPECIAL INTERVIEW

WWEの音楽を一人で作った男

音楽作家ジム・ジョンストン インタビュー

B'zが好きだからテーマ曲はB'z。そんなエゴがWWEで通用しないのはこういうテーマ曲のプロがいるからだ

毎年4月の大イベント「レッスルマニア」が終わる頃にモゾモゾ動き出すのがWWEミュージック・エンターテインメント、すなわち同社の音楽部門。昨年はジョン・シナのソロ・アルバム（『ユー・キャント・シー・ミー』）をリリースし、シナ一気にブレイクスルー化を狙ったが、今年は今年で新企画。トリプルH、レイ・ミステリオ、カリートらの新しいテーマ曲を中心に全15曲を収録（さらにボーナス曲2曲も追加）したテーマ曲CD『WRECKLESS INTENT』を発表した。演奏するバンドもじつに多彩で、ヘヴィロックのSaliva（バティスタのテーマ曲）、ヒップホップのThree 6 Mafia（マーク・ヘンリー）、日本でもいま、大人気のゼブラヘッド（DIVAマリア）など注目株が目白押し。

楽曲クレジットを見ると、やはりほとんどの曲にジム・ジョンストンの名前がある。以前から気になっていたWWE〝座付き〟音楽作家が、この人。かねてから「ただ者ではない……」と感じていたのだが、なんとこのたびインタビューが実現！ 音楽家としてのキャリアは？ 具体的なメイキングのエピソードは？ ドゥービー・ブラザーズのトム・ジョンストンとは血縁関係でもあるのか？（あるわけないか）などいろいろと話を聞いたので、その模様をご紹介したい。

まずはトリプルHのテーマ曲のいきさつから。前作と同じくハードロック界の代表格モーターヘッドが演奏している。

「というのもトリプルHとレミー・キルミスター（モーターヘッドのベース&ボーカル）は前から友だちなんだよ。モーターヘッドのコンサートのバックステージですぐに意気投合したらしい。彼の場合は、家にいるときとかワークアウトの最中に聞きたいと思う音楽が、自分のテーマ曲とぴったり合ってるという例だね。そうじゃない場合もある。大抵のテーマ曲は僕が一人で完成させるけど、今回のような企画ではバンドにアレンジを任せる場合もある。ごくたまにスーパースターと事前に話をして、どんな音楽やバンドが好きかを聞くことがある。でも大半の場合、僕は少し距離を置いて観察するほうを好むね。映画のスコアを書くように、その人を観察して、キャラクターをうまく表現する音楽を作りたいと思う。人って車の移動中に聞きたい音楽とか、家でビールを飲みながら聞きたい音楽を〝好きな音楽〟として語るわけで、往々にしてそういう音楽って当人のテーマ曲にはふさわしくないんだよ」

選手の音の好みは二の次にして、イメージに合った楽曲を創作する。そのへんはキャラの宝庫WWEの専属作家の自負なのだろう。そのせいか彼の仕事は、とにかくキャッチー。古くはブッカーTの70年代風ディスコ。最近ならサビの歌詞をつい一緒に歌いたくなるランディ・オートンのR&R（タイトルは「Burn In My Light」、本作に収録）。いつもあらゆるタイプの音楽に精通してるように努力を重ねる人のように思える。

「それはするね。できるできりいろんな楽器を弾くようにするし、各テーマ曲に独自性を持たせることを心がけている。各スターは、それぞれまったく違う個性を持っているわけだから、それをすべて表現するためには、この世のあらゆる種類の音楽性を知っている必要がある。個人的にも幅広い音楽スタイルが好きだし、凄くやり甲斐を感じているよ」

ビンス・マクマホンとの付き合いは、もう23年にも及ぶという。ほぼ「レッスルマニア」の歴史と匹敵するような長さの二人の関係から芽生えたビンス観を聞くと。

「もう認めたくないくらい、古くからの付き合いだからねえ（笑）。ビンスは明確なビジョンを持った人だよ。大胆不敵で新しいアイデアを試みることを恐れない。個人的に最も尊敬している点が、間違いを犯すことを恐れないところだね。一旦決断を下したら信念を曲げない。うまくいけば最高だし、そうじゃなかったら次に進めば良いだけ、そういうふうに前向きに考えられる人なんだよ。彼は計り知れない活力を持っていて、上司としてもかなり厳しいけど、同時に情が深い上司でもある」

と敬意を隠さない。会場のPAで増幅しても遜色のないロック音楽を次々に生み出すジム・ジョンストン。CDのライナーノーツでTAJIRIが語るところの「地球規模の個人商店＝WWE」が、誰でも出入り自由なポップカルチャーであり続ける理由は、彼の奮闘ぶりも確かに一役買っている。



いまWWEで最もかっこよくて印象的なテーマ曲を使っているのがトリプルH。自分の好きな歌謡曲を適当にかけてるようなプロレスラーとは、まったく違う意識でテーマ曲をとらえているのだ。



モーターヘッドはボーカル＆ベースを務める元ホークウィンドのレミーを中心に1977年『モーターヘッド』でデビュー。荒削りなギター、攻撃的なビート、レミーの強烈なボーカルのロックンロールで大きな影響を与えた世界的な人気を誇るバンドだ。

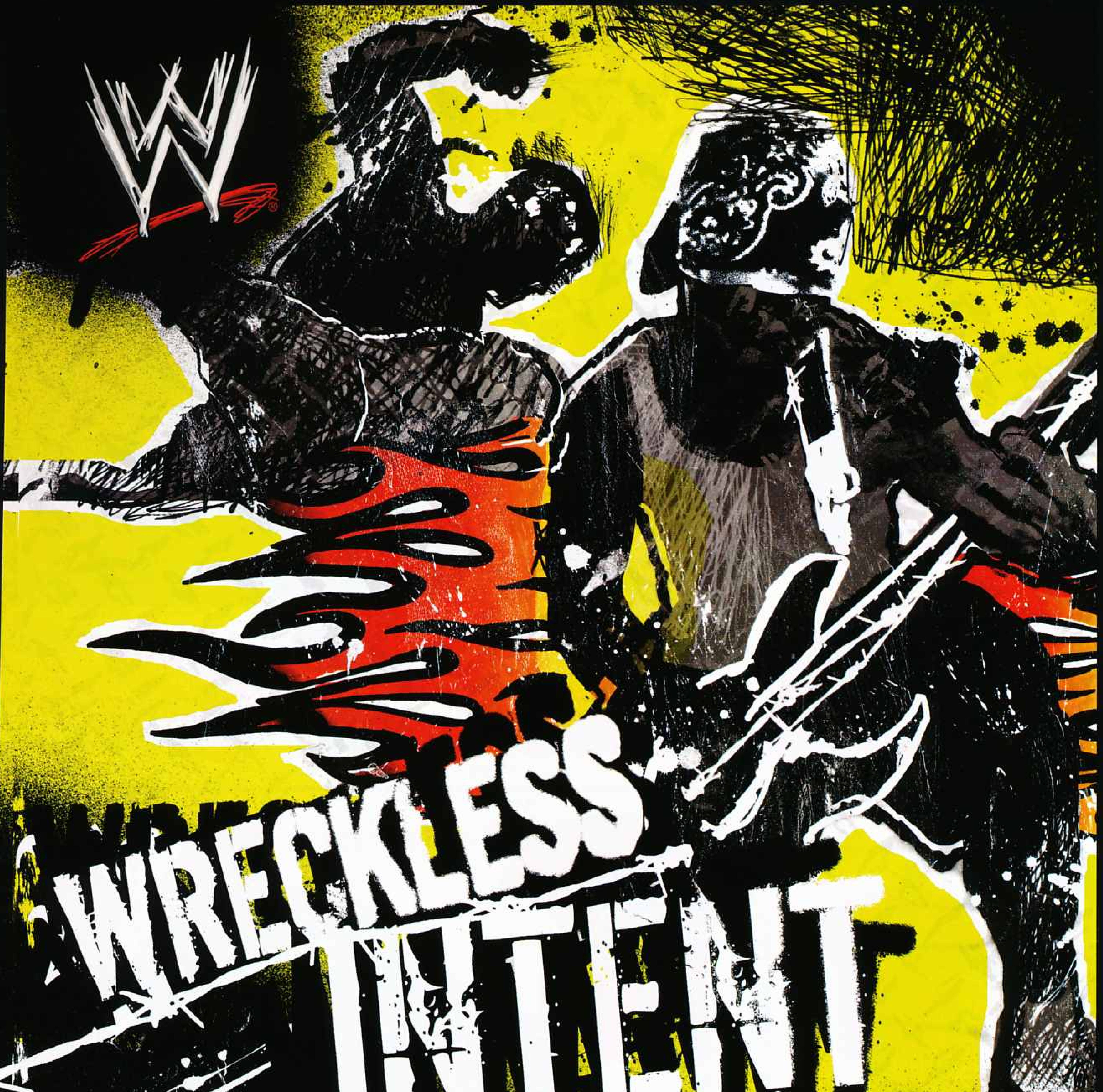


『WRECKLESS INTENT』発売記念 ポスターをプレゼント

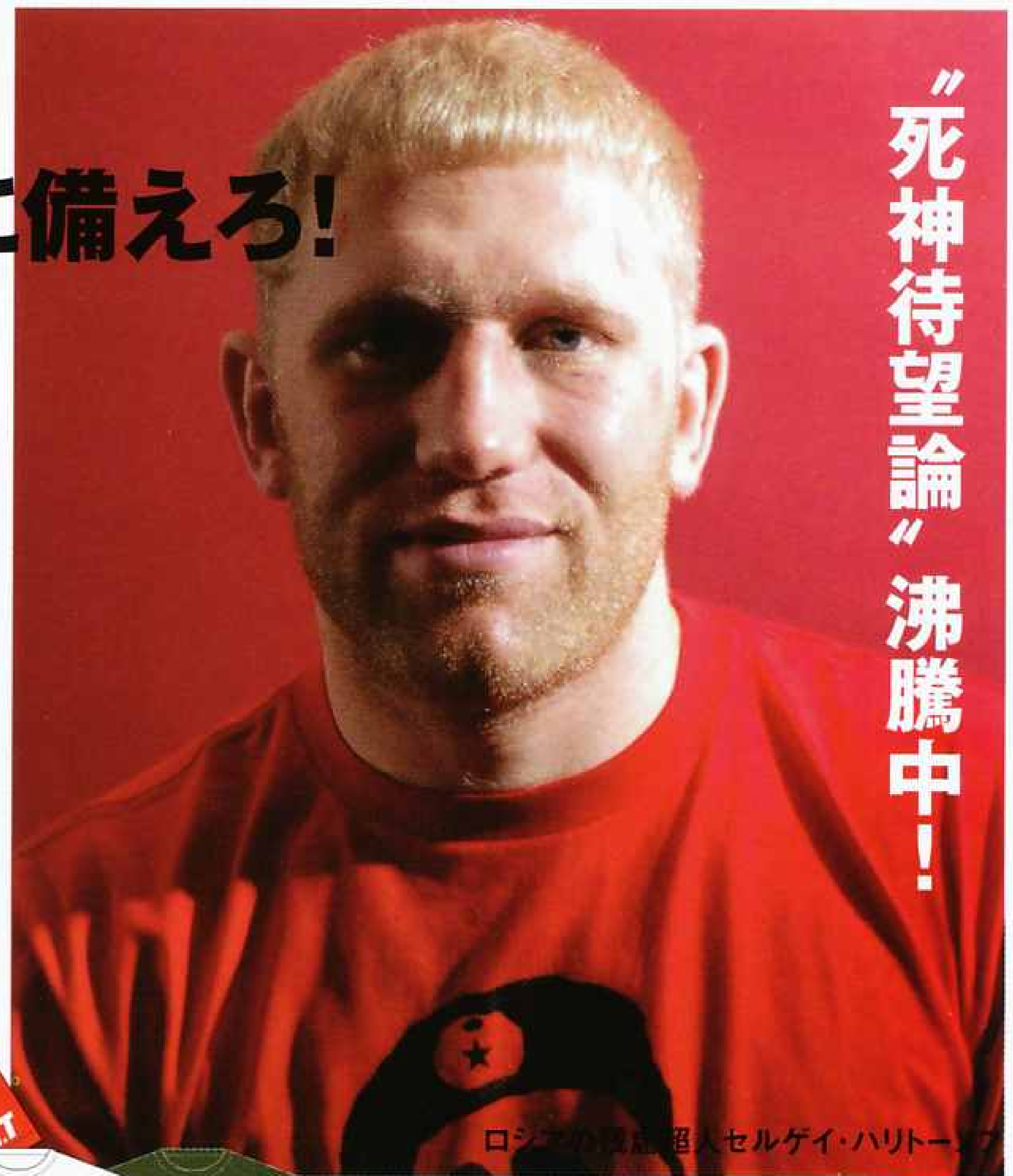
このCDの発売を記念したレイ・ミステリオの姿がかっこいいA3サイズのポスターを10名様にプレゼントします！ 応募方法は140ページを参照！

ジム・ジョンストン

WWE専属の音楽作家。スーパースターズのほとんどすべてのテーマ曲を作曲＆演奏している鬼才。かつてTVの番組や様々なプロジェクト用の作曲をしていたときに、米東海岸の寿司バーでWWEのアート・ディレクターと知り合う。早速若き日のビンス・マクマホンに紹介され、以来23年間にわたってWWEの音楽制作を請け負うようになる。しかし正式に社員になったのは5，6年前とか。いまも週に6日は仕事場のスタジオに入り、朝から晩まで作曲とレコーディングに精を出す。人前ではアガがってしまう性質なのでプロのミュージシャンは目指さなかったが、ソロ・アルバムの制作が長年の念願。


WRECKLESS
INTENT

いまこそ蘇れ！ ハリトーノフ!!
NEW "死神" Tシャツで夏に備えろ！



ロシア[illegible]超人セルゲイ・ハリトー[illegible]



ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ¥3,990（税込）
S·M·L·XL



ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150（税込）



ハリトーノフFACE Tシャツ
レッド／ホワイト／カーキ ¥3,990（税込）
S·M·L·XL

『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.prideofficial.com/
『紙プロHand』でも購入可能!!



ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト／レッド ¥3,990（税込）
S·M·L·XL



ハリトーノフSKULL Tシャツ
レッド／ホワイト ¥3,990（税込）
S·M·L·XL



ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド¥7,350（税込）
M·L·XL



コピィロフTシャツ
ホワイト ¥3,990（税込）
S·M·L·XL



ヴォルク・ハンTシャツ
ホワイト ¥3,990（税込）
S·M·L·XL



ミーシャTシャツ
ホワイト ¥3,990（税込）
S·M·L·XL



ハリトーノフTシャツ
ホワイト ¥3,990（税込）
S·M·L·XL

ロシアン・トップチームグッズは『kamipro』通販でご購入できます。電話、メール注文もできますよ!!
（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1797（平日15:00～22:00まで）

【メール注文方法】郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールをkapra@kamipro.comまで送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。販売元：（株）ダブルクロス

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

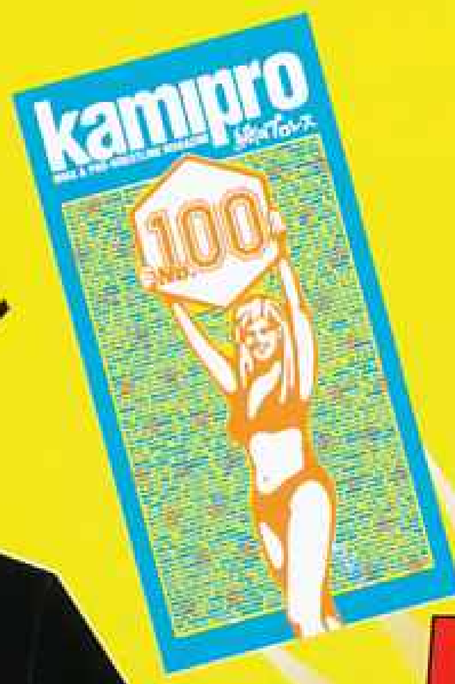
DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
vodafone	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

［通販の問い合わせ先］
株式会社ダブルクロス
TEL:03-5368-1795
（受付時間／15時～22時）
販売元：株式会社ダブルクロス

祝 kamipro "100号突破" 記念福袋!!

衣料部"ヘックション"からのお祝いだよ♥



②100号記念
特製巨大バスタオル



③パーカー
（衣料部制作）



①100号記念
特製Tシャツ





④Tシャツ×2
（衣料部制作）



⑤非売品グッズ

100号記念グッズ＋α
"総額2万円"相当が入って
10,000円（税込） ポッキリ!!

※別途、送料¥500、代引き手数料¥420がかかります。

限定100セット!
さらにサイズ（S、M、L、XL）も指定可能!

※注文の締め切りは7月10日まで。発送は7月中旬以降になります。

Kamipro100号記念グッズ

単品でも購入可能!

限定100枚



100号記念特製Tシャツ
ブラック 特別定価 ¥2,625（税込）
S･M･L･XL

限定100枚



タテ 132cm
ヨコ68cm

100号記念
特製巨大バスタオル
ブルー×オレンジ 特別定価 ¥3,150（税込）



待望の新商品が続々登場! Kamiproオリジナルグッズ

NEW



ついに出た!

Kamiproマスクシャツ
ホワイト×レッド ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

NEW

言うちゃ悪いけど、買うしかないだろ!



I編集長"殺し"Tシャツ
ブルー ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

"藤原イズム"を着用せよ!



藤原敏雄Tシャツ
ホワイト×ブラック ¥3,990（税込）
S･M･L･XL

※新商品はすべて完成予想図。色、デザインが若干、異なる場合があります。

このページの商品はKamipro Handでも購入可能!! 詳細は右ページ下段を参照ください➡


FUKUOKA
ISAMI
空手道(フルコンタクト・伝統派)/柔術/合気道
キックボクシング
総合格闘技/中国武術
☆☆☆☆☆☆☆☆☆
フルコンタクト空手衣・伝統空手衣
極真用品・柔術衣・合気道衣・武器用品
キックボクシング用品・総合格闘技用品・試合用品
格闘技Tシャツ&グッズ・武道トレーニング用品・サプリメント
ウェイトトレーニング用品・DVD・書籍
特価セール品etc...
格闘技ProShop
福岡イサミ
FUKUOKA ISAMI
〒810-0001
福岡県福岡市中央区天神3-3-7天神応順ビル6F
OPEN/am11:00-pm7:00
定休日/毎週火曜日・祝日
地下鉄天神駅
4番出口下車
地下鉄天神駅より3分
TEL.092-715-3787
FAX.092-715-3788
福岡イサミ★
フタタ
ダイエー
天神橋
交差点
昭和通り
福岡銀行
本店
市営地下鉄空港線
地下鉄天神駅
明治通り
西鉄天神駅
渡辺通り
イムズ
天神
ツインビル
福岡イサミOPENにつき
バイト・正社員募集
あなたもイサミショップで
働いてみませんか?
格闘技好きな方大歓迎!
(詳しいお問い合わせは下記迄)
0480-24-0711(担当/磯まで)

100号突破に感謝感激!!

その一歩が道となり、その一歩が道となる

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって変えさせていただきます（賞品は7月21日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤面白かった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦好きなプロレス、格闘技大会（団体）トップ3⑧2006年上半期のMVP、ベストバウト、ベスト興行と、ワーストファイター、ワーストバウト、ワースト興行

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス「kamipro」編集部「金太郎」係まで

※締切は2006年7月20日（木）当日消印有効

kamipro 100 応募券
ご機嫌いかがかなと言っているんだ!!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!



INOKI

「本格米焼酎」燃える闘魂

アントンが新しい居酒屋「アントニオ猪木酒場」をオープン!!　ダーッ!　お店はプロレスの映像が流れるスポーツ居酒屋で、年内になんと3店舗の開店を目指すという。またもや大プロジェクト進行中のアントン。プレゼントは、オリジナルの米焼酎。その名も「燃える闘魂」!!　ンムフフフフ。

2名様



HUSTLE

インリン様、ニューリン様、インリン・オブ・ジョイトイのサイン入り色紙

サイン入り

なんと!　『ハッスル18』横浜大会のポスターにインリン様、ニューリン様、インリン・オブ・ジョイトイさんお三方からサインをいただきました!　こんな夢のコラボレーションは前代未聞。三人の筆跡が似ているなんて言ってるヒマはないぞ!!





2名様

POGO

1名様

ポーゴサイン色紙

はるばる群馬は伊勢崎まで訪ねて取材した今回の『ハードコアドージョー』。イラストがお得意なポーゴさんには、サインとともに串焼きのイラストまでいれていただきました。編集部への、チーズ焼きのお土産もあわせて、ありがとうございます!



PRIDE

■URL***http://www.prideofficial.com/



5名様

PRIDE GP 2006
OPEN-WEIGHT
7.1SAITAMA
SUPER ARENA

PRIDE無差別級GP 2nd ROUND Tシャツ

鳥肌立った!!（本部長口調で）。というわけで、いろいろありましたが、いよいよ開催が近づいた『PRIDE無差別級GP』二回戦。公開記者会見で「榊原さん、ファンは信じていいんですね!!」と熱狂的に訴えた女性ファンのごとく、このTシャツを着て応援せよ!!　【DSE提供】

石田光洋 オリジナルTシャツ

『武士道・其の十一』アウレリオ戦で、ヒョードル並みのパウンドを浴びせたこの男。さわやかブルーのオリジナルTシャツで夏に向かってまっしぐらだ!!（意味不明）。

1名様





JAGUAR

ジャガー横田&博勝さんのサイン色紙

ワイドショーでも大々的に報道されたジャガー横田さんのご懐妊。本当におめでとうございます!　というわけで、『kamipro』読者にも幸せをおすそ分けすべく、サインをいただきました。ちなみに、旦那さんの博勝さんは、ジャガーさんと一緒じゃないとサインを書いてはいけない、という厳しい決まりがあるそうです。



2名様

Back

MEXICO





1 2 3 4 5 6 7

メキシコマスク

現地時間12、14日に行なわれたCMLLに武藤敬司とウルティモ・ドラゴンが登場。その様子を追っかけた堀江ガンツが、前年同様、大量のマスクをお土産に買ってきました！　ほしいマスクの番号を必ず書いてどんどん応募せよ!!

各 1 名様

BOOK

各 1 名様

■東邦出版URL***http://www.toho-pub.com/





総合実践護身術『功朗法』
¥1890（税込）

日本国内のみならず、ヨーロッパをはじめとする海外でも注目を集めている実践型護身術・功朗法。凶器を持った敵に遭遇しやすい人にオススメの一冊です。

『実録!!　極真大乱』
¥1890（税込）

極真空手関係者ですら初めて知ることになるであろう、極真の分裂劇、遺言書問題、商標権問題……。大山倍達の死後起こったさまざまな問題や騒動をこの一冊がすべて明かしてくれる。

GREAT

セットで 1 名様



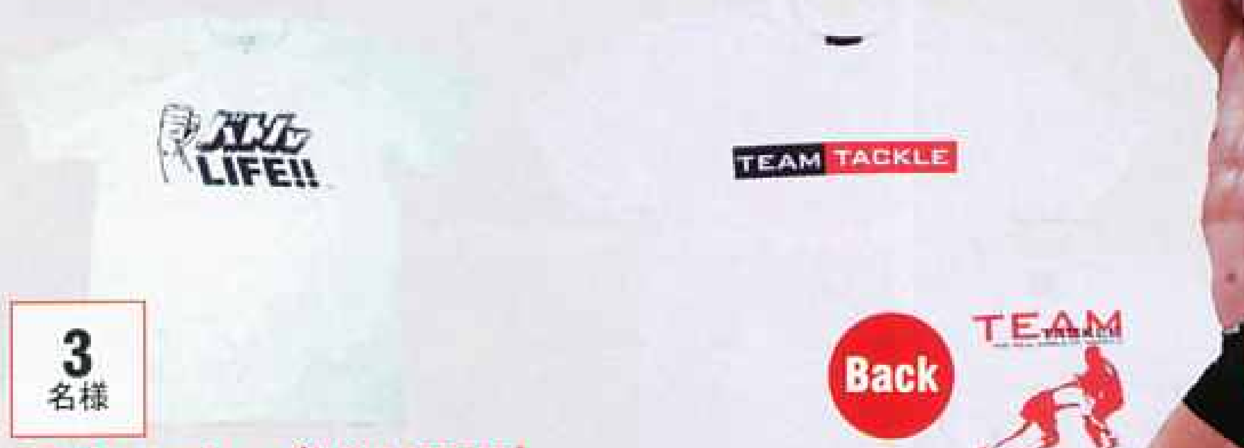
グレートプロレス旗揚げ戦DVD&オリジナルTシャツ

4月21日に埼玉・バトルスフィアで旗揚げ戦を行なったグレートプロレス。そのDVDとオリジナルTシャツをセットでプレゼント。DVDにはクワガタ博士vsバイクメンから新田明臣vs大久保一樹まで、いろいろ収録されています！

WEAR

■スカパー！バトルLIFE!!***http://spmb-battle.com/

1 名様





3 名様

『スカパー！　バトルLIFE!!』オリジナルTシャツ

PRIDE、K-1、HERO'S、ハッスル、新日本、全日本を中心としたマット界の最新ニュースを毎日配信する『スカパー！バトルLIFE!!』。旬のプロレスラー・格闘家への独占インタビューも満載だ！　気になる方はいますぐアクセスせよ!!
【スカパー・モバイル提供】

チェ・ムベTシャツ

K-1韓国大会に飛んだジャン斉藤が憧れのムベ様からいただいたチーム・タックルのオリジナルTシャツをプレゼント。ジョンに勝るとも劣らない美しきサタデーナイトフィーバーよ、再び!!【ムベ様提供】

YUKES

■URL***http://www.yukes.co.jp/



1 名様

PS2『レッスルキングダム』ソフト
7月20日発売　¥7140円（税込）

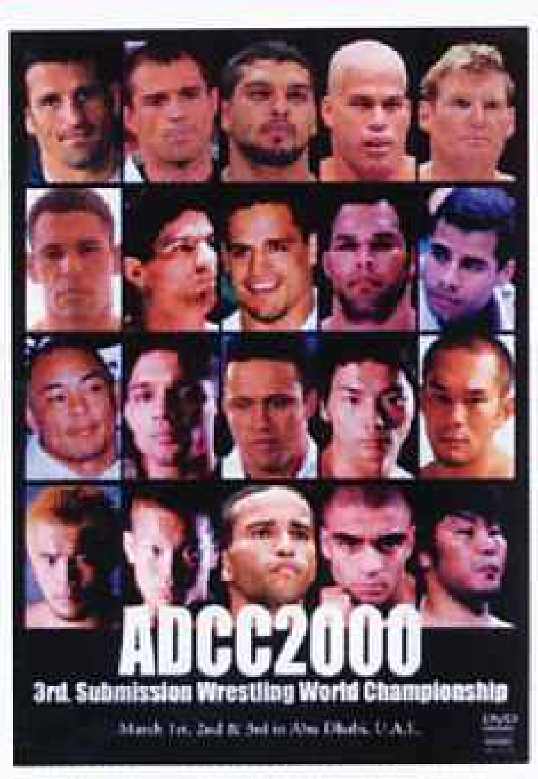
新日本、全日本、ノアなど、日本屈指のプロレス団体&レスラーがすべて実名で登場するPS2ソフト『レッスルキングダム』。さらに、初回特典として、武藤、蝶野、健介が本音を語るクロストークDVDがついてきます!!【ユークス提供】



佐々木健介デビュー20周年記念DVD『健介・北斗・勝彦の一生健命！』

1 名様

佐々木健介&北斗晶&中嶋勝彦"健介ファミリー"の初のオリジナルDVDがついに発売。健介一家の貴重な名場面集とプライベート秘蔵映像集が満載だ!!　さらに2・11『佐々木健介デビュー20周年興行』も独占完全収録！　【ユークス提供】



ADCC 2000
225分／¥5880（税込）

2000年に行なわれた第3回アブダビ・コンバットを再編集してDVD化。日本からは宇野薫、佐藤ルミナ、金原弘光らが参戦し、『PRIDE』で活躍するノゲイラ、アローナ、ジョシュ、ホイラーも参戦。ザザンッ!!　と揃った超豪華カードには、グラップリングファン感涙必至！

QUEST

■URL***http://www.queststation.com/

01★嫡流真伝 中国正派拳法
55分／¥5880（税込）

02★武神館DVDシリーズ vol.26 大光明祭'90
110分／¥5880（税込）

03★小野寺 力 キックボクシング入門 part.2
84分／¥5880（税込）

04★リトアニアBUSHIDO THE BEST 2005（仮）
141分／¥5880（税込）

05★新極真会 最強を極める空手入門 第壱巻
120分／¥5880（税込）

06★時津賢児　自成道太極拳
87分／¥5880（税込）

各 1 名様



ART JUNKIE

■URL***http://www.artjunkie.jp
■E-mail***infor@artjunkie.jp

セットで 1 名様



オリジナル ポストカード

ART JUNKIEさんから、今月はオリジナルポストカードをいただきました！　セットで1名様に差し上げます！　Tシャツそのほかいろいろ商品がほしい人は、東京・笹塚にあるお店に行こう!!　【ART JUNKIE提供】



正しい練習が強さの近道!

P 入り商品お買い上げの方には、
トレーニング解説DVD「ファイティングⅡ」をプレゼント!!

内容
第1部: 魔裟斗選手の本格練習を収録!魔裟斗選手の本格練習を見て正しい打撃・蹴りを学ぼう!テクニック集付!!
第2部: あの東京大学ウエイトリフティングチームによる「より良い筋肉の作り方」を収録。正しいトレーニング方法が学べます。

Wプレゼント!
バーベル、ダンベルお買上げの方に、**ウェイトグローブをプレゼント!**
発汗によるスベリを無くし、安全にトレーニングしていただけます。
さらに、**トレーニング解説DVD「ファイティングⅡ」もプレゼント!**





バーベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	12,000円→ 6,980円
50kgセット	17,000円→ 9,980円
70kgセット	22,000円→13,980円
100kgセット	29,500円→17,980円
140kgセット	39,000円→23,980円

シャフト付き

ダンベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	7,000円→ 4,980円
30kgセット	9,500円→ 6,980円
40kgセット	12,000円→ 7,980円
50kgセット	14,000円→ 8,980円
60kgセット	16,500円→10,980円

シャフト付き

プレート ブラックタイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	300円
2.5kg	600円
5.0kg	1,200円
7.5kg	1,800円
10.0kg	2,400円
15.0kg	3,600円
20.0kg	4,800円

バーベルラバータイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	16,000円→ 9,980円
50kgセット	24,000円→13,980円
70kgセット	32,000円→19,980円
100kgセット	44,000円→26,980円
140kgセット	60,000円→34,980円

シャフト付き

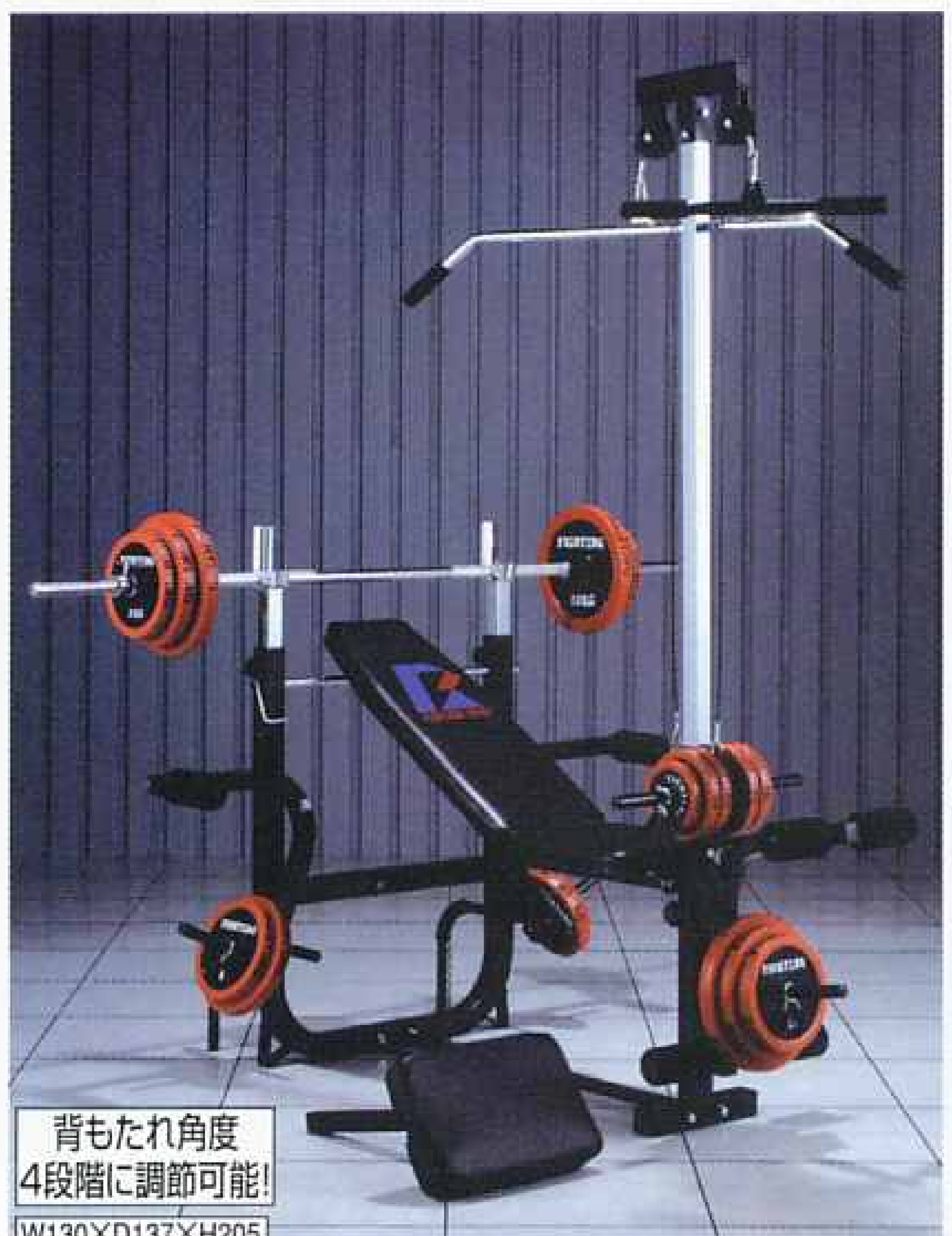
ダンベル ラバータイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	9,500円→ 6,980円
30kgセット	13,500円→ 8,980円
40kgセット	17,500円→10,980円
50kgセット	21,500円→12,980円
60kgセット	25,000円→14,980円

シャフト付き

プレート ラバータイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	400円
2.5kg	800円
5.0kg	1,600円
7.5kg	2,400円
10.0kg	3,200円
15.0kg	4,800円
20.0kg	6,400円



キングスセット (プレートセット別売) 40,000円→**19,980円** (消費税込)
ラット運動によるショルダー部の集中強化によりパンチ力強化、持久力が備わります!



キングofベンチ (プレートセット別売) 35,000円→**12,980円** (消費税込)



ハードベンチ (プレートセット別売) 20,000円→**9,980円** (消費税込)
ワンタッチでシットアップベンチ。折りたたみが可能!



マルチジム 高さ調整可能 24,800円→**9,980円** (消費税込)

プレートシャフトラック
(プレートセット別売)
36,000円→**12,800円** (消費税込)







トレーニングベンチ 12,000円→**5,980円** (消費税込)
安定感抜群のベンチプレス台
(プレートセット別売)

レッグストレッチャーDX
全てのスポーツにおいて股関節の柔軟性は欠かせません。無理なくストレッチ運動がおこなえます。
背もたれ角度3段階に調節可能。
29,000円→**12,800円** (消費税込)



シットアップベンチ 10,000円→**4,980円** (消費税込)
手軽に腹筋・背筋のトレーニングが出来ます。

抵抗値設定
運動時間累計
速度の計測
走行距離の累計
消費カロリーを累計表示



フィットネスバイクfr 39,800円→**7,980円** (消費税込)



フラットベンチPRO 10,000円→**5,980円** (消費税込)
極太パイプを使用抜群の安定感!



ベンチマット 10,000円→**5,980円** (消費税込)
床の保護、スベリ等を防ぎます。

kamipro 紙のプロレス
No.100
2006年7月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（"気持ち"はドイツのため非番）

電気部
ささきぃ
松澤メカチョロー
Move On! 上杉

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RGM

編集次長リローデッドPart.9
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
森モーリー鷹博
平工幸雄
戸成嘉則
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
丸山剛史

お勘定&衣料部
林 一枝

再検査
入江・ザ・中性脂肪（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石"ヴィンテージBMW購入検討中"芳司

"もうテレビでやらないの？"な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

NEXT ISSUE

次号 No.101は

100号突破記念 特大号第2弾

やっちゃって いいんだね？

7月21日（金）発売予定！
特別小冊子付録つき
※地域によっては多少発売日が遅れます。



7·1PRIDE無差別GP2nd ROUND&
6·17ハッスル・エイド2006緊急速報号
kamipro Special
2006 SUMMER
こちらは**7月7日（金）発売予定！**
※地域によっては多少発売日が遅れます。


めざせ頂点!!
ディメンション・ゼロ
イメージキャラクター
五味隆典
Dimension
King of card game
銃弾に乗るフェアリー
ヴァンパイア・タッチ
ヒーロー
鋼糸の乙女
露の葉の豪脚
賞金総額2,000万円以上!
国産初の本格的プロ賞金制TCG!
トレーディングカードゲーム
ディメンション・ゼロ
オフィシャルHP　http://www.dimension-zero.com
ゲームデザイン／中村聡（遊宝洞）　協力／ニッポン放送、ドリームステージエンターテインメント、Game Japan、ガンホー・オンライン・エンターテイメント　発売元／株式会社ブロッコリー
ユーザーサポート係 TEL:03-5946-2812【月～金（祝日を除く）10:00～12:00／13:00～17:00】 mail:support@dimension-zero.com　©BROCCOLI　©DSE
ブロッコリー

kamipro 2006 100 祝・100号! 守る前に創り出せ!!
2006年7月5日
発行人/浜村弘一　編集人/山口日昇、青柳晶行　発行・発売所/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本/図書印刷株式会社　©2006 ENTERBRAIN,INC.　©2006 DOUBLECROSS
enterbrain



特別定価: 本体876円 +税
雑誌61954-21 Ⓗ2006.10
Printed in Japan 図書印刷

9784757728233
ISBN4-7577-2823-9
C9476 ¥876E
1929476008763